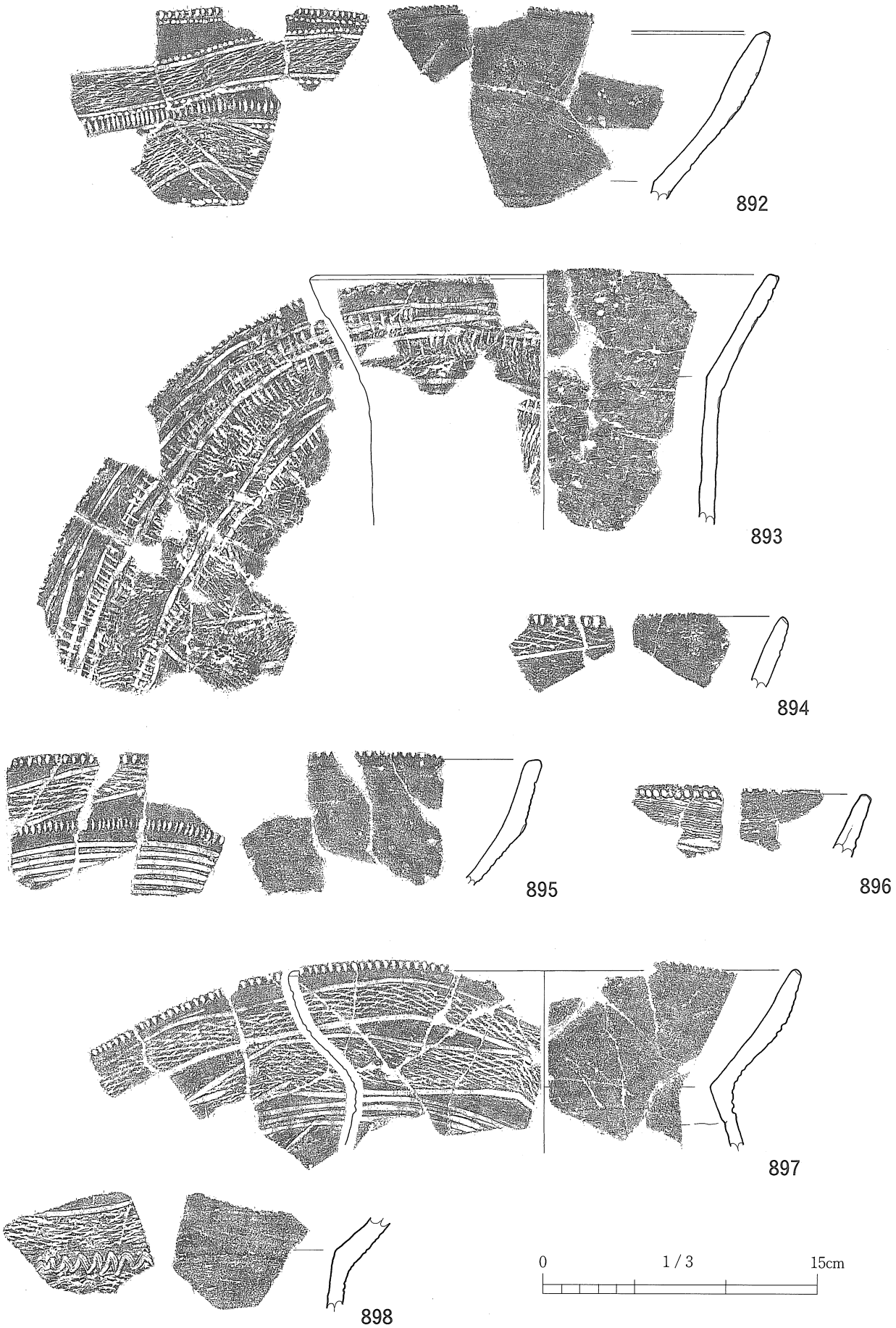
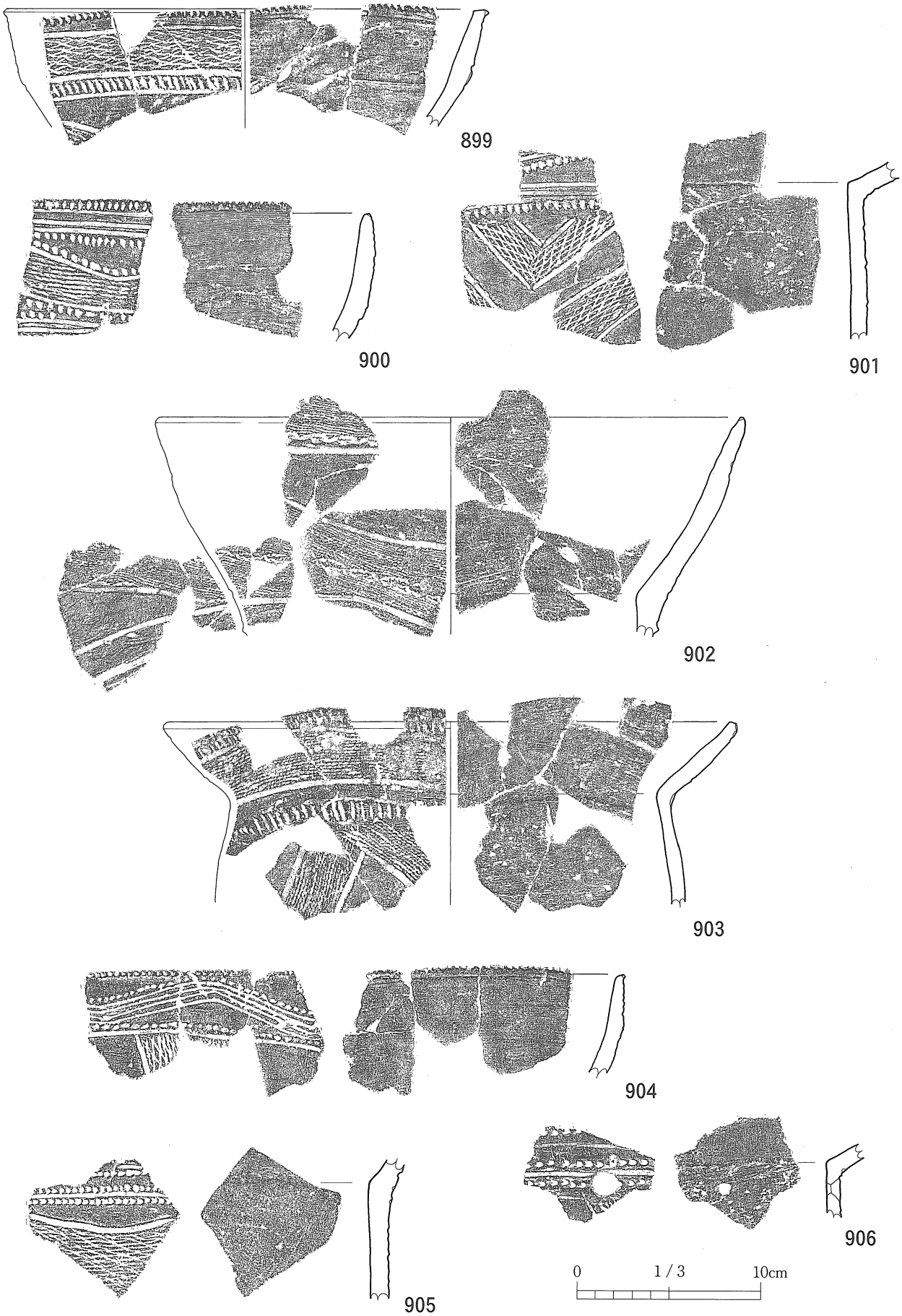
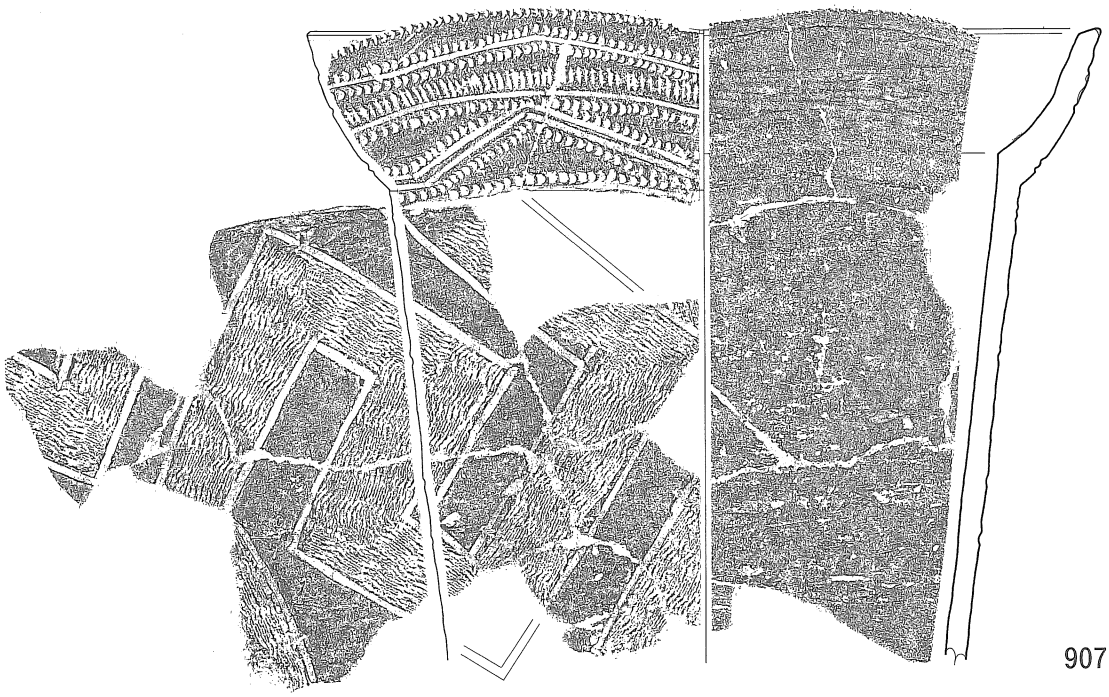
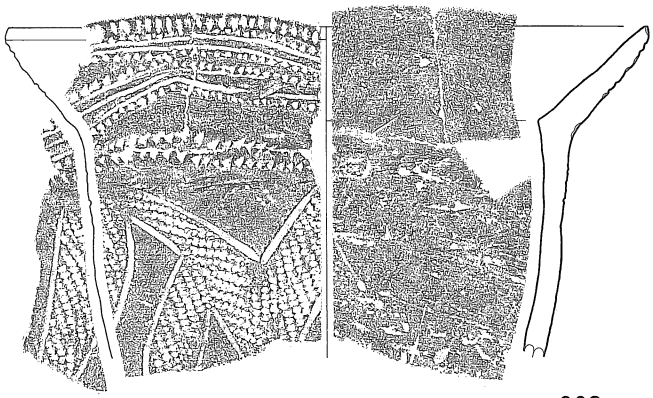


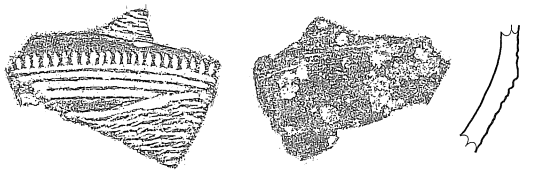
第106図　出土土器(73)

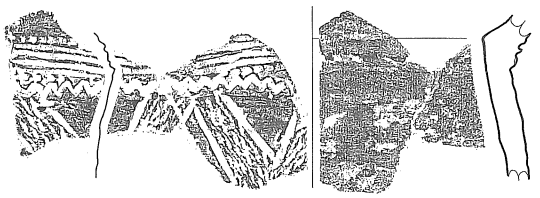


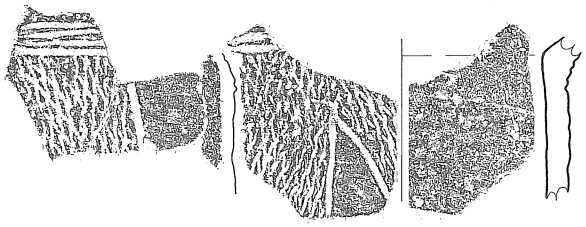
第107図　出土土器(74)

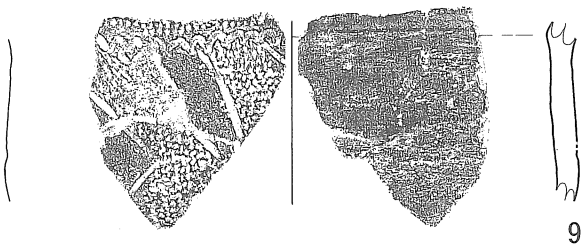


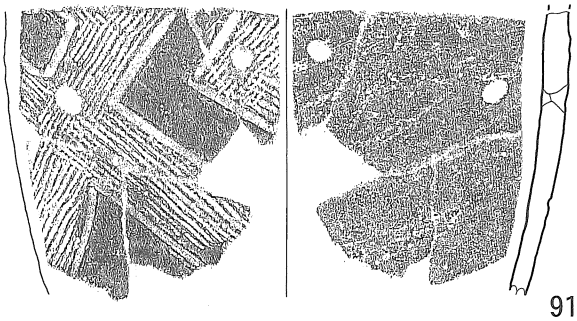


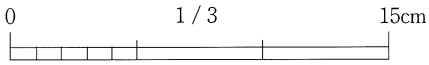




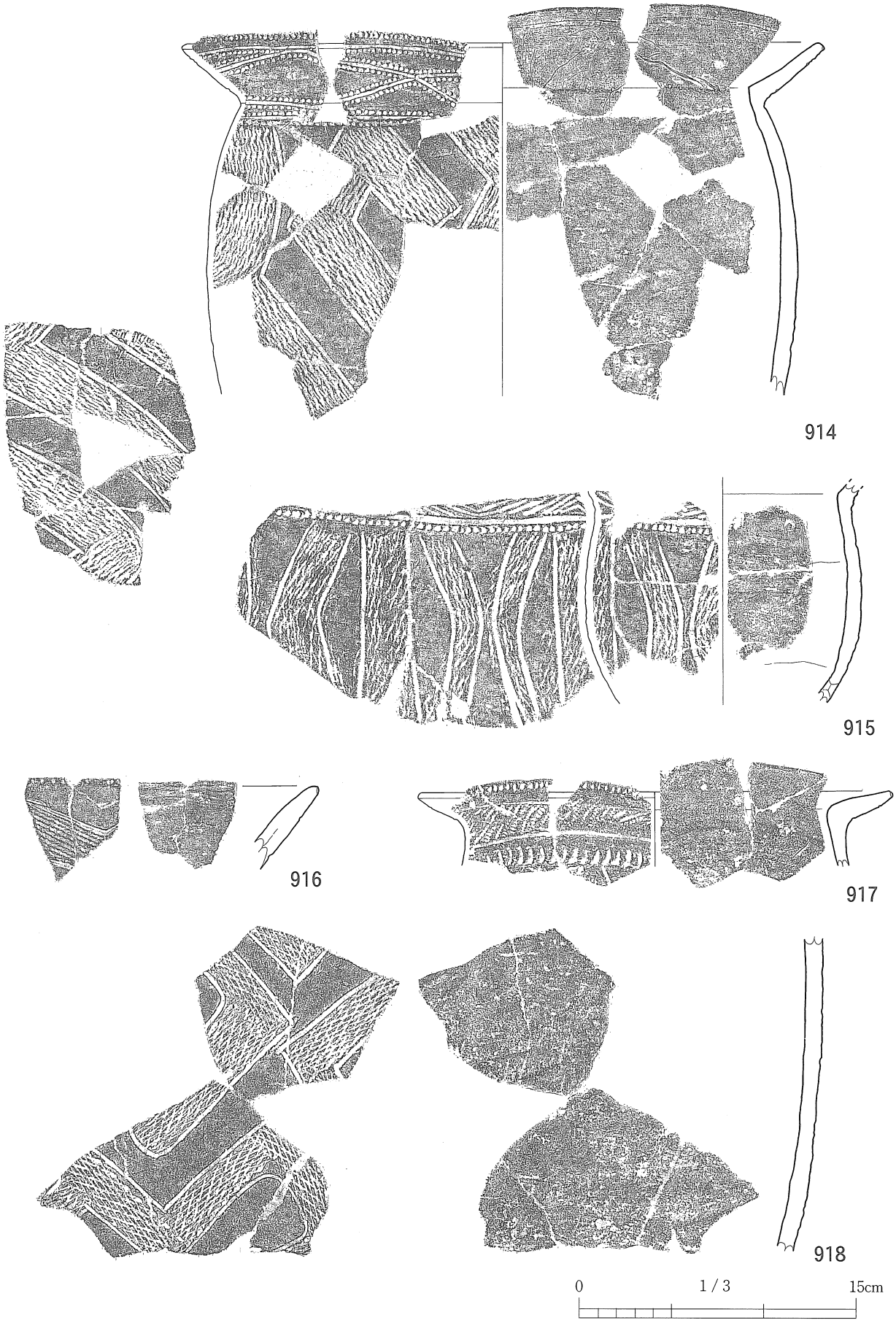




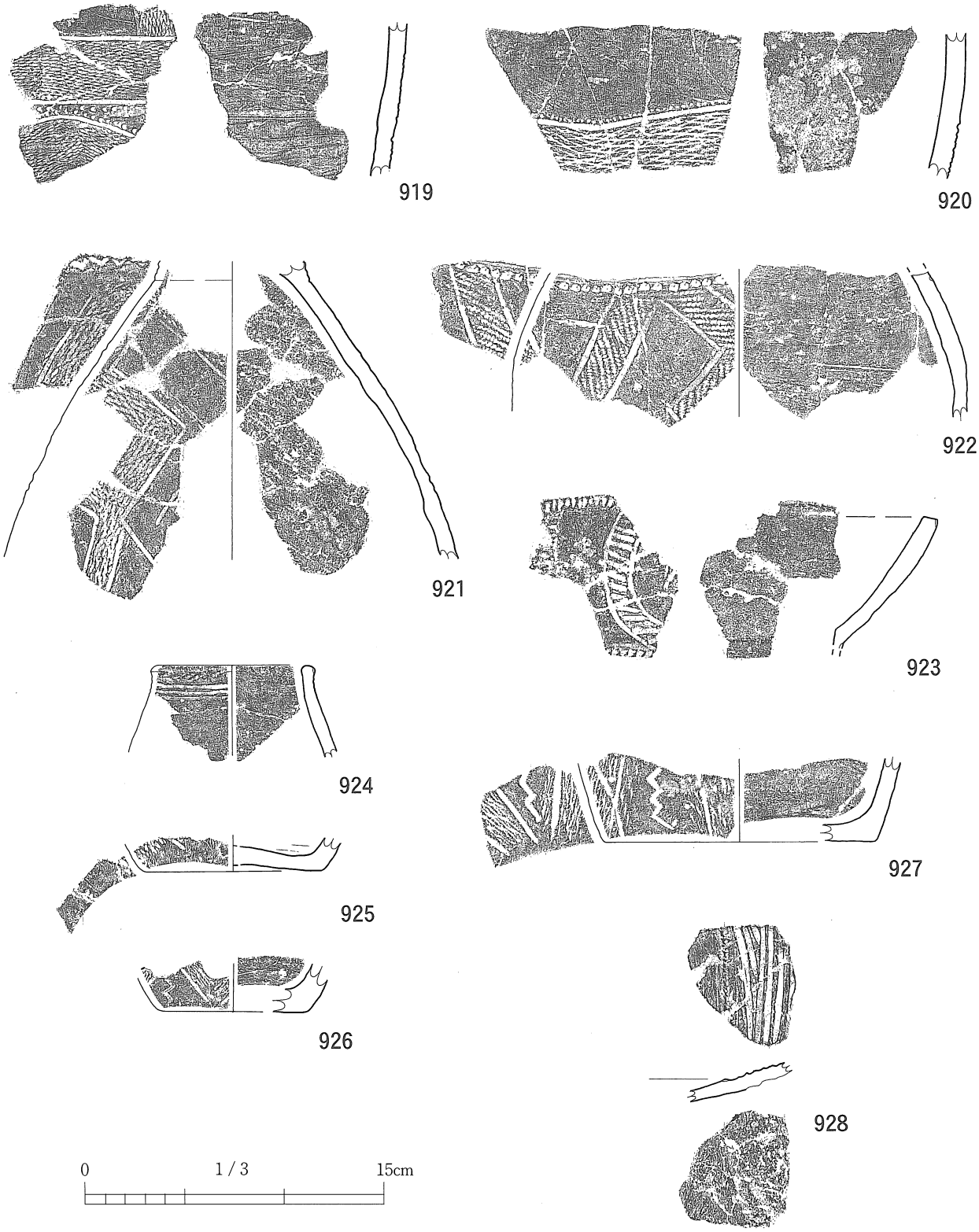




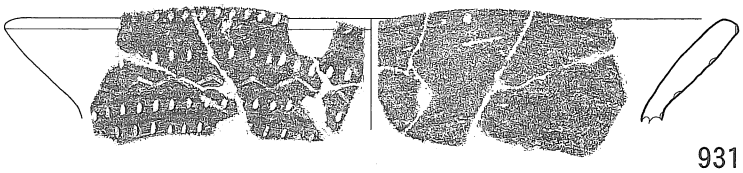
第108図　出土土器(75)

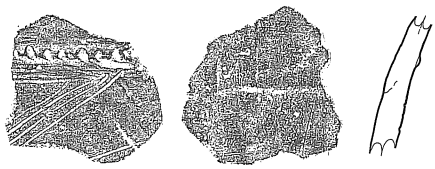


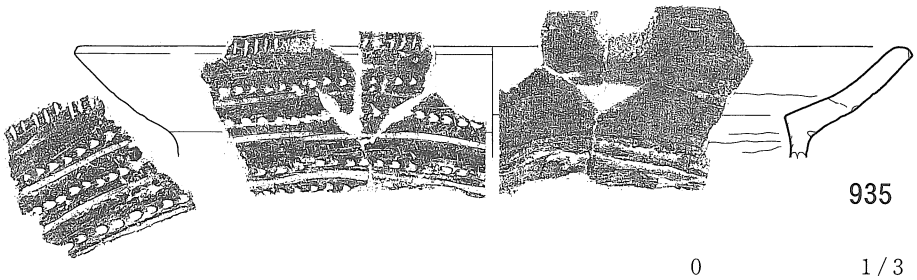
第109図　出土土器(76)



第110図　出土土器(77)

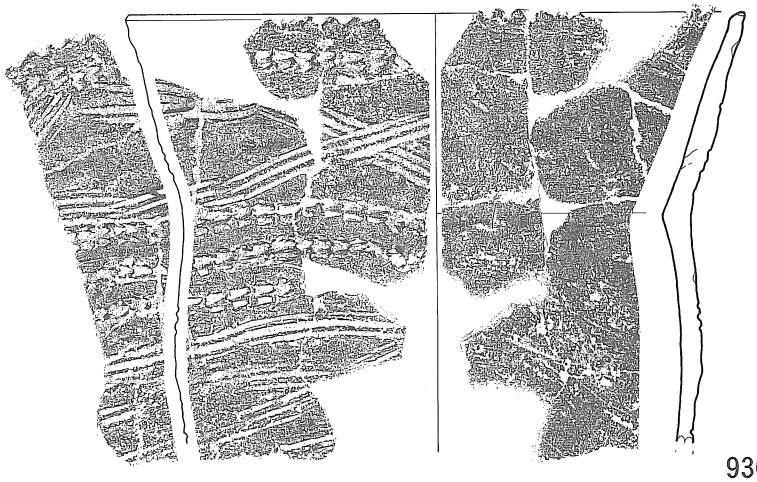


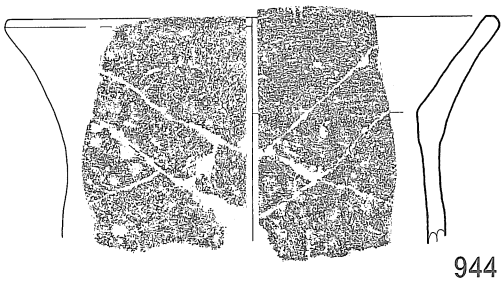


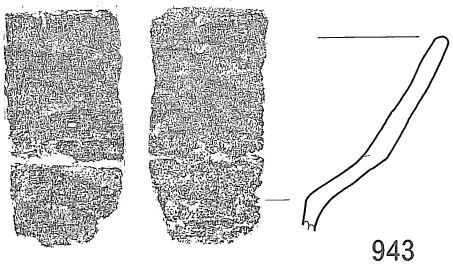


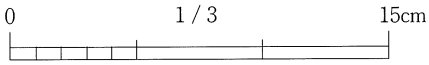
0　1/3　15cm

第111図　出土土器(78)





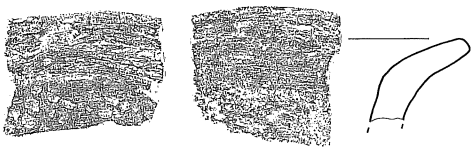




第112図　出土土器(79)

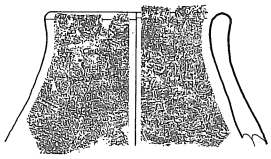
946

947

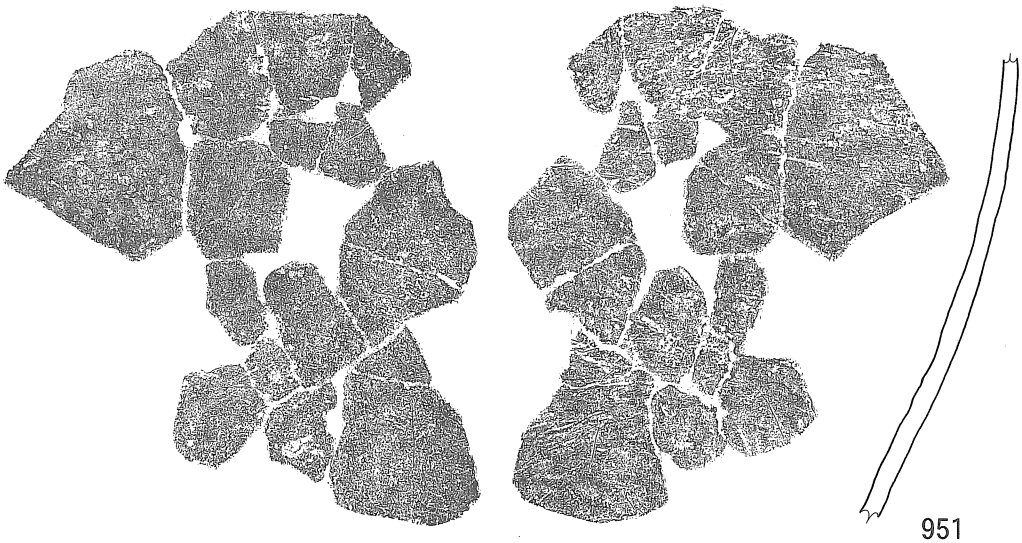


948

949



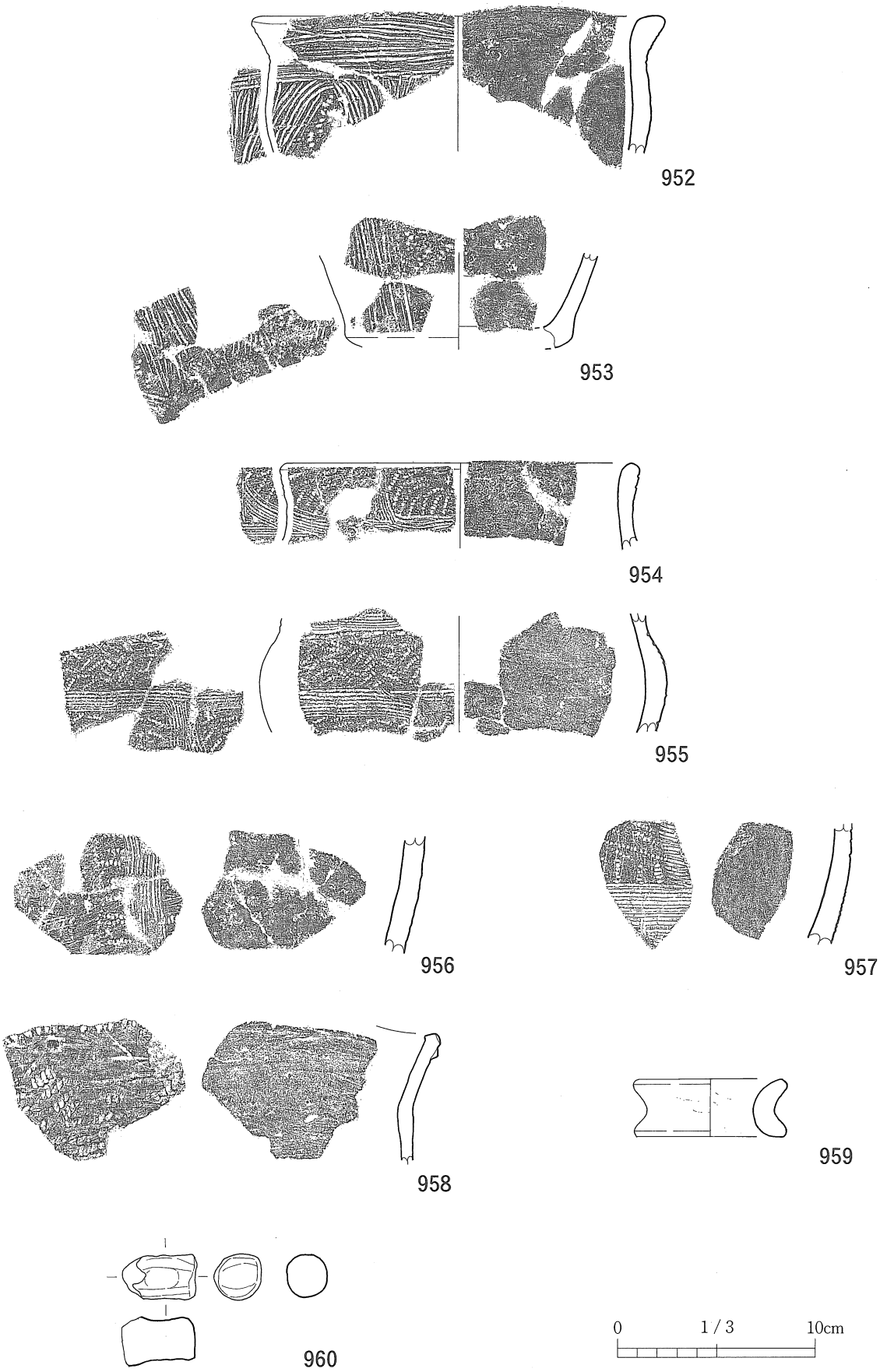
950



951

0　1/3　15cm

第113図　出土土器(80)



第114図　出土土器(81)

表3　土器観察表(2)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
7	K・4	Ⅶ		貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ4灰、黄灰、φ3黒鋭光沢	
8	I・5	Ⅶ		貝殻腹縁圧痕文、楔形突帯	ナデ	橙	褐	微細褐灰光沢、微細浅黄橙、微細無色透明	
9	—	—		貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄	橙	φ3赤褐、φ1黒鋭光沢、φ1浅黄橙、微細無色透明	
10	L・10/11	Ⅶ		沈線文	ナデ	橙	橙	φ2灰、黄灰、黒茶、微細無色透明、微細黒鋭光沢	角筒形
11	—	c		貝殻条痕、貝殻腹縁圧痕文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	φ1.5無色透明、φ1灰白、微細黒褐	角筒形
12	H・O	—		短沈線文	ミガキ状ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、灰黄褐	φ3褐鉄鉱、φ3白不透明、φ2無色透明	(外)黒変
13	—	—		貝殻腹縁圧痕文、貝殻条痕文	ミガキ状ナデ	橙、にぶい黄橙	にぶい橙	φ3金雲母、φ2黄褐、φ2白不透明、φ1.5乳白	
14	A区	b'		短沈線文	ミガキ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3褐、φ1透明光沢、φ1黒光沢	
15	F・30	Ⅶ		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	φ3(やや黄)透明、φ1白、φ1薄褐	
16	H・3	Ⅵ		短沈線文	ミガキ状ナデ	明褐、灰褐	にぶい褐、黒褐	φ2黒鋭光沢、φ2無色透明、φ2褐鉄鉱、φ1白不透明	(内)黒変
17	I・3	b'		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	丁寧なナデ	橙、灰黄褐	橙、黒褐	φ2白不透明、φ2無色透明	(外)黒変
18	H・3	b'		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、黒褐	φ2.5薄褐、φ2.5白、φ2.5黒光沢	(内)黒変
19	A区	b'		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	ナデ	にぶい黄橙、明赤褐	にぶい黄橙	φ4白半透明、φ1黄味白、微細黒鋭光沢	
20	H・2	—		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	ミガキ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1白、φ1黄味白、微細黒鋭光沢、無色透明、金光沢	(内)黒変
21	H・5	b		貝殻腹縁圧痕文	丁寧なナデ	明赤褐	にぶい褐	φ2黒鋭光沢、φ2白、φ2黄味	
22	I・4	Ⅶ		貝殻腹縁圧痕文	ミガキ状ナデ	褐灰	灰黄褐	φ1灰白、微細黒褐	穿孔、(外)黒変
23	H・8	Ⅵ		貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ3白、φ2白、φ2金雲母、φ2茶、黒鋭光沢	
24	E・26	Ⅶ		櫛状工具(貝殻?)による圧痕文	ナデ	橙	橙	φ2半透明光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2黒	
25	—	—		貝殻腹縁圧痕文	丁寧なナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ3金光沢、φ3褐、φ2褐灰不透明、φ1.5浅黄橙	
26	A区	b'		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	ミガキ状ナデ	褐	灰褐	φ3赤褐、φ2淡黄、φ2黄灰不透明、φ1.5灰白、φ1金光沢	
27	H・3	b'		貝殻腹縁圧痕文、短沈線文	ミガキ状ナデ	にぶい褐、灰褐	灰褐、褐	φ3.5金光沢、φ3.5明褐、φ3灰白、φ1浅黄橙、φ1赤褐	
28	A区	b'		貝殻腹縁圧痕文(連点文状)	ミガキ状ナデ	褐	灰褐	φ1黒、φ1黄橙、φ1黄橙不透明、φ1褐灰不透明、微細無色透明、微細金光沢	
29	H・3	Ⅵ		貝殻腹縁圧痕文(連点文状)	ミガキ状ナデ	褐	褐	φ4褐灰、φ2無色透明、明赤褐不透明、φ1金光沢	
30	H・3	b		貝殻腹縁圧痕文(連点文状)	ナデ	にぶい褐	黒褐	φ3.5褐灰、φ3金雲母状、φ2.5にぶい褐、φ1.5橙、φ1灰白	
31	H・6	Ⅶ		貝殻腹縁圧痕文(連点文状)	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰、φ3黄灰、φ褐、微細金色、微細透明、微細半透明、微細光沢粒	
32	F・30	Ⅶ		貝殻条痕文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ7灰白、φ5灰黄褐、φ5にぶい黄橙、φ2.5黒光沢(カクセン石)、φ1ガラス質半透明、φ1黒褐	
33	M・4	Ⅶ	刻み	貝殻腹縁圧痕文、ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黒褐	φ2赤褐、φ1灰白、微細無色透明	
34	G・12/13	Ⅶ		条痕文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細透明、微細半透明光沢	(外)黒変
35	L・5	Ⅵ		条痕文、ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	灰	φ2白、φ2白半透明、φ2透明光沢	(内)黒変
36	L・5	Ⅵ		条痕文(工具?)	ナデ	灰黄	黄灰	φ1無色透明光沢、黒鋭光沢	(外・内)黒変
37	D区	—		ナデ	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ1黄灰、φ1灰、φ1褐	
38	—	—		細沈線、赤色顔料か	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2褐、φ2灰、φ2黄灰	(外)黒変

表3　土器観察表(3)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
39	I・8/J・9	Ⅶ	山形押型文の後ナデ	山形押型文	工具ナデ	にぶい橙	灰黄褐	φ6白、φ6薄褐	
40	L・7	Ⅵb		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ1黒鋭光沢、微細白不透明	
41	I・5	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、列点文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、黒褐	φ1.5灰白、φ1赤褐、微細黒褐	
42	J・2	b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄、黄灰	黄灰	φ5黒、白半透明	
43	J・6	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい黄橙、灰	φ5.5灰白、φ4灰、φ2褐、φ1黒光沢、φ1無色透明	
44	I・2	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	橙、褐灰	橙、褐灰	φ4.5橙、φ2.5灰褐、φ2黒鋭光沢	穿孔、(外)黒変(内)黒変
45	L・7	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、灰	浅黄橙、暗灰黄	φ3灰、φ3褐、φ3白半透明、φ3黒鈍光沢、φ3金色	
46	H・3	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ3乳白、φ3灰、φ3茶、φ3褐	穿孔、(内)黒変
47	I・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	工具ナデ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、黒褐	φ3褐、φ2金雲母？、微細黄褐	(外・内)黒変？
48	K・8	Ⅶ		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、灰黄褐	φ4灰、φ4白、φ3黒	
49	I・7	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明赤褐、褐灰	明褐、褐灰	φ2明赤褐、φ2灰褐、φ1黒鋭光沢	
50	L・5	Ⅵb	楕円押型文	工具ナデ、ナデ、楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	褐、黒褐	明褐、黒褐	φ6.5淡黄、φ5.5灰黄、φ5赤褐、φ4黒鈍光沢、φ3やや黄半透明、φ2黄灰	(内)黒変
51	A区	b		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	黄灰	にぶい黄橙	微細白	穿孔
52	J・7	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙、黄灰	にぶい橙、黄灰	φ5灰白、φ5褐、φ5白半透明	
53	L・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明黄褐	にぶい黄褐	微細黒鋭光沢、微細白	
54	—	c	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐	明黄褐、灰	φ2灰白、φ1.5やや黄透明	(内)赤色顔料付着か
55	I・8	Ⅵ		楕円押型文	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙、にぶい黄褐	にぶい橙、にぶい黄	φ3灰白、φ3赤褐、微細黒鋭光沢、微細白	(外)黒変
56	D・24	Ⅶ		楕円押型文	短沈線、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2赤褐、φ1白半透明、微細黒	
57	I・8/9	Ⅶ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい橙	にぶい橙	φ5白、φ5褐、φ3半透明、φ2透明光沢	SI69内出土、穿孔
58	I・7	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	明黄褐、にぶい黄橙	明黄褐、にぶい黄橙	φ6淡黄、φ4.5黄灰、φ4灰白、φ3.5明赤褐、φ2金光沢雲母	
59	E・25	Ⅶ		山形押型文	短沈線文、山形押型文、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白、φ3灰、φ3黒鋭光沢、φ3白不透明	
60	F・25	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ3灰、φ2白半透明、φ1黒光沢、φ1黄褐	63、99と同一個体か
61	I・7	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ1白鋭光沢、φ1黒鋭光沢、φ1褐、φ1黄灰、φ1黒	穿孔、(外・内)黒変
62	F・26	Ⅶ	沈線様キザミ	山形押型文	山形押型文	にぶい褐	褐	φ4赤褐不透明、φ2金光沢雲母、φ2浅黄橙、φ1灰白不透明	
63	D区	Ⅵb		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ4灰、φ3白、φ2透明、微細黒	60、99と同一個体か
64	I・2	b		山形押型文	ミガキ状ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	橙、明黄褐、黒褐	φ4灰白、φ4にぶい黄橙不透明、φ3灰白不透明、φ2褐、φ1黒褐	(外・内)黒変
65	I・4	b		ナデ、楕円押型文	ヘラ状工具による丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄、にぶい黄褐	φ7暗赤褐、φ1無色透明、φ1白半透明、微細黒鋭光沢	
66	L・5	Ⅵb	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	暗灰黄	浅黄	φ2白、φ2灰、φ2黒、φ2褐、φ1白不透明	(外・内)黒変
67	H・9	Ⅵ		山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ	明赤褐、橙	橙	φ1.5灰褐、φ1.5白半透明、微細黒褐	
68	I・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	ヘラ状工具による丁寧なナデ	浅黄、暗灰黄	浅黄、にぶい黄橙	φ2白半透明、φ2白不透明	
69	K・6	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい黄褐	φ3白、φ3褐、φ3白透明、φ3黒鋭光沢	
70	G・25	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ヘラ状工具による丁寧なナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	φ5灰褐、φ2無色透明、φ1.5黒鋭光沢	
71	G・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文	にぶい黄褐	にぶい黄	φ3.5白、φ3.5灰、φ3.5黒鈍光沢、φ3.5白半透明	
72	—	c	山形押型文	山形押型文	山形押型文、工具ナデ	明赤褐、橙	灰褐、明褐	φ6褐灰不透明、φ3無色透明、φ2.5浅黄橙、φ2赤褐、φ1黒鋭光沢	

表３　土器観察表(4)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
73	N・8	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ7灰白、φ6褐、φ2黒鋭光沢、無色透明	
74	―	b		山形押型文	山形押型文、ナデ	褐灰	灰黄褐	φ1.5灰白、微細黒褐	
75	K・6	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	浅黄	φ7白、φ4灰、φ3白半透明、φ3透明光沢、φ3黒光沢	SI42内出土
76	E・27	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ4灰、φ3透明、φ1黒、微細黒	
77	I・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄褐、にぶい褐	にぶい黄褐	φ5灰、φ3黄褐、φ3半透明光沢、微細黒、微細白、微細赤褐	178と同一個体か、穿孔、(外)黒変
78	I・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄橙	φ4灰褐、φ2半透明、φ1乳白	
79	M・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい褐	φ1乳白、微細金光沢	
80	J・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、丁寧なナデ	黄褐、黒褐	にぶい黄橙、黒	φ7赤褐、微細白不透明、微細無色透明光沢	(外・内)黒斑、穿孔
81	I・3	b		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗灰黄	にぶい黄	φ2褐、微細黄褐、微細黒光沢	(外・内)黒変
82	A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2褐、φ2黄灰、φ2灰、φ1黒鋭光沢、φ1白半透明	(外・内)黒変
83	K・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい黄	黒褐	φ3赤褐～褐、φ1白～乳白	
84	M・6	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ7褐、φ7灰、φ7黄灰、φ7黒、微細鋭光沢	穿孔、(外)黒変、(内)黒斑?
85	E・25	Ⅵb		山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	黒、灰、黒鋭光沢	
86	E・25	Ⅶ		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐、にぶい黄橙、褐灰	にぶい赤褐、褐灰	φ1無色透明、微細黒鋭光沢、微細乳白	
87	G・26	Ⅶ		山形押型文	短沈線文、山形押型文、ケズリ状ナデ後	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4白、φ4灰、φ4黒鋭光沢、φ4白不透明	
88	A区	Ⅷ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、丁寧なナデ	黄褐、黒褐	にぶい黄、明黄褐	φ6橙、φ2灰白、φ2明褐灰、φ1浅黄橙、微細黒鈍光沢	
89	D・26	Ⅶ		山形押型文	短沈線文、山形押型文、ケズリ状ナデ	浅黄、にぶい橙	浅黄	φ3褐、φ3黄褐、φ2灰、φ2透明、φ2半透明	
90	L・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄、にぶい黄褐、褐灰	黄褐、黄灰、にぶい黄褐	φ4金光沢雲母、φ3浅黄橙不透明、φ3明褐灰不透明、φ2褐灰白不透明、φ2灰白	
91	H・7	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	にぶい橙、黄灰	φ4にぶい黄褐、φ4灰白半透明、φ3黄橙、φ1やや黄透明、φ1黒鋭光沢	
92	M・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文の後ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	橙	橙	φ3金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2褐	
93	L・8	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2.5白、φ2.5うす褐、φ2.5金色	
94	I・6	Ⅵb	山形押型文	山形押型文の後ナデ、山形押型文	山形押型文、ケズリ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、暗灰黄	φ3.5白灰、φ3黄橙不透明、φ1金光沢雲母	
95	L・8	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ2.5白、φ2.5金色	
96	E・26	Ⅶ		山形押型文	ナデ	浅黄	にぶい黄	φ2灰白、微細灰褐	
97	F・25	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5灰、φ5薄褐、φ5白不透明、φ5黒鋭光沢	
98	J・5	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ6白、φ3.5黒、φ3.5白不透明、φ3.5透明光沢	
99	E・25	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ5灰、φ4白、φ2赤褐、φ2白半透明、微細黒	60、63と同一個体か
100	G・14	Ⅶ		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3淡黄、φ2黄灰、φ2明褐、φ1.5金光沢、φ1.5にぶい橙不透明、微細黒鋭光沢	
101	J・4	Ⅶ	杉葉文	杉葉文	杉葉文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	φ1灰白、微細赤褐、微細黒褐	
102	K・4	Ⅵb	沈線状刻み	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、にぶい黄橙	φ2黄橙、φ2浅黄橙、φ1灰白不透明、φ1金光沢雲母	
103	L・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐、にぶい橙	灰黄褐	φ4灰褐、φ2金色鱗片状、φ1灰白	
104	I・10	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ5.5白、φ3透明光沢	
105	L・5	Ⅵb		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	明褐、褐灰	φ1.5黒鋭光沢、φ1.5白半透明、微細灰褐	
106	K・5	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1灰白、微細黒褐	
107	L・7	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ1.5薄褐、φ1.5透明光沢	
108	K・4	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙、灰黄褐	φ4.5白、φ4.5黒光沢、φ4.5金色	

表３　土器観察表(5)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
109	O・5	Ⅶ	山形押型文	ナデ、山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ2.5白、φ2.5灰、φ2.5赤褐、φ1金光沢雲母、φ1白半透明、φ1やや黄透明	(内)黒変
110	M・4	Ⅵb		ナデ、山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5.5白半透明、φ3赤褐、φ1白、微細黒鋭光沢	
111	I・6	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄、黒褐	黒	φ5.5にぶい黄橙、φ4褐灰、φ3にぶい橙	
112	M・7	Ⅶ	山形押型文	山形押型文、ナデ	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ6赤褐、φ2.5白、φ2.5褐、φ1金光沢雲母	
113	K/L・5	Ⅶ		山形押型文の後ナデ消し、山形押型文	山形押型文の後ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3.5灰白、φ3灰、φ3褐、φ2.5白不透明、φ1黒鋭光沢	SI37内出土
114	K・5	Ⅶ	短沈線文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3.5黒、φ3.5薄褐、φ3.5白半透明	
115	F・27	Ⅶ	列点文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄、黄灰	にぶい黄、黄褐	φ3褐灰、φ2淡黄、φ1橙、φ1金光沢雲母	
116	―	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	褐灰	褐灰	φ2赤褐、φ1褐	
117	I・7	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい赤褐、灰褐	褐灰	φ2赤褐、φ1黒鋭光沢、微細黒～黒褐	
118	M・5	Ⅶ	山形押型文	ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄、黄灰	にぶい黄橙	φ1.5白不透明、微細灰	
119	L・4	Ⅵb		ナデ	山形押型文、ナデ	褐灰	褐灰	φ1灰白	
120	H・3	b		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙、褐灰	φ3灰白、φ3白、φ1.5黒鋭光沢、φ1無色透明	
121	―	Ⅵb	山形押型文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰、φ3白、φ3透明光沢、φ3金色	穿孔
122	I・7	Ⅶ		山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	黒褐、灰褐	黒褐、灰黄褐	φ3褐灰、φ2にぶい橙、φ1.5灰、φ1金光沢雲母	
123	J・8	Ⅵ	山形押型文	ナデ、山形押型文	菱目状山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄、黄灰	にぶい黄橙	φ2灰白、φ1黒鋭光沢、微細白不透明	124と同一個体か
124	J・8	Ⅵ	山形押型文	ナデ、山形押型文	菱目状山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、灰黄褐	にぶい黄褐、褐灰	φ3灰白不透明、φ2黄橙、φ1淡橙、微細無色透明	
125	I・8	Ⅶ	短沈線文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	褐	褐、黄褐	φ4黄橙、φ3橙、φ1.5白半透明、φ1.5黒鋭光沢、φ1褐灰不透明	384と同一個体か
126	L・4	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5白、φ2.5灰、φ2.5金色	
127	L・7	Ⅵb	山形押型文	ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい橙	明黄褐	φ2.5黒、φ2白透明、φ1黒褐、微細灰白	
128	K・7	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、暗灰黄	φ3黄白、φ1.5無色透明、φ1褐、微細黒鋭光沢	
129	J・9	Ⅵ	山形押型文	ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐灰、にぶい黄橙	φ4灰白、φ3赤褐、φ1灰白	
130	L・7	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰白、φ1.5無色透明、φ1.5黒褐	
131	J・7	Ⅵ	山形押型文	ナデ	山形押型文	にぶい褐	にぶい橙	φ2白不透明、φ2白、φ2灰、φ2赤褐、φ1金光沢雲母	穿孔
132	L・5	Ⅵb		山形押型文	山形押型文	褐灰	灰褐	φ2赤褐、φ1.5黒半透明、φ1灰白	
133	I・8	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文	にぶい黄褐	明赤褐	φ2白半透明、φ1赤褐、φ1灰白、微細褐	
134	K・4	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文	にぶい褐	暗褐	φ1黒鈍光沢、φ1黒鋭光沢、φ1白透明	
135	G・4	b	山形押型文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	橙	橙	φ4金色鱗片状、φ3黄灰、φ3褐、φ3乳白	(外・内)黒変
136	―	a	短沈線文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3褐、φ3白、φ3金色鱗片状	
137	K・9	Ⅷ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	浅黄橙	明黄褐	φ2灰白、φ2黒鋭光沢、φ1淡黄、φ1灰白	礫群３付近
138	―	―	山形押型文	ナデ、山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ7褐、φ1無色透明、φ1白、微細黒鈍光沢	
139	H/I・8	Ⅶ	山形押型文	ナデ	山形押型文	褐	にぶい褐	φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明、微細黒鋭光沢	SI64内出土(外)黒変
140	H・3	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	灰黄褐、にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3.5白、φ3.5黒光沢	SI28内出土
141	H・7	Ⅵ	山形押型文	ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	φ2白、φ2褐、φ2金色	
142	H・10	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	橙	φ4.5灰、φ4.5白、φ4.5薄褐、φ2.5半透明、φ2.5白不透明、φ2.5黒鋭光沢	
143	M・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐、にぶい黄褐	φ2.5黒、φ1.5灰白、φ1黒褐	
144	―	b		山形押型文	山形押型文、丁寧なナデ	にぶい黄橙	明黄褐、暗灰黄	φ4灰白、φ2暗褐、φ1褐灰白	

表３　土器観察表(6)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
145	N・6	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文	明褐、灰褐	明褐、褐灰	φ3明赤褐、φ3暗赤褐、φ3にぶい褐、φ1黒鋭光沢	
146	J・6	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ6灰、φ2透明光沢、φ2黒光沢、φ2白半透明	(外・内)黒斑、穿孔
147	H・7	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	黄褐、黄灰	にぶい黄橙、褐灰	φ5薄褐、φ2白、φ2褐、φ2灰、φ2黒光沢	
148	L・6	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ3赤褐、φ1.5白半透明、φ1灰白	
149	K・8	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	褐灰、灰黄褐	φ9浅黄橙、φ3淡黄不透明、φ3明黄褐、φ1褐灰不透明	
150	L・7	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ?	灰黄褐、褐灰	黒	φ5.5明褐、φ5浅黄橙、φ2にぶい黄橙	
151	L・6	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	褐灰	にぶい褐	φ3灰白、φ2白半透明、φ1.5赤褐	
152	L・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、短沈線文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5褐、微細黒褐、微細灰白	
153	N・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	橙、黒褐	橙、黒褐	φ4褐灰、φ3.5浅黄橙、φ3.5灰白半透明、φ2黒鋭光沢、φ1赤褐、φ1無色透明	
154	M・7	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ2.5金色鱗片状、φ1灰白、φ1白半透明	
155	J・5	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ4赤褐、φ1.5灰白、微細灰褐～黒	
156	J・4	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰白、φ2褐、φ0.5金色雲母、φ0.5浅黄橙	
157	K・10	Ⅶ	山形押型文	丁寧なナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ?	にぶい橙	にぶい橙	φ2褐、φ2黒鋭光沢、φ1無色透明、微細白、微細灰、微細赤褐	
158	M・7	Ⅶ	山形押型文	ナデ、山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	φ6赤褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢、微細灰白	
159	K・11	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	φ2褐、φ2黄灰、φ1金色鱗片状、微細白半透明	
160	I・7	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ4白、φ4灰、φ4薄褐、φ4透明光沢、φ4白半透明、φ4黒光沢	
161	J・5	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4.5薄褐、φ2.5白	穿孔
162	H・4	b	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ3白、微細透明光沢	
163	L・9	Ⅶ		山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	φ4浅黄、φ3灰白、φ2黒鋭光沢、φ1灰白不透明	未貫通穿孔
164	N・5	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰白、φ1無色透明、微細黒鈍光沢	
165	M・5	Ⅵb	山形押型文	ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	黄灰	φ1白、微細金色鱗片状	
166	A区	b		山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、暗灰黄、明黄褐	φ4にぶい黄橙、φ3灰黄褐	
167	H・6	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	灰黄	浅黄、灰黄	φ5灰白、φ2無色透明、微細黒鋭光沢	
168	L・G	Ⅵb	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ9褐、φ6褐	
169	J・8	Ⅵ		山形押型文	山形押型文、ナデ	褐灰、にぶい黄橙	灰黄褐	φ2黒光沢、φ1灰白、微細黒褐	
170	L・4	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、丁寧なナデ	明褐、灰褐	灰黄褐、黒褐	φ5浅黄橙、φ4褐灰、φ1金光沢雲母、φ1赤褐	
171	L・7	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2黒、φ2褐	
172	H・8	Ⅷ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ3白、φ3灰、φ3白不透明、φ3金色鱗片状	礫群４付近
173	J・5	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	φ2灰褐、φ1黄橙、φ1無色透明	
174	L・5	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	φ5白～白半透明、φ1赤褐、微細白、金光沢(黒雲母)	
175	H/I・8	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ケズリ状ナデ、指押さえ	にぶい褐	褐灰	φ5灰白、φ3にぶい橙、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	SI64内出土、(外・内) 黒変
176	I・3		山形押型文	ナデ	山形押型文、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい橙	φ4白、φ4薄褐、φ4灰、φ4金色	
177	A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐、黒褐	橙、灰褐	φ9黄橙、φ2黒鋭光沢、φ2やや黄透明、φ2白透明、φ1赤褐	
178	K・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、黄橙	φ4灰、φ2白、φ2半透明光沢、φ1赤褐	77と同一個体か、(外)黒変、(内)黒変
179	N・6	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	褐灰	微細白、微細光沢	
180	A区	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文の後ナデ、ナデ	にぶい褐	灰褐	微細白、微細金色、微細黒鈍光沢	穿孔

表3　土器観察表(7)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
181	I・8/9	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	橙	にぶい黄橙	φ3白、微細白半透明	
182	K・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙、黒褐	φ3黒褐、φ3白、φ1白鈍光沢	(内)黒変
183	M・4	Ⅵb	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐、にぶい黄	にぶい褐、にぶい黄	φ3無色透明、φ3白不透明、φ2金色鱗片状	(外・内)黒斑、穿孔
184	K・4	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	灰黄褐	φ3やや灰白、白半透明、やや黄透明	
185	K・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗褐	暗褐、にぶい黄褐	φ5茶褐、φ3乳白、微細黒鋭光沢	
186	J・6	—	楕円押型文の後ナデ	楕円押型文の後ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙、黄灰、灰黄	灰黄、にぶい橙、灰黄褐	φ6浅黄橙、φ5灰白、φ3.5淡橙、φ3明赤褐	SI79内出土
187	H・8	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5淡黄、φ2灰白、φ1やや黄透明	
188	H・8	Ⅶ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黒褐	黒褐	φ2黒、φ1金色鱗片状、微細白～乳白	SI57内出土
189	H・4	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	明黄褐、褐灰	明黄褐、橙	φ3にぶい黄橙、φ2浅黄橙	
190	H/I・8	Ⅶ	連続押圧刻み	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	橙、暗褐	灰黄褐、にぶい黄橙	φ5灰白、φ3白鈍光沢、φ2白、φ2黒光沢	SI64内出土、(外)黒変
191	D・25	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	φ2無色透明、φ1褐、微細黒	
192	I・7	Ⅷ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄	φ2金光沢、φ2黒光沢、φ2黄灰、φ2灰	SI81内出土、(外・内)黒変
193	L・8	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5白、φ2金色（黒雲母）、φ1白、φ1褐	(内)黒変
194	K・9	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ、ナデ	明赤褐、明黄褐	明赤褐、にぶい橙	φ4黄褐、φ3半透明光沢、φ2黒、微細赤褐	SI50内出土
195	K・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	暗灰黄、にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ4白半透明、φ4黒鋭光沢、φ3灰、φ3黒、φ3薄褐	穿孔
196	N・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	明褐	φ3.5灰、φ3.5褐、φ3.5白不透明、φ3.5金色	
197	L・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文の後ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄、にぶい褐	φ4灰白、φ2.5白不透明、φ2金色鱗片状	
198	—	—	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2白、φ2金色	粘土紐接合部が観察可
199	D・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰褐	にぶい褐	φ4赤褐、褐灰、φ1灰白	
200	K・4	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ3灰、φ1黄褐、微細金雲母？	
201	J・4	Ⅶ		ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、黒	φ4褐、φ2赤褐、φ2光沢、φ1黄褐	(内)黒変？
202	K・8	Ⅵb	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	黄褐、暗灰黄	φ3黒透明、φ1.5黄味、φ1.5褐、φ1金色	
203	L・5	Ⅵb	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、黒褐	明赤褐	φ2灰白、φ2白不透明、φ1.5無色透明、φ1黒鋭光沢	262と同一か、(外)黒変
204	J・7	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	ケズリ状ナデ	明黄褐、褐灰	明黄褐、にぶい黄褐、灰黄褐	φ3浅黄橙、φ2褐灰、φ1白半透明、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	(外)黒変
205	L・5	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	橙	明黄褐	φ3無色鋭光沢、φ2白不透明、φ1黒鋭光沢、φ1灰、φ1黄灰	
206	M・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	淡黄	淡黄	φ6白不透明、φ3黒、φ3灰	SI40内出土
207	M・4	Ⅶa	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい黄褐	にぶい褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、φ1金色鱗片状、φ1黒鋭光沢	(外)黒変
208	I・8	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄	にぶい黄橙	φ3淡黄、φ1やや黄透明、φ1にぶい黄褐	
209	I・5	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	橙	φ2無色透明、φ2白半透明、φ2黒鋭光沢、φ2灰、φ2黄灰	(内)黒変
210	M・6	Ⅵa	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ5灰白、φ5褐灰、φ5暗褐、φ2無色透明、微細黒鈍光沢	
211	H・11	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4金光沢、φ4白鈍光沢、φ3赤褐、φ1黄褐	(内)黒変？
212	I・7	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい黄橙	φ8灰白、φ8薄褐、φ3白半透明、φ3黒	(外)赤彩か？
213	K・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2褐、φ2灰	SI42内出土、(内)黒斑

表3　土器観察表(8)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
214	L・8	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	褐、灰褐	明褐、にぶい褐	φ3にぶい褐、φ2褐鋭光沢、φ2にぶい黄橙、φ1黄橙	
215	H・9	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ4灰白、φ2白半透明、φ1黄褐	
216	M・5	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰、φ3灰白、φ3金色	
217	I・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ3白、φ2白半透明、φ1灰	
218	K・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、黄灰	にぶい黄橙	φ3灰白、φ1.5やや黄透明、φ1.5黒鋭光沢、φ1白半透明、φ1黒褐	(内)黒変
219	—	Ⅵa	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2白不透明、φ2赤褐、φ1.5白半透明、φ1.5金色鱗片状	
220	L・7	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	明赤褐	オリーブ黒	φ2透明光沢、φ2金色	
221	D・25	Ⅵb	山形押型文(連珠文様)	山形押型文(連珠文様)	ケズリ状ナデ	にぶい褐	灰褐	φ4黄白、φ2.5金色鱗片状、φ1.5黒鋭光沢、φ1無色透明	
222	I・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3金色、φ2.5白	
223	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、褐灰	φ3黒褐鈍光沢、φ2黄橙、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	
224	I・7	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄、灰	にぶい黄橙	φ2白不透明、φ1.5浅黄橙、φ1.5金色鱗片状、φ1.5白半透明、φ1褐鉄鉱	
225	M・8	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文後、ナデ	橙、灰	にぶい褐	φ3白不透明、φ3灰白、φ2金色鱗片状	
226	H・7	Ⅵ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ3灰、φ2金雲母、φ2黄褐	
227	L・7	Ⅵb		楕円押型文	ナデ	明褐	明褐	φ4灰白、φ1灰褐、微細白～半透明	
228	K・8	Ⅵ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ4褐灰、φ2無色透明、φ1黄橙	
229	K・7	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ5褐、φ5乳白、φ5黄灰、微細透明	(内)黒変
230	M・5	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5白、φ1白半透明、微細黒、微細赤褐	
231	J・6	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ?	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2褐、φ2黄灰、φ1金色鱗片状、φ1無色透明	(外)黒変
232	K・4	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ2金色鱗片状、φ2黒鋭光沢、φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明	
233	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ1.2灰、微細無色透明、微細白半透明、微細黒鋭光沢	(口唇)黒変
234	L・4	Ⅶ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ2.5灰褐、φ2黄味、φ1.5白半透明、φ1.5薄金光沢	
235	J・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ2白、φ2白半透明	
236	L・7	Ⅵa	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ2.5黒褐、φ2白不透明、φ1金色鱗片状、φ1赤鱗片状	
237	K・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細白半透明	(外)黒変
238	E・26	Ⅶ		山形押型文(連珠文様)	山形押型文(連珠文様)、ナデ	浅黄	浅黄、灰オリーブ	φ5白、φ5黄灰、φ2黒鋭光沢、φ1白半透明	
239	K・9	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文の後ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ3白、φ3乳白、φ3透明光沢、φ3金色	SI50内出土
240	K・8	Ⅵb		ナデ	山形押型文、ケズリ状ナデ	灰褐	灰黄褐	φ3白、φ3灰、φ3黒鋭光沢、φ3白不透明	
241	D・4	—	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	暗灰黄	φ2金光沢、微細白	
242	J・2	Ⅵ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白半透明、φ2無色透明、φ2黒鈍光沢、φ2褐	SI22内出土、(外・内)黒変
243	E・26	Ⅶ		山形押型文(連珠文様)	連点文、山形押型文、ナデ	浅黄	にぶい黄	φ3白、φ3白半透明	
244	K・9	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4褐、φ1白半透明、φ1光沢、微細白	(外)黒変

表３　土器観察表(9)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
245	J・5	Ⅵ	短沈線文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2赤褐、φ2白、φ2白半透明、φ2金色	
246	I・10	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ?	にぶい橙	橙	φ3橙、φ2.5褐鉄鉱、φ2無色透明、φ2黒鋭光沢、φ1灰白	
247	D・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	黄橙	にぶい黄橙	φ1.5無色透明、φ1褐、φ1黒褐	
248	J/K・8	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	にぶい黄橙、灰	φ4白、φ4褐、φ4灰白、φ4黒鈍光沢、φ4黒鋭光沢	SI101内出土
249	L・7	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙	灰黄褐	φ1.5乳白、φ1半透明、微細黒～褐	
250	L・5	Ⅶ	短沈線文	ナデ、沈線文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	橙、黒褐	にぶい褐、黒	φ4黒鈍光沢、φ4白半透明、φ4金色、φ4白、φ4赤褐	(内)黒斑
251	J・7	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ3白、φ3褐、φ3金色	
252	K・4	Ⅶ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰褐、褐灰	にぶい赤褐	φ3灰白、φ2白半透明、φ2白不透明、φ1.5金色鱗片状	(内)黒変
253	I・4	－		ナデ、楕円押型文	丁寧なナデ、工具ナデ	にぶい橙	橙、黒褐	φ7黄褐、φ3無色透明、微細黒鋭光沢	
254	N・5	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ4一部赤色白透明、φ1黄味、微細灰	
255	L・5	Ⅵb		ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄	φ2白鈍光沢、φ2光沢、φ2白	(内)黒変
256	M・7	Ⅵb		ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ3黒半透明、φ2.5金色鱗片状、φ1白	
257	I・9	Ⅶ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文	にぶい橙	にぶい橙	φ1透明光沢、微細白	SI69内出土
258	K・7	Ⅶ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ3黒褐色、φ2無色透明	
259	J・6	Ⅵb	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、工具ナデ	にぶい褐	橙	φ3.5白、φ3.5灰、φ3.5薄褐	穿孔
260	K・6	Ⅶ		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	暗灰黄	浅黄	φ3.5白、φ3.5黒、φ3.5灰、φ1.5白半透明、φ1.5透明光沢	
261	M・7	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4薄褐、微細白、白半透明	穿孔
262	L・5	Ⅵb	楕円押型文、ナデ	ナデ	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、黒褐	にぶい褐、暗褐	φ2灰白、φ2白不透明、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	(外)黒変
263	H・7	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2褐	(内)黒変
264	N・4	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄	浅黄	φ2黒、φ2灰、φ2黄灰、微細白半透明	(内)黒変
265	K・5	Ⅶ		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明赤褐	明赤褐	φ5灰白、φ2無色透明、φ2白不透明、φ1黒鋭光沢	
266	L・9	Ⅵb		楕円押型文	枝回転文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2茶、φ2褐、微細無色透明	(外・内)黒変
267	N・5	Ⅶ	楕円押型文	ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	褐	φ1灰、φ1黄灰、微細透明光沢、黒鋭光沢、	(外・内)黒変
268	F・24	Ⅶ		ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	φ5灰白、微細灰、微細黒、微細光沢	
269	I・7	Ⅵ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	褐	黒褐	微細無色透明、微細白	
270	M・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ3乳白、φ3灰、φ3褐、φ1白	
271	I・4	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ3灰白、φ2金色鱗片状	
272	L・5	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	黒褐	浅黄	φ1黒鈍光沢、微細白	
273	K・4	Ⅵ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	褐	褐	微細灰白、微細無色透明	
274	J・9	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	暗灰黄	にぶい黄、暗灰黄	φ2灰白、φ1浅黄橙、微細無色透明	
275	L・7	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ5.5灰白、φ1.5灰、φ1.5赤褐、φ0.5無色透明	(外)黒変
276	H・7	Ⅵ		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ8褐、φ8茶、φ8灰	(外)黒変
277	H/K・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ?	赤褐	明赤褐	φ2無色透明、φ2赤褐、φ1白半透明、φ1灰白	
278	K・9	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	橙	φ2灰白不透明、φ1黄、φ1赤褐	
279	M・5	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、黒	にぶい黄褐	φ8黄褐、φ3白、微細黒光沢	(内)黒変
280	I・2	b	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	にぶい黄	φ4灰黄褐、φ4褐灰、φ2褐灰、φ1黄橙、φ1やや黄鋭光沢	
281	K・2	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ1.5無色透明光沢、φ1白不透明、φ1黒鈍光沢	

表３　土器観察表(10)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
282	M・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ4白、φ3白半透明、φ1透明光沢	
283	L・8	Ⅶ		楕円押型文	楕円押型文、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	にぶい黄橙	φ5灰白、φ5灰、φ5黒褐、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	(外・内)黒変
284	H・7	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文、山形押型文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ5灰、φ3黄褐、微細白半透明、微細黒	(外)黒変
285	M・6	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	浅黄、黄灰	浅黄、暗灰黄	φ5白	
286	H・7	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白、φ3灰、φ3白半透明、φ3黒光沢	
287	H・4	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	オリーブ黒、浅黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ5灰、φ5赤褐、φ5白、φ5黒鋭光沢、φ5黒鈍光沢、φ5無色透明	
288	B区	―	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ3白、φ3灰、φ3黒、φ2白半透明、φ2透明光沢	
289	N・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	黄褐	φ4灰、φ4薄褐、φ4白半透明、φ4透明、φ4黒鋭光沢	
290	H・8	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ3金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、φ1白半透明	(外)黒変、(内)黒変
291	J・9	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ5褐～赤褐、微細乳白	
292	K・7	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ4白、φ4金色	穿孔
293	A区	―	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	黄褐	黄褐	φ7淡黄、φ3白不透明、φ3灰白、φ2無色透明	
294	I・10	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	褐灰	φ1灰褐、φ1白不透明、φ1灰白	SI69内出土
295	J・4	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2.5白、φ2.5褐、φ2.5黒鈍光沢	
296	K・4	Ⅵ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐、にぶい橙	φ4.5灰、φ4.5黒、φ4.5白、φ2黒鋭光沢、φ2黒鈍光沢	
297	L・4	Ⅵb	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、丁寧なナデ	暗灰黄	浅黄	φ5薄褐、φ2白、φ2透明光沢	
298	I・6	Ⅵ	楕円押型文	丁寧なナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	暗灰黄	黄褐	φ3明褐灰、φ2淡黄、φ2明褐灰不透明、φ1褐	
299	A区	Ⅳ	楕円押型文	楕円押型文	ナデ、楕円押型文、工具ナデ？	にぶい橙	にぶい褐	φ4灰白、φ4灰、φ1黒	
300	I・5	Ⅵb	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	暗灰黄、黄灰	暗灰黄	φ8白半透明、φ2金光沢、φ2灰、φ2黒褐、φ1.5灰白、φ1.5無色透明	
301	H・6	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白～乳白、φ2灰褐、微細褐	
302	―	b	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ4褐、φ4乳白、φ4灰、φ4黄灰、φ2黒鋭光沢、φ2白半透明	(外・内)黒変
303	K・5	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ3.5赤褐、φ3金雲母？、φ1白半透明、φ1黄褐、φ1灰	
304	J・8	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文	にぶい褐	にぶい褐、灰褐	φ1黄橙、φ1灰白、φ1金光沢雲母	礫群１付近
305	K・7	Ⅵ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	橙	φ2白半透明、φ1白不透明、φ1金色鱗片状	SI11内出土
306	L・4	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	灰黄	にぶい黄	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐、φ1白不透明	(外)黒変、(内)黒斑
307	J・3	Ⅵ	短沈線文	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	明赤褐	明赤褐、黒褐	φ3.5褐、φ3.5無色透明	(内)黒斑
308	M・4	Ⅶ		ナデ	楕円押型文	にぶい黄	浅黄、黄灰	微細灰白、微細白光沢、微細黒鈍光沢	
309	I・7	Ⅶ	山形押型文	山形押型文、ナデ	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2褐、φ2黄灰、φ2灰、φ1黒鋭光沢、φ1金色鱗片状	SI60内出土、(外・内)黒変
310	I・9	Ⅵ	枝回転文	ナデ	枝回転文、ケズリ状ナデ	灰黄褐、明黄褐	灰黄褐、褐灰	φ4.5にぶい黄橙、φ3明黄褐、φ2黄橙、φ1黒鋭光沢	(外・内)黒変
311	L・5	Ⅵb	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	橙	にぶい橙	φ2白不透明、φ1.5黒鈍光沢、微細白、微細茶、微細やや黄	(外・内)黒変
312	L・5	Ⅵb	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	橙	にぶい橙	φ4.5灰白、φ4.5白、φ2白半透明、φ1白、φ1赤褐、φ1灰、φ1黒鈍光沢	
313	M・7	Ⅶ	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(外)黒変、(内)黒斑
314	N・4	Ⅶ	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	橙	にぶい橙	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細無色透明	
315	H・11	Ⅶ		枝回転文、丁寧なナデ？	枝回転文、ケズリ状ナデ	明褐	にぶい褐	φ2.5無色透明、φ1灰白、微細赤褐	
316	M・6	Ⅶ	枝回転文	枝回転文	枝回転文	灰黄褐	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明	
317	M・5	Ⅵb		枝回転文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐、褐灰	にぶい褐、褐灰	φ5灰白、微細無色透明	
318	K・9	Ⅶ	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ2黄灰、φ2灰、φ1金色鱗片状、微細無色透明	(内)黒斑

表３　土器観察表(11)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
319	Ｉ・７	Ⅶ	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰	SI59内出土、(内)黒斑
320	Ｋ・４	Ⅶ	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、微細金色鱗片状、微細無色透明、微細白半透明	(内)黒斑
321	Ｌ・８	Ⅶ	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ナデ	にぶい褐、褐灰	にぶい橙、にぶい褐、明褐	φ5.5灰白、φ4明褐灰、φ4褐灰、φ3.5暗赤褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢	(外・内)黒変
322	Ｋ・４	Ⅶ	枝回転文	枝回転文	枝回転文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、微細金色鱗片状、微細無色透明、微細白半透明	(内)黒斑
323	Ｎ・５	Ⅵb	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文、ケズリ状ナデ	褐	にぶい褐	φ3金光沢、φ2明褐灰、φ2褐灰、φ1.5灰白、φ1褐灰、φ1褐灰光沢	
324	Ｊ・８	Ⅵa	ナデ後・枝回転文	ナデ、沈線文	ナデ、枝回転文	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、φ1白半透明	(口唇部)黒変
325	Ｌ・５	Ⅵb	枝回転文	ナデ	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	橙	φ1金鋭光沢、φ1黒鈍光沢、φ1白半透明、φ1灰白	
326	Ｉ・８	Ⅶ	枝回転文	ナデ、枝回転文	枝回転文	にぶい黄褐	灰黄褐	φ3灰白、φ1.5黄褐、φ1.5赤褐	
327	Ｌ・６	Ⅶ		ナデ、枝回転文	枝回転文、ナデ、ケズリ	黒褐	にぶい褐	φ2灰白、φ2金色鱗片状、微細黒褐	
328	Ｍ・５	Ⅵb	刻目	ネガティブ楕円文	ネガティブ楕円文、ナデ	褐灰、にぶい橙	にぶい黄褐	φ1.5乳白、φ1黒、微細にぶい黄橙不透明、微細無色透明	
329	Ｆ・24	Ⅶ		平行押型文	列点文、平行線押型文、ケズリ状ナデ	明褐	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1褐灰光沢、φ1褐灰鈍光沢	(内)黒変
330	Ｌ・７	Ⅶ	短沈線文	ナデ、平行押型文?	浅い短沈線文、ケズリ状ナデ	褐灰	にぶい黄褐、褐灰	φ2灰白、微細黒褐、微細黒鋭光沢	(外)黒斑
331	－	c	短沈線文	ナデ、平行押型文？	短沈線文、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2黒鈍光沢、φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明、白半透明	(外)黒変、(内)黒変
332	Ｍ・５	Ⅵb	平行押型文？	平行押型文？	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	黒褐	φ1.5灰白、φ1金色鱗片状	
333	Ｊ・７	Ⅶ	短沈線文	ナデ	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、明黄褐	にぶい黄橙	φ5灰白、φ2.5褐灰不透明、φ2やや黄透明、φ1浅黄橙	
334	Ｊ・７	Ⅶ	短沈線文	ナデ、平行押型文?	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄	暗灰黄、黄灰	φ3白半透明、φ1.5灰白、φ1.5灰褐	(内)黒斑
335	Ｊ・２	b	短沈線文	ナデ、平行押型文?	短沈線文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、明黄褐	褐灰、にぶい黄橙	φ4浅黄橙、φ3灰白半透明、φ3褐灰、φ2金光沢、φ2やや黄透明	(内)黒変
336	Ｉ・２	b	短沈線文	ナデ	短沈線文、工具ナデ	橙	明黄褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、微細透明、微細半透明、微細黒	(内)黒斑
337	Ｌ・６	Ⅵb		ナデ、平行押型文?	平行押型文?ナデ	明黄褐	にぶい黄褐、褐灰	φ5にぶい黄橙、φ4浅黄橙、φ3褐灰、φ3浅黄橙、φ1灰白	
338	Ｈ・７	Ⅶ	短沈線文	ナデ	平行押型文?ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3褐、φ3乳白、φ3灰、φ3黄灰、φ1黒鋭光沢、微細無色透明、微細白半透明	(外)黒変、(外・内)黒変
339	Ｌ・５	Ⅵ	短沈線文	ナデ	平行押型文?ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2金色鱗片状、φ2黒鋭光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐色、微細無色透明	(外・内)黒変
340	Ｉ・９	Ⅵ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	φ4灰白、φ1無色透明、微細黒鋭光沢	
341	Ｈ・７	Ⅶ	楕円押型文	ナデ、楕円押型文	楕円押型文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3金色鱗片状、φ1黄灰、φ1灰	(外・内)黒斑
342	Ｅ・23	Ⅶ		ナデ、楕円押型文(連珠文様)	楕円押型文(連珠文様)、ケズリ状ナデ	浅黄	浅黄	φ2無色透明、φ2黒鋭光沢、φ2灰、φ2黒黄灰	(内)黒変
343	Ｊ・７	Ⅵb		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい橙、黄灰	にぶい橙、黄灰	φ5灰白、φ5褐、φ5白半透明	
344	Ｍ・７	Ⅶ	楕円押型文	楕円押型文、ナデ	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒、微細白	(内)黒変
345	Ａ区	b		楕円押型文	楕円押型文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ2白半透明、微細光沢、微細黒	(内)黒変、鉢形
346	Ｃ・25	Ⅶ		ナデ、楕円押型文(連珠文様)？	ナデ	橙	にぶい橙、にぶい黄橙	φ2白半透明、φ1白、φ1灰、φ1赤褐、微細黒鋭光沢、微細無色透明	鉢形
347	Ｈ・４	b	楕円押型文	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐、明黄褐	φ1無色透明、φ1灰白半透明、φ1橙、φ1黒鋭光沢	
348	Ｉ・8／9	Ⅶ		楕円押型文、山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐、にぶい赤褐	にぶい褐、褐灰	φ3灰白、φ3灰白、微細灰褐	SI69内出土、(内)黒斑
349	Ｉ・８	Ⅵ		ナデ、山形押型文	ナデ	にぶい黄褐、黒褐	褐	φ3にぶい黄橙、φ3橙、φ1黄橙、φ1赤褐、φ1褐灰、φ1無色透明	
350	Ａ区	b		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	φ3.5橙、φ3黒褐、φ2微細、微細褐	
351	Ｍ・５	Ⅵb		山形押型文	ナデ	明赤褐	にぶい黄橙	φ4褐、φ4灰、φ4黒、φ4黄灰、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	(外)黒変、(内)黒変
352	Ｈ・９	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐、褐灰	にぶい褐	φ7うすい褐、φ7白、φ7灰φ7白不透明	(外)黒斑

表３　土器観察表(12)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
353	H・9	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	黒褐、にぶい黄褐	黒褐、灰黄褐、にぶい黄褐	φ2灰黄褐、φ2区黒褐、φ1浅黄橙、φ1金色	(外)黒変
354	H・2	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ?	にぶい黄	にぶい黄、黄褐	φ2.5淡黄、φ2.5灰白、φ1褐、φ1やや黄透明、微細金色	SI23内出土
355	M・6	Ⅶ		山形押型文	ナデ？	にぶい黄、黄灰	にぶい黄褐、灰黄褐	φ3浅黄橙、φ3褐灰不透明、φ2金色、φ1橙不透明	SI40内出土
356	F・27	Ⅶ		山形押型文	ナデ	橙	にぶい黄	φ2黒鋭光沢、φ2褐、φ2灰、φ2黄灰、微細白半透明	
357	M・5	Ⅶ		ナデ、山形押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	にぶい黄褐、灰黄褐、暗灰黄、黄灰	にぶい黄褐、褐、黒	φ3赤褐、φ3にぶい橙不透明、φ3やや黄半透明、φ2淡橙、φ2灰白、φ2金色、微細無色透明	(内)黒変
358	I・7	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	φ5黄灰、φ5灰、φ5褐	(外)黒変、(内)黒斑
359	D・27	Ⅶ		山形押型文	丁寧なナデ	明黄褐	にぶい黄橙、褐灰	φ3黒鋭光沢、φ3赤褐、φ1.5褐灰	
360	K・5	Ⅶ		山形押型文	ナデ	明黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	φ0.5灰白、微細黒鋭光沢、微細無色鋭光沢	
361	K・6	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明	(内)黒変
362	G・6	Ⅵ		山形押型文	丁寧なナデ	褐灰、にぶい黄橙	にぶい黄褐、にぶい橙、灰黄	φ5灰白、φ4.5淡黄、φ3黒、φ2黒鋭光沢、φ2赤褐	
363	J・4	Ⅵ		山形押型文	丁寧なナデ	暗灰黄	暗灰黄	微細黒、微細灰	SI103内出土(外)黒変
364	—	—		ナデ、山形押型文	ケズリ	にぶい黄褐	黒	φ1金色鱗片状、微細無色透明、微細白	(内)黒斑
365	H・7	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙、オリーブ黒	黄褐	φ7白、φ7黒、φ2黒光沢、φ1透明光沢	
366	F・27	Ⅶ		山形押型文	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	φ5灰、φ5乳白、φ5黄灰、φ5褐、φ1白半透明、微細黒鋭光沢	(外)黒変
367	N・7	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、φ2黒鋭光沢	
368	K・8	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1白、φ1白不透明	
369	L・6	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	にぶい褐	灰褐	φ1金色鱗片状、微細無色透明、微細灰白	
370	A区	b		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、灰黄褐	φ4にぶい黄橙、φ2黒鋭光沢、φ2灰白、φ2灰黄褐	
371	L・6	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐	(外・内)黒変
372	K・4	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	黒褐	φ3薄褐、φ3黒、φ3灰、φ3金色	(外)黒変
373	I・8	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	灰	にぶい黄	φ2.5灰白、φ1.5金色鱗片状、φ1無色透明	
374	L・7	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2黄灰、φ2灰、φ1金光沢、φ1黒	(外)黒変、(内)黒斑
375	K・6	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ2.5赤褐、微細金色鱗片状、微細灰白	
376	H・2	b		山形押型文	ナデ	浅黄	浅黄	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢	
377	—	c		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2褐、φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、φ2黒鋭光沢、微細無色透明、白半透明	(外)黒変
378	—	Ⅵ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5黄灰、φ5灰、φ5褐、φ3黒鋭光沢、φ2白不透明、微細無色透明光沢	(外)黒変
379	M・6	Ⅶ		山形押型文	ナデ	橙、にぶい橙	橙、褐灰、にぶい黄橙	φ2浅黄橙、φ2橙、φ2黒鋭光沢、φ1.5褐灰、φ1.5半透明、φ1無色透明	
380	J・9	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ4黄灰、φ4灰、φ4褐、φ3金色鱗片状、φ2白不透明	SI70内出土
381	J・6	Ⅷ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい橙	黒褐	φ1灰白、微細白半透明	SI79内出土
382	O・4	Ⅵa		山形押型文	ケズリ状ナデ	褐	黒褐	φ3灰黄褐、φ2浅黄橙、φ1灰白不透明、微細無色透明	
383	—	c		山形押型文	ケズリ状ナデ	明褐、にぶい褐	明褐	φ5.5浅黄橙、φ5にぶい黄褐、φ1無色透明、φ1黒鋭光沢	
384	G・27	Ⅶ		山形押型文の後ナデ消し、山形押型文	ナデ	褐灰、褐、明赤褐	褐、褐	φ4浅黄、φ4明褐、φ3赤褐、φ1.5やや黄透明、φ1.5明褐灰、φ1黒鋭光沢、φ0.5白半透明	125と同一個体か
385	—	c		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢	(外)黒変
386	L・4	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	褐灰	φ2金色鱗片状、微細灰白	
387	F・24	Ⅶ		山形押型文	ケズリ	にぶい橙	暗灰黄	微細無色透明、微細金色鱗片状	
388	L・6	Ⅶ		山形押型文	ケズリ	黒褐、にぶい褐	黒褐、灰黄褐	φ3灰白、φ2褐灰鋭光沢、φ1.5浅黄橙、微細金色	(外・内)黒変
389	M・6	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい橙	暗灰黄	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細透明、微細半透明、微細黒光沢	(外・内)黒変

表３　土器観察表(13)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
390	K・4	Ⅵ		山形押型文	ナデ	暗灰黄、明褐	灰黄褐、褐灰	φ3.5浅黄橙、φ2にぶい褐、φ2金光沢、φ1黒褐	
391	L・4	Ⅶ		山形押型文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	灰黄褐、黒褐	φ4灰黄褐、φ2浅黄橙、φ2褐、φ1.5黒鋭光沢	
392	H・2	b		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙、橙	灰黄褐	微細黒、微細白	
393	L・6	Ⅵb		ナデ、山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	橙	φ1.5乳白、φ1灰白、微細黒褐	
394	M・5	Ⅵ		山形押型文	ナデ	にぶい黄褐、褐灰	灰黄褐、にぶい黄褐	φ1黄橙、φ1やや黄透明、φ0.5灰白	SI４内出土
395	K・6	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2褐、φ2黄灰、φ2灰、微細無色透明、微細黒鋭光沢	SI８内出土
396	M・6	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	橙	にぶい褐	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細無色透明、微細黒鈍光沢	(内)黒斑
397	—	—		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、微細金色鱗片状、微細白半透明	(内)黒斑
398	L・5	Ⅵb		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1黄橙、φ1褐灰	
399	J・4	Ⅶ		山形押型文	丁寧なナデ	暗灰黄、浅黄	黄褐、黒褐	φ5薄灰、φ1透明光沢	(内)黒変
400	—	—		山形押型文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐灰、黒褐	φ3浅黄橙、φ2黒鋭光沢、φ2黄橙	
401	H・8	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐、灰褐	φ3金光沢、φ2灰白、φ2浅黄橙、φ2褐	
402	K・5	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ4金色鱗片状、φ1白不透明、微細金色	
403	—	—		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ2黄灰、φ2灰、φ1金色鱗片状、微細無色透明、微細白半透明	SI87内出土
404	J・5	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1灰白、φ1白半透明、微細金色	
405	F・24	Ⅶ		山形押型文	ナデ	橙	灰黄褐、黒褐	φ5浅黄橙、φ3黄橙、φ3暗赤褐、φ2灰黄褐、φ2無色透明、φ2黒鋭光沢	
406	L・5	Ⅵb		ナデ、楕円押型文	工具ナデ	橙、灰黄褐	にぶい黄橙	φ1.5無色透明、微細黒光沢、微細灰、微細褐	
407	J・8	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ3褐灰、φ1黄橙、微細透明	
408	K・6	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1金色、微細白半透明	
409	A区	b		楕円押型文	工具ナデ、ナデ	橙	にぶい黄褐	φ9灰、φ9黄灰、φ9乳白、φ9褐、φ2黒鋭光沢、φ2白不透明、微細無色透明	(内)黒斑
410	I・6	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	φ2.5黄灰、φ2.5乳白、φ2.5褐、φ2金色鱗片状	(外・内)黒変
411	I・7	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4黄灰、φ4灰、φ4褐、φ1金光沢	(外)黒変
412	I・6	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい赤褐	褐	φ2黄褐、φ2褐、φ1金色(黒雲母？)	(外)黒変
413	J・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ3白、φ2白、φ2黒、φ2褐	SI70内出土
414	M・5	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	φ4白鈍光沢、φ3褐鈍光沢、φ1金色（黒雲母）、φ1赤褐	SI５内出土
415	H・7	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐	φ3白、φ1灰、微細光沢、微細赤褐	(外)黒変
416	L・5	Ⅵb		ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4薄褐、φ4白、φ4金色、φ2透明、φ2半透明	
417	I・4	Ⅶ		楕円押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	黒褐	にぶい黄橙	φ3灰、φ1赤褐、φ1金色(黒雲母)、φ1白	(内)黒変
418	H・3	b		楕円押型文、山形押型文	丁寧なナデ	灰黄	にぶい黄、暗灰黄	φ3.5灰白、微細無色透明、微細黒鋭光沢	
419	H・7	Ⅵ		楕円押型文、山形押型文	ナデ	橙	黒褐	φ2.5黄白、φ2.5灰、φ2.5黒鈍光沢、φ2.5無色透明、φ2.5黒鋭光沢	
420	H・8	Ⅵ		楕円押型文、山形押型文	ナデ	灰黄褐、褐灰	暗灰黄	φ1.5灰白、φ1.5黒褐、φ1無色透明、微細黒鋭光沢	
421	J・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	黒褐	褐	φ4赤褐、φ3灰褐、φ3淡黄、φ1金光沢雲母	SI71内出土
422	H・10	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、φ1金色鱗片状	(内)黒変
423	—	c		楕円押型文、山形押型文	ケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙、褐灰	φ2黄白、白半透明、金色鱗片状	
424	K・7	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ5白、φ2.5白不透明	
425	H・4	b		楕円押型文、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙、黒褐	φ4黄褐、φ3白、φ3黒、φ2黒光沢、φ1白鈍光沢、φ1赤褐	
426	H・8	Ⅵ		楕円押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	橙	灰黄褐	φ6灰白、φ6薄褐、φ3白半透明、φ3黒	(外)赤彩か？
427	K・7	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	暗オリーブ褐	φ6灰黄褐、φ2黄灰、φ2灰、微細白半透明	
428	L・4	Ⅵb		楕円押型文	ナデ	にぶい褐、黒褐	にぶい褐、黒褐	φ1.5灰白、φ1金色鱗片状	
429	J・4	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	褐	赤褐	φ1.5灰白、φ1.5橙、φ1.5赤不透明、φ1金色鱗片状、φ1白半透明、φ1白不透明	(外)黒変？

表３　土器観察表(14)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
430	L・4	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2黒褐、φ1黄褐、微細光沢	
431	L・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ1白半透明、φ1黒鋭光沢	
432	M・4	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	明赤褐	にぶい褐、灰褐	φ4灰白、φ1.5やや黄透明、φ1褐鉄、φ1黒鋭光沢	
433	K・7	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、微細無色透明、微細金色、微細黒鋭光沢	(内)黒斑
434	G・6	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	明褐	φ1白半透明、φ1茶褐	
435	I・8	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい褐、灰黄褐	にぶい黄褐	φ1淡黄、φ1やや黄透明、φ1にぶい黄褐	
436	K・7	Ⅶ		ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ3.5白、φ3.5薄褐、φ2半透明光沢	
437	K・5	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐、黄灰	灰黄褐	φ3灰白、φ1無色透明、φ1白半透明	(外)黒変？
438	K・7	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4白、φ4薄褐、φ1透明光沢	
439	A区	b		ナデ、楕円押型文	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ2.5金色、φ2白	
440	K・4	Ⅵ		楕円押型文	丁寧なナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ2.5白、φ2.5透明光沢	SI103内出土(外)黒変
441	L・4	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、褐灰	暗灰黄、黒褐	φ3灰褐、φ1.5浅黄橙、φ1.5金光沢雲母	
442	—	—		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	黄褐	φ2金光沢、φ2灰、φ2黄灰、φ2褐	
443	I・7	Ⅵ		楕円押型文、山形押型文	ナデ、ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3灰白、φ1.5無色透明、微細黒鋭光沢、微細金色	
444	K・5	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	褐	にぶい褐	φ4褐、φ1黄褐、φ1金色(黒雲母)？	
445	J・2	b		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2黒、φ2褐、φ1金色鱗片状	(外)黒変
446	H・7	Ⅶ		ナデ、楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	φ4黒褐、φ2無色透明、φ2赤褐、φ1灰白	SI58内出土
447	I・8	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	橙	φ2褐、φ2白、φ2白半透明、φ2黒鈍光沢、φ2金色鱗片状	SI68内出土
448	K・5	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ、ナデ	橙	にぶい褐	φ3白、φ3灰、φ3褐、φ3黒鋭光沢、φ3無色透明	SI38内出土
449	K・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	橙、明褐	にぶい黄橙、橙	φ4淡橙、φ4浅黄橙、φ1浅黄、φ0.5黒	SI50内出土
450	I・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	橙	にぶい橙	φ8灰白、φ1やや黄透明、φ1黒鋭光沢	SI69内出土
451	J・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	微細白、微細透明光沢	SI70内出土
452	H・7	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2黄灰、φ2白、φ2褐	
453	G・27	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ1白不透明、φ1茶褐	
454	H・3	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、褐灰	褐	φ2淡黄、φ2灰白不透明、φ2浅黄橙、φ1金光沢雲母	(外)黒変
455	J・6	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ4白半透明、φ2透明光沢	
456	J・3	a		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	微細白、微細黒、微細透明光沢	
457	I・8	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ3灰、φ1.5灰白、φ1金色鱗片状	
458	K・7	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙	黄褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、微細無色透明	SI10内出土
459	—	—		楕円押型文の後ナデ、楕円押型文	ナデ	にぶい褐、褐灰	明褐、灰黄褐	φ2.5金光沢雲母、φ2.5褐灰、φ2橙、φ1淡黄	
460	—	—		楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐、褐灰	にぶい黄褐	φ1金色鱗片状、φ1白不透明	
461	J・7	Ⅵ		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細無色透明	SI13内出土
462	K・4	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	黒褐	φ7褐、φ3白半透明、φ3無色透明、φ3黒鋭光沢	
463	N・5	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	橙	φ2白半透明、φ2褐、φ2白	(内)黒変
464	J・5	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5灰、φ2.5白	
465	L・7	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	橙	にぶい褐	φ2白不透明、φ2褐鉄、φ2金色鱗片状、φ2白	
466	L・7	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ2白、φ2黒光沢	
467	L・5	Ⅵb		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2白不透明	
468	L・5	Ⅵb		枝回転文	ケズリ状ナデ	暗灰黄	暗灰黄	φ3金光沢雲母、φ1褐灰、φ1灰白	(外)黒変
469	L・8	Ⅶ		枝回転文	ケズリ状ナデ	灰黄褐、にぶい黄褐	にぶい褐	φ1黄橙、φ1灰白、φ1赤褐	
470	J・4	Ⅵ		枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ4褐、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、φ2金色鱗片状、微細無色透明	(外)黒変、(内)黒斑
471	I・8	Ⅵ		枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐、褐灰	褐灰	φ2灰白、φ2黒褐、φ1.5金色鱗片状	
472	G・6	Ⅵ		枝回転文の後、一部ナデ	条痕	褐灰	にぶい褐、灰黄	φ1.5やや黄透明、半透明、φ1白半透明、微細灰白	(外)黒変、(内)黒斑

表３　土器観察表(15)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
473	L・6	Ⅵb		枝回転文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、φ2金色鱗片状、微細無色透明	(内)黒斑
474	H・9	Ⅵ		枝回転文	ケズリ状ナデ	灰褐	褐	φ2.5にぶい褐、φ2.5渇灰、φ2浅黄橙、φ2金色	
475	I・9	Ⅶ		ナデ、枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐、渇灰	φ4灰白、φ2無色透明、微細赤渇、微細灰白	SI69内出土
476	H・7	Ⅵ		枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙、褐灰	φ3.5暗渇、φ2赤渇、φ2金色、φ1浅黄橙	(内)黒変
477	N・6	Ⅶ		枝回転文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、にぶい褐	褐、黒褐	φ2黒渇、φ1灰白、微細鱗片状	
478	J・9	Ⅷ		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黄褐、にぶい黄	黄灰、にぶい黄橙	φ8灰白、φ5.5渇灰、φ3灰白、φ3黄橙、微細無色透明、微細黒鋭光沢	SI82内出土
479	SC137内	—		枝回転文	ケズリ状ナデ			φ1.5やや黄、微細灰白	
480	G・6	Ⅵ	短沈線文	平行押型文、ナデ	平行押型文、ナデ	にぶい渇	暗灰黄、にぶい黄褐	φ5黒鋭光沢、φ5白透明、φ3渇	(内)黒斑
481	H・7	Ⅵ		平行押型文	ナデ	にぶい褐、灰黄褐	にぶい褐	φ2渇、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明、φ1灰白	(外)黒変、(内)黒斑
482	K・7	Ⅶ		平行押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2無色透明、φ1.5白半透明、φ1金色鋭光沢、φ1灰白	(内)黒変
483	M・7	Ⅵb		平行押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ黄灰、φ灰白、φ赤渇、φ金色、φ淡黄	
484	A区	b		平行押型文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ3白半透明、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	(内)黒斑
485	L・8	Ⅶ		平行押型文	ナデ	にぶい渇	灰黄褐、黒褐	φ2.5にぶい黄渇、φ2金色、φ2灰白、φ0.5淡黄	
486	H・3	Ⅵ		平行押型文、ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	φ2乳白、φ2やや黄透明、微細黒鋭光沢	
487	K・7	Ⅶ		平行押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐、黒褐	φ5黒鋭光沢、φ1黄透明、φ1白透明、半透明、φ1灰白、微細金色鋭光沢	(内)黒変
488	H・7	Ⅵ		平行押型文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ1渇、φ1黄灰、φ灰、微細白半透明、微細黒鋭光沢	(内)黒斑　489と同一個体か
489	J・4	Ⅶ		平行押型文	ナデ	橙	暗灰黄	φ8渇、φ8黄灰、φ8灰、微細白不透明	
490	K・7	Ⅵ		平行押型文	ナデ	にぶい黄渇	にぶい黄渇	φ3白、φ3灰白、φ1金色、φ0.5白、φ0.5やや黄、φ0.5灰白	
491	L・5	Ⅵb		格子目押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	灰黄褐	φ1金色鋭光沢、φ1白、φ1渇、微細灰白	
492	L・4	Ⅵb		格子目押型文、ナデ	ケズリ	にぶい黄渇	にぶい赤渇	φ3灰白、φ3やや黄、φ3赤渇、φ1.5金色、φ1.5白半透明、φ1白、φ1赤渇、φ1やや黄	
493	O・5	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3黒、φ3灰、φ3黄灰、φ2黒鋭光沢	(外)黒変、(内)黒変
494	K・5	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄渇	φ5白、5灰、φ2白、φ2灰、φ1赤渇、微細光沢	
495	L・5	Ⅵb		山形押型文、沈線文	ナデ	黒褐、にぶい褐	黒褐、にぶい赤渇	φ4灰白、φ4橙、φ2黒鋭光沢、φ1白半透明	
496	K・12	Ⅶ		山形押型文	ナデ	橙	橙	φ2灰、φ2渇、φ2黄灰、微細黒鋭光沢、微細無色透明、微細白半透明	
497	H・2	Ⅵ		山形押型文、ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ3灰、φ3黄灰、φ3渇、φ1金色鱗片状	SI23内出土(内)黒斑
498	K・8	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄渇	にぶい黄渇	φ7赤渇、φ4乳白、2白	733、734と同一個体か、(内)黒変
499	G・24	Ⅶ		楕円押型文(連珠文様)、ナデ	ナデ	にぶい赤褐	褐灰	φ1赤渇、φ1灰白、φ1金色鱗片状	
500	L・4	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄、暗灰黄	にぶい黄、黒渇	φ5白、φ5渇～赤褐、φ3白半透明	(外)黒変
501	N・6	Ⅵ		山形押型文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ3灰白、微細無色透明、微細黒鋭光沢	(外・内)黒変
502	L・5	Ⅶ		山形押型文、ケズリ	ケズリ状ナデ	にぶい渇	褐	φ6灰、φ3金色鋭光沢、φ3白不透明、φ3褐鈍光沢、φ1.5白半透明、φ1黄灰、φ1黄褐、φ1黒、微細黒鋭光沢	(外)黒変
503	L・5	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ1灰白、微細金色鱗片状	
504	M・9	Ⅵ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄	暗オリーブ褐	φ3金色鱗片状、φ1白	
505	A区	b		山形押型文、ナデ		明褐	にぶい黄橙、灰黄褐、褐	φ4浅黄橙、φ3灰白、φ1無色透明、φ1灰白半透明、φ0.5黒鋭光沢	
506	—	b		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、暗灰黄	灰黄褐、にぶい黄橙	φ5白、φ1白半透明、微細黒鋭光沢	(外)黒変
507	M・7	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2金色鱗片状、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細無色透明	(内)黒変
508	K・8	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ2赤褐、φ1.5灰白、φ1金色鱗片状	
509	—	c		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1.5白不透明、φ1黒鋭光沢、φ1灰白	

表３　土器観察表⑯■

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
510	J・7	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐	φ2灰白、φ1金色鱗片状	(内)黒変
511	K・7	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	灰黄褐、にぶい黄褐	φ2浅黄橙、φ1灰白、φ0.5黄褐、微細無色透明	
512	L・5	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰白、微細白不透明	(内)黒変
513	H・4	b		山形押型文、ナデ	ナデ	橙	橙	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐、φ2黒鋭光沢、微細無色透明	
514	A区	—		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1金色鱗片状、φ1灰白	
515	E・25	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	橙	にぶい黄橙	φ5褐、φ5黄灰、φ5灰、φ2無色透明、φ2黒鋭光沢	(内)黒斑
516	K・7	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3白半透明、φ1金色鋭光沢、φ1褐鈍光沢、φ1灰白	
517	K・6	Ⅵb		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	赤褐	φ7白、φ7灰、φ7赤褐、φ3灰白、φ2白半透明、微細やや黄透明、微細やや黄不透明	
518	J・5	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐、φ1金色鱗片状、微細無色透明	(外)黒変、(内)黒斑
519	L・5	Ⅵb		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1.5黒鋭光沢、φ1白半透明、φ1灰白	
520	J・7	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐、黒褐	φ3にぶい黄橙、φ1浅黄橙、φ1金色、φ1無色透明	
521	I・7	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	灰黄褐	φ2灰褐、φ1にぶい黄橙、φ0.5明褐、微細無色透明	
522	K・7	Ⅵ		山形押型文		にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2.5白半透明、φ1.5灰白、φ1赤褐、微細金色鱗片状	(外)白色物付着
523	K・4	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	灰褐	φ2透明光沢、φ2黒光沢	
524	J・4	Ⅶ		工具ナデ、ケズリ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ5灰白、φ3金鋭光沢、φ3白不透明	(外)黒変、(内)黒斑
525	N・6	Ⅶ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄	黄褐	φ3黄灰、φ3褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢	
526	H・7	Ⅵ		山形押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	明赤褐	にぶい褐	φ1無色透明、φ1やや黄透明、φ1灰白、φ1黒、φ1赤褐	(外・内)黒斑
527	O・4	Ⅵb		山形押型文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ3黄灰、φ3褐、φ2金色鱗片状	
528	K・7	Ⅵ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ2黄灰、φ2灰、φ2黒、φ2褐、φ2金色鱗片状、微細無色透明	SI11内出土、(内)黒変
529	I・9	Ⅶ		楕円押型文	ナデ	にぶい橙	浅黄	φ12灰白、φ1白不透明、φ1黒鋭光沢	SI69内出土、(内)黒変
530	H・2	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、黒	にぶい黄、黒	微細無色透明光沢、黒鈍光沢	SI23内出土、(外・内)黒斑
531	K・5	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ5橙、φ5赤褐、φ3金色鱗片状、φ2.5灰白、φ1.5灰、φ1.5白不透明、φ1.5白半透明	SI38内出土
532	K・5	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ	明赤褐	褐、灰黄褐	φ2灰白、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	SI38内出土、(外)白色物付着
533	K・6	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ？	にぶい褐	褐	φ2赤、φ2橙、φ2白半透明、φ1無色透明、φ1金色鱗片状	
534	I・3	b		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	φ8黒褐、φ4白、φ1赤褐、微細光沢	(外)黒変、白色物付着？(内)黒変？
535	H・6	b		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3赤褐、φ2白半透明、φ2黒鈍光沢、φ2灰白、φ1無色透明	
536	J・5	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄	浅黄	φ3黄褐、φ2金色(黒雲母?)、φ1褐	(外・内)黒変
537	H・6	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ3.5白、φ3.5白不透明、φ3.5金色	(内)黒変
538	L・8	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ1灰白、φ1灰白、微細白半透明	
539	I・7	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ケズリ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2やや黄透明、φ1.5黒鋭光沢、微細灰白	(内)黒変
540	N・6	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	φ4赤褐、φ3褐、微細黒光沢、微細白光沢	
541	K・8	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	褐灰	φ5灰褐、φ2灰白、φ1.5半透明、微細灰白、微細光沢	
542	L・6	Ⅶ		楕円押型文、丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3灰、φ3黄灰、φ1.3褐、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	
543	L・5	Ⅵb		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ2金色鱗片状、φ2無色透明、φ2白半透明、φ2黒、φ2灰、φ2褐	(内)黒変
544	L・5	Ⅵb		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	微細白	
545	L・6	Ⅵb		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	褐灰、にぶい黄褐	φ2.5浅黄橙、φ2.5褐、φ2褐灰	
546	J・4	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ5灰白、φ1黄褐、φ1灰	

表３　土器観察表(17)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
547	F・26	Ⅶ		楕円押型文(連珠文様？)、ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3褐、φ3黄灰、φ3灰、φ1金色鱗片状、微細無色透明	
548	A区	Ⅳ		楕円押型文、ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3灰白、φ1金色鱗片状、φ1黄	
549	Ⅰ・7	Ⅵ		楕円押型文、ナデ		橙	橙	φ3白、φ3灰、φ1金色鱗片状、微細無色透明	
550	K・5	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ	灰黄褐	黒褐	φ2.5白不透明、φ2白、φ2灰、φ1透明光沢	
551	K・5	Ⅵb		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄、暗灰黄	φ4灰、φ3黒光沢、φ2白鈍光沢、φ1白	(内)黒変？
552	L・9	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙、暗灰黄	φ1無色透明、微細黒鋭光沢、微細灰白	
553	H・4	b		楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	微細黄褐、微細黒、微細光沢	(外・内)黒変
554	—	—		楕円押型文、ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ3赤褐、φ3灰、φ1.5白不透明、φ1金色鱗片状	
555	K・8	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、灰黄褐	黒、褐	φ3.5金光沢雲母、φ3乳白、φ3赤褐、φ3灰褐	(内)黒変
556	J・8	Ⅵ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ3白、φ3白不透明、φ3透明光沢	
557	M・8	Ⅶ		楕円押型文、ナデ	ケズリ状ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ2褐、φ1無色透明、φ1灰白	(外)白色物付着、(内)黒変
558	J・5	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黄	灰黄	φ3白不透明、φ3灰白、微細やや黄透明	
559	J・4	Ⅶ		楕円押型文	ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ3やや黄透明、φ1.5黒鋭光沢、微細灰白	
560	L・8	Ⅶ		枝回転文、ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐、黒褐	φ1黄橙、φ1灰白、微細黒光沢	(外)白色物付着、(内)黒斑?
561	K・7	Ⅶ		枝回転文、工具ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐	明赤褐	φ3金光沢、φ3白、φ3灰、φ3赤褐、φ2黒鋭光沢、φ1白、φ1やや黄、φ1赤褐	(外)白色物付着
562	L・6	Ⅵb		枝回転文、ナデ、工具ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい褐、黒褐	φ3淡黄、φ3黄灰、φ1やや黄透明、微細金光沢	(外)白色物付着、(内)黒変
563	J・2	b		枝回転文、工具ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい黄褐、褐	にぶい褐、黄灰	φ0.5褐灰、微細黒鋭光沢、微細無色透明	(内)黒変
564	Ⅰ・7	Ⅵ		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐	赤褐	φ3やや黄、φ2白、φ2灰白、φ1.5白半透明、微細白、微細灰	
565	L・6	Ⅵb		枝回転文、ナデ	ナデ	橙	明赤橙、黄褐	φ3.5白、φ1黒鈍光沢、φ1白、φ1やや黄、φ1褐	
566	N・6	—		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ、ナデ	暗赤褐	にぶい黄褐	φ6白、φ3褐、φ2.5白、φ2.5灰、φ2.5赤褐、φ2黒、φ2金色、微細白、微細灰、微細やや黄	(内)黒変
567	Ⅰ・7	Ⅶ		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐	灰黄褐	φ4灰白、φ3赤褐、φ3金色、φ2黄、φ2白、φ2赤褐、φ2灰、φ2黒鋭光沢	SI59内出土、(外)白色物付着、471と同一個体か
568	K・5	—		枝回転文、ケズリ	ケズリ状ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	φ3褐、φ3黄灰、φ3灰、φ3乳白、φ2金色鱗片状	
569	Ⅰ・8	Ⅵ		枝回転文、ナデ、工具ナデ	ケズリ状ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ2灰白、φ1.5白半透明、φ1金鋭光沢	(外)黒斑
570	L・5	Ⅵb		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	赤褐	赤褐	φ3半透明、φ1白、φ1褐、φ1やや黄、φ1灰、微細金色	(外)黒変、(内)黒斑
571	J・4	Ⅶ		枝回転文、ナデ	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2.5白半透明、φ1灰白	(内)黒斑
572	H・7	Ⅶ		枝回転文、ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ4やや黄、φ2金色、φ1.5白、φ1.5褐、φ1.5やや黄	(外)黒変
573	H・13	Ⅶ		山形押型文	ナデ	浅黄	灰黄褐	φ2白、φ2黒鋭光沢	
574	L・6	Ⅵa	山形押型文	山形押型文、ナデ	山形押型文、ナデ	黄灰	にぶい橙、黄灰	φ3褐、φ3灰、φ3黒、φ3透明光沢、φ3白不透明	
575	Ⅰ・10	Ⅶ	山形押型文	山形押型文	山形押型文、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2黄灰、φ2灰白、φ1浅黄橙、φ1金光沢	(外)黒変
576	J・6	Ⅶ		山形押型文	丁寧なナデ	褐灰	にぶい黄橙	φ5灰白、φ3黒鋭光沢、φ2浅黄橙、φ2明褐、微細灰白透明	
577	L・5	Ⅶ		山形押型文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ6灰白、φ4赤褐、φ2黒鋭光沢、φ1無色透明	
578	N・5	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい赤褐	明褐	微細白不透明	
579	M・6	Ⅶ		山形押型文、枝回転文？	ケズリ状ナデ	明褐、灰褐	灰褐、黒褐	φ6にぶい赤褐、φ5にぶい橙、φ3褐灰、φ2.5灰白、φ2無色透明、φ1明黄褐、φ1赤褐	(外)黒変
580	M・5	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	灰黄、褐灰	灰黄、褐灰	φ3.5褐灰、φ1明黄褐、φ1無色透明、φ1金色	
581	J・7	Ⅶ		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3灰白不透明、φ2黄橙、φ2浅黄橙、φ0.5金色、φ0.5黒鋭光沢	
582	Ⅰ・9	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐、微細白半透明、微細黒鋭光沢	SI69内出土、(外・内)黒変
583	G・9	Ⅵ		山形押型文、ナデ	ナデ	にぶい赤褐、にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白、φ2赤褐、φ1白、φ1赤褐、微細黒	(内)黒変

表3　土器観察表(18)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
584	M・6	Ⅶ		山形押型文	ナデ	にぶい赤褐	褐灰、にぶい黄褐	φ1白、微細金色、微細茶褐	
585	M・6	Ⅵb		山形押型文	ケズリ状ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1黒鈍光沢、微細白不透明	
586	G・27	Ⅵ		撚糸文？	ナデ	橙	明黄褐	φ5白、φ3.5白、φ3.5灰、φ1黒光沢	
587	G・26	Ⅶ		撚糸文？	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ5黄褐、φ3黒	
588	—	c		山形押型文、ナデ、圧痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5白、φ2.5薄褐、φ2.5黒鋭光沢、φ2.5白半透明	(内)黒変
589	N・8	Ⅶ		縄文	縄文、ナデ	褐灰	にぶい黄橙	φ1黒、φ1白半透明	(外)黒変
590	—	c	縄文	縄文	縄文、ケズリ状ナデ	灰黄褐	褐灰	φ1黒光沢、φ1無色透明光沢、φ1白半透明、φ1灰白	(口唇部・内)黒斑？
591	L・7	Ⅵb	縄文	ナデ、縄文	縄文、丁寧なナデ	にぶい橙	灰褐	φ2灰白、φ1金光沢、φ0.5にぶい黄橙、φ0.5ガラス質光沢	(内)黒斑？
592	I・7	Ⅵ		撚糸文	ナデ、撚糸文	暗褐	灰黄褐	φ4浅黄橙、φ4褐灰	(外・内)黒変
593	J・3	Ⅵ		縄文	ナデ後縄文、ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ5褐灰、φ2ガラス質黒光沢、φ2黒褐、φ0.9にぶい黄橙	(外・内)黒斑？
594	F・28	Ⅶ		ナデ、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2にぶい黄橙、φ1褐灰	(外・内)黒変
595	K・4	Ⅵ	連点文	ナデ、縄文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	φ2灰白	(外)黒変
596	J・4	Ⅶ		ナデ、縄文	縄文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ6灰褐、φ3灰白、微細ガラス質光沢	(内)黒斑？
597	E・26	Ⅶ		ナデ、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2灰、φ2乳白、φ2褐、φ2黒、微細半透明光沢	(外)黒変
598	D区	—		縄文	ナデ	橙、褐灰	橙	φ4赤褐、φ3白、φ3灰白、φ1無色透明光沢、φ1金光沢	(外)黒変、713と同一個体か
599	SC137	—		縄文	縄文、ケズリ状ナデ	にぶい黄橙、黒	褐灰	φ1浅黄、φ1黒光沢	
600	H・7	Ⅵ	縄文？ナデ	縄文？ナデ	縄文？、ケズリ状ナデ	明褐	にぶい褐	φ2浅黄橙、φ2褐灰	
601	J・3	a	短沈線文	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい褐	灰褐	φ1.5白透明、φ0.5黒	
602	I・10	Ⅵ	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ、ケズリ状ナデ	撚糸文、ケズリ状ナデ	黄灰	黄灰	φ2金光沢、φ2黒褐、φ1.5灰白	
603	K・5	Ⅶ	撚糸文	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	φ1.5白不透明、φ1白透明、φ0.5黒	(外)黒斑
604	M・5	Ⅵb	撚糸文	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄褐	褐灰	φ4灰褐、φ3ガラス質黒光沢、φ2灰白、φ1ガラス質透明光沢	(外・内)黒変
605	H・7	Ⅶ	撚糸文	ナデ、撚糸文	撚糸文、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、黒褐	φ2灰白、φ1.5金光沢	SI58内出土、(外・内) 黒変
606	J・6	Ⅵa	撚糸文	撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	φ2白、φ2透明光沢、φ1灰白	(外・内)黒変
607	L・4	Ⅶ		網目撚糸文	網目状撚糸文、ナデ	褐灰	褐灰	φ5にぶい橙、φ2.5橙、φ2.5褐灰、φ2浅黄橙	
608	J・18	—	連点文	ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1ガラス質光沢、微細にぶい橙、微細明褐灰	(外・内)黒変
609	D	—		ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5黄灰、φ1ガラス質光沢、微細黒褐	(外)黒変
610	J・10	Ⅶ	撚糸文	ナデ、撚糸文	撚糸文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙、褐灰	φ1白透明、φ0.5黒、微細灰白	(内)黒斑
611	H・8	Ⅳ		縄文？、ナデ	ケズリ状ナデ	橙	にぶい褐	φ3褐、φ3乳白、φ3黄灰、φ3灰、微細透明、微細黒光沢	(内)黒斑
612	N・7	Ⅵb		ナデ、撚糸文？	条痕文、ナデ	橙、褐灰	にぶい橙	φ2.5白半透明、φ2.5透明光沢、φ2明赤褐、φ2褐、φ2灰白、φ2黒光沢	(外)黒変、(内)風化、613と同一個体か
613	N・6	Ⅶ		撚糸文?	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、黒褐	φ3黒、φ2.5白半透明、φ1灰白、φ1黒光沢	(外)黒変、(内)黒変、612と同一個体か
614	H・6	Ⅵ		変形撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄褐、褐灰	φ3灰褐、φ2白不透明、φ1無色透明	(外)黒変、(内)黒変
615	L・4	Ⅶ		変形撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	黒褐	φ4褐、φ2.5薄茶半透明、φ2.5白半透明	(外)黒変、焼きむらによる変色?
616	A区	Ⅲ		変形撚糸文	変形撚糸文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ10石、φ2無色半透明、φ2茶褐、φ1白不透明	(内)黒変
617	H・6	Ⅵ		撚糸文	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ2白半透明、φ2灰、φ1.5薄茶半透明	(口唇部・内)黒変
618	I・3	b		変形撚糸文	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白透明、φ2黒、φ1無色透明、φ1黒	(外)黒変、
619	M・4	Ⅵb		ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい褐、褐灰	灰褐	φ2.5白不透明、φ2金光沢、微細灰白	(外)黒変
620	G・28	Ⅵ	沈線文	沈線文	ナデ	橙	浅黄橙	φ8浅黄橙、φ3灰白、φ3橙、φ2白半透明、φ2黒光沢	
621	—	c	山形押型文？	沈線文	ナデ	浅黄	浅黄橙	φ1黒鋭光沢、微細乳白	

表 3　土器観察表 (19)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
622	―	b	山形押型文?	沈線文	ナデ	にぶい黄	浅黄	φ2黒鋭光沢、φ2赤褐	621と同一個体か
623	―	c		沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	微細黒鋭光沢、微細黒鈍光沢	621・622と同一個体か
624	―	c		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3黄白、φ1黒鈍光沢、φ1黒鋭光沢	621～623と同一個体か
625	―	b		沈線文、貼り付け突帯上に棒状工具による圧痕文、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒鋭光沢、φ1乳白、微細黒鈍光沢	621～624と同一個体か
626	K・5	Ⅵb		並行沈線文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ3褐、φ3赤褐、φ3灰、φ2.5無色透明、φ1黒鈍光沢	
627	F・27	Ⅶ	沈線文	沈線文	ナデ	橙、黒褐	橙	φ4灰白、φ3白不透明、φ1.5橙、φ1.5黒光沢	(外)黒変
628	I・4	b	連点文	並行沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2灰白、φ2褐、φ1やや黄透明、φ1無色透明	
629	H・4	b	連点文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	φ1褐～灰白、微細黒褐	
630	H・4	b	沈線文	並行沈線文	ナデ	にぶい橙	褐	φ2白透明、φ1黒鋭光沢、φ1淡黄、φ1赤褐、φ1灰白、φ1黒褐、φ1明黄褐	(内)黒変
631	L・8	Ⅶ		沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1灰白、微細黒鋭光沢	
632	J・5	Ⅶ		連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙、褐灰	黄灰	φ3明赤褐、φ1.5灰白、φ1.5白半透明、φ1.5金色	(外)黒変?、(内)黒斑?
633	H・14	Ⅵ		並行沈線文	ナデ、条痕文?	浅黄	暗灰黄	φ3黒褐、φ1.5白～半透明、微細灰白～黒	
634	K・10	Ⅶ	連点文	並行沈線文、沈線文、凹点	ナデ、凹点	にぶい橙	にぶい黄褐	φ2黄灰、φ2灰、微細透明、微細黒光沢	
635	L・10	Ⅶ	短沈線文	沈線文	ナデ	灰黄	黄灰、浅黄	φ2白半透明、微細黒鋭光沢、微細灰白	(口唇部・外)黒変、(内)黒斑
636	N・4	Ⅶ	短沈線文、沈線文?	ナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	微細灰白、微細黒褐	
637	A区	Ⅳ		並行沈線文	ナデ	にぶい黄橙、橙	にぶい黄橙	φ1.5明赤褐、φ1.5白不透明、φ1黒光沢、φ1無色透明	
638	L・4	Ⅵb	連点文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰白、φ1黒鈍光沢、φ1明赤褐、φ1灰白、φ1黄橙、φ1浅黄橙、φ0.5黒鋭光沢、微細白半透明	(口唇部)黒変
639	A区	Ⅳ	連点文	ナデ、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	φ2灰黄褐、φ1黒、φ1無色透明	
640	A区	Ⅳ		ナデ、並行沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙	褐灰	微細白～黄、微細黒褐	
641	G・26	Ⅶ		沈線文、並行沈線文	ナデ	橙	明黄褐	φ3.5灰白、φ3.5黒、φ3.5白	
642	H・3	b		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3浅黄橙、φ3灰黄褐、φ2白半透明、φ1黒光沢	
643	L・5	Ⅵb	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2白半透明	
644	A区	a	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2白、φ2灰、φ2白不透明、φ2透明光沢	(内)黒変
645	N・4	Ⅶ	短沈線文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	φ2無色透明、φ1.5白不透明、微細黒鋭光沢、微細灰白、微細赤褐	
646	I・4	b	短沈線文	並行沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細無色透明、微細褐	
647	H・3	b	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	並行沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2やや黄白、φ2赤褐、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明	
648	K・5	Ⅶ	短沈線文・刻目	並行沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1白半透明、φ1無色透明、φ1黒鋭光沢	
649	L・5	Ⅵb	短沈線文	沈線、ヘラ状工具による刻目、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	灰黄褐	φ1金色、φ1赤褐、微細無色透明	
650	D・21	Ⅶ	短沈線文	ナデ、連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、にぶい黄、にぶい黄橙	φ2灰半透明、φ2白、φ2褐、φ2白、φ2やや黄、φ2炭色、φ1黒鋭光沢	
651	N・7	Ⅶ	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	沈線文、貼付突帯	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2褐、φ1赤褐、φ0.5灰白	
652	J・4	Ⅵ	短沈線文	並行沈線文	ナデ	浅黄橙	黄灰	φ2ガラス状、φ1褐、微細ガラス状光沢、微細灰白	
653	H・8	Ⅵ		並行沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ4灰、φ4黄灰、φ4褐、微細半透明、微細黒光沢	(口唇部・外・内)黒変
654	A区	b		貼付突帯、丁寧なナデ、連点文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ2.5赤褐、微細黒鋭光沢、微細無色透明、微細灰白	(内)黒変
655	N・4	Ⅵb		貼付突帯(刻目)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2褐灰、微細ガラス質光沢	
656	K・4	Ⅵ		貼付突帯(刻目)、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5黒光沢、微細にぶい橙、微細ガラス質光沢	(外)黒変
657	I・5	Ⅵ		貼付突帯(刻目)、ナデ	ナデ	浅黄橙、褐灰	浅黄橙	φ2明赤褐、φ1灰白、φ1黒光沢、φ1透明光沢	(外)黒変
658	I・5	Ⅵ		貼付突帯(刻目)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙	φ1.5透明光沢、φ1灰白、φ1黒、φ1黒光沢	(外)黒変

表 3　土器観察表 (20)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
659	H・4	b		貼付突帯(刻目)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙	φ2赤褐、φ1黒鋭光沢、φ1灰白	(外)黒変
660	K・5	Ⅵ	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	微隆起突帯(刻目)、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3薄褐	
661	I・4	Ⅵ	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	微隆起突帯(刻目)、沈線文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ1灰、φ1薄褐	
662	H・4	b	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	微隆起突帯(刻目)、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1灰、φ1白	
663	N・7	Ⅵb	短沈線文(ヘラ状工具による浅い刻目)	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	φ1白半透明、φ1黄橙、φ1灰白、φ1黒褐、φ1赤褐、φ1黒鋭光沢	
664	A区	a		微隆起突帯(刻目)、沈線文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ3白半透明、φ2黒鋭光沢、φ1明赤褐、φ1浅黄橙、φ1灰白、φ1褐灰	
665	J・4	Ⅵ		連点文、縄文、結節縄文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙、褐灰	φ1白半透明光沢、微細黒、微細灰白	666と同一個体か？
666	J・4	Ⅵ		縄文、結節縄文	ナデ	にぶい橙	灰褐	φ1黒光沢、φ0.5無色透明光沢、微細灰白	(外)黒変？
667	H・3	b		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1透明光沢、φ1黒光沢、φ1灰白	
668	D区	—		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5にぶい黄橙、φ2半透明光沢、φ1黒光沢、φ1浅黄橙	
669	M・8	—		ナデ	ナデ	明灰黄	にぶい黄褐	φ4乳白、φ3黒、φ3金色光沢、φ2黒光沢(雲母)、φ2半透明	(外)黒変
670	E・24	Ⅶ		瘤状突起・撚糸文、刻目	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3白、φ2灰	
671	E・24	Ⅶ	撚糸文	ナデ、撚糸文	ナデ	にぶい橙、明褐灰	にぶい橙、灰黄褐	φ4白、φ2灰	(口唇部・外・内)黒変
672	D区	—	短沈線文	瘤状突起・撚糸文、刻目	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ2灰白、φ1黒褐	
673	D区	—	連点文	貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ2白、微細黒	
674	G・24	Ⅶ	短沈線文	貼付突帯(連点文)、縄文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2.5灰白、φ2.5褐灰	719と同一個体か
675	—	—		貼付突帯(押圧縄文)、縄文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ4.5灰白、φ1.5褐灰、φ1黒光沢（カクセン石）	
676	H・5	b	連点文	貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	褐灰	黒褐、にぶい黄褐	φ3にぶい黄褐、φ1無色透明、φ1にぶい黄橙	
677	C区	Ⅶ		貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ3黄橙、微細灰白、微細赤褐、微細黒光沢	
678	D区	—	短沈線文	縄文	ナデ	橙	浅黄	φ2明赤褐、φ2淡黄、φ1黒光沢	
679	D区	—		貼付突帯(連点文)、縄文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1黒光沢、φ0.5褐、φ0.5白	(外)黒変
680	G・12	Ⅶ		貼付突帯(押圧縄文)、縄文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ3半透明、φ3黒光沢(カクセン石)、φ3黄灰、φ3灰、φ3黒	(内)黒斑
681	D区	—	連点文	貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ4半透明、微細黒鋭光沢、微細灰白	(外)黒変?
682	G・14	Ⅵ		貼付突帯(押圧縄文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、黒褐	にぶい黄橙、褐灰	φ4灰白、φ2赤褐、φ2黒、φ2白半透明、φ2黒光沢	(外・内)黒変
683	H・12	Ⅵ		貼付突帯(押圧縄文)、ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	φ5褐灰、φ3黒褐、φ3灰白、φ2黒光沢、φ2浅黄橙	
684	D区	—		瘤状突起、縄文のち連点文、沈線文、ナデ	縄文、ナデ	橙	橙	φ3橙、φ2灰白、φ1黒光沢	
685	C・22	Ⅶ	連点文・沈線文	貼付突帯(連点文)、ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ1浅黄橙、φ1褐、φ1灰白不透明、微細無色透明	
686	M・4	Ⅵb	短沈線文	短沈線文、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	微細白半透明、微細無色透明、微細黒鋭光沢	(外・内)黒変
687	K・8	Ⅵb		貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ5灰白、φ2白、φ2灰、φ2赤褐、φ1透明光沢	
688	K・4	Ⅵ		連点文、沈線文、微隆起突帯(連点文)、ナデ	工具ナデ	明赤褐	褐	φ2灰白、φ1.5黒鋭光沢、φ1橙	
689	M・4	Ⅵb		瘤状突起、連点文、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1灰白、φ1褐灰	(外・内)黒変
690	K・5	Ⅵb	短沈線文	微隆起突帯(浅い刻目)、沈線文、ナデ	沈線文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5灰白、φ1無色透明、φ1褐灰	
691	D区	—		貼付突帯、竹管状工具による連点文、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	φ1黒鋭光沢、φ1赤褐、φ0.5無色透明、微細灰白	(外・内)黒変
692	L・8	Ⅵb		貼付突帯(連点文)、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5黒、φ1白半透明、微細白透明光沢	
693	L・4	Ⅵb		瘤状突起、浅い刻目、沈線文、ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	φ1淡黄	

表３　土器観察表(21)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
694	D区	－	沈線文	沈線文、竹管状工具による連点文、貼付突帯文(連点文)	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ3金色鱗片状、φ3黄灰、φ3灰、φ3褐	(外・内)黒変
695	Ⅰ・5	Ⅶ	連点文	貼付突帯(浅い刻目)	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2白	
696	M・8	Ⅵb		貼付突帯(連点文)、沈線文	ナデ	浅黄橙、灰白	にぶい橙	φ0.15褐、φ0.15灰白、微細透明光沢	(外)黒変
697	H・5	b	ヘラ状工具による浅い刻目	瘤状突起(短沈線文)、工具ナデ、並行沈線文、微隆起突帯(刻目)	ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄褐	φ1.5無色透明、φ1.5黒鋭光沢、φ1灰白	(外・内)黒変
698	D区	－	連点文	貼付突帯(連点文)、ナデ	ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	にぶい橙、にぶい黄橙	微細黒	
699	D区	－	短沈線文	沈線文、貼付突帯(刻目)	工具ナデ、ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	φ2黒鈍光沢、φ1赤褐、φ1白半透明、φ1灰白、φ1にぶい橙、φ1灰オリーブ、φ1黄橙、φ1黒鋭光沢	
700	E・22	Ⅶ	短沈線文	瘤状突起、沈線文、連点文	ナデ	明赤褐	明赤褐、にぶい赤褐	φ1灰白、φ1浅黄、φ1透明、φ1半透明、φ1褐灰	
701	H・15	Ⅶ	短沈線文	瘤状突起、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ2無色透明、φ1灰白、φ1黒褐	
702	L・8	Ⅵ		瘤状突起のち押圧、連点文、沈線文	ナデ	浅黄	浅黄	φ2透明、φ2黒光沢、φ2灰、φ2乳白、φ2褐	(外)黒変
703	D区	－		瘤状突起、微隆起突帯(連点文)、沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、微細透明、微細黒光沢	(外・内)黒変
704	D区	－	短沈線文	撚糸文、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐、褐灰	φ3やや黄透明、φ2浅黄橙、φ2褐灰鋭光沢	672・701と同一個体か
705	D・20	Ⅶ	短沈線文	貼付突帯(連点文)、沈線文、連点文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	φ4.5白、φ4.5灰、φ4.5やや黄、φ3赤褐、φ1.5金光沢、φ1灰、φ1やや黄	
706	F・21	Ⅶ	短沈線文のち連点文	沈線文、ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	φ3赤褐、φ2灰白、φ2やや黄、φ2白、φ2黒、φ2金光沢、微細やや黄、微細赤褐、微細白、微細灰	
707	D区	－	刻目	貼付突帯、撚糸文	ナデ	灰黄	灰黄	φ1灰、φ1褐、微細透明、微細黒光沢	(外・内)黒変
708	F・21	Ⅶ		貼付突帯(連点文)、沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい褐	明褐	φ4灰白、φ4褐、φ2黒光沢	(外)黒変
709	D区	－	沈線文	瘤状突起、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ6灰黄褐、φ2灰白、φ2半透明、φ2やや黄透明、φ2白不透明、φ2黒鈍光沢	
710	G・27	Ⅶ	刻目	瘤状突起、ナデ、紐の圧痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5無色透明光沢、φ1黒光沢、φ1灰白	
711	H・10	Ⅶ	連点文	櫛描き様の沈線文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、φ2金色、φ2黒	
712	D区	－	短沈線文	貼り付け突帯(連点文)、沈線文	短沈線文、ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ3褐、φ3うすい肌色、φ3白、微細半透明光沢	
713	D区	－	縄文	瘤状突起、微隆起突帯、縄文	ナデ	橙	橙	φ3赤褐、φ1灰白、φ1褐灰、φ1透明光沢	
714	H・14	－		貼付突帯(連点文)、縄文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2白、φ2黒、φ2灰白、φ1透明光沢	
715	D区	－		貼付突帯(押圧縄文)、縄文	ナデ、指頭痕	にぶい橙	にぶい赤褐	φ1褐灰	
716	D区	－		縄文	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ3黒褐	(外)黒変
717	G・12	Ⅶ	羽状の縄文	結束縄文、沈線文	工具ナデ	にぶい橙	灰黄	φ2半透明光沢、φ2灰、φ2黄灰、φ2黒	
718	G・13	Ⅶ	縄文	ナデ、結束縄文、沈線文	工具ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ3にぶい黄橙	(外・内)黒変
719	F・23	Ⅵ		縄文	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3褐灰、φ3灰褐	
720	K・9	Ⅶ		微隆起突帯(連点文)、縄文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4灰白、φ2黒光沢、φ2褐灰、φ2ガラス質半透明(カクセン石)	
721	H・4/5	b	連点文、沈線文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4褐、φ4黄灰、φ4灰	
722	D区	－	短沈線文	連点文、沈線文	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、にぶい黄	φ5茶、φ3黄味、φ2白不透明、φ1黒鋭光沢、φ1灰鈍光沢	(外)黒変、(内)黒斑
723	J・6	Ⅵb	短沈線文、連点文	連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒鋭光沢、φ2白半透明、φ2無色透明、φ2白不透明、φ1灰白、微細金色鱗片状	
724	M・6	Ⅶ	短沈線文、連点文	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白半透明、φ2白不透明、φ2無色透明、φ2黒鋭光沢、φ2金色鱗片状、φ2灰白、φ2赤褐	723と同一個体か？
725	H・11	Ⅶ	短沈線文	短沈線文、連点文	ナデ	にぶい赤褐、褐灰	にぶい赤褐、褐灰	φ2赤褐、φ2灰白、φ0.5無色透明、φ0.5黒鈍光沢	(外・内)黒変
726	A区	Ⅳ	連点文、沈線文	ナデ	ナデ	橙	にぶい褐	φ6赤褐、φ5黄味、φ3灰白、φ1黒鈍光沢	(外)黒変？
727	K・7	Ⅵb	連点文、沈線文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黄灰、φ1灰、微細黒鋭光沢、微細無色透明	

表３　土器観察表(22)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
728	K・9	Ⅶ	短沈線文	ナデ、沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄	にぶい橙	φ2白	
729	J・4	Ⅶ	連点文	沈線文、連点文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰白、φ1黒鋭光沢、φ1褐灰	(外・内)黒変
730	K・9	Ⅶ	沈線文	沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐、褐灰	φ1白透明、φ2灰白、微細黒光沢	
731	K・9	Ⅶ	連点文、沈線文	連点文、沈線文	ナデ	橙、にぶい橙	にぶい黄橙	φ4橙、微細橙、微細灰白、微細淡黄半透明、微細白半透明、微細黒光沢	(外)黒変？
732	D区	—	羽状の短沈線文	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ1灰白、φ1黒鋭光沢、φ1褐灰	
733	L・9	Ⅵa		連点文、沈線文	ナデ	橙、褐灰	にぶい褐、褐灰	φ1橙、φ1灰白、φ1白半透明、φ1黒光沢	(外・内)黒変
734	G・25	Ⅶ	縄文	縄文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5褐、φ5黄灰、φ5乳白、微細半透明光沢	
735	D区	—	短沈線文	ナデ、短沈線文、沈線文、連点文、貼付突帯(連点文)	ナデ	にぶい黄橙	橙	φ3.5灰、φ3やや黄、φ1黒、φ1灰、φ1やや黄、φ1白	
736	D区	—	短沈線文	ナデ、短沈線文、沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒褐、微細無色透明	
737	F・22	Ⅶ	連点文、沈線文	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白、φ2うすい肌色、φ2灰、φ2白不透明、φ2黒光沢	(外)黒変
738	E・22	Ⅶ		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	φ3浅黄橙、φ3金光沢、φ2.5褐灰	(外)黒変
739	K・10	Ⅵb		沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ1黒、φ1透明光沢、φ1黄灰、φ1灰	(内)黒斑
740	J・4	—		ナデ、微隆起突帯（連点文）	丁寧なナデ	橙	橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2乳白、φ2黒、φ2褐、微細透明、微細黒光沢	(外)黒変
741	K・4	Ⅵ		沈線文、連点文、ナデ	条痕、ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	φ1黒鋭光沢、φ1白不透明	
742	K・4	Ⅵ	刻目	沈線文、連点文、瘤状突起	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1白不透明、φ1半透明、φ1白、φ1灰白	(外)黒変、(内)黒変
743	J・4	Ⅵ		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1黒鋭光沢、φ1灰半透明、φ1白	
744	—	—	羽状の短沈線文	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	微細黒鋭光沢、微細無色透明	穿孔、(外)黒変、(内)黒斑
745	M・5	Ⅵb		刻目、沈線文、連点文	ナデ	橙、にぶい橙	にぶい黄橙	φ2無色透明、φ1黒鈍光沢、φ1白半透明、φ1黒、φ1灰白	(外)黒変？(内)黒斑
746	—	—	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1灰半透明	(外)黒変
747	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	褐灰、にぶい黄橙	褐灰、にぶい褐	φ3浅黄橙、φ1.5灰褐半透明、φ1にぶい黄橙、φ1暗褐、微細黒鋭光沢	(口唇部・外・内)黒変
748	K・5	Ⅶ	短沈線文	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白、φ3灰、φ2黒鋭光沢、φ2無色透明、φ2白半透明、φ1.5金光沢雲母	
749	A区	Ⅳ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白、φ2やや黄、φ2赤褐、φ0.5赤褐、φ0.5白、φ0.5やや黄	(内)黒変
750	M・4	Ⅵb	刻目	沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ2半透明光沢、φ2黒光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2乳白、φ2褐	(口唇部・外)黒変
751	J・5	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	暗灰黄	φ2やや黄透明、φ2黒鋭光沢、微細灰白	
752	—	—	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐、橙	φ5にぶい黄橙、φ2灰白	
753	I・4	—	刻目	連点文、沈線文	ナデ、工具ナデ	灰オリーブ	灰オリーブ	φ3白	
754	I・4	b	刻目	沈線文	工具ナデ、ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ1灰不透明、φ1黒、φ1白	(内)黒変
755	I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ3灰、φ3黄灰、φ3褐、微細黒鋭光沢	
756	M・4	Ⅵb	刻目	沈線文	丁寧なナデ	淡黄	淡黄、灰白	φ1無色透明、φ0.5褐灰、φ0.5褐、微細黒鋭光沢	
757	J・7	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐、褐灰	明黄褐、にぶい黄橙、褐灰	φ3浅黄、φ3暗灰黄、φ2灰白、φ1黒、微細黒鋭光沢	(口唇部・外・内)黒変
758	H・4	b	刻目	連点文、沈線文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2.5赤褐、φ2.5やや黄、φ1やや黄、φ1白、φ1黒	
759	A区	Ⅲ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ2金色鱗片状、φ2灰、φ2黄灰、φ2乳白、φ1黒鋭光沢	
760	M・5	Ⅵb	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ3浅黄橙、φ3褐灰、φ3透明、φ2金雲母	
761	—	—		連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1黒褐、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	
762	H・5	b		連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	φ2無色透明、φ2黒鋭光沢、φ2灰白、φ2黒褐	

表３　土器観察表(23)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
763	J・4	Ⅵ	短沈線文	沈線文	ナデ	褐灰、褐	褐灰、褐	φ4にぶい黄褐、微細無色透明、微細黒鋭光沢、微細浅黄橙	(外)黒変
764	—	b	短沈線文	沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ2無色透明、φ2やや黄透明、φ1灰白、φ1赤褐、φ1黒鋭光沢	(外)黒変
765	A区	—	短沈線文	沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	φ1灰、φ1黒、φ1褐、微細半透明光沢	
766	J・4	Ⅵ	刻目	微隆起突帯(刻目)、工具ナデ	丁寧なナデ	にぶい褐、灰褐	にぶい褐、黒褐	φ1.5黒、φ1.5灰白色、微細無色透明	(外)黒変
767	A区	b	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	黒褐色	φ1白、微細黒褐色	
768	K・5	Ⅶ	短沈線文	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい橙、橙、褐灰	灰黄褐、明黄褐	φ1.5黒鋭光沢、微細浅、黄橙、微細無色透明	(口唇部・外・内)黒変
769	H・6	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	褐灰、にぶい黄褐	φ1黒褐色、微細灰白、橙	(外)黒変
770	J・4	Ⅵ	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	微細黒褐色	
771	I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、明黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	φ1無色透明、φ1灰白、φ1浅黄橙	(内)黒変
772	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ2灰オリーブ、φ2金雲母、φ1黒鋭光沢、φ1黒鋭光、φ1灰白、淡黄、黄橙	
773	A区	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4白、灰色、φ1無色透明、φ1黒	(内)黒変
774	H・4	b	刻目	連点文、沈線文、撚糸文	ナデ、黒斑	にぶい黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ1黒、φ1白色半透明、微細灰白	
775	J・10	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3白色不透明、白色半透明、黒鋭光沢、φ2.5灰白、褐	
776	A区	b	短沈線文	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	黒褐	φ1白、微細黒褐	(内)黒斑か？
777	K・6	Ⅶ		刻み目、沈線文、貝殻刺突文、ナデ	工具による丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	φ5黄橙、φ2.5浅黄橙、φ1明褐、φ1灰白、φ1鋭光沢	(外)黒変
778	K・4	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙	橙	φ2灰、φ2黄灰、微細黒鈍光沢	(内)黒斑
779	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ2灰オリーブ、φ2金雲母、φ1黒鋭光沢、φ1黒鈍光沢、φ1灰白、φ1淡黄、φ1黄橙	
780	I・7	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	貝殻条痕文	にぶい褐、褐灰	にぶい褐、灰黄褐、黒褐、褐	φ4浅黄橙、φ2褐灰、微細無色透明、微細金光沢	
781	M・5	Ⅵb	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	浅黄橙	灰黄褐	φ1.5灰白、φ1無色透明、φ1白半透明、φ1黒鋭光沢	(外)黒変
782	I・5	b	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	褐灰	にぶい褐	微細灰白、微細黒褐	
783	L・6	Ⅵb	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1褐灰	(内)黒変、黒変？
784	K・8	Ⅵb	刻目	微隆起突帯(刻目)、工具ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ1灰白、φ1白半透明、φ1黒鈍光沢	(内)黒変
785	H・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1.5褐灰、φ1灰白、φ1黒褐	(外)黒変
786	K・4	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、褐灰	φ2無色透明、φ1灰白、φ1黒褐	
787	I・6	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	φ1.5褐灰、φ1黒鈍光沢、φ1金雲母	
788	J・4	Ⅵ	短沈線文	沈線文	ヘラ状工具による連続刻み目、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ2黄灰、φ2灰、微細黒、微細金色	(内)黒斑
789	J・4	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	明赤褐	橙	φ2灰白、φ2にぶい黄橙、φ2黒褐	
790	J・2/K・6	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	微細灰白、微細黒褐	
791	M・7	Ⅵb	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙、にぶい黄橙	にぶい橙、にぶい黄橙	φ2白、φ1黒鋭光沢、φ1無色透明鋭光沢、φ1灰半透明	(外)黒変、(内)黒変
792	—	—	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2無色透明、φ2黒、φ1黒鋭光沢、φ1灰白	
793	I・9	Ⅵb	短沈線文	沈線文	丁寧なナデ	淡黄、黄灰	淡黄、黄灰	φ1.5褐、φ1無色透明、微細黒鋭光沢	
794	H・6	Ⅵ	工具による連続押圧文	沈線文、ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	φ1.5灰	
795	J・5	Ⅶ	羽状の短沈線文	微隆起突帯(刻目)、沈線文	丁寧なナデ	灰黄褐、褐灰	にぶい黄橙、褐灰、灰黄褐	φ3明黄褐、φ2灰白、φ1黒鋭光沢、微細無色透明	
796	H・9	Ⅵ	棒状工具による押圧刻み目	ナデ、棒状工具による沈線	ナデ	浅黄橙、橙	にぶい黄橙	φ2茶褐、φ2黒鈍光沢、φ2白不透明、φ1無色透明	

表３　土器観察表(24)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
797	L・10	Ⅵa	刻目	沈線文	ナデ	明褐	にぶい黄褐	φ1灰白、褐灰、黒	
798	G・4	―	刻目	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ1灰白、φ1白色半透明、黒色鈍光沢	(内)黒変
799	I・4	b	刻目	連点文、沈線文	横ナデ	橙、にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1灰色半透明、φ1白	(外)黒変
800	I・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙	橙	φ3白、赤褐、やや黄、φ2黒鋭光沢、φ1.5黒鋭光沢、微細白、やや黄	
801	A区	b		ナデ、沈線文	ナデ、沈線文	橙	橙	φ1無色透明、φ1赤褐色、微細灰褐色	
802	L・4	Ⅷ		ナデ、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒、灰、黄灰、褐色、φ1透明、黒	SI108内出土(口唇部・外)黒変
803	J・2	b	刻目	連点文、沈線文、突帯状?	ナデ	にぶい黄橙	黒褐	φ3透明光沢	穿孔
804	H・3	b	刻目	連点文、沈線文	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰色半透明、φ1黒鋭光沢、φ1白、φ1やや黄	(外)黒変
805	I・10	Ⅶ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	灰黄	浅黄	φ2黒鋭光沢、φ1黒鈍光沢、微細黄灰、灰、乳白色	(外)黒変
806	I・3	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ、押圧痕	にぶい橙	にぶい橙	φ2.5褐色	(外)黒変
807	J・3	Ⅵ	短沈線文(浅い刻目)	沈線文、浅い刻目、突帯状？	ナデ	褐灰	にぶい橙	φ2灰白、褐色、φ2やや黄、φ2白色不透明、φ2白色透明	(外・内)黒変
808	J・4	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	微細黒褐色	
809	K・4	Ⅵ	短沈線文	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白色半透明、φ2灰、φ2灰白、黄橙、浅黄橙、褐灰、φ1黒鋭光沢、φ1黒鈍光沢	
810	H・4	b	刻目	微隆起突帯(刻目)	ナデ	明黄褐	にぶい黄橙	φ2褐灰、φ2黄橙、微細無色透明、微細黒鋭光沢	
811	K・4	Ⅵ		微隆起突帯(刻目)、沈線文	横ナデ	明赤褐	にぶい褐	φ2杯、黒、乳白色、φ1黒、透明光沢	(外)黒変
812	K・5	Ⅵb	刻目	連点文、凹線文	横ナデ	にぶい黄橙	灰黄橙	φ2黄橙、φ0.5黒鋭光沢、φ0.5灰白、淡黄	(外)黒変
813	H・4	b	刻目	微隆起突帯(刻目)、沈線文、瘤状突起	ナデ、黒斑	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2黄灰、灰、褐	
814	G・4	b		微隆起突帯(刻目)、ナデ	ナデ、黒斑	橙	にぶい黄橙	微細半透明色、黒色光沢、灰、黄灰、乳白色、褐	(外)黒変
815	K・4	Ⅶ		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3灰、黄灰、乳白、褐、φ2透明、黒色光沢	(外)黒変
816	―	Ⅵ		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい橙、褐灰	にぶい褐	φ3橙、φ1灰白、白色半透明、黒	(外)黒変
817	K・5	Ⅵb		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	橙、褐灰	褐灰	φ2白色半透明、透明光沢、φ1灰白、黒	
818	L・5	Ⅵb	刻目	微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	φ2金雲母、φ2灰色半透明、φ2白、茶	(外)黒変、(内)黒変(焼きむら？)
819	L・4	Ⅵb		微隆起突帯(刻目)、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1褐灰	(外)黒変
820	L・4	Ⅵb		沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	φ2灰黄褐、φ2灰白、φ1ガラス状光沢、φ1浅黄橙	
821	F・25	Ⅶ		沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ3灰白、φ2黄橙	(外)黒変
822	I・3	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒、φ2透明光沢	(内)黒変
823	H・4	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	橙、にぶい橙	にぶい黄橙	φ2にぶい黄橙、φ1.5灰白、φ1無色透明、φ1黒光沢	
824	A区	―	刻目	短沈線文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1灰褐	
825	J・4	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ1白	(口唇部・外・内)黒変
826	J・4	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ2赤褐、φ1黒鋭光沢、φ0.5黒、φ0.5灰、φ0.5やや黄、φ0.5白	
827	K・6	Ⅶ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1白半透明、φ1無色透明	(外)黒変
828	I・4	b	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ2褐灰	
829	M・5	Ⅵb		連点文、沈線文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ2白半透明、φ0.5黒、微細灰白	
830	I・4	b	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ0.5透明光沢、φ0.5白、φ0.5灰	(外)黒変

表３　土器観察表(25)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
831	Ⅰ・4	b		連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙、灰褐	φ0.5透明光沢、φ0.5白、φ0.5黒	(外)黒変
832	L・4	Ⅵb		細沈線文、連点文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ1半透明、φ1やや黄、微細黒鋭光沢	(外)黒変
833	K・4	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	橙	橙	φ1黄灰、φ1灰、φ1褐、微細黒	(外・内)黒変
834	M・5	Ⅶ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	淡黄	φ1無色透明、φ1黒鋭光沢、φ1白半透明	(外)黒変
835	H・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒、φ1灰、φ1白、φ0.5黒鋭光沢	
836	Ⅰ・5	Ⅵ	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1ガラス状光沢、φ0.5黒光沢、φ0.5灰白	(外・内)黒変
837	J・2	b		沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄	φ1黒、φ1黒光沢、φ1透明光沢	
838	J・5	Ⅵa	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、φ1褐、微細白半透明、微細白不透明、微細黒鈍光沢、微細金色	
839	J・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙、淡黄	にぶい黄橙	φ1やや黄、φ1黒光沢、φ1白半透明	(外)黒変
840	Ⅰ・6	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ7やや黄、φ3やや黄、φ3灰、φ3赤褐、φ3白、φ1黒鋭光沢	(口唇部)黒変
841	A区	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ5黄灰、φ5灰、φ5乳白、微細黒鈍光沢	(外・内)黒変
842	J・10	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1浅黄	
843	Ⅰ・4	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ1灰白	(外)黒変
844	A区	b		沈線文、撚糸文	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙、にぶい黄橙	φ4にぶい黄橙、φ2透明光沢、φ1黒光沢	
845	J・4	Ⅵ		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	褐灰	φ4灰白、φ3橙、φ2黒、φ2白不透明、φ2白半透明、φ2透明光沢、φ1黒光沢	(外・内)黒変
846	A区	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2黒、φ2褐、微細半透明光沢	(外)黒変、(内)黒斑
847	K・4	Ⅵ		沈線文、網目撚糸文	工具ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ1褐灰	(外・内)黒変
848	N・6	Ⅵb		沈線文、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ2灰白、φ2褐、φ1透明光沢、φ1黒	穿孔、(外)黒変、(内)赤変?
849	A区	Ⅳ		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2黒、微細透明、微細黒光沢	(外)黒変
850	A区	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ1黒光沢、φ0.5褐、φ0.5灰	(内)黒変
851	Ⅰ・2	b	羽状の刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2黄、φ1黒、φ1白、φ1無色透明	(外・内)黒変
852	K・4	Ⅶ	刻目?	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ1白	(外・内)黒変
853	A区	Ⅳ		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ1褐灰	(内)黒変
854	A区	—		沈線文、網目撚糸文	工具ナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ1.5金色光沢、φ1黒、φ1灰白	(外)黒変
855	J・2	b		沈線文、網目撚糸文、結節縄文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ2黒褐、φ2灰白、φ1ガラス質透明光沢、φ1ガラス質黒光沢	(内)黒変
856	H・5	b		沈線文、網目撚糸文	丁寧なナデ	にぶい褐	灰褐	φ1.5白、φ0.5透明光沢、φ0.5金色雲母	(内)黒変
857	K・4	Ⅶ		沈線文、網目撚糸文	ナデ	橙	にぶい褐	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細黒光沢	(外)黒変、(内)黒斑
858	H・6	Ⅵ	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	φ2黒鋭光沢、φ1無色透明	(外・内)黒変
859	J・5	Ⅵ	羽状の刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3金雲母、φ2金雲母、φ2白半透明、φ2灰白、φ1浅黄	(口唇部・外・内)黒変
860	H・4	b	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙、橙	にぶい黄橙	φ2、5灰褐、φ1.5黒光沢、φ1無色透明	
861	Ⅰ・2	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙、灰褐	φ3灰白、φ2金色、φ1黒光沢	
862	H・2	b	刻目	爪形の連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1白半透明、φ1黒鋭光沢、微細灰白	
863	M・10	Ⅵb	刻目	沈線文、半載竹管様の工具による連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2ガラス状光沢、φ2黄橙、φ1.5灰白	(内)黒変？
864	J・9	Ⅵ	刻目	爪形の連点文、沈線文	ナデ	にぶい橙、褐	橙、褐	φ3褐、φ3にぶい黄橙、φ2.5にぶい赤褐、φ2黒、φ2無色透明、φ2灰白、微細無色透明	
865	N・4	Ⅵ		沈線文、爪形の連点文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ1灰白、φ1褐灰	
866	H・3	b層	刻目	沈線文、連点文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1ガラス状透明光沢、φ1ガラス質半透明、φ1灰白、φ0.5ガラス質黒	
867	H・6	Ⅵ		沈線文、連点文	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	φ2灰白、φ2黄灰、φ1金雲母、φ1黒鋭光沢	

表３　土器観察表(26)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
868	Ⅰ・3	b	刻目	沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5黄、微細黒鋭光沢、微細無色透明	(外)黒変
869	Ⅰ・2	b		沈線文、連点文	ナデ	明赤褐	にぶい黄橙	φ2白、φ2褐	
870	J・4	Ⅵ		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒鋭光沢、φ1黒鈍光沢、φ1褐白、φ1灰白、φ1黄橙、φ1浅黄橙	(外)黒変
871	—	c	羽状の刻目	沈線文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ2黒、φ2茶褐、φ2白、φ1無色透明、φ1黒鋭光沢	
872	J・5	Ⅴ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒鋭光沢、φ1無色透明、φ1白	
873	H・3	b	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ3黒、φ2白	
874	J・4	a	棒状工具による連続圧痕	沈線文	ナデ	黄褐	にぶい黄橙	φ1白、φ1黒、φ1黒光沢	
875	H・2	—	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1無色透明、φ1黒鋭光沢	(外)黒変
876	K・3	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ6灰黄褐、φ4にぶい褐、φ2黒鋭光沢、φ1白半透明、φ1灰白、φ1黒褐、φ1明赤褐	
877	H・3	b	刻目	沈線文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ1.5黒鋭光沢、微細白	
878	H・4	b	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙、橙	にぶい橙	φ1.5無色透明、φ1.5黒鋭光沢、φ1白	
879	K・5	Ⅶ		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1.5黒褐、φ1灰白	(外)凹点
880	J・4	a		沈線文	ナデ	褐	にぶい褐	φ1白、φ1黒、φ1やや黄	(内)黒変
881	J・4	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	明赤褐	明赤褐	φ2にぶい黄橙、φ2暗赤褐、φ1.5白不透明、φ1灰白、φ1褐灰、微細無色透明	
882	Ⅰ・7	Ⅵ	刻目	沈線文	ナデ	橙、浅黄	浅黄橙、褐灰	φ2白透明、φ1黒、微細灰白	(内)黒変
883	—	—	刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	φ3.5薄い褐、φ3.5灰、φ3.5透明光沢	(口唇部・内)黒変
884	A区	b		沈線文、連点文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3淡黄、φ2赤褐、φ2灰白、微細透明光沢	(外・内)黒変
885	K・6	Ⅵb		沈線文	ナデ	灰黄	灰黄	φ5無色透明、φ5白不透明、φ2黄褐、φ1黒鋭光沢、微細灰白	(外)黒変、(内)黒斑
886	Ⅰ・4	b	羽状の刻目	沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒、微細灰白、微細赤褐	
887	Ⅰ・5	Ⅵ		沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙、褐灰	にぶい黄橙、灰黄褐	φ1.5無色透明、φ0.5黒	
888	H・4	b	刻目	沈線文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2.5赤褐、φ1黒、φ1黄橙、微細灰白	
889	Ⅰ・3	b		沈線文	ナデ	にぶい橙、褐灰	にぶい橙	φ1白半透明、微細黒光沢、微細灰白	
890	N・5	Ⅵb		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ8灰白、φ5褐灰、φ2浅黄橙	
891(口)	—	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	浅黄橙、褐灰	にぶい黄橙	φ1.5黒、φ1.5白半透明、φ1黒、φ1透明光沢	(口唇部、外)黒変
891(頸)	H・3	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ	灰黄褐、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	φ2黒、φ2透明光沢、微細灰白	
892	H・4	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	褐灰、灰黄褐	にぶい黄橙、褐灰	微細透明光沢、微細灰白、微細黒	(口唇部、外・内)黒変
893	A区	b	刻目	短沈線文、沈線文、撚糸文	ナデ	褐	にぶい褐	φ7赤褐、φ5にぶい黄褐	
894	J・2	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	浅黄	浅黄	微細透明、微細半透明、微細黒光沢、微細黄灰、微細灰	(外)黒変、(内)黒斑
895	A区	b	刻目	短沈線文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ1白、φ0.5透明光沢	
896	—	—	刻目	沈線文、撚糸文	ケズリ	暗灰黄	暗灰黄	微細乳白、微細黒鋭光沢、微細半透明	SI20内出土
897	A区	b	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい褐、褐灰	にぶい橙、褐灰	φ2白不透明、φ1黒、φ1白透明光沢	
898	H・4	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ1黒光沢、φ0.5透明光沢	
899	J・2	b	刻目	沈線文、網目撚糸文、短沈線文	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	φ2褐灰	(外)黒変
900	K・3	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文、網目撚糸文	刷毛目様の工具ナデ	灰黄褐	にぶい橙	φ3にぶい褐、φ1.5ガラス質黒、φ1黄灰	
901	H・3	b		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	橙	φ3黄灰、φ3灰、φ3褐、φ3黒	(外)黒変
902	J・2	b	刻目	沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	にぶい黄橙、褐灰	φ3黒、φ2.5明赤褐、φ2.5灰白、φ2.5透明光沢、φ1黒光沢	(外・内)黒変

表3　土器観察表(27)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
903	Ⅰ・25	—	刻目	短沈線文、沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	精良	
904	Ⅰ・5	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄褐	灰黄	φ3灰白ガラス状無色透明、φ3金色光沢、φ1灰黄、微細ガラス質光沢	(外・内)黒斑？
905	H・4	b		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	褐灰	φ2白不透明、φ1黒光沢	(外・内)黒変
906	Ⅰ・2	b		半裁竹管様の工具または貝殻による連点文、沈線文、撚糸文	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐、灰黄褐	φ3明赤褐、φ3灰黄褐不透明、φ3にぶい橙不透明、φ2浅黄橙、φ1灰白、φ0.5無色透明	穿孔
907(口)	H・6	Ⅵ	刻目	沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2透明、φ2黒、φ2金色光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(外・内)黒変
907(胴)	A区	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2透明、φ2黒、φ2金色光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(外・内)黒変
908	A区	b	刻目	連点文、沈線文、縄文	丁寧なナデ、工具ナデ	褐	褐	φ2金色、φ1黒光沢、φ1淡黄	(口唇部・外)黒変
909	K・5	Ⅵb		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	灰褐	φ1.5ガラス状半透明、φ1.5黒光沢、φ1ガラス質光沢、微細黒、微細灰白	(外)黒変
910	A区	—		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黄灰、φ1灰、微細透明、微細黒光沢	(外)黒変
911	K・5	Ⅶ		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3灰褐、φ1褐灰	(外・内)黒変
912	J・4	Ⅵ		沈線文、縄文	丁寧なナデ、ケズリ状ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ1.5浅黄橙、φ1.5褐、φ1金色	(外)黒変
913	A区	b		沈線文、撚糸文	ナデ、穿孔	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2灰白、φ2褐灰	穿孔、(外・内)黒変
914	Ⅰ・2	b	刻目	沈線文、連点文、撚糸文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ3にぶい浅黄橙、φ2黒光沢、φ2にぶい橙、φ1ガラス状光沢、φ1灰褐	(外・内)黒変
915	A区	b		連点文、沈線文、撚糸文	ナデ、補修孔	にぶい橙、褐灰	にぶい橙、灰褐	φ1黒光沢、φ1透明光沢、φ0.5灰白	(外・内)黒変
916	J・4	Ⅶ	刻目	沈線文、撚糸文	丁寧なナデ	灰黄褐	灰黄褐	φ1灰白	(口唇部・外)黒変痕
917	K・4	Ⅵ	刻目	沈線文、撚糸文、爪形の連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2透明、φ2黒、φ2金色光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(口唇部・外)黒変
918	J・2	b		沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3浅黄橙、φ2褐灰、φ2黒褐、微細ガラス質光沢	(外・内)黒変
919	H・4	b		沈線文、撚糸文、連点文	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ2褐、φ2赤褐、φ1透明光沢	(外・内)黒変
920	K・5	Ⅶ		連点文、沈線文、網目撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ0.5灰白、φ0.5白、φ0.15透明光沢	(外)黒変
921	N・7	Ⅶ		爪形の連点文、沈線文、撚糸文	ナデ	橙	にぶい黄橙	φ4灰黄褐、φ3黒、φ2灰	
922	K・7	Ⅵb		連点文、沈線文、縄文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3にぶい黄橙、φ3褐灰、φ1黒褐、φ1ガラス質光沢	(外・内)黒変
923	L・5	Ⅵb	刻目	沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ2灰、φ2にぶい黄橙	
924	Ⅰ・2	b	刻目	沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	
925	N・7	Ⅵb		沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細半透明光沢	(外)黒変
926	H・4	b		沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2黒、微細半透明光沢、微細黒光沢	(外)黒変
927	J・2	b		沈線文、撚糸文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙、にぶい褐	φ0.5黒褐、φ0.5褐	(内)黒変
928	K・5	Ⅵb		ナデ	ナデ、微隆起突帯(刻目)、沈線文	にぶい褐	にぶい褐	微細透明、微細黒光沢、微細黄灰、微細灰、微細褐	
929(口)	Ⅰ・2	b	貝殻腹縁圧痕文	沈線文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ5白光沢、φ3黒光沢、φ1無色透明光沢	
929(胴)	Ⅰ・3	b		沈線文	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ5白光沢、φ3黒光沢、φ2無色透明光沢	(内)黒変
930	A区	Ⅳ	貝殻腹縁圧痕文	貝殻腹縁圧痕文、沈線文	ナデ	にぶい橙	橙	φ4にぶい黄橙、φ4灰白、φ1黒光沢、φ0.5ガラス質透明光沢	(外・内)黒変
931	Ⅰ・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	橙	φ1.5黒鋭光沢、φ1白、φ1灰、φ1黒、微細黒	(内)黒変
932	H・2	b	貝殻腹縁圧痕文	貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄	φ3灰白	(外)黒変

表 3　土器観察表 (28)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整			色調		胎土	備考
			口唇部	外	内	外	内		
933	J・2	b	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1黒褐、微細灰白	
934	G・4	b		丁寧なナデ、刻み目細隆起突帯文、横走細沈線文、細沈線文	丁寧なナデ	橙	橙	φ1灰白	(外)黒変痕、(内)黒変
935	H・5	—	刻目	連点文、沈線文	ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐	にぶい褐、褐灰	φ3褐、φ1明黄褐、φ1赤褐、φ1灰白、φ0.5金色光沢、微細無色透明	(内)黒変
936	L・10	Ⅵa	刻目	貝殻腹縁圧痕文、沈線文	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	φ3灰白、φ3灰褐、φ3赤褐	
937	I・3	b	刻目	沈線文、短沈線文	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ1黄灰、φ1灰、微細無色透明、微細金色、微細黒	(内)黒斑
938	H・3	b	刻目	貝殻腹縁圧痕文、沈線文	ナデ	灰黄	にぶい黄橙	φ1灰褐	(外)黒変
939	I・2	b	刻目	貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ4ガラス質半透明灰白、φ2.5灰白、φ2金色光沢	(内)黒変
940				沈線文	工具ナデ、ナデ	にぶい橙	灰褐、にぶい橙	φ2半透明、φ1金色、φ1白、φ1淡黄	SI 20内出土
941	J・4	Ⅵ	刻目	連点文、沈線文	丁寧なナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙、灰黄褐	φ1灰白、φ1褐灰	
942	—	b		ナデ	ナデ	浅黄、黄灰	浅黄	φ2灰白、φ1半透明光沢、φ1黒光沢、φ1金色	(外)黒変
943	A 5	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2金色、φ2黒光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2乳白、φ2褐	(外)黒変
944	H・6	Ⅵ		ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(外)風化、(内)黒斑
945	I・3	b	刻目	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黒、微細黒光沢	(外)黒変
946				ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1灰、微細黒、微細灰半透明	SI20内出土、穿孔
947	I・3	b	刻目	ナデ	ナデ	にぶい橙、褐灰	にぶい橙	φ1黄、微細灰白、微細透明光沢、微細黒光沢	(外)黒変？
948	J・4	Ⅶ		ナデ	ナデ	黄褐	にぶい黄橙、褐灰	φ4黒、φ4灰白、φ4白不透明、φ2透明光沢、φ1黒光沢	(口唇部、外)黒変
949	I・5	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3.5赤褐、φ0.5褐、φ0.5透明光沢	(口唇部、内)黒変
950	K・4	Ⅵ		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ3灰、φ3白不透明、φ2淡黄、φ2金色光沢、φ1透明光沢、φ1黒光沢	(口唇部)風化、951と同一個体か
951	K・4	Ⅵ		丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	灰黄褐、褐灰	φ3灰、φ2淡黄、φ2白不透明、φ2金色、φ1透明光沢、φ1黒光沢	(外・内)黒変？、950と同一個体か
952	I・8	Ⅵ		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい黄橙、褐灰	褐灰	φ7半透明光沢、φ2灰白、φ2半透明光沢、φ1金色	(外・内)黒変、953と同一個体か
953	—	—		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	φ2.5半透明光沢、φ2.5乳白、φ1金色	(内)黒変、952と同一個体か
954	K・7	Ⅶ		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	黄灰	にぶい黄橙	φ2黒鋭光沢、φ2金色鱗片状、φ1灰白	(口唇部)黒変、(外)黒変、黒変、(内)風化
955	K・7	Ⅶ		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	丁寧なナデ	黄灰	にぶい黄橙	φ2にぶい橙、φ2灰白、φ2黒褐、φ2金色鱗片状	(外)黒変、黒変、(内)黒変
956	L・5	—		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	丁寧なナデ	にぶい黄橙	オリーブ黒	φ1.5白半透明	
957	I・5	Ⅶ		貝殻による条痕文、貝殻腹縁圧痕文	丁寧なナデ	にぶい黄	暗灰黄	φ1無色透明光沢、φ1黒鋭光沢	(外・内)黒変、(外)黒変、(内)黒変
958	K・9	Ⅵb	刻目	瘤状突起、貝殻腹縁圧痕文	ナデ	灰黄	暗灰黄	φ1褐灰、φ1淡黄	(内)黒変痕
959	K・5	Ⅵb		ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細黒光沢	
960	L・4	Ⅵb		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	φ2黒鋭光沢、φ1無色透明	(外・内)黒変

第3節　石　器

石器の報告は，石器群を便宜的に出土層別に分けて行なうものとする。その理由は，現時点で，石器の時期を個々の石器からのみでは特定できないためである。これについては，今後の研究に期待したい。なお，以下では，黒色黒曜石は黒曜石，白色黒曜石については姫島黒曜石，青灰色黒曜石は淀姫黒曜石と呼称して記述する。

1　Ⅸa～Ⅸb層

細石刃（961～966）・細石刃核（973～995），石斧（999）・掻器（969＋970）・削器（971）・微細剥離ある剥片（972），不定形剥片剥離の接合資料（997＋998＋α）が出土する。

細石刃・細石刃核はすべて黒曜石製で，複数の産地が想定される。細石刃核の素材は，２～５cm大の小礫であり，細石刃剥離は礫分割面を打面とし，礫形状を活かしながら行なわれるものが多い。

接合資料（997＋998＋α）は，約８×９×４cmの亜角礫から剥片剥離されたものである。剥片剥離は，礫の角である⑪⑫から剥離される。その後，礫は節理面を境に，礫Ａと礫Ｂに分割される。礫Ａは剥片（⑧の前身）が剥離された時，節理などによって①②③が同時に分割された可能性がある。⑧は掻器（997）へと加工される。礫Ｂは，礫端の④⑤が剥離され，石核原型が作出される。石核は礫面を除くように打面形成（⑥の剥離），石核成形（⑩⑬）が行なわれ，⑭⑦のような不定形剥片が剥離される。いかなる剥片を目的としたかは明確でない。最終的に，石核（⑨・998）が残される。

石斧（999）は，縦長に近い，厚手の剥片を素材とし，素材剥片末端側が石斧刃部となる。石材はシルト岩。成形加工は素材剥片裏面を打面として行なわれ，その後，刃部周辺を中心に研磨がなされる。石斧は，最大長11cmで直線的な両側縁を持つ平面短冊形，最大厚3.5cmを超す断面かまぼこ形である。基部付近は幅約3cmで丸みを帯び，刃部は，幅約4.5cmでほぼ直線的である。4cm前後の横幅に対し，石斧の最大厚は3.5cmを超し，非常に甲高である。石斧刃部にはやや深めの剥離が残される。

石斧はその後，解体される。解体は，石斧の最も甲高な稜から剥離し（1007），続けて刃部周辺が打ち落とされる（①②）。その後，③を含む，石斧腹面側からの剥離によって，旧石斧刃部側に尖頭部が作出される（1008）。適当な器種名が見当たらず，仮に削器として報告した。石核の可能性もある。背面に研磨痕のある縦長剥片（1001＋1002＋1003＋1004，1006）と横長に近い不定形剥片など（1000・1005）は石斧と同石材である。石斧本体との接合は確認できていない。

この他，図示していないが，長径10cm前後の球状のチャート礫を分割し，礫面から分割面中央に向かって不定形剥片が剥離される接合資料がある。利用されたチャートは粗質で，石器石材として向いてない。拳大のチャート原石も１点出土する。これも粗質のチャートであり，これらの石材が利用された製品は見当たらない。

2　Ⅶ・Ⅷ層

1009～1139は打製石鏃。1071・1085の表裏面には部分的に研磨が見られ，また両側縁は鋸歯状を呈する。打製石鏃は，チャート・黒曜石製のものの中に，うす手の一群がある。この傾向は，

チャート製のもので特に強い。また，1066・1067のような，分厚く，基部にU字の抉りを持つ一群は，安山岩で占められる。1072は帖地型石鏃Aタイプ，1073はその範疇に入りそうなもの，1125は欠損が著しいものの，帖地型石鏃Bタイプになるであろう。1216は図面の都合上，石鏃に含まれていないが，小形の帖地型石鏃Aタイプであろう。1072・1125・1216は，すべて乳白色の珪質岩である。石材と石鏃形態に一定の相関が見られる。1090～1139は欠損の著しいものを一括した。先端からの加撃によって欠損する資料が一定量見られる。1140～1177は打製石鏃未製品である。

1178～1182は礫器である。石材は，尾鈴酸性岩・砂岩・頁岩がある。1179・1181は尾鈴酸性岩製で，それらは礫片を利用し，背面に大きく礫面を残す。

1183・1186は舟底状石器で，いずれも黒曜石製で小形である。1184・1185は石錐である。1187～1190・1194・1195は二次加工ある剥片，1192・1196は微細剥離ある剥片である。1191は小形角礫の角を剥離したものである。左側面に見られる剥離の意図は不明確である。打面再生剥片，打面作出剥片などが想定される。1193は六角柱の水晶の結晶である。水晶は，包含層中に本来存在しないことから，持ち込まれたものである可能性が高い。稜が摩滅する。1197～1199は，削器と剥片が接合する資料である。1200～1206・1209・1210は石匙である。小形のものは黒曜石，少数のチャート，大形のものは安山岩製である。小形の一群は下端を尖らすものが特徴的に見られる。1207は楔形石器，1208・1211～1214は掻器である。

1215・1217～1219は尖頭器である。1215→1218→1217の順に，大→中→小となる。石材は大・中が安山岩，小が頁岩となる。1219は尖頭部が明確でなく，また加工のあり方など一般的な尖頭器と異なる点が多いが，便宜上ここに掲載した。1220～1239は削器である。尖頭状石器・石鏃未製品との区別が明確でないものもここに含めた。小型のものには黒曜石・チャートが多用され，大型のものには砂岩・頁岩が多用される。

1240～1272は石核である。小形のものに黒曜石・姫島黒曜石・淀姫黒曜石・チャートが，大形のものに砂岩・頁岩が多用される。傾向として，大形・小形の石核を問わず，縦長に近い不定形剥片が剥離される。1252は細石刃核の可能性がある。

1273～1275は異形石器である。1275は黒味を帯びたチャート製であり，1273・1274の黒曜石製のものと合わせ，黒色系石材が利用される。1280・1281は磨製石斧，1282は環状石斧である。環状石斧の残り半分は出土していない。欠損部周辺は赤化する。1283～1299は敲石類，1300～1305は石皿類である。

1276～1279はⅧ層中より出土した。1276・1279は二次加工ある剥片，1278は石核である。

3　Ⅵ層

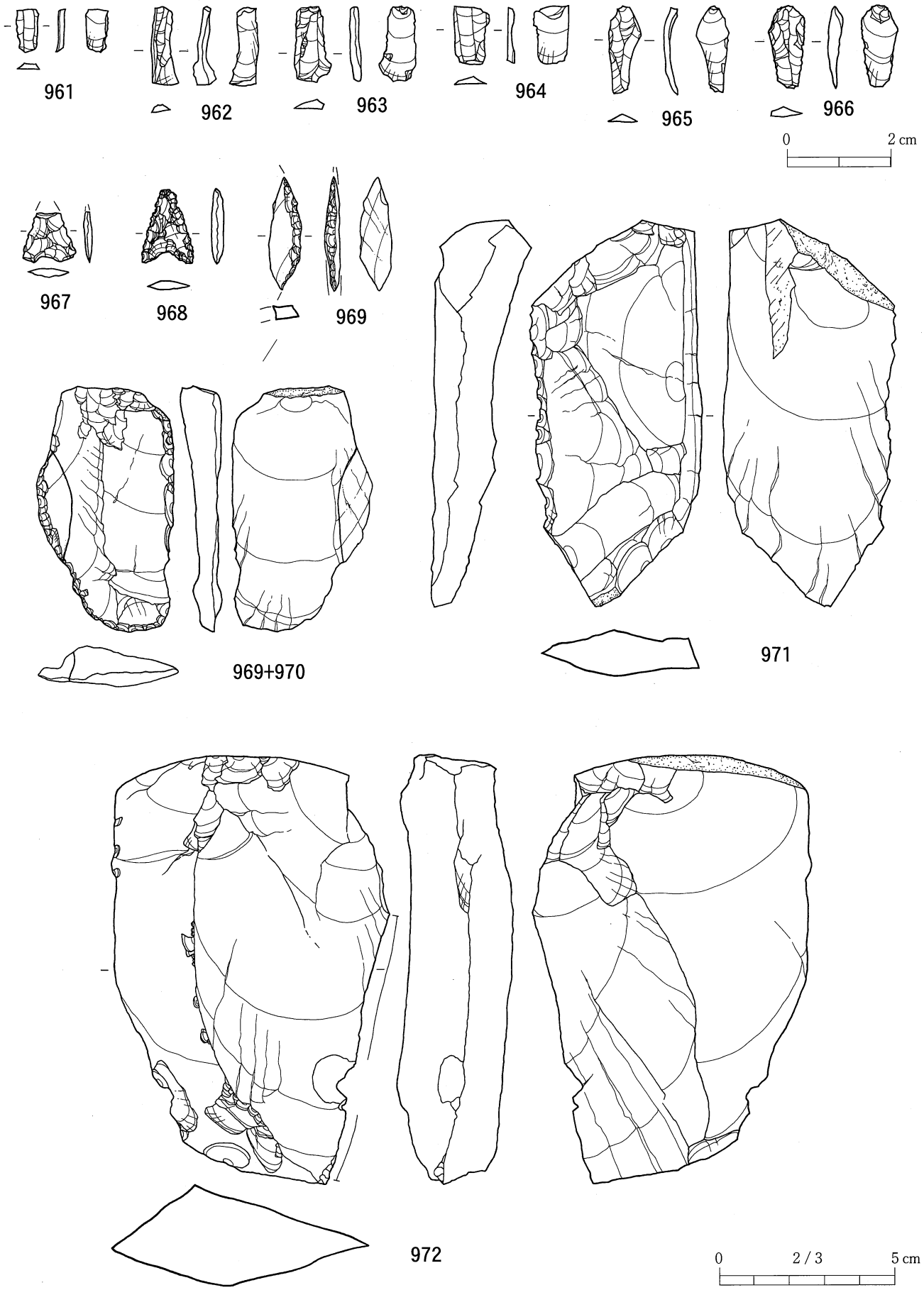
1306～1434は打製石鏃である。石材を見ると，黒曜石・チャート・姫島黒曜石がそれぞれ同数程度あり，この他，淀姫黒曜石・安山岩製のものが一定量認められる。1435～1468・1473・1474は打製石鏃未製品である。削器，石錐未製品，尖頭状石器との区別が明確でないものもここに含めた。打製石鏃と石材の利用傾向は同じである。1469は楔形石器とした。石鏃未製品の可能性がある。1470～1472・1475～1488は削器である。石材は打製石鏃・その未製品と同じ傾向である。

尖頭部を持つものが散見される。

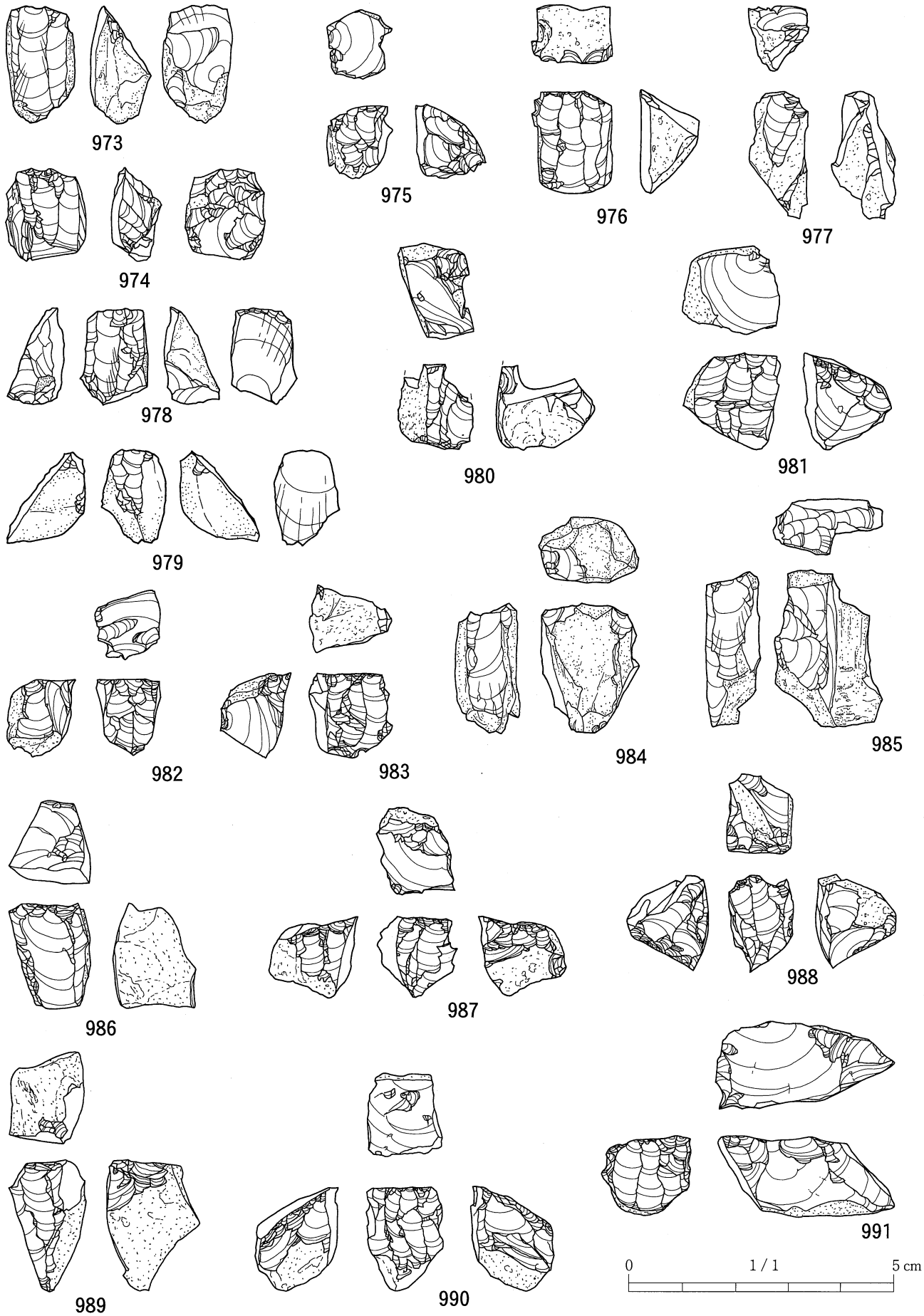
1489は全面研磨された玉製品である。口をくびった袋のようなものか。1490～1492・1497は石錐である。錐部断面形は円でなく菱形のものが多い。1496は楔形石器である。1493～1495は異形石器，1498・1499は異形局部磨製石鏃である。前者は黒曜石とチャート製であるのに対し，後者は全てチャート製で占められる。

1500～1502・1504・1505は石匙である。1500・1502は小形のもので，素材剥片形状をそのまま活かして作られる。1504・1505は大形の石匙であり，いずれも縦匙である。1501は大形石匙のつまみ部の可能性がある。1503・1506・1507は掻器である。平面形は，小形円形と大形縦に長い長方形のものとがある。

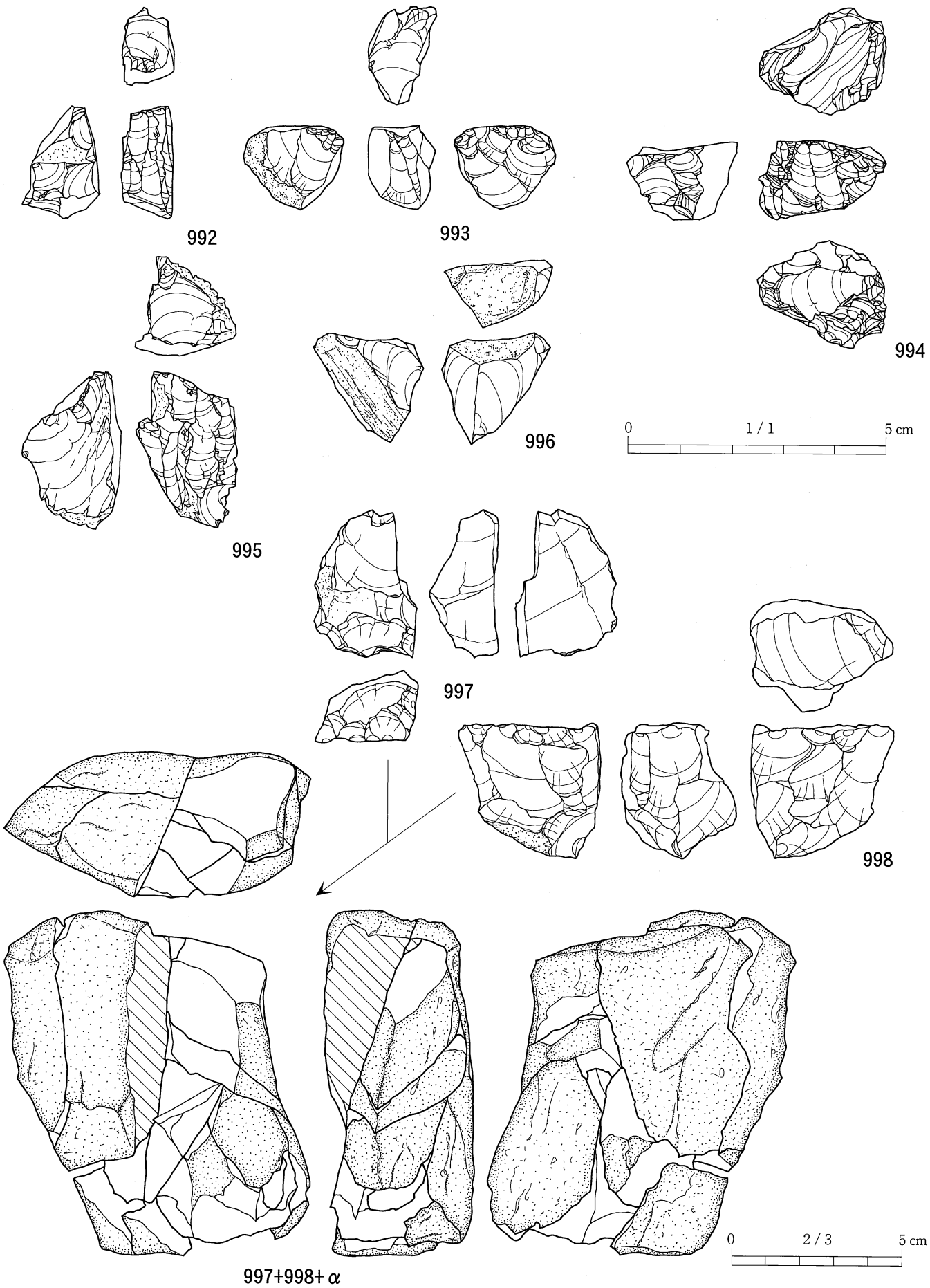
1508～1529は石核である。石材を見ると，黒曜石と姫島黒曜石が多い。1508・1509は小形の黒曜石礫から，特に石核整形など行わず不定形剥片が剥離される。姫島黒曜石のものは，概して黒曜石製の石核に較べ大形である。ある程度，打面を一所に固定して不定形剥片が剥離されるものが多い。この他，チャートや頁岩製のものが見られ，後者は（1529）周縁から中心に向かって不定形剥片が剥離される点で，他の石核と剥離方法に大きな差がある。1530は微細剥離ある剥片，1531～1540・1542・1543は二次加工ある剥片である。1533はⅦ層出土の舟底状石器とした1183・1186に類似する。1541は大形の縦長剥片の周縁に加工が施されたもので，サイズが大きいこと，下縁の稜がやや潰れることから，打製石斧とした。1544は磨製石斧。1545～1558は敲石類である。尾鈴酸性岩・砂岩が多用される。1559は礫器である。1560～1562（1561・1562はⅦ層出土）は黒曜石原石である。1560は大形で，表皮の観察から，佐賀県伊万里市腰岳産の可能性がある。1561・1562は小形で，後者は細石刃核の原礫である可能性がある。1563～1566は石皿類である。



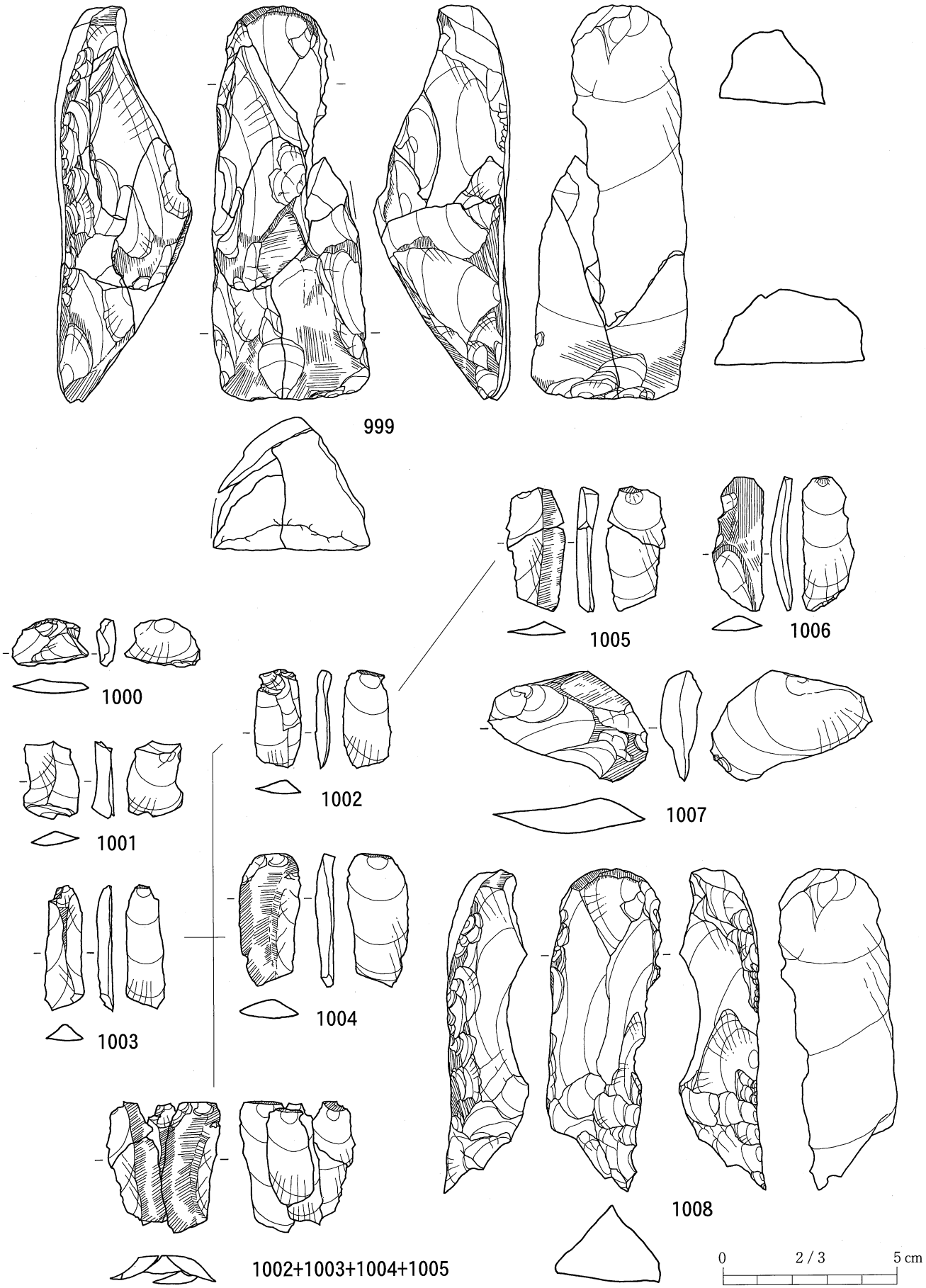
第115図　出土土器(1)


973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
0
1 / 1
5 cm

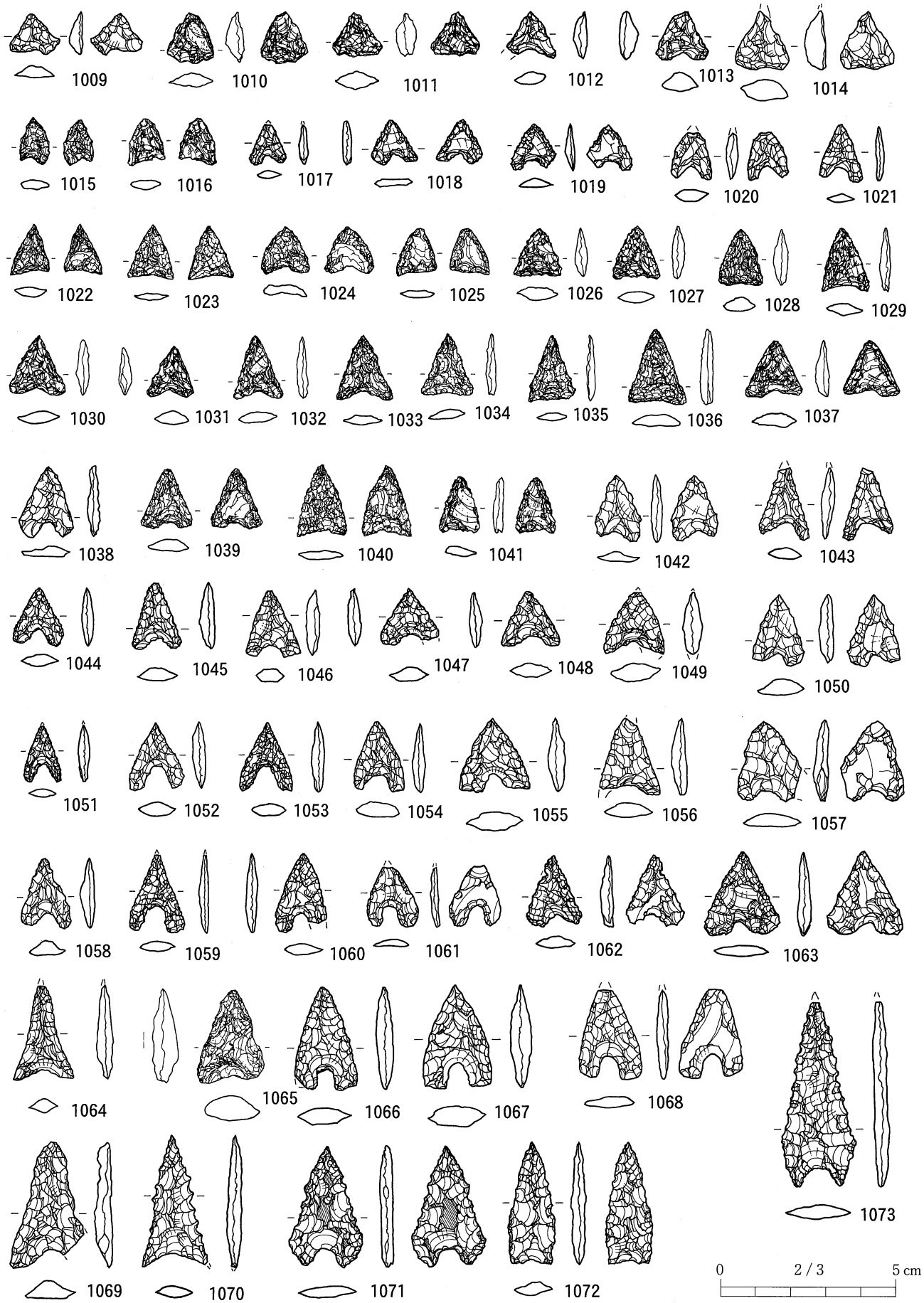
第116図　出土土器(2)



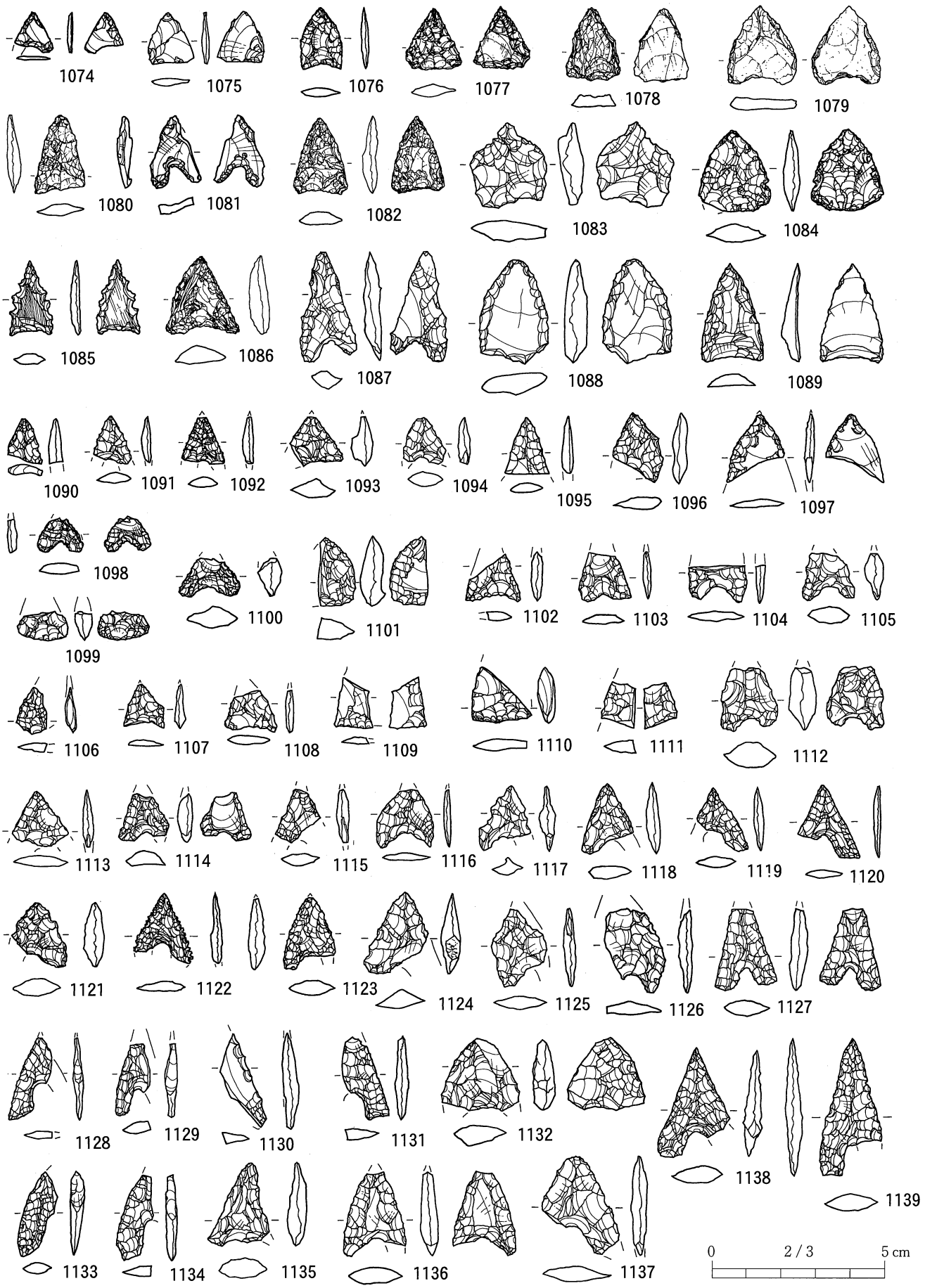
第117図　出土土器(3)


999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1002+1003+1004+1005
0
2/3
5cm

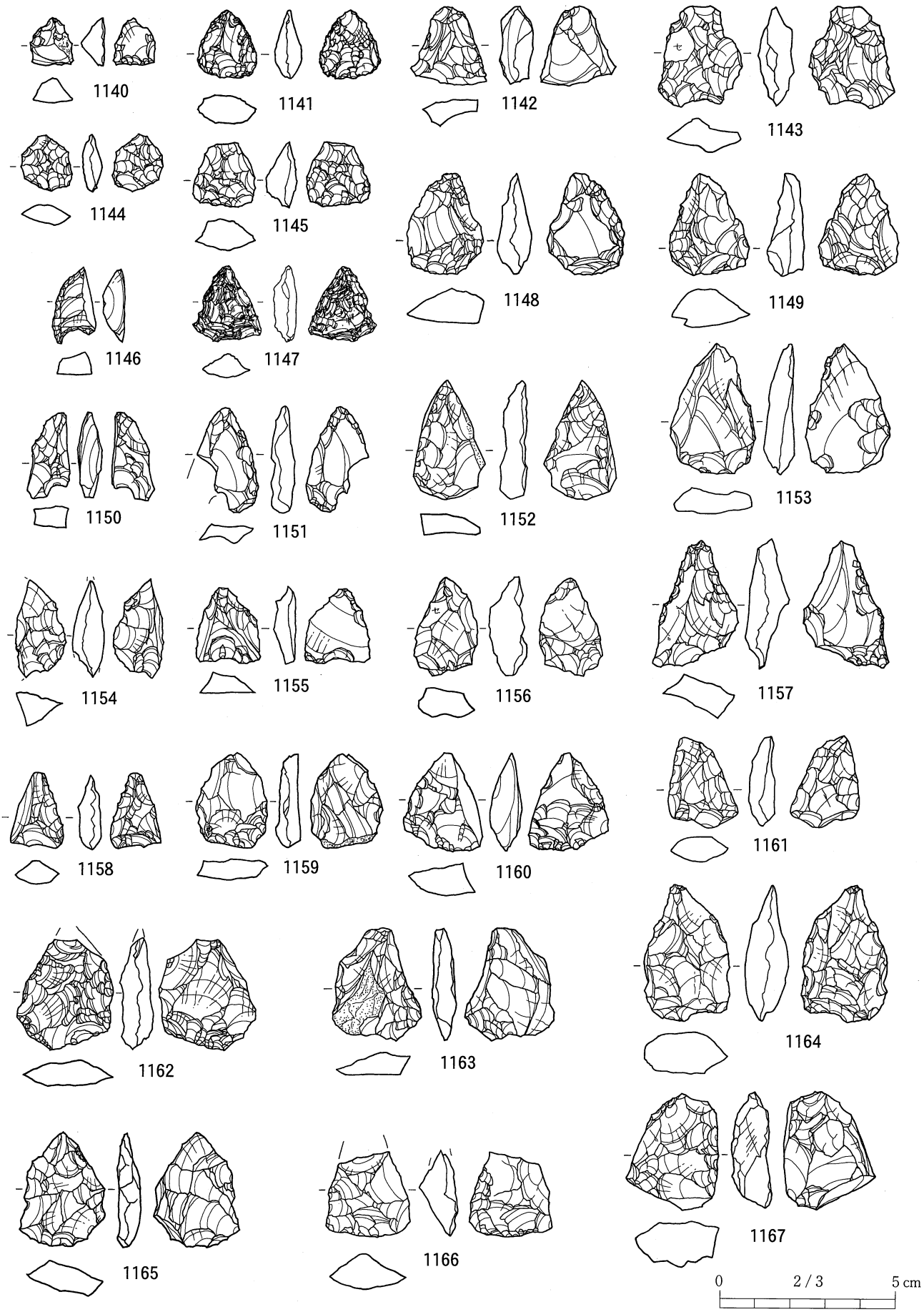
第118図　出土土器(4)


1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
0
2/3
5cm

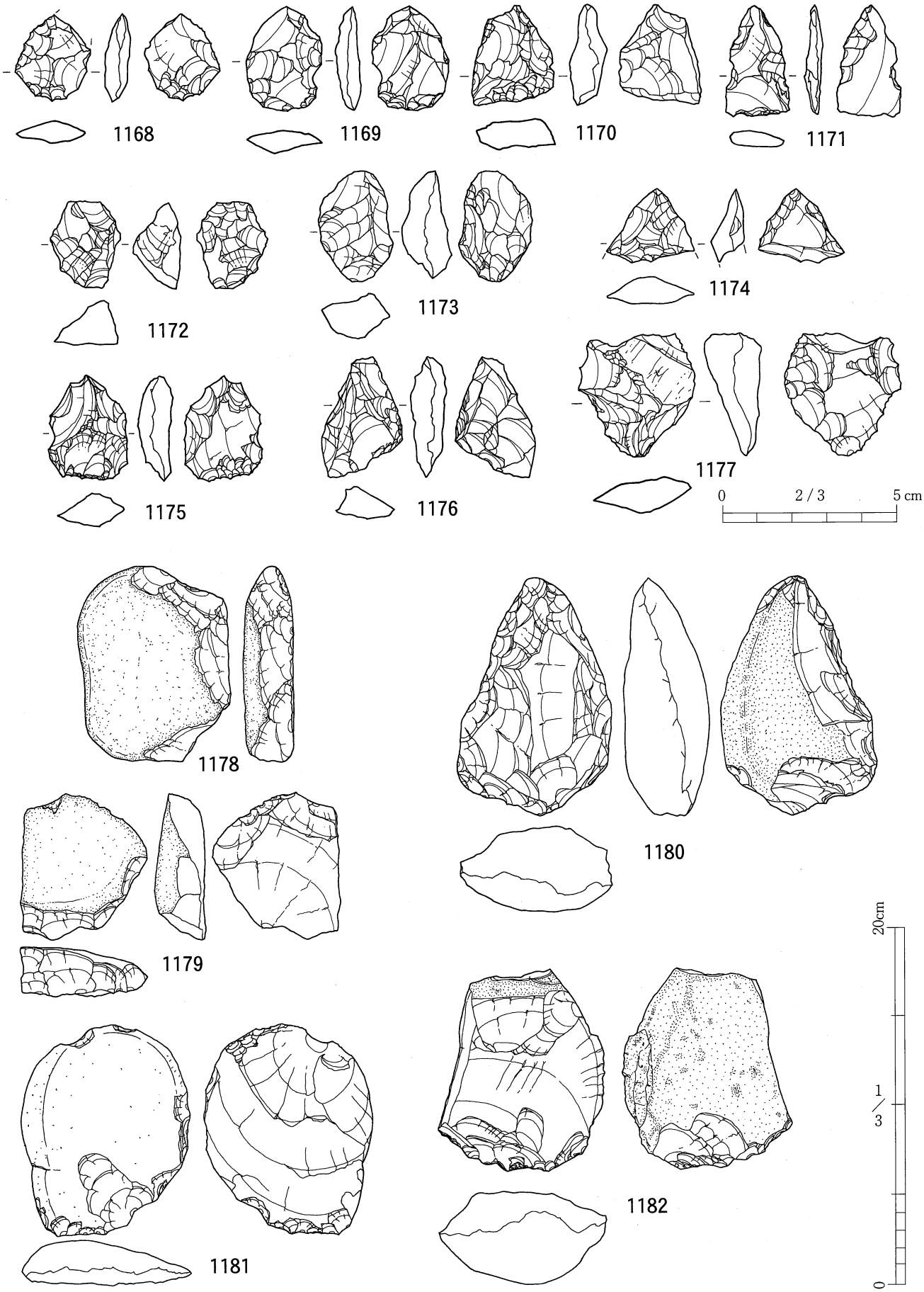
第119図　出土土器(5)


1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
0
2/3
5cm

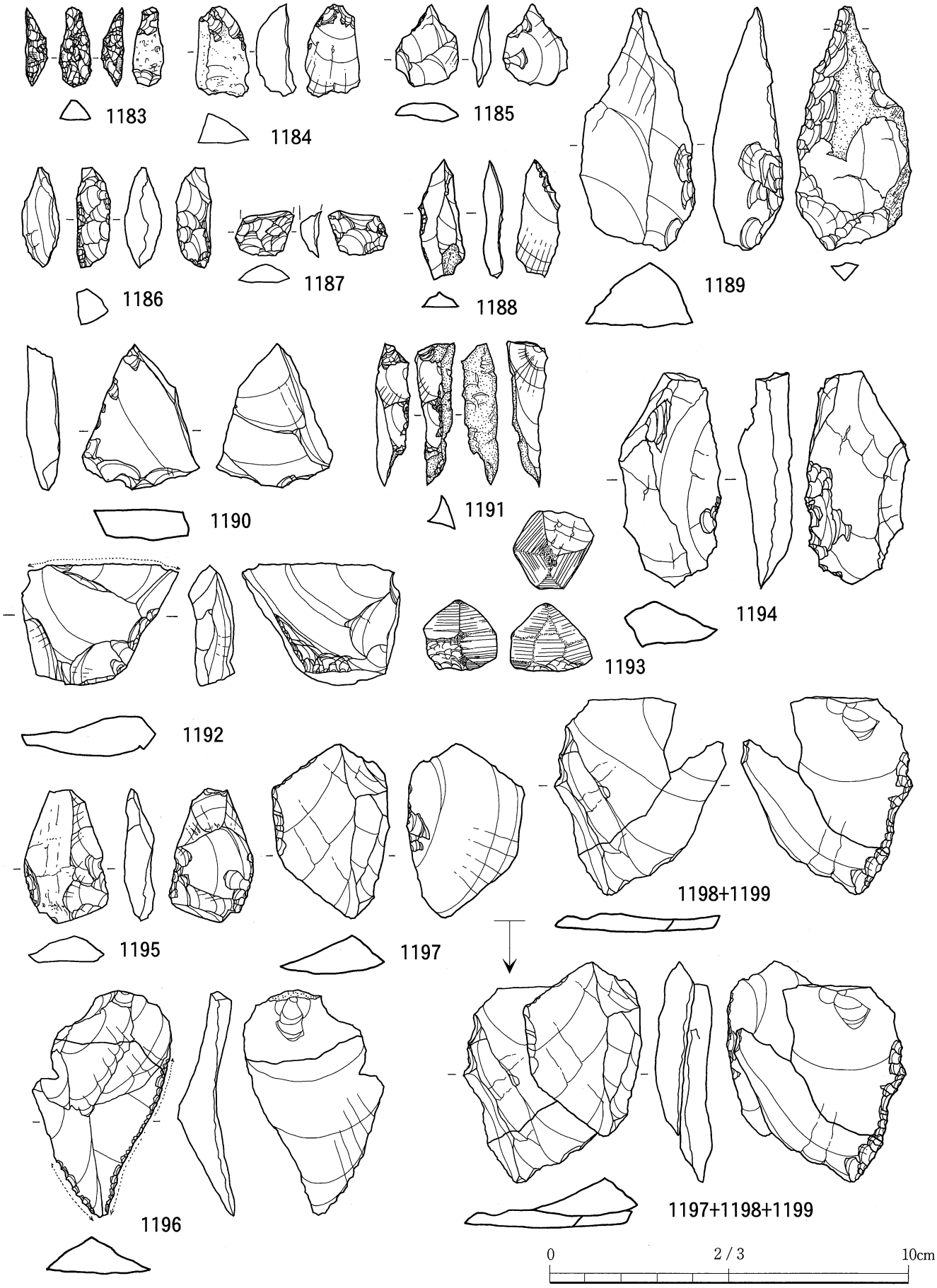
第120図　出土土器(6)


1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
0
2/3
5cm

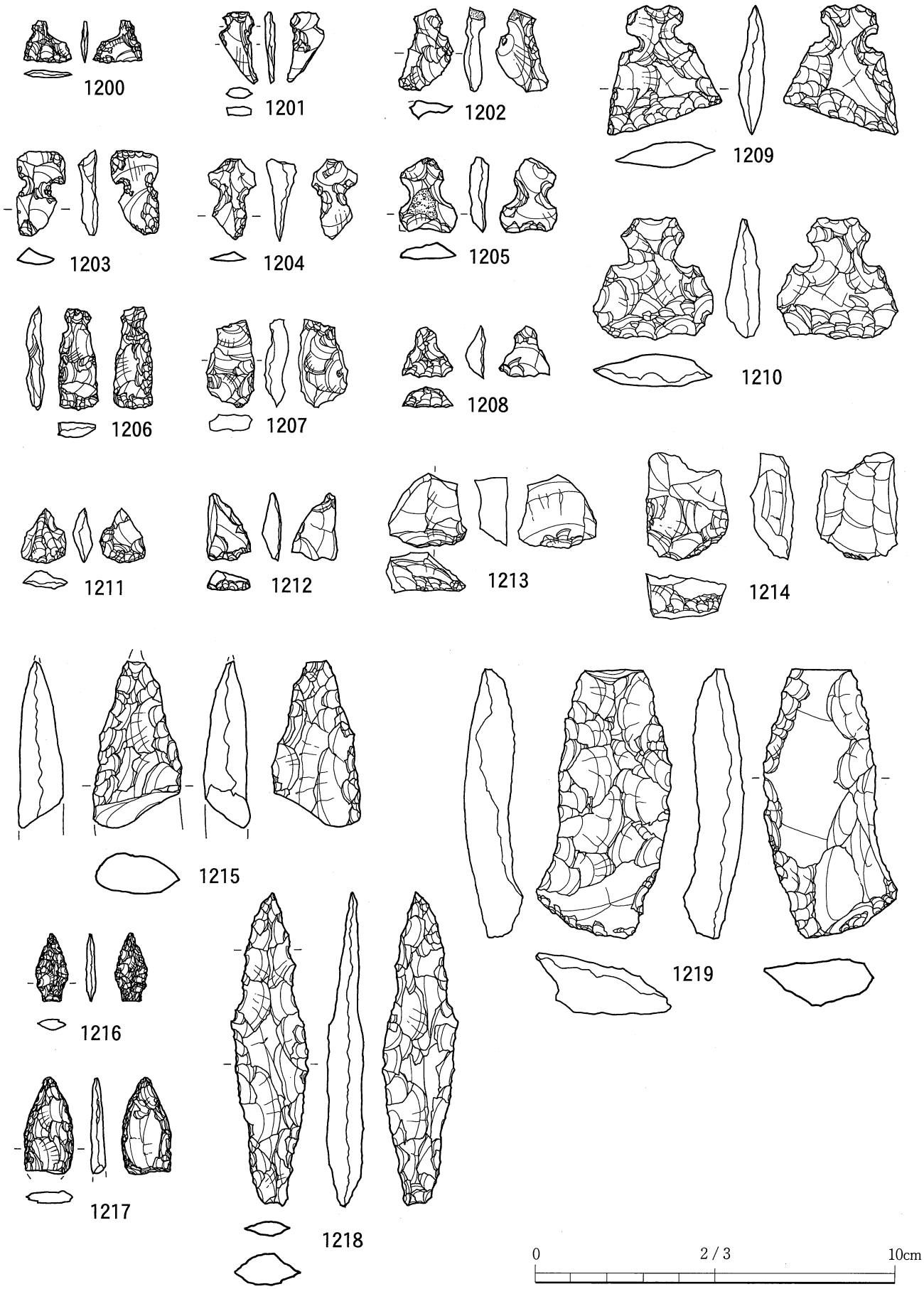
第121図　出土土器(7)


1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
0
2/3
5cm
1178
1179
1180
1181
1182
20cm
1/3
0

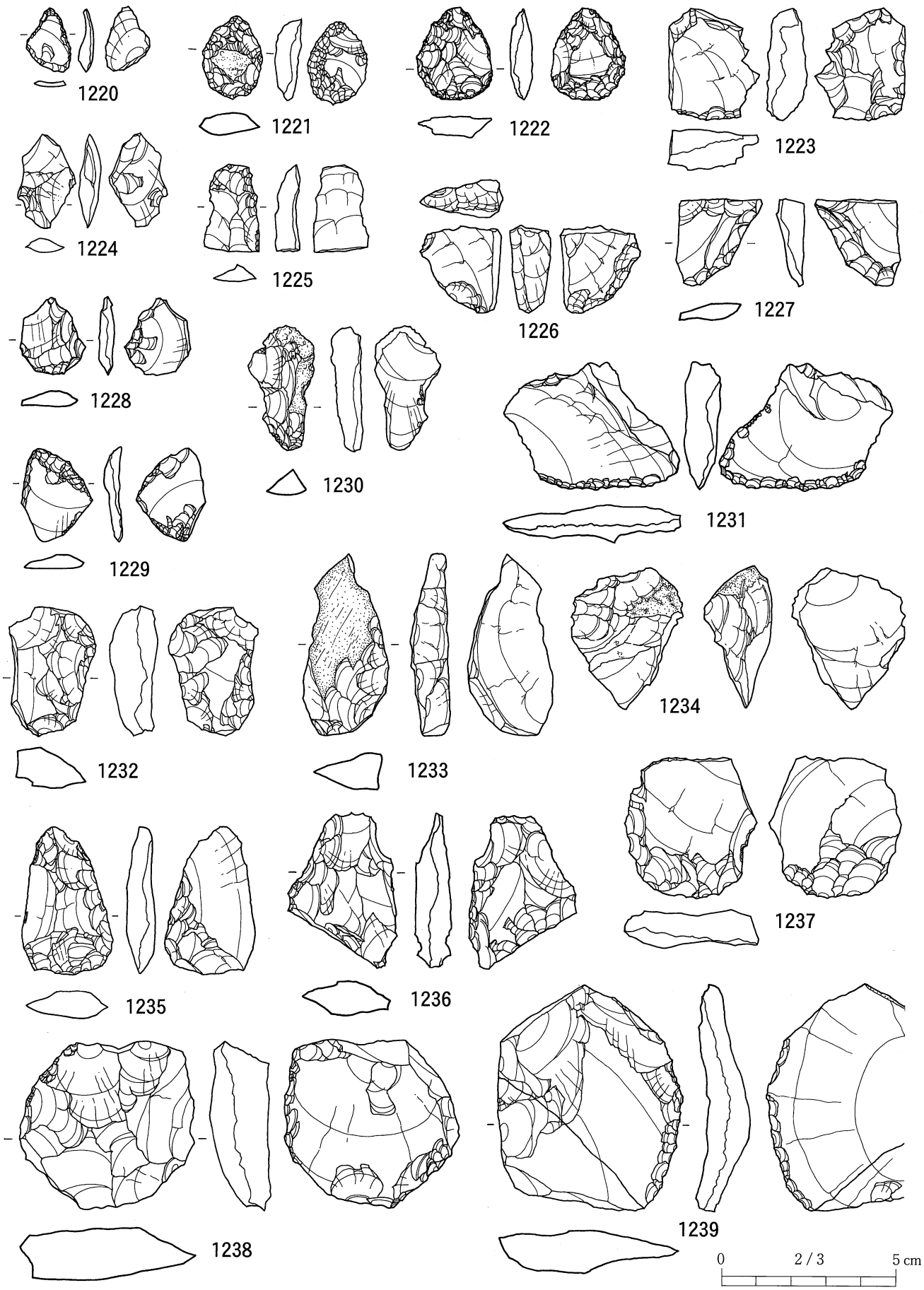
第122図　出土土器(8)


1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198+1199
1197+1198+1199
0
2/3
10cm

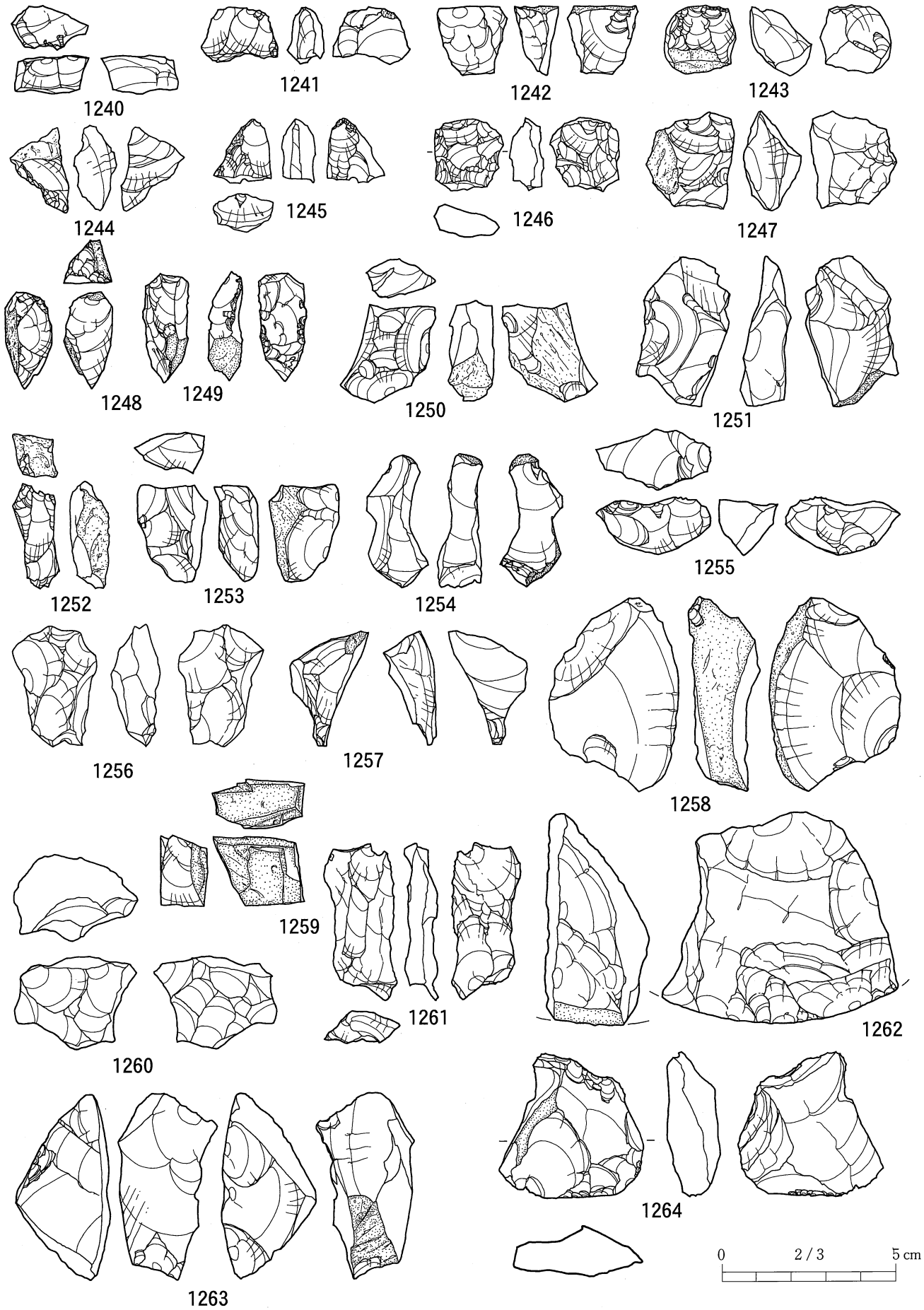
第123図　出土土器(9)



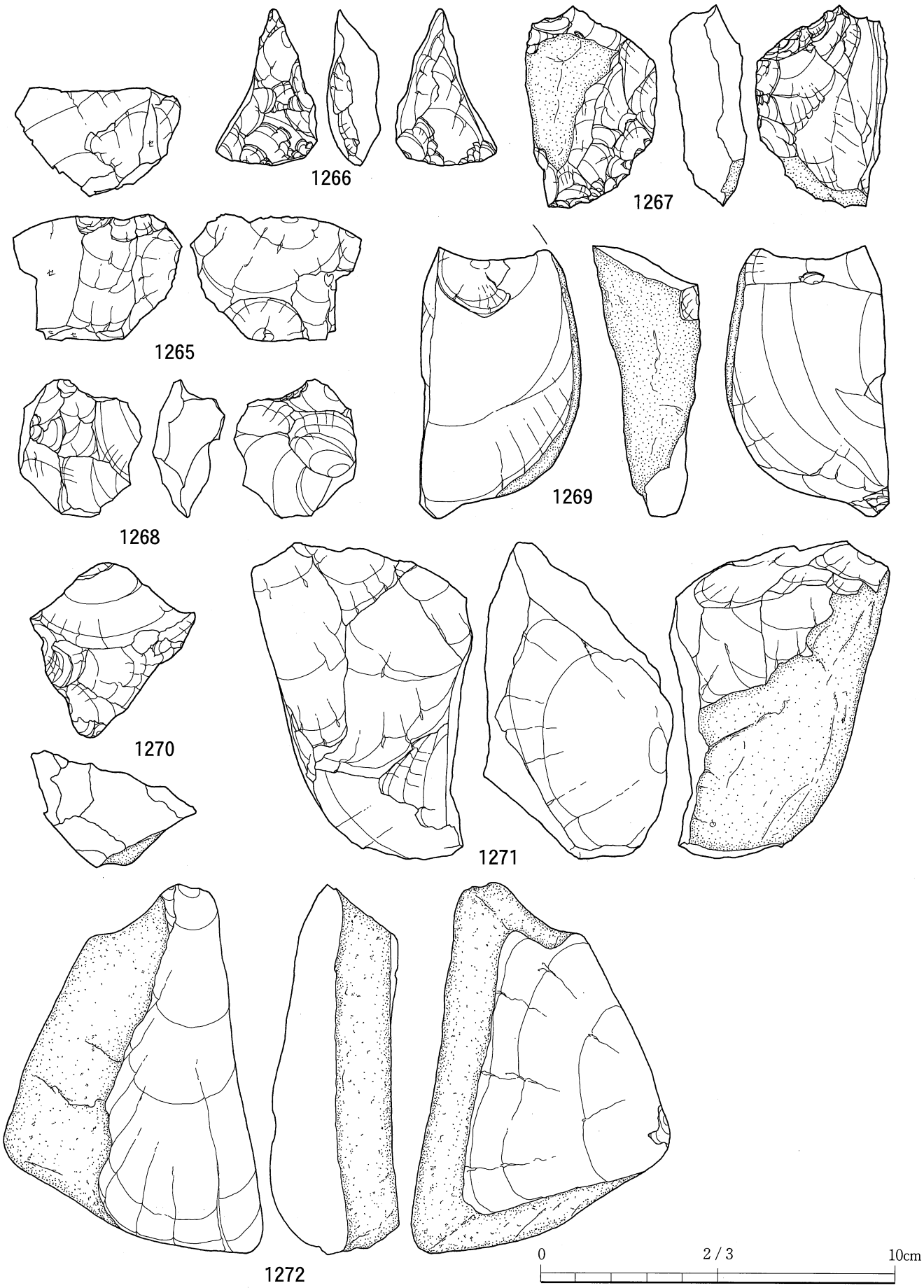
第124図　出土土器(10)



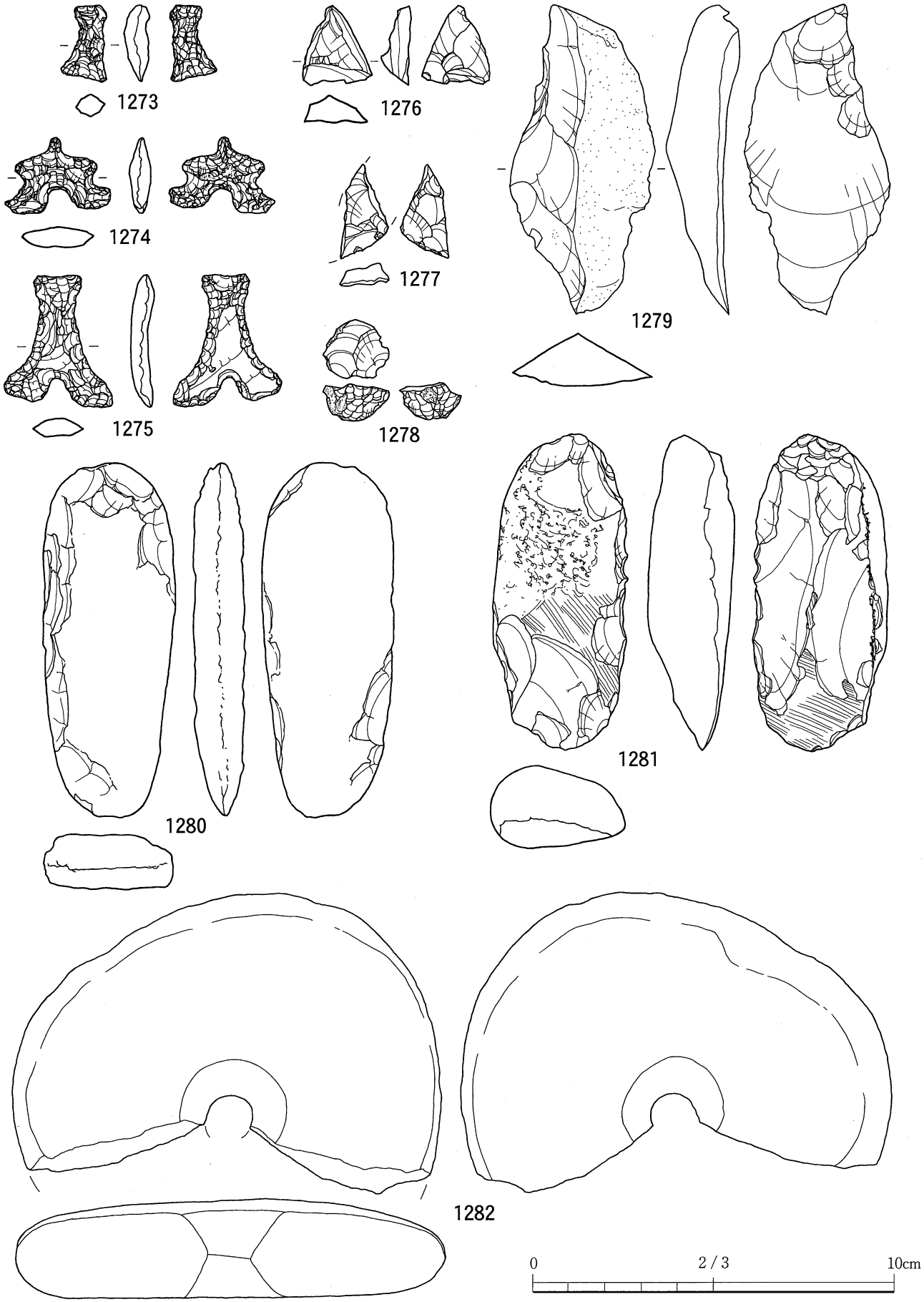
第125図　出土土器(11)



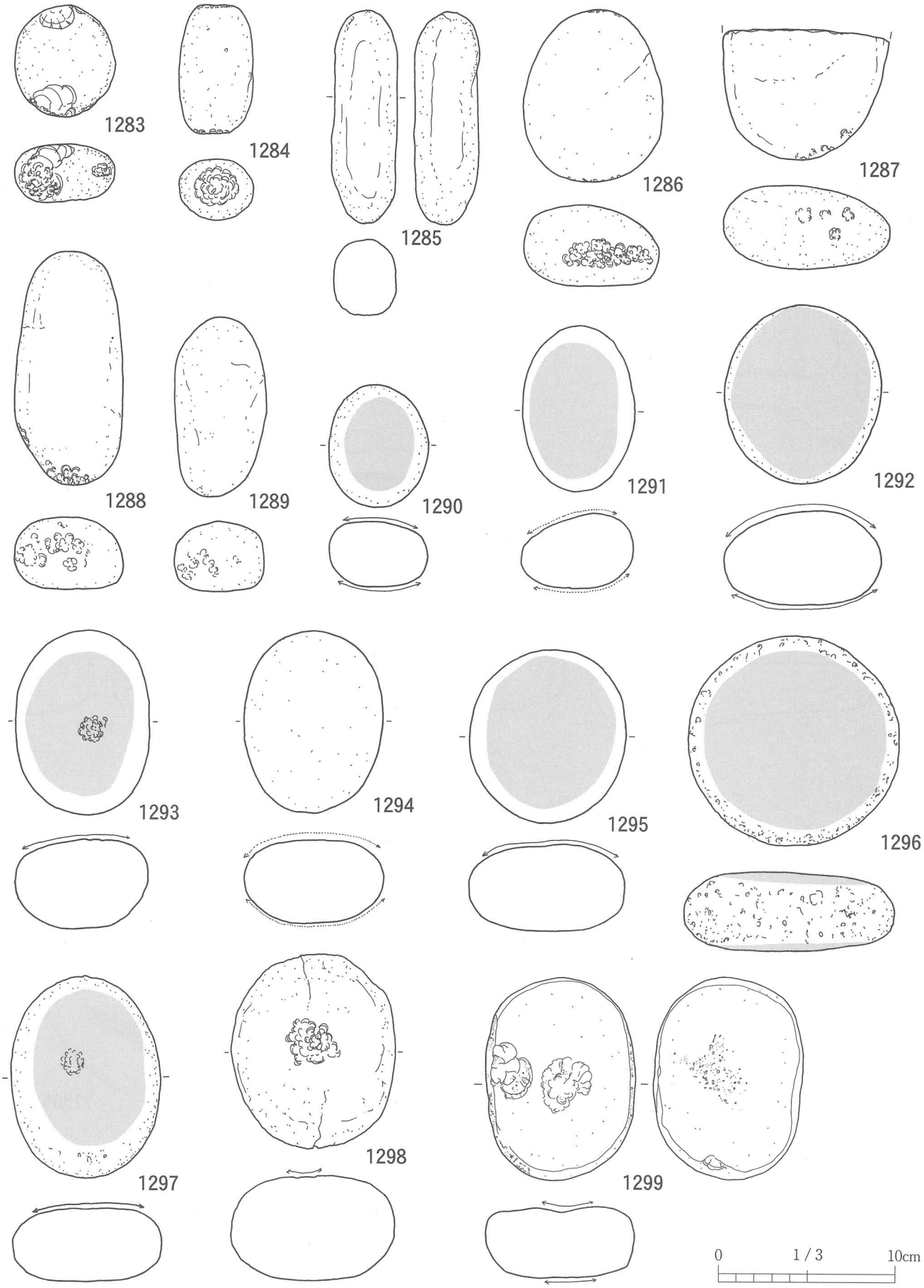
第126図　出土土器(12)



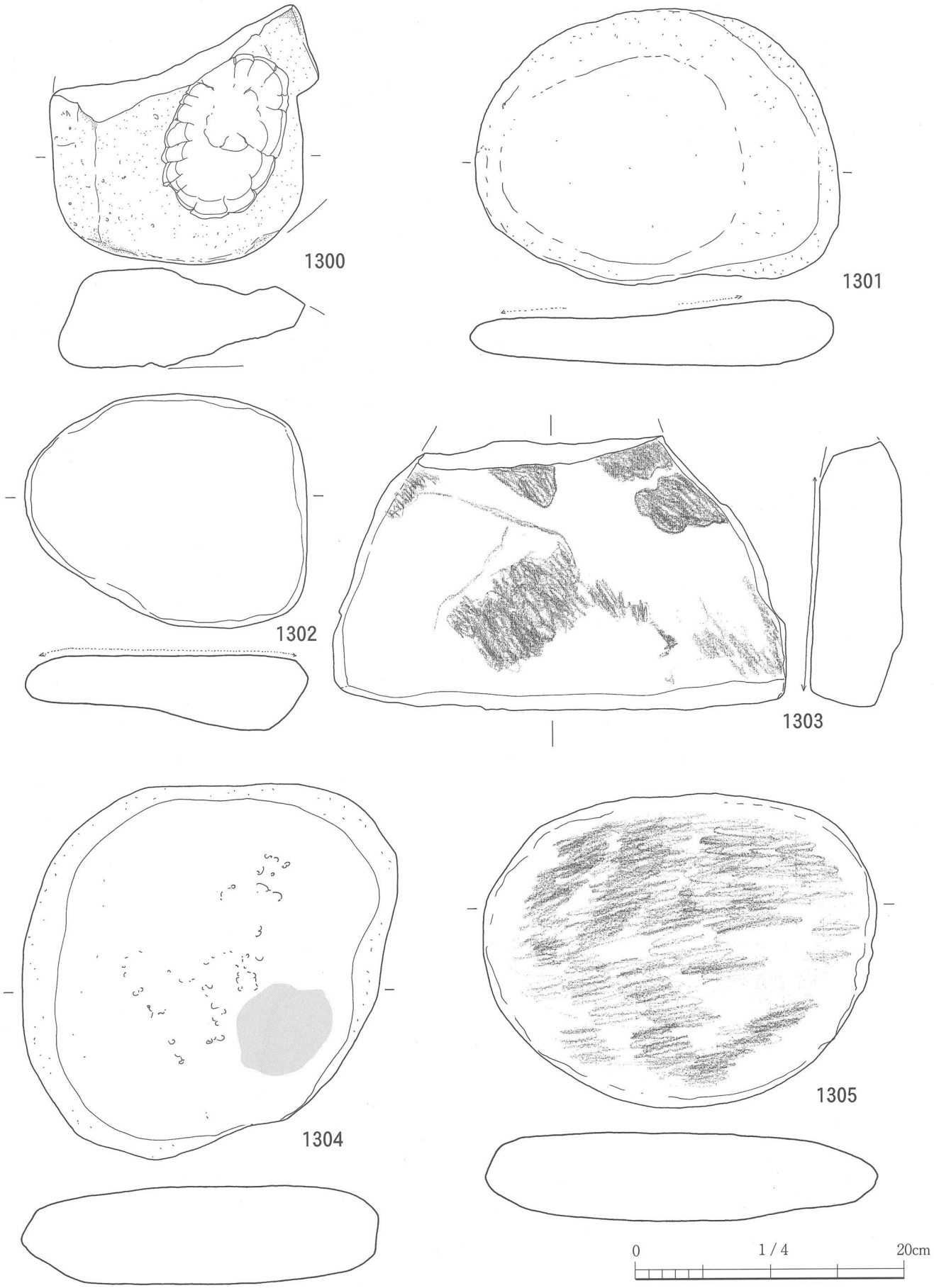
第127図　出土土器(13)



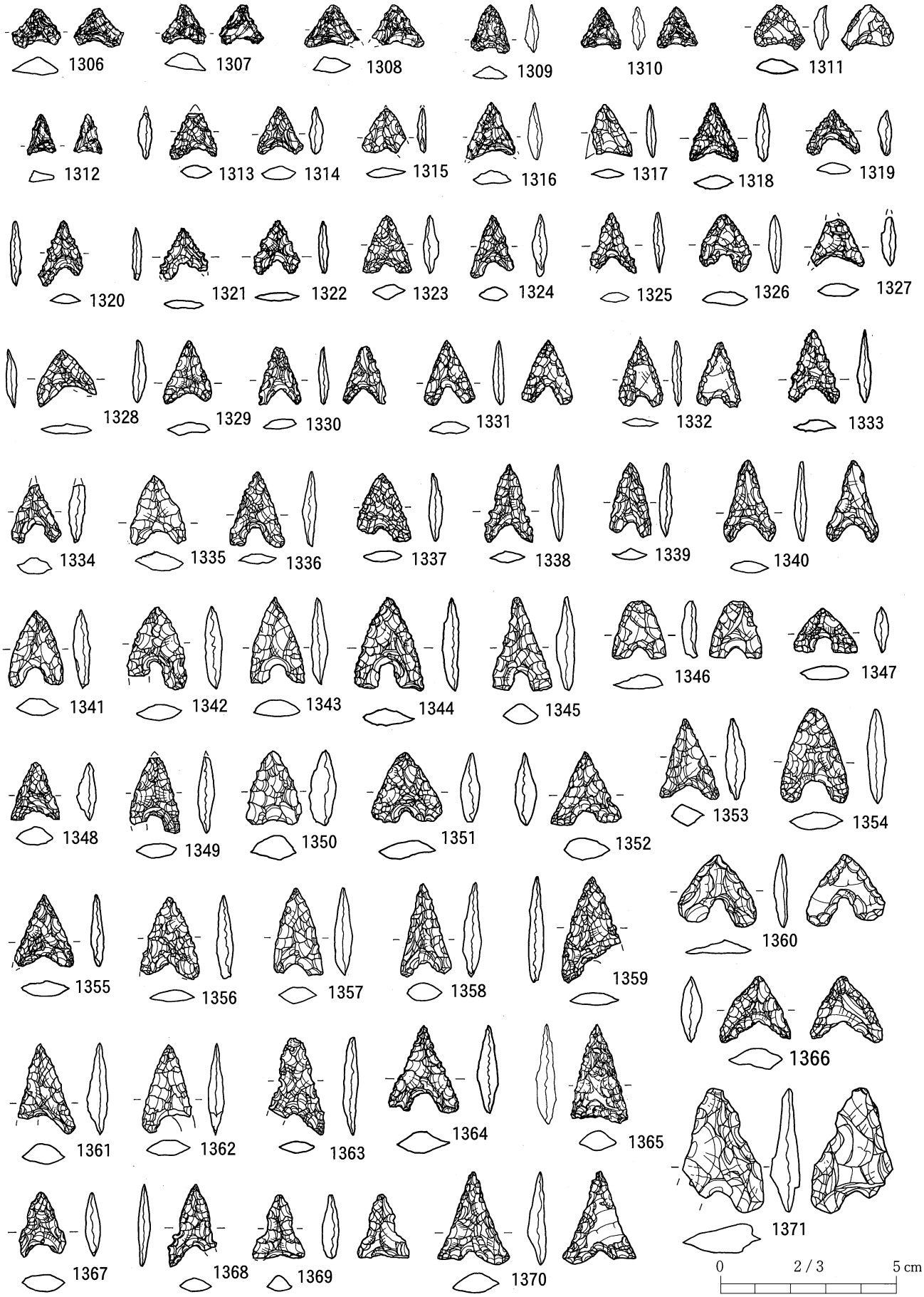
第128図　出土土器(14)



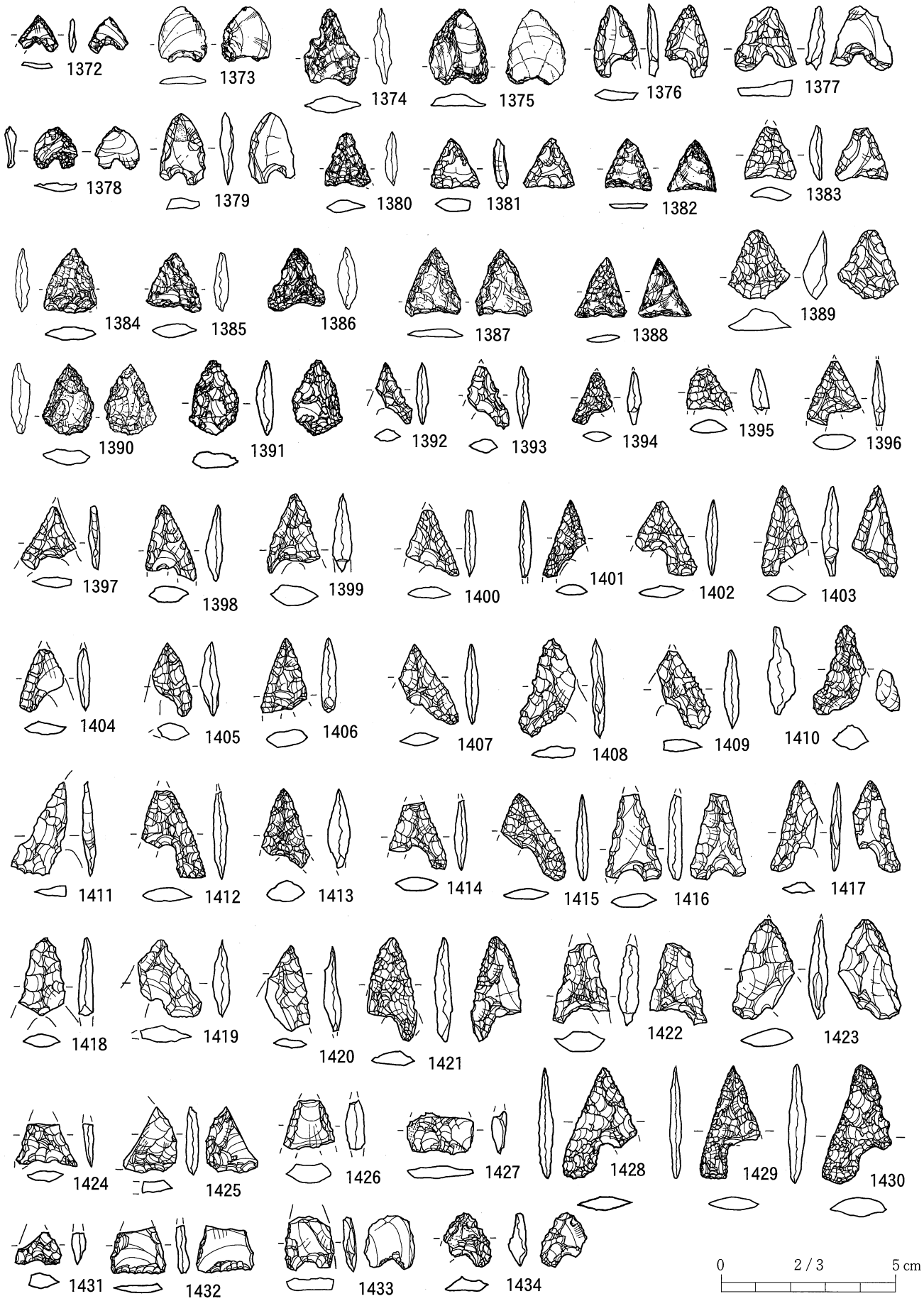
第129図　出土土器(15)



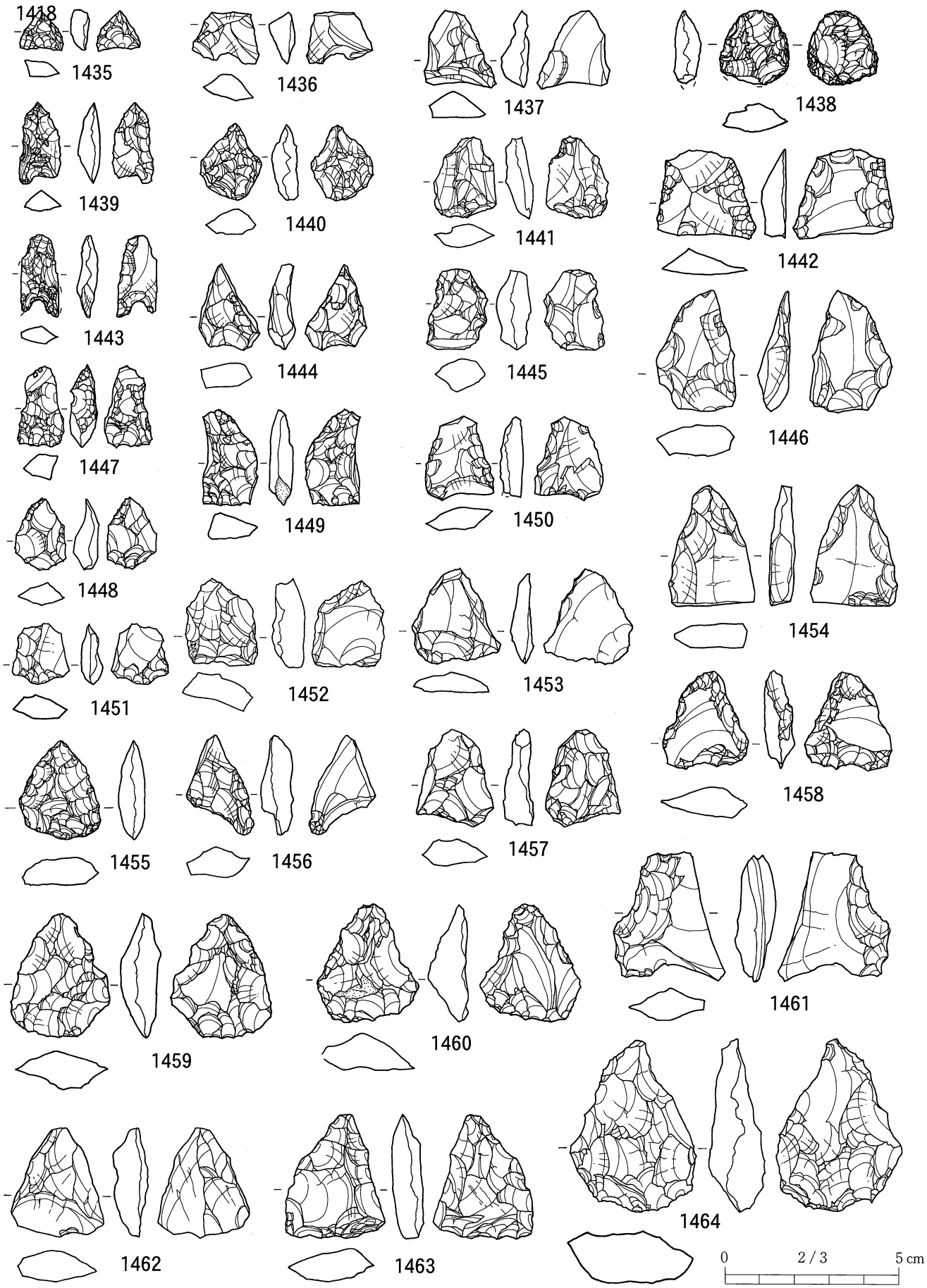
第130図　出土土器(16)



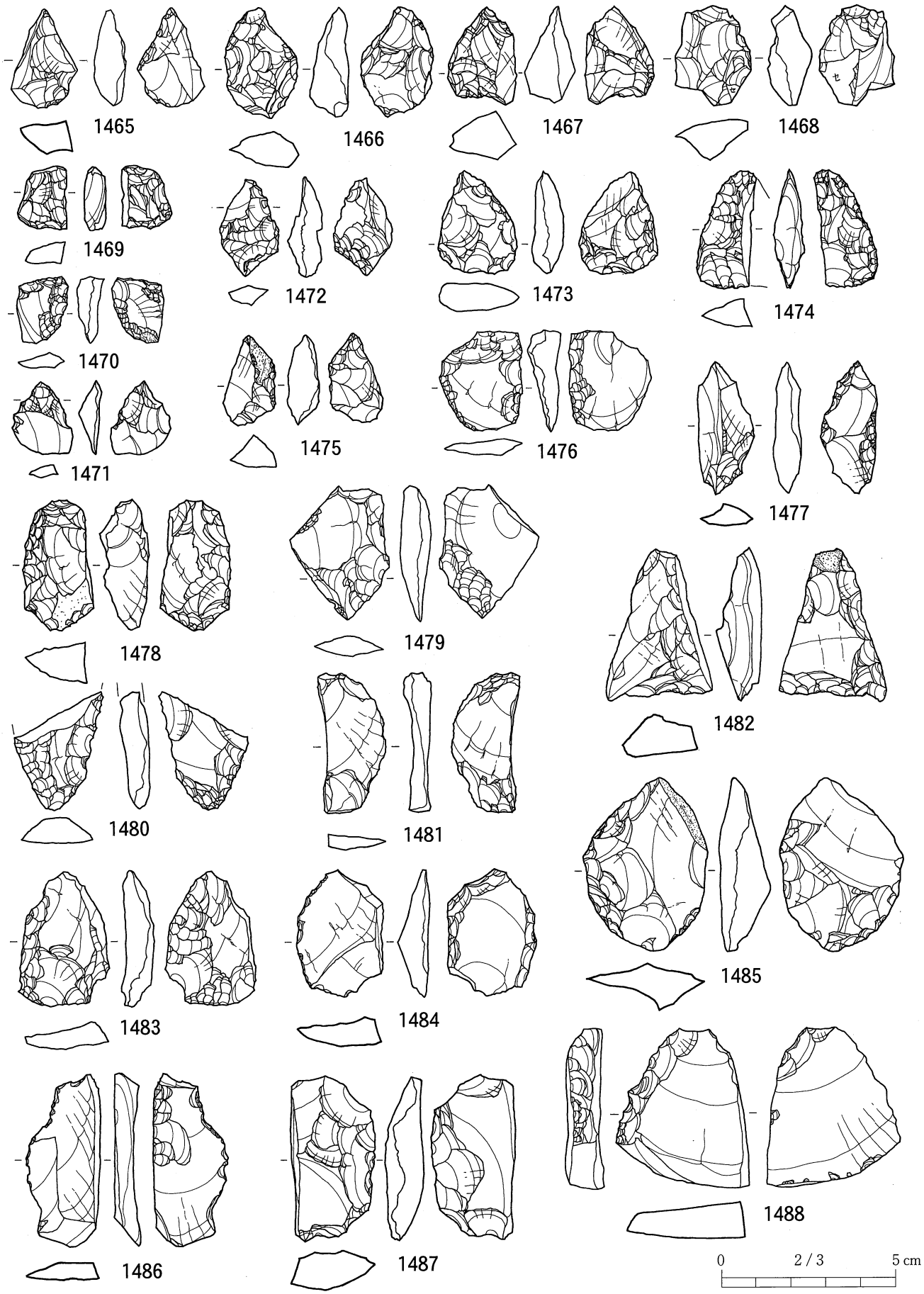
第131図　　出土土器(17)



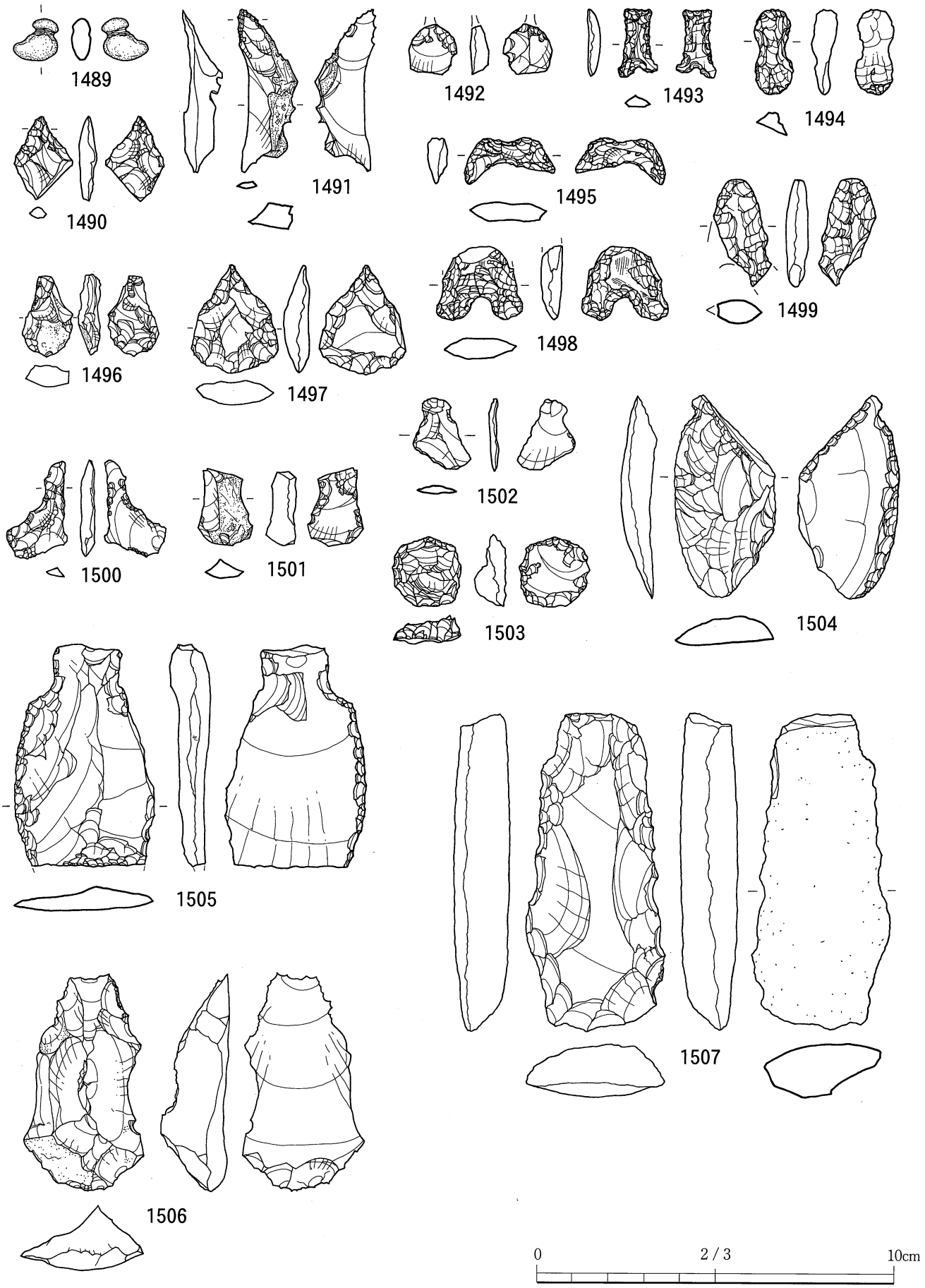
第132図　出土土器(18)



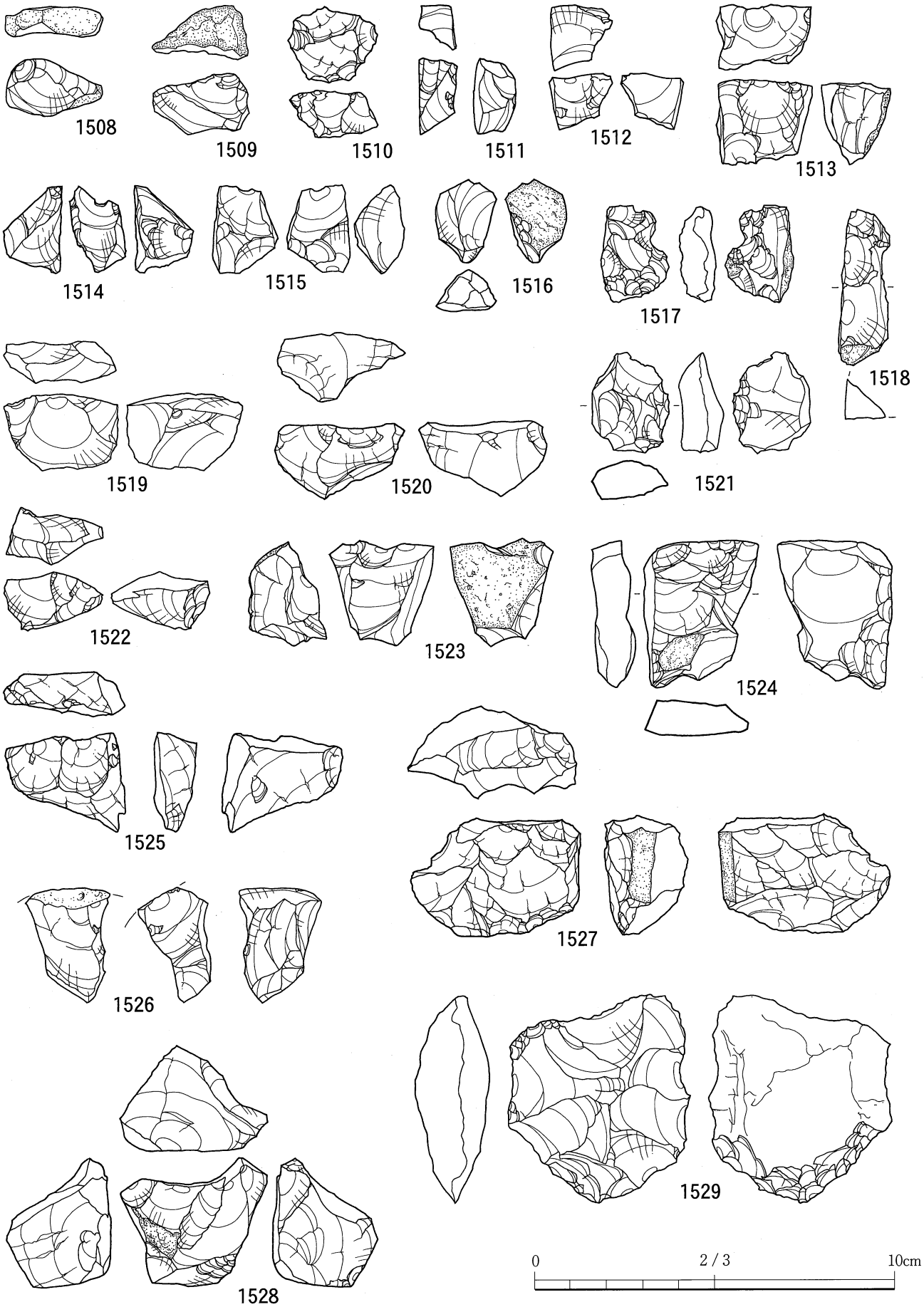
第133図　　出土土器(19)



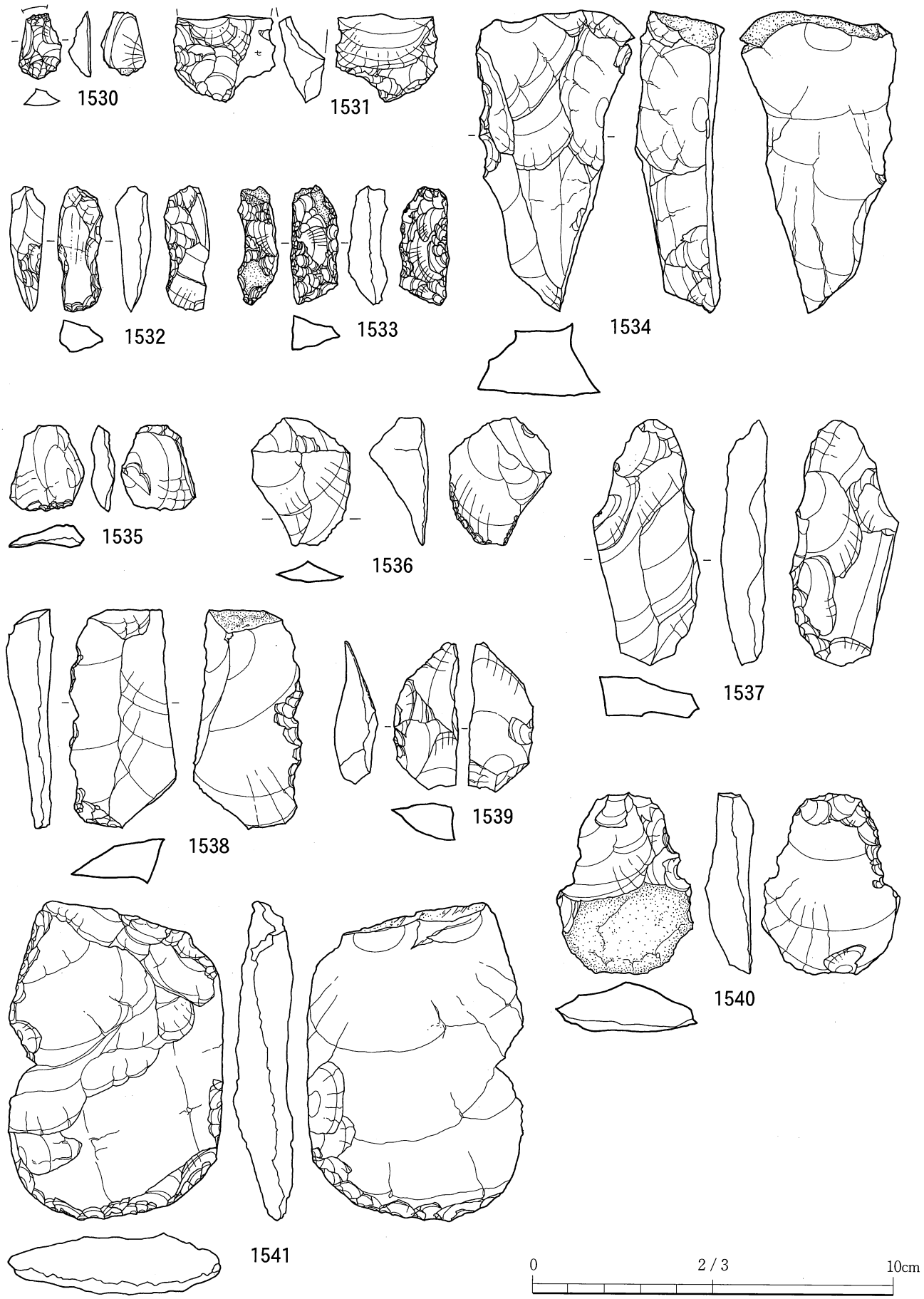
第134図　　出土土器(20)



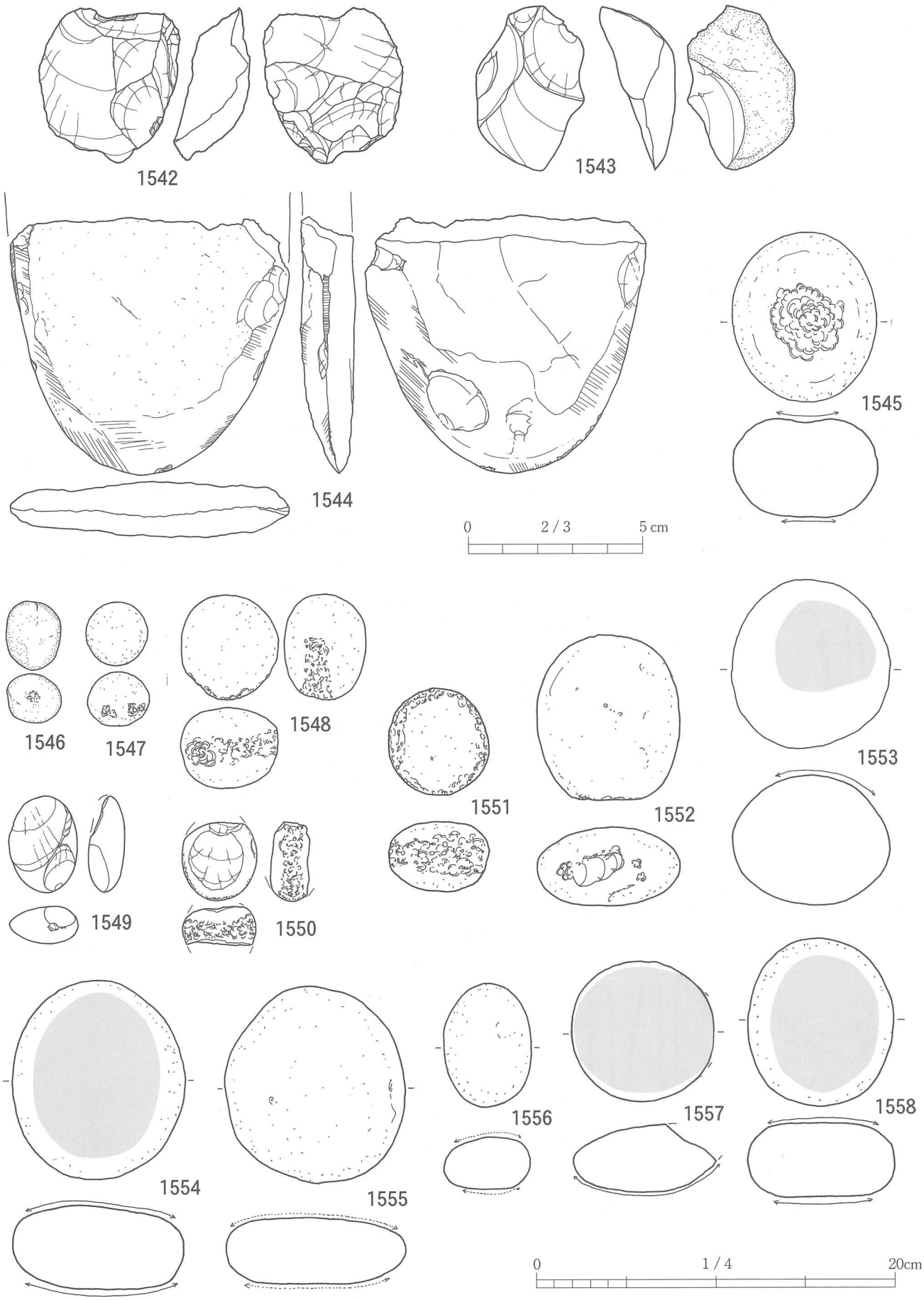
第135図　出土土器(21)



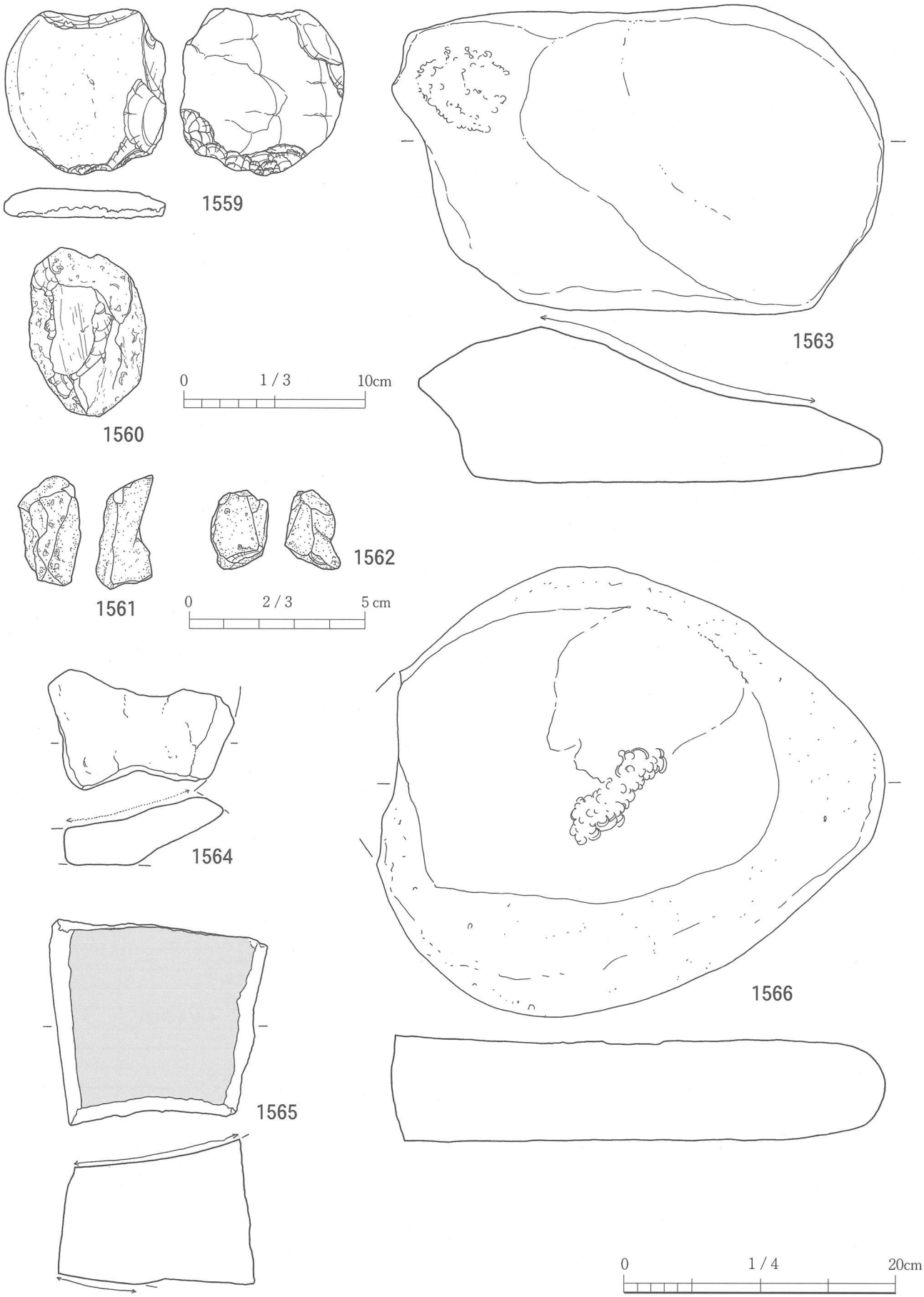
第136図　出土土器(22)



第137図　出土土器(23)



第138図　出土土器(24)



第139図　出土土器(25)

表4　石器観察表(1)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
961	Ⅸb	K14	2	細石刃	0.8	0.4	0.2	<0.1	Ob	風化顕著。西北九州系のものか。
962	Ⅸa	J14	7	細石刃	1.5	0.5	0.5	0.2	Ob	桑ノ木津留産。
963	Ⅸa	I14	2	細石刃	1.4	0.7	0.2	0.2	Ob	白色斑晶含む石材。
964	Ⅸa	J14	33	細石刃	1.1	0.7	0.2	<0.1	Ob	桑ノ木津留産。
965	Ⅸb	I14	2	細石刃	1.6	0.6	0.3	0.1	Ob	西北九州系のものか。
966	Ⅸa	I14	2	細石刃	1.5	0.7	0.3	0.2	Ob	白色斑晶含む石材。
967	Ⅸa	H20	2	石鏃	1.4	1.5	0.2	0.6	Ch	先端欠。
968	Ⅸa	K15	1	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.8	Sl	
969	Ⅸa	J14	57	掻器（接合）	—	—	—	—	Sh	10右側縁に接合。新しい折れ。
970	Ⅸb	I14	5	掻器	3.2	1.0	0.5	1.7	Sh	削器的要素もあわせ持つ。
971	Ⅸb	I14	3	削器	10.8	4.9	2.9	110.5	S	右側縁に刃部。
972	Ⅸa	I16	1	微細剥離剥片	12.0	7.7	3.2	282.7	Sl	素材の打面は礫面。
973	Ⅶ	E22	15	細石刃核	2.2	1.3	1.1	2.3	Ob	礫分割面打面。石核成形・打面調整なし。
974	Ⅸb	I15	1	細石刃核	1.8	1.5	1.0	2.4	Ob	打面調整・打面転移あり。
975	Ⅸa	J14	3	細石刃核	1.4	1.2	1.3	1.8	Ob	礫分割面打面。打面調整なし。石核成形あり。
976	Ⅶ	F22	48	細石刃核	2.0	1.5	1.6	3.2	Ob	打面調整あり。石核成形なし。
977	D	632		細石刃核	2.4	1.1	1.2	1.8	Ob	礫分割面打面。石核成形・打面調整なし。
978	Ⅶ	C20	1	細石刃核	1.8	1.2	1.0	1.9	Ob	石核成形・打面調整あり。
979	Ⅶ	E22	63	細石刃核	1.7	1.2	1.5	2.0	Ob	礫分割面打面。石核成形なし。
980	D	95		細石刃核	1.6	1.4	1.8	3.2	Ob	石核成形なし。打面を逸する。
981	Ⅶ	F22	52	細石刃核	1.8	1.8	1.7	4.6	Ob	礫分割面打面。石核成形あり。
982	D	132		細石刃核	1.5	1.2	1.3	2.2	Ob	礫分割面打面。石核成形あり。
983	Ⅸb	J14	12	細石刃核	1.6	1.6	1.3	2.8	Ob	礫打面。石核成形あり。
984	Ⅶ	E22	30	細石刃核	2.4	1.2	1.8	5.6	Ob	礫打面。打面調整あり。
985	Ⅶ	F22	48	細石刃核	2.9	1.0	2.0	5.1	Ob	打面調整・石核成形あり。
986	Ⅷ	J15	3	細石刃核	2.0	1.5	1.6	4.4	Ob	礫分割面打面。石核成形なし。
987	Ⅷ	J14	8	細石刃核	1.5	1.5	1.7	3.0	Ob	礫分割面打面。石核成形あり。
988	Ⅸb	F11	14	細石刃核	1.8	1.3	1.5	3.2	Ob	頻繁な打面転移。
989	D		368	細石刃核	2.5	1.4	1.7	5.4	Ob	礫打面。石核成形なし。
990	D		128	細石刃核	2.0	1.4	1.6	4.4	Ob	礫分割面打面。石核成形あり。
991	D		94	細石刃核	1.5	1.7	3.4	7.0	Ob	石核成形あり。白色斑晶顕著な石材。
992	Ⅷ	I14	7	細石刃核	2.2	1.0	1.5	3.2	Ob	石核成形あり。
993	Ⅸa	J14	24	細石刃核	1.6	1.3	2.0	3.4	Ob	礫分割面打面。石核成形あり。
994	Ⅸa	I15	8	細石刃核	1.5	2.5	2.1	5.4	Ob	石核成形あり。
995	Ⅸa	I15	2	細石刃核	3.0	2.0	1.9	7.0	Ob	打面調整・石核成形なし。
996	Ⅶ	F22	45	石核	2.2	2.1	1.4	3.5	Ob	細石刃核のブランクか？
997	Ⅸa	I14	9	掻器	4.2	2.9	2.0	24.3	KSh	997と同一母岩。右側面・裏面は節理面。
998	Ⅷ	J14	7	石核	3.9	4.1	3.3	52.6	KSh	998と同一母岩。
999				神子柴型石斧	11.1	4.4	3.6	135.6	Sl	
1000	Ⅸa	H14	11	剥片	1.4	2.1	0.6	1.3	Sl	
1001	Ⅸa	H14	5	剥片	2.2	1.6	0.9	1.4	Sl	
1002	Ⅸa	H14		剥片	2.8	1.3	0.4	1.3	Sl	1005→1004→1003→1002の順に剥離。
1003	Ⅸa	H14	7	剥片	3.5	1.1	0.4	1.3	Sl	1005→1004→1003→1002の順に剥離。
1004	Ⅸa	H14	6	剥片	3.7	1.7	0.5	3.0	Sl	1005→1004→1003→1002の順に剥離。
1005	Ⅸa	H14	3・4	剥片	3.5	1.7	0.6	2.2	Sl	1005→1004→1003→1002の順に剥離。
1006	Ⅸa	H14		剥片	3.8	1.5	0.5	2.1	Sl	
1007	D	23		剥片	3.1	4.5	1.2	9.4	Sl	石斧背面に接合。
1008	Ⅸa	H14	10	削器	9.1	3.3	2.3	61.8	Sl	尖頭部を意識か。
1009	Ⅶ	H9	1	石鏃	1.1	1.4	0.4	0.2	Ob	石匙の可能性あり。
1010	Ⅶ	E24	9	石鏃	1.4	1.3	0.5	0.6	Ob	背面に礫面残る。
1011	Ⅶ	K4	204	石鏃	1.2	1.4	0.6	0.6	Ob	石鏃未製品か。かなり分厚い。
1012	Ⅶ	N5	11	石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	An	左脚欠損。
1013	Ⅶ	M7	35	石鏃	1.4	1.5	0.6	0.7	Ob	先端から欠損。
1014	Ⅶ	I10	105	石鏃	1.6	1.5	0.6	1.3	Ob	石錐の可能性あり。
1015	Ⅶ	F26	35	石鏃	1.3	0.9	0.3	0.2	K	小形。
1016	Ⅶ	L9		石鏃	1.3	1.1	0.3	>0.1	Ob	表裏面に素材剥片面を残す。
1017	Ⅶ	L4	117	石鏃	1.2	1.0	0.3	0.2	Ob	先端をやや欠く。
1018	Ⅶ	L8	93	石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	Ch	右脚は欠損でない。
1019	Ⅶ	17	5	石鏃	1.3	1.3	0.3	0.3	Ob	1018に同じく、右脚は欠損でない。
1020	Ⅶ	E12	307	石鏃	1.3	1.2	0.4	0.4	Sl	先端は潰れる。
1021	Ⅶ	F11	354	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.3	Ob	完形。
1022	Ⅶ	E25	120	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	Ch	右側縁は欠損後の再加工か。
1023	Ⅶ	G22	26	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.3	Ch	うすく整形。
1024	Ⅶ	J6	47	石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	Ch	基部周辺はうすい。
1025	Ⅶ	E24	12	石鏃	1.3	1.2	0.2	0.2	Ch	うすく整形。
1026	Ⅶ	B23	14	石鏃	1.3	1.3	0.1	0.3	Ob1	完形。
1027	Ⅶ	D25	19	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	Ob	うすく整形。
1028	Ⅶ	B23	8	石鏃	1.6	1.2	0.4	0.5	Ch	

表4　石器観察表(2)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1029	Ⅶ	F15	408	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	Ob	うすく整形。
1030	Ⅶ	H6	56	石鏃	1.4	1.6	0.4	0.6	Ob	完形。
1031	Ⅶ	H17	573	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.3	Ob	不純物多い石材。完形。
1032	Ⅶ	F28	17	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	Ob	完形。
1033	Ⅶ	F21	2	石鏃	1.9	1.6	2.5	0.4	Ch	うすく整形。
1034	Ⅶ	M6	213	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	Ch	うすく整形。
1035	Ⅶ	K4	235	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.4	Ch	うすく整形。
1036	Ⅶ	I6	37	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.8	Ch	裏面に素材剥片面残す。
1037	Ⅶ	K5	306	石鏃	1.6	1.6	0.4	0.5	Ob	右脚をやや欠く。
1038	Ⅶ	F24	59	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	An	完形。
1039	Ⅶ	L7		石鏃	1.6	1.4	0.3	0.5	Ch	裏面に素材剥片面残す。
1040	Ⅶ	G11	28	石鏃	2.0	0.9	0.3	0.5	Ch	うすく整形。
1041	Ⅶ	C23	58	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.4	Ob	表裏面に素材剥片面を残す。
1042	Ⅶ	D20	11	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	K	完形。
1043	Ⅶ	E20	1	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	Sh	先端を欠損。
1044	Ⅶ	E22	26	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.6	K	完形。
1045	Ⅶ	K7	72	石鏃	1.9	1.4	0.4	0.7	K	やや分厚い断面。
1046	Ⅶ	G10	86	石鏃	1.9	1.6	0.4	0.8	An	先端は調査中に欠く。
1047	Ⅶ	K6	49	石鏃	1.6	1.7	0.4	0.6	Ob	右脚欠損。
1048	Ⅶ	G10	32	石鏃	1.5	1.7	0.4	1.6	Ch	完形。
1049	Ⅶ	G24	8	石鏃	1.8	1.7	0.6	1.2	Ob	先端・右脚欠損。
1050	Ⅶ	J6	204	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.8	S	完形。
1051	Ⅶ	F27	4	石鏃	1.6	1.1	0.4	0.4	Ch	先端をやや欠く。
1052	Ⅶ	F26	60	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	Ch	側縁はやや鋸歯状。
1053	Ⅶ	L11	1	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.7	Ch	抉り深い。完形。
1054	Ⅶ	F16	709	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.6	Sl	風化著しい。
1055	Ⅶ	F10	133	石鏃	2.1	2.0	0.5	1.4	An	完形。
1056	Ⅶ	C22	6	石鏃	2.2	1.8	0.4	1.4	Ch	先端から欠損。左脚を欠く。
1057	Ⅶ	K5	98	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.5	Ch	右脚欠損。
1058	Ⅶ	J7	8	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	Ch	背面中央にこぶを残す。
1059	Ⅶ	F28	15	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.6	Ch	抉り深い。うすく整形。
1060	Ⅶ	15	82	石鏃	2.3	1.5	0.4	0.9	Ob	右脚欠損。
1061	Ⅶ	J6	100	石鏃	1.7	1.4	0.2	0.5	Ch	先端をやや欠く。
1062	Ⅶ	K6	53	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	Ob	左側縁は調査中に欠く。
1063	Ⅶ	H7/8		石鏃	2.4	2.1	0.4	1.4	Ob	表裏面に素材剥片面を残す。
1064	Ⅶ	H17	568	石鏃	2.6	1.7	0.4	0.9	An	先端は潰れる。
1065	Ⅶ	F15	414	石鏃	2.6	1.8	0.7	2.4	An	左脚欠損。
1066	Ⅶ	G24	7	石鏃	2.9	1.7	0.5	1.9	An	完形。
1067	Ⅶ	H15	628	石鏃	2.9	1.9	0.6	2.3	An	完形。
1068	Ⅶ	F13	291	石鏃	1.5	1.7	0.4	1.3	Sl	先端から欠損。
1069	Ⅶ	F30	5	石鏃	3.6	2.1	0.6	2.5	Sl	右脚欠損。
1070	Ⅶ	K12	4	石鏃	3.7	1.8	0.5	1.6	Sh	両側縁は鋸歯縁。
1071	Ⅶ	I8	18	石鏃	3.4	2.1	0.4	2.1	Ch	表裏面ともに研磨あり。
1072	Ⅶ	B25	2	石鏃	3.4	1.3	0.4	1.3	K	帖地型石鏃Aタイプ。
1073	Ⅶ	D21	41	石鏃	5.2	2.1	0.4	3.4	Ch	先端を欠損。帖地型石鏃Aタイプか。
1074	Ⅶ	L4	65	石鏃	1.1	1.1	0.2	0.2	Ch	素材剥片形状をそのまま活かす。
1075	Ⅶ	G22	16	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.4	Ch	剥片か。
1076	Ⅶ	I9	4	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	Ob	うすく整形。
1077	Ⅶ	C23	43	石鏃	1.8	1.6	0.3	0.5	Obl	裏面に素材剥片面残す。
1078	Ⅶ	N4	24	石鏃	2.1	1.6	0.5	1.3	KSl	裏面に素材剥片面残す。
1079	Ⅶ	L10	30	石鏃	2.3	1.9	0.3	1.3	Hl	裏面に素材剥片面残す。整形加工も粗い。
1080	Ⅶ	C23	9	石鏃	2.2	1.4	0.4	0.9	KSh	先端・右脚欠損。
1081	Ⅶ	F30	2	石鏃	2.1	1.4	0.5	0.5	Ob	素材剥片を折断後、基部の抉りと先端周辺のみ整形。
1082	Ⅶ	G9	193	石鏃	2.2	1.6	0.4	1.0	Sh	裏面に素材剥片面残す。
1083	Ⅶ	F21	12	石鏃	2.4	2.2	0.7	3.0	Ch	粗い整形で、歪んだ形態。石鏃未製品か。
1084	Ⅶ	D20	129	石鏃	2.3	2.0	0.5	1.7	Ob	尖頭状石器か。
1085	Ⅶ	K4	131	石鏃	2.1	1.3	0.3	0.6	Sh	表裏面ともに研磨あり。両側縁は粗い鋸歯状。
1086	Ⅶ	K5	429	石鏃	2.2	2.1	0.5	1.5	Ch	裏面に素材剥片面残す。
1087	Ⅶ	E23	20	石鏃	3.1	1.7	0.5	1.7	Ob	素材剥片面の歪みを修整する格好で整形。
1088	Ⅶ	L10	16	石鏃	3.0	2.0	6.5	3.8	KSh	素材剥片の周縁にのみ整形。
1089	Ⅶ	E19		石鏃	2.8	1.8	0.5	1.6	Sh	裏面は素材剥片面。
1090	Ⅶ	H6	77	石鏃	1.3	1.0	0.4	0.3	Ob	先端のみ残存。右方向より欠損。
1091	Ⅶ	J5	5	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	Ch	両脚欠損。
1092	Ⅶ	N4		石鏃	1.3	1.2	0.3	0.6	Ch	先端・両脚欠損。
1093	Ⅶ	F28	19	石鏃	1.4	1.5	0.6	0.7	Ch	背面中央にこぶ残す。石鏃未製品か。
1094	Ⅶ	I6	12	石鏃	1.3	1.2	0.4	0.5	Ob	両脚欠損。先端は尖らない。
1095	Ⅶ	L10	26	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.6	Obl	先端のみ残存。
1096	Ⅶ	E28	9	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.7	K	左脚欠損。

表４　石器観察表(3)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1097	Ⅶ	H16	1	石鏃	1.9	1.6	0.3	0.5	Ch	基部側を欠損。石器周縁に細かな加工。
1098	Ⅶ	J4	46	石鏃	1.0	1.3	0.3	0.3	Ob	基部側のみ残存。欠損は先端方向から。
1099	Ⅶ	H9	3	石鏃	0.9	1.4	0.5	0.5	Ob	基部のみ残存。分厚い。
1100	Ⅶ	O4	12	石鏃	1.1	1.7	0.7	0.7	Ob	先端欠損。分厚い。
1101	Ⅶ	H11	8	石鏃	2.0	1.1	0.7	1.3	Ch	分厚い。石鏃未製品か。
1102	Ⅶ	C23	7	石鏃	1.4	1.5	0.3	0.5	Ob	先端欠損。
1103	Ⅶ	G16	5	石鏃	1.4	1.5	0.3	0.5	Ch	先端から欠損。
1104	Ⅶ	F25	66	石鏃	1.1	1.7	0.3	0.4	Ob1	脚部のみ残存。
1105	Ⅶ	L6	66	石鏃	1.4	1.5	0.6	0.8	Ob	先端欠損。
1106	Ⅶ	E24	45	石鏃	1.3	0.9	0.3	0.3	Ob	左脚のみ残存。
1107	Ⅶ	E22	45	石鏃	1.3	1.1	0.3	0.3	K	先端のみ残存。
1108	Ⅶ	E23	41	石鏃	1.2	1.5	0.2	0.5	Ch	先端欠損。
1109	Ⅶ	C23	63	石鏃	1.5	1.1	0.2	0.4	Ch	左脚のみ残存。抉りのない石鏃。
1110	Ⅶ	F30	9	石鏃	1.6	1.7	0.5	1.0	Ch	左脚のみ残存。大形の石鏃か。
1111	Ⅶ	K7	62	石鏃	1.3	1.0	0.4	0.5	Ch	胴部半分のみ残存。
1112	Ⅶ	M5	30	石鏃	1.8	1.7	0.8	2.1	Ch	先端欠損。分厚く、石鏃未製品か。
1113	Ⅶ	F25	84	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.6	Ch	両脚欠損。
1114	Ⅶ	K9	56	石鏃	1.4	1.5	0.4	0.7	Ch	先端から大きく剥離。
1115	Ⅶ	O3	7	石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	Ob	先端・両脚欠損。
1116	Ⅶ	E28	15	石鏃	1.7	1.6	0.3	0.6	Ob	先端欠損。裏面には素材剥片面残す。
1117	Ⅶ	I6	10	石鏃	1.9	1.5	0.5	0.7	Ob1	右脚欠損。両側縁はやや鋸歯状。
1118	Ⅶ	E14	284	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.8	An	右脚欠損。
1119	Ⅶ	K4	406	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.5	Ch	左脚欠損。
1120	Ⅶ	C24	10	石鏃	2.1	1.8	0.3	0.6	Ch	先端・左脚欠損。
1121	Ⅶ	L7	Nベ	石鏃	1.9	1.6	0.6	1.2	Ob	左脚欠損。分厚い。
1122	Ⅶ	H6	30	石鏃	2.0	1.8	0.3	0.6	Ob2	両脚欠損。
1123	Ⅶ	I5	61	石鏃	2.0	1.5	0.5	1.0	Ob	右脚欠損。先端をやや欠く。
1124	Ⅶ	M6	77	石鏃	2.3	1.8	0.6	1.6	Ch	右脚は節理で欠く。
1125	Ⅶ	D27	1	石鏃	2.2	1.6	0.4	1.0	K	帖地型石鏃Ｂタイプか。
1126	Ⅶ	K7	62	石鏃	2.4	1.7	0.4	1.5	Ch	先端かtら左身を大きく欠損。
1127	Ⅶ	F11	99	石鏃	2.3	1.8	0.6	1.3	Ch	先端から欠損。
1128	Ⅶ	I5	60	石鏃	2.3	1.3	0.3	0.5	Ch	先端・右脚欠損。
1129	Ⅶ	C24	23	石鏃	2.1	1.0	0.4	0.6	Ch	先端から右身を欠損。欠損は先端側から。
1130	Ⅶ	M4	232	石鏃	2.8	1.3	0.5	0.6	KSh	欠損は節理に沿って生じる。
1131	Ⅶ	G15	5	石鏃	2.4	1.3	0.4	0.8	Ch	先端から左身を欠損。欠損は先端側から。
1132	Ⅶ	I4	40	石鏃	2.1	2.2	0.6	2.8	Ch	両脚欠損。石鏃未製品か。
1133	Ⅶ	F14	641	石鏃	2.4	1.1	0.5	0.7	Ch	左脚のみ残存。欠損は先端側から。
1134	Ⅶ	G15	9	石鏃	2.4	1.0	0.4	0.6	Ch	先端から右身を欠損。欠損は抉り側から。
1135	Ⅶ	O4	19	石鏃	2.3	1.8	0.6	1.9	Ch	右脚欠損。分厚く、石鏃未製品か。
1136	Ⅶ	G24	26	石鏃	2.5	1.8	0.5	1.7	An	先端・右脚欠損。
1137	Ⅶ	M7		石鏃	2.8	2.2	0.5	2.3	Ch	先端・両脚欠損。
1138	Ⅶ	J9	19	石鏃	3.1	2.1	0.6	1.8	Ch	右脚欠損。
1139	Ⅶ	H17	563	石鏃	3.9	1.7	0.4	2.0	An	右脚は調査中に欠損。
1140	Ⅶ	I10	27	石鏃未製品	1.3	1.2	0.7	0.8	Ob	石鏃製作の早い工程で、先端付近で欠損したものか。
1141	Ⅶ	L4	184	石鏃未製品	1.9	1.7	0.8	1.8	Ob1	基部周辺は分厚い。尖頭状石器か。
1142	Ⅶ	K？	201	石鏃未製品	2.2	2.1	0.9	3.9	Ch	製作の早い工程か。
1143	Ⅶ	K4	302	石鏃未製品	2.8	2.4	1.0	5.3	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1144	Ⅶ	F23	34	石鏃未製品	1.6	1.4	0.5	0.9	K	尖頭部の作出は明確でない。
1145	Ⅶ	I5	64	石鏃未製品	1.8	1.7	0.9	2.5	Ch	背面の厚みを減じきれなかったか。尖頭部未作出。
1146	Ⅶ	K7	60	石鏃未製品	2.2	1.3	0.7	1.5	Ch	右側縁を欠損する。
1147	Ⅶc	24	18	石鏃未製品	2.1	1.9	0.6	2.0	Ch	分厚い。
1148	Ⅶ	L4	94	石鏃未製品	2.9	2.2	1.0	4.8	Ch	尖頭状石器か。
1149	Ⅶ	K4	407	石鏃未製品	2.9	2.2	1.1	5.2	Ch	石器全体に厚薄の差が目立つ。
1150	Ⅶ	M4	25	石鏃未製品	2.4	1.2	0.7	1.3	Ob1	右側面を欠損。
1151	Ⅶ	K4	250	石鏃未製品	3.0	1.7	0.6	2.7	Ch	左側面を欠損。右側縁も作出まだ。
1152	Ⅶ	K6	210	石鏃未製品	3.4	2.0	0.8	4.5	Ch	左側面は素材剥片面のまま。左側より整形開始。
1153	Ⅶ	E20	7	石鏃未製品	3.6	2.4	0.8	5.6	KSh	周縁からのわずかな加工のみ。
1154	Ⅶ	E20	7	石鏃未製品	2.7	1.4	0.9	2.3	K	左側面は欠損する。
1155	Ⅶ	K4	383	石鏃未製品	2.2	1.8	0.6	2.2	Ch	先端と基部の抉り周辺に簡単に加工。
1156	Ⅶ	E26	107	石鏃未製品	2.7	1.7	1.0	4.6	Ch	粗く成形の工程。
1157	Ⅶ	N4	58	石鏃未製品	3.6	2.4	1.2	5.4	Ch	尖頭部の作出中に製作中止。
1158	Ⅶ	E22	20	石鏃未製品	2.1	1.4	0.6	1.4	Ob1	左側は素材剥片面のまま。
1159	Ⅶ	E22	20	石鏃未製品	2.7	2.0	0.6	4.2	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1160	Ⅶ	E22	43	石鏃未製品	2.8	2.2	0.9	4.2	Sh	右側縁を欠損する。
1161	Ⅶ	G24	17	石鏃未製品	2.5	1.9	0.7	3.2	An	先端・基部の作出明確でなく、また分厚い。
1162	Ⅶ	E24	42	石鏃未製品	2.2	3.0	0.8	6.0	Ob	石核の可能性あり。
1163	Ⅶ	G26	9	石鏃未製品	3.2	2.5	0.7	4.5	KSh	右側縁に表裏面から整形。
1164	Ⅶ	L8	32	石鏃未製品	3.8	2.4	1.3	9.4	Ch	かなり分厚い。

表4　石器観察表(4)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1165	Ⅶ	I8	115	石鏃未製品	3.3	2.5	0.9	5.3	Ch	尖頭部の位置は決定。周縁からの粗い整形のみ。
1166	Ⅶ	E23	13	石鏃未製品	2.5	2.4	1.0	4.6	Ch	先端を欠損。石中央が甲高いことから未製品とした。
1167	Ⅶ	F19	4	石鏃未製品	3.4	2.6	1.3	9.9	KSh	周縁からの粗い整形のみ。
1168	Ⅶ	F19	6	石鏃未製品	2.4	2.1	0.7	3.1	Ch	周縁からの加工で平面円形に成形。
1169	Ⅶ	F29	2	石鏃未製品	2.9	2.1	0.6	3.8	K	周縁からの加工で平面楕円形に成形。
1170	Ⅶ	J6		石鏃未製品	2.8	2.3	1.0	6.4	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1171	Ⅶ	D24	41	石鏃未製品	3.2	1.8	0.6	2.3	Sh	製品の可能性あり。裏面に素材剥片面残す。
1172	Ⅶ	F25	59	石鏃未製品	2.5	2.0	1.3	5.5	Ch	かなり分厚い。石核の可能性あり。
1173	Ⅶ	L4	94	石鏃未製品	3.1	2.1	1.4	7.7	Ch	周縁から粗く成形のみ。かなり分厚い。
1174	Ⅶ	L4	196	石鏃未製品	2.0	2.5	0.9	2.9	Ch	先端部のみ残存。周縁からの粗い加工のみ。
1175	Ⅶ	D25	65	石鏃未製品	2.9	2.2	1.0	5.1	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1176	Ⅶ	M7	Nベ	石鏃未製品	3.4	2.3	0.9	5.7	Ch	図の左が最終的に尖頭部となるか。
1177	Ⅶ	F28	21	石鏃未製品	3.4	3.3	1.6	12.1	Ch	周縁からの粗い加工のみ。石核か。
1178	Ⅶ	E12	731	礫器	11.1	8.7	2.9	370.0	S	扁平礫素材。裏面からのみ加工。
1179	Ⅶ	M4	150	礫器	8.2	7.2	2.9	200.0	Os	礫分割剥片に粗い加工。
1180	Ⅶ	J6	88	礫器	13.5	8.5	4.8	560.0	S	尖頭部を有する。鈍重な石器。
1181	Ⅶ	N7	Nベ	礫器	11.8	9.4	2.6	300.0	Os	礫片端部に粗い加工。礫面の硬度を利用か。
1182	Ⅶ	K6	ベ	礫器	11.3	9.4	5.2	641.7	Sh	下端にチョッパー状の刃部。
1183	Ⅶ	F28	5	舟底状石器	2.3	0.9	0.7	0.9	Ob	裏面は礫面。小形。
1184	Ⅶ	M7	118	石錐	2.6	1.5	1.1	3.0	Ob	錐部を欠損する。
1185	Ⅶ	E22	22	石錐	2.3	1.7	0.5	1.6	Ch	錐部断面は菱形。素材剥片形状をそのまま活かす。
1186	Ⅶ	I5	14	舟底状石器	2.8	1.1	0.9	2.2	Ob	断面は三角形。
1187	Ⅶ	K4	105	二次加工剥片	1.3	1.7	0.6	1.0	Ch	背面の稜は摩滅か？
1188	Ⅶ	E13	724	二次加工剥片	3.4	1.3	0.6	1.6	Ob2	上に向かって尖頭部を意識か。
1189	Ⅶ	J8		二次加工剥片	6.8	3.3	2.0	29.9	Sh	ピック状。
1190	Ⅶ	M7	78	二次加工剥片	4.0	3.3	1.0	12.2	Sh	下縁に数回の剥離あり。
1191	Ⅶ	F12	93	剥片	4.0	1.2	1.0	2.5	Ob	石核の打面再生または打面作出に伴うものか。
1192	Ⅶ	E13	294	微細剥離剥片	3.4	4.4	1.3	16.4	Ob2	上縁に微細剥離。
1193	Ⅶ	N4	91	水晶	2.0	2.3	2.0	10.0	Q	六角柱の結晶。稜は摩滅する。
1194	Ⅶ	D25	57	二次加工剥片	6.0	2.8	1.0	19.5	Sh	裏面左側縁にわずかに加工あり。
1195	Ⅶ	E22	10	二次加工剥片	3.7	2.3	0.8	7.6	Sh	
1196	Ⅶ	J5	83	微細剥離剥片	6.4	4.0	1.1	16.3	Sh	両側縁に微細剥離。
1197	Ⅶ	G10	189	剥片	4.9	3.3	1.1	13.4	KSh	1198・1199と接合
1198	Ⅶ		186	削器	5.6	4.8	0.6	17.2	KSh	1199と接合。左側縁に刃部。
1199	Ⅶ		190	削器	—	—	—	—	KSh	1197と接合。
1200	Ⅶ	I7	14	石匙	1.2	1.3	0.2	<0.1	Ob	右側縁のつまみは折断により作出する。
1201	Ⅶ	K6	24	石匙	2.0	1.1	0.3	0.5	Ob	つまみは明確に作出される。両側縁は折断により整形。
1202	Ⅶ	J7	88	石匙	1.5	2.4	0.5	1.1	Ob	何らかの調整剥片を利用か。
1203	Ⅶ	J4	149	石匙	2.4	1.3	0.4	1.1	Ob	下端を尖らす意図か。
1204	Ⅶ	K5	32	石匙	2.2	1.3	0.2	1.1	Ch	小形の縦長剥片素材。下端は尖る。
1205	Ⅶ	E12	307	石匙	2.1	1.7	0.5	1.2	An	つまみは明確に作出される。
1206	Ⅶ	G16	2	石匙	2.8	1.2	0.4	1.4	Ob	左側縁は折断面から加工。
1207	Ⅶ	K6	104	楔形石器	2.5	1.4	0.7	1.8	Ob	右側縁に背面側から数回の剥離がある。
1208	Ⅶ	K8	37	掻器	1.4	1.4	0.6	0.7	Ob	器長のわりに分厚い刃部。
1209	Ⅶ	F14	269	石匙	3.6	3.2	0.7	6.3	An	
1210	Ⅶ	F15	425	石匙	3.4	3.4	0.9	8.4	An	下端の加工はやや粗い。
1211	Ⅶ	H7	96	掻器	1.6	1.3	0.6	0.8	Ch	小形。
1212	Ⅶ	G10	188	掻器	1.9	1.3	0.6	1.1	An	
1213	Ⅶ	K7		掻器	2.1	2.2	0.9	4.8	Ch	分割された剥片素材。
1214	Ⅶ	F19	2	掻器	3.0	2.8	1.2	9.2	Ch	
1215	Ⅶ	K12	16	尖頭器	4.7	2.4	1.1	12.1	An	上半部のみ残存。断面は分厚いレンズ形。
1216	Ⅶ	F20	4	石鏃	1.9	0.9	0.3	0.4	K	帖地型石鏃Aタイプ。小形。
1217	Ⅶ	F28	18	尖頭器	2.7	1.4	0.4	1.8	Sh	下半を欠損。裏面に素材剥片面を残す。周縁に細かい加工。
1218	Ⅶ	K4	231	尖頭器	8.9	2.1	1.0	15.2	An	上半は下半に比べ薄い。
1219	Ⅶ	K5	220	尖頭器	7.6	3.8	1.2	33.6	Ch	周縁より整形。先端を欠く。便宜上尖頭器に分類した。
1220	Ⅵ/Ⅶ	L5		削器	1.8	1.3	0.5	0.6	Ch	尖頭部を作出。
1221	Ⅶ	I7	101	削器	2.3	1.7	0.6	2.0	Ob	周縁を楕円形に整形。
1222	Ⅶ	F21	42	削器	3.0	2.1	0.7	3.5	Sh	尖頭状石器か。
1223	Ⅶ	N6	1	削器	3.2	2.6	1.1	9.0	Ch	右側縁に粗い加工による刃部を作出。
1224	Ⅶ	K5	47	削器	2.6	1.6	0.6	2.2	Ch	左下に抉り状の加工。
1225	Ⅶ	B21	1	削器	2.5	1.6	0.7	2.2	Ob	下端は欠損。右側縁に刃部。
1226	Ⅶ	H16	2	削器	2.5	2.3	1.2	5.5	Os	左側縁に刃部。
1227	Ⅶ	F16	506	削器	2.5	2.3	0.8	3.3	An	右側縁に刃部。
1228	Ⅶ	F14	590	削器	2.2	1.8	0.4	1.8	Ob	下端は掻器状の加工。
1229	Ⅶ		353	削器	2.2	2.1	0.5	1.6	Ob2	薄手の剥片素材。加工は細かい。
1230	Ⅶa	MS	ベ	削器	3.5	1.8	0.8	4.0	Ob	下に向かって尖頭部を作出。
1231	Ⅶ	N4	130	削器	4.1	3.7	0.9	15.2	Ch	下縁に刃部を設定。
1232	Ⅶ	K7	103	削器	3.7	2.5	1.4	11.4	Ch	右側縁に刃部。

表4　石器観察表(5)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1233	Ⅶ	H17	566	削器	5.1	2.3	1.0	12.8	S	右側縁は節理？左側縁の刃縁が刃部か。
1234	Ⅶ	B23	6	削器	4.0	3.2	1.9	17.9	Ch	
1235	Ⅶ	C24	27	削器	4.2	2.6	1.0	8.6	Rh	石鏃未製品か。
1236	Ⅶ	H6	29	削器	4.4	3.0	1.0	12.9	An	下端は欠損。尖頭器状の石器の失敗か。
1237	Ⅶ	B24	41	削器	4.0	3.7	1.1	13.2	Ch	下縁に刃部を設定。周縁は折り取りで成形。
1238	Ⅶ	K5	143	削器	4.8	4.9	1.7	33.3	S	側縁から下縁にかけて刃部を設定。
1239	Ⅶ	K4	211	削器	5.2	6.4	9.0	38.7	Sh	素材剥片末端に刃部を設定。
1240	Ⅶ	K7	Nベ	石核	1.1	2.1	1.3	2.8	Ch	わずかに打面調整あり。小形剥片を剥離。
1241	Ⅶ	J4	69	石核	1.6	2.2	1.1	2.5	Ob1	小形剥片を剥離。
1242	Ⅶ	D23	41	石核	2.0	2.0	1.3	3.4	Ob	礫打面。小形の縦長剥片を剥離。
1243	Ⅶ	E22	16	石核	2.0	2.0	1.7	6.2	Ob	打面調整はない。細石刃様の小形縦長剥片を剥離。
1244	Ⅶ	I10	4	石核	2.5	1.2	1.4	2.4	Ch	打面調整はない。不定形剥片を剥離。
1245	Ⅶ	D27	4	石核	1.8	1.7	1.0	2.3	Ob	表裏面は同時に剥離か。打面は点状。
1246	Ⅶ	F25	85	石核	2.1	2.0	1.0	3.6	Ch	周縁から中心に向かって、小形の不定形剥片を剥離。
1247	Ⅶ	E22	25	石核	2.8	2.5	1.6	8.4	K	単一打面。縦長に近い不定形剥片を剥離。
1248	Ⅶ	F23	19	石核	2.7	1.4	1.3	3.3	Ob	複数の打面。縦長・不定形剥片を剥離。
1249	Ⅶ	I5	23	石核	3.1	1.3	1.0	3.8	Ob	1249に同じ。
1250	Ⅶ	C21	3	石核	2.8	2.7	1.3	9.0	Ob1	不定形剥片を剥離。
1251	Ⅶ	E13	293	石核	4.3	2.5	1.5	11.2	Ob2	不定形剥片を剥離。
1252	Ⅶ	E22	18	石核	2.9	1.3	1.2	3.8	Ob	細石刃核の可能性あり。
1253	Ⅶ	C21	4	石核	2.7	1.9	1.3	6.1	Ob1	打面と作業面を入れ替えて剥離。チョッパー状の残核。
1254	Ⅶ	E13	295	石核	3.8	1.8	1.3	5.8	Ob2	複数の打面。不定形剥片を剥離。
1255	Ⅶ	L10	17	石核	1.6	3.3	1.7	6.5	Ob1	先行剥離面が打面。不定形剥片を剥離。
1256	Ⅶ	F28	23	石核	3.0	2.4	1.4	7.5	Ch	周縁から中心に向かって不定形剥片を剥離。
1257	Ⅶ	E13	298	石核	3.2	2.2	1.5	5.3	Ob2	不定形剥片を剥離。
1258	Ⅶ	E20	9	石核	5.5	3.6	2.1	35.9	Sh	不定形剥片を剥離。
1259	Ⅶ	D20	2	石核	1.9	1.3	2.5	7.6	Ob	小形角礫素材。剥離は１回のみ。
1260	Ⅶ	F22	51	石核	2.6	3.5	2.4	20.5	Sl	風化著しく、切り合い不明確。不定形剥片剥離か。
1261	Ⅶ	D26	8	石核	4.4	2.0	0.9	1.2	K	打面調整なし。縦長に近い不定形剥片を剥離。
1262	Ⅶ	M6	Nベ	石核	6.0	7.0	2.9	133.8	S	下面は礫面。不定形剥片を剥離。
1263	Ⅶ	F25	7	石核	5.2	2.8	2.7	24.2	Ob1	打面調整はほとんどない。不定形剥片を離。
1264	Ⅶ	F19	1	石核	4.1	4.1	1.6	20.9	KSl	不定形剥片を剥離。削器として転用か。
1265	Ⅶ	K6	47	石核	3.6	4.8	3.1	51.5	K	複数の打面。不定形剥片を剥離。
1266	Ⅶ	M5	10	石核	4.4	2.9	1.5	15.1	Ch	剥片素材。不定形剥片を剥離。
1267	Ⅶ	C23	10	石核	5.7	3.7	2.2	45.6	Sh	作業面を打面とする。小形の不定形剥片を剥離。
1268	Ⅶ	D25	49	石核	3.9	3.5	2.1	16.3	Ob1	打面は固定されない。不定形剥片を剥離。
1269	Ⅶ	M8	75	石核	17.7	4.5	3.0	121.6	Sh	円礫素材。分割面から大形の縦長剥片を剥離。
1270	Ⅶ	H7	106	石核	4.7	5.0	3.3	37.8	Sl	不定形剥片を剥離。
1271	Ⅶ	E15	388	石核	9.0	6.3	5.4	310.2	S	剥離面は石材の影響か明確でない。縦長に近い不定形剥片を剥離か。
1272	Ⅶ	F12	369	石核	10.5	7.4	3.7	235.0	S	扁平礫を輪切りにする格好で、縦長に近い不定形剥片を剥離する。
1273	Ⅶ	L8	74	異形石器	2.2	1.3	0.7	1.3	Ob	分厚い断面。
1274	Ⅶ	J6	72	異形石器	2.2	2.9	0.6	2.3	Ob	背面に研磨か。
1275	Ⅶ	J6	48	異形石器	3.7	3.0	0.6	4.4	Ch	
1276	Ⅷ	E19		二次加工剥片	2.2	1.9	0.8	2.4	Ch	石鏃未製品か。
1277	Ⅷ	E19		二次加工剥片	2.7	1.3	0.6	1.4	Ch	裏面下端に加工あり。
1278	Ⅷ	J14	21	二次加工剥片	1.1	1.8	1.7	2.2	Ob	石核か。
1279	Ⅷ	I7	1	二次加工剥片	8.6	4.1	2.1	39.1	Sh	右側縁に加工あり。
1280	Ⅶ	G27	25	磨製石斧	9.9	3.7	1.5	73.9	Hl	風化著しく、剥離の切り合い・研磨など不明確。
1281	Ⅶ	H8	4	磨製石斧	8.8	7.0	2.4	100.0	S	分割礫素材。正面には成形に伴う敲打痕が残る。
1282	Ⅶ	G3	7	環状石斧	12.0	8.4	2.8	341.9	S	周縁は丸みを帯びる。欠損部周辺は赤化する。
1283	Ⅶ	K4	206	敲石	6.3	5.7	3.2	166.8	Os	上下端に顕著な敲打痕。
1284	Ⅶ		727	敲石	3.5	4.2	3.5	155.6	S	上下端は敲打により面をなす。
1285	Ⅶ	F25	99	敲石	12.0	3.6	4.2	318.5	S	敲打痕は明確でない。
1286	Ⅶ	J6		敲石	9.7	7.8	4.6	490.2	S	下端に敲打痕。全体に赤変。
1287	Ⅶ	E22	24	敲石	7.3	9.3	4.7	429.5	S	下端に弱い敲打痕。
1288	Ⅶ	E27	113	敲石	13.2	6.1	4.1	504.4	S	下端に弱い敲打痕。
1289	Ⅶ	G16	716	敲石	10.1	5.2	4.0	321.5	S	下端に弱い敲打痕。
1290	Ⅶ	J6		磨石	6.9	5.6	3.7	197.5	S	表裏面に磨痕。
1291	Ⅶ	F11	355	磨石	9.3	6.3	4.2	331.2	S	表裏面ともに弱い磨痕。
1292	Ⅶ	K6	122	磨石	10.1	8.8	5.3	693.7	S	表裏面に磨痕。
1293	Ⅶ	I7	50	磨石	10.4	7.5	5.0	539.7	S	全体に赤変。表面に弱い敲打痕。
1294	Ⅶ	K5	116	磨石	10.4	7.8	4.7	598.2	Os	自然礫の可能性あり。
1295	Ⅶ	M7	7	磨石	9.8	8.8	4.9	647.3	Os	表面に磨痕。周縁に敲打痕の可能性あり。
1296	Ⅶ	E19	1	磨石	11.9	11.9	4.4	914.3	S	表裏面に磨痕。
1297	Ⅶ	F30	4	凹石	11.4	8.4	4.1	601.0	S	表面に磨痕あり。磨痕を切って、弱い凹み。
1298	Ⅶ	J5	191	凹石	11.0	9.1	5.9	818.4	S	表面に弱い凹み。
1299	Ⅶ	J5	192	凹石	11.4	8.4	4.0	634.2	S	表面に強い凹み、裏面に弱い凹み。
1300	Ⅶ	P48	104	台石	15.1	15.1	5.6	1148.4	S	欠損著しい。表面に大きな凹み。

表4　石器観察表(6)

図No	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1301	Ⅶ	C25	3	石皿	27.3	20.9	5.0	5000.0	S	表面にゆるい凹み。
1302	Ⅶ	B23	4	台石	10.5	9.1	6.0	3000.0	S	表面はやや摩滅するか。
1303	Ⅶ	H2		石皿	20.4	33.6	6.8	6000.0	S	表面に黒色の付着物あり。
1304	Ⅶ	G10	158	石皿	26.5	27.0	8.3	10000.0	S	表面に局所的な磨痕とアバタ状の潰れあり。
1305	Ⅶ	L5/5	3	石皿	23.4	29.2	6.7	6.5	S	表面に黒色の付着物あり。
1306	Ⅵb	K7	17	石鏃	1.1	1.4	0.5	0.3	Ob	分厚い。
1307	Ⅵ	H10	23	石鏃	1.1	1.3	0.4	0.2	Ob	不定形剥片素材。
1308	Ⅵb	L6	439	石鏃	1.2	1.4	0.4	0.3	Ob	石匙か？
1309	Ⅵ	J7	73	石鏃	1.4	1.1	0.4	0.3	Ob	基部にこぶが残る。
1310	Ⅵb	L5	1233	石鏃	1.2	1.1	0.3	>0.1	Ob	小形。
1311	Ⅵb	J7	26	石鏃	1.3	1.4	0.4	0.5	Ch	石匙か？
1312	Ⅵb	L6	12	石鏃	1.2	0.8	0.3	0.2	Ob	不定な整形。
1313	Ⅵb	K4	282	石鏃	1.3	1.3	0.4	0.4	Ob	先端から欠損。
1314	Ⅵb	N4	157	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.5	Ch	
1315	Ⅵ	H9	90	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.4	Ch	右脚欠損。
1316	Ⅵ	I9	31	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.4	Ob1	右脚欠損。
1317	Ⅵ	E24	50	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	Ch	
1318	Ⅵb	I8	18	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	Ob1	
1319	Ⅵb	M10	6	石鏃	1.3	1.5	0.4	0.3	Ob1	
1320	Ⅵ	J5	31	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.5	Ob1	右脚は欠損でない。
1321	Ⅵa	K5	9	石鏃	1.4	1.4	0.3	0.2	An	両脚欠損。
1322	Ⅵ	K5	11	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.3	Ob1	両側縁はやや鋸歯をする。
1323	Ⅵ	G9	4	石鏃	1.6	1.4	0.5	0.5	Ob	
1324	Ⅵ	J3	52	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.5	Ch	右脚は欠損でない。
1325	Ⅵa	J5	62	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.3	Ob1	左脚欠損。
1326	Ⅵ	J4	79	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	Ch	裏面は先端から剥離。
1327	Ⅵ	K5	4	石鏃	1.4	1.5	0.4	0.5	Ob1	先端・左脚欠損。
1328	Ⅵa	H6	40	石鏃	1.6	1.7	0.3	0.4	Ob2	右脚やや欠損。
1329	Ⅵ	J4	154	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.4	Ob1	
1330	Ⅵa	J4	174	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.3	Ob1	先端潰れる。
1331	Ⅵ	I8	2	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.5	Ch	
1332	Ⅵb	L4	246	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.5	Ch	素材剥片面を大きく残す。
1333	Ⅵ	J5	114	石鏃	2.1	1.4	0.4	0.7	Ob2	
1334	Ⅵb	N4	115	石鏃	1.7	1.4	0.5	0.7	An	先端欠損。
1335	Ⅵ	K3		石鏃	2.0	1.6	0.5	1.0	Ob1	
1336	Ⅵ	K4	202	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.7	Ob1	
1337	Ⅵ	I4	11	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.6	Ob	左脚は欠損でない。
1338	Ⅵ	J5	16	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.5	Ob1	両側縁はやや鋸歯をする。
1339	Ⅵa	J5	52	石鏃	2.1	1.2	0.4	0.5	An	
1340	Ⅵ	I5	94	石鏃	2.3	1.4	0.3	0.5	Ob1	先端に素材剥片面残す。
1341	Ⅵb	M4	24	石鏃	2.2	1.6	0.5	1.0	Ch	
1342	Ⅵb	L5	66	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.3	Ob1	左脚欠損。
1343	Ⅵ	J5	31	石鏃	2.4	1.7	0.5	1.3	Hl	
1344	Ⅵb	M4	125	石鏃	2.6	1.9	0.5	1.9	An	
1345	Ⅵ	I5	17	石鏃	2.6	1.7	0.5	1.2	Hl	
1346	Ⅵb	L4	143	石鏃	1.6	1.5	0.4	0.9	Hl	先端潰れる。
1347	Ⅵb	M4	170	石鏃	1.3	1.8	0.4	0.5	Ob	
1348	b	H3		石鏃	1.6	1.4	0.5	0.6	Ob1	基部付近は分厚い。
1349	Ⅳa	J4	160	石鏃	2.2	1.4	0.5	1.1	Ch	先端・左脚欠損。
1350	Ⅵ	H7	30	石鏃	2.1	1.6	0.8	2.0	Ch	石鏃未製品か。
1351	Ⅵ	H7	315	石鏃	1.9	2.0	0.6	1.4	Ob	
1352	Ⅵ	H8	21	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.4	KSh	
1353	Ⅵ	J4	161	石鏃	2.3	1.7	0.6	1.4	Ch	稜が磨耗か。
1354	Ⅵb	L4	116	石鏃	2.6	1.9	0.5	2.1	Ob1	
1355	Ⅵb	E25	9	石鏃	2.0	1.7	0.4	0.8	Ob	左脚欠損。
1356	Ⅵ	H6	180	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.3	Ob	
1357	Ⅵb	K5	79	石鏃	2.5	1.4	0.5	1.0	Ob2	
1358	Ⅵb	L6	151	石鏃	2.6	1.5	0.6	1.1	An	
1359	Ⅵa	J4	185	石鏃	3.0	1.7	0.5	1.4	Ob	右脚欠損。
1360	Ⅵb	M5	286	石鏃	2.0	2.2	0.4	1.1	Sl	裏面に素材剥片面残す。
1361	Ⅵb	L5	95	石鏃	2.5	1.6	0.6	0.3	Ch	左脚欠損。
1362	Ⅵ	J5	629	石鏃	2.5	1.5	0.5	0.9	Ob2	右脚欠損。
1363	Ⅵb	F24	1	石鏃	2.8	1.6	0.5	1.2	Ob1	左脚欠損。先端から剥離。
1364	Ⅵ	H16	1	石鏃	2.5	2.0	0.6	1.6	Ch	
1365	Ⅵ	K4	123	石鏃	2.8	1.6	0.6	1.7	Sh	
1366	Ⅵb	L7	31	石鏃	1.9	2.0	0.6	1.1	Ob1	
1367	Ⅵ	J5	19	石鏃	1.8	1.3	0.4	0.7	Ob1	
1368	Ⅵa	J5	41	石鏃	2.3	1.3	0.4	0.6	Ob1	両側縁中位に段あり。

表4　石器観察表(7)

図No	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1369	Ⅵa	J4	21	石鏃	1.8	1.4	0.5	0.7	Ob1	両脚欠損か。
1370	Ⅵ	H8	23	石鏃	2.6	2.0	0.6	1.3	Ob	裏面は素材剥片面を残す。
1371	Ⅵ	H9	41	石鏃	3.5	2.3	0.8	3.8	Sl	左脚欠損。
1372	Ⅵ	I7	100	石鏃	1.1	1.1	0.2	0.1	Ob	素材剥片面を大きく残す。
1373	Ⅵb	M4	312	石鏃	1.6	1.4	0.2	0.2	Ob1	素材剥片形状をそのまま活かす。
1374	Ⅵa	J4	264	石鏃	2.2	1.6	0.5	0.9	Ob1	
1375	Ⅵ	J4	243	石鏃	2.1	1.7	0.3	0.8	Ch	素材剥片の形状をそのまま活かす。
1376	Ⅵb	M6	63	石鏃	2.0	1.2	0.3	0.5	Ob2	素材剥片の形状をそのまま活かす。
1377	Ⅵ	J4	225	石鏃	1.8	1.3	0.6	1.1	An	裏面は素材剥片のまま。
1378	Ⅵa	H6	38	石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	Ob	剥片か。
1379	Ⅵ	J4	248	石鏃	2.0	1.3	0.4	0.8	An	素材剥片面を大きく残す。
1380	Ⅵ	I5	158	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.4	Ob	先端はやや丸みを帯びる。
1381	Ⅵ	H7	26	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.6	Ch	右側縁は折面のまま。
1382	Ⅵb	K8	33	石鏃	1.3	1.5	0.1	0.3	Ob	素材剥片面を大きく残す。
1383	Ⅵb	L6	38	石鏃	1.5	1.5	0.4	0.6	Ob1	先端欠損。
1384	Ⅵ	F18	1	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	KSl	
1385	Ⅵ	I4	11	石鏃	1.7	1.6	0.4	0.5	Ob1	
1386	Ⅵ	H8	21	石鏃	1.8	1.6	0.5	0.8	Ob	
1387	Ⅵ	J3	21	石鏃	1.9	1.6	0.2	0.6	An	
1388	Ⅵ	I5	3	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	Ob1	
1389	Ⅵ	G6	22	石鏃	1.9	1.7	0.6	1.6	Ch	基部は分厚い。
1390	Ⅵa	J4	153	石鏃	2.0	1.6	0.5	0.9	Ob1	かなり粗質。
1391	Ⅵ	J4	74	石鏃	2.1	1.4	0.5	0.9	Ob1	かなり粗質。
1392	Ⅵ	J4	215	石鏃	1.7	1.0	0.4	0.3	Ob1	左脚欠損。
1393	Ⅵa	J4	156	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.4	Ob1	左脚欠損。側縁は鋸歯状。
1394	Ⅵb	L4	291	石鏃	1.5	1.2	0.4	0.3	Ob	右脚欠損。
1395	Ⅵa	H6	33	石鏃	1.2	1.3	0.5	0.6	Ob2	先端・両脚欠損。
1396	Ⅵ	J9	5	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	Ch	先端・両脚欠損。
1397	Ⅵb	M4	166	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.6	Ch	先端・両脚欠損。
1398	Ⅵ	K4	299	石鏃	2.2	1.5	0.5	0.9	Sh	両脚欠損。
1399	Ⅵb	K6	61	石鏃	2.3	1.5	0.6	1.1	Ob2	両脚欠損。
1400	Ⅵb	M5	270	石鏃	1.8	1.5	0.3	0.7	Ch	先端・左脚欠損。
1401	Ⅵb	L5	475	石鏃	2.2	1.2	0.4	0.5	Ob	右脚欠損。
1402	Ⅵ	I9	35	石鏃	2.1	1.7	0.3	0.9	Ch	左脚欠損。
1403	Ⅵb	N4	78	石鏃	1.5	1.3	0.5	1.1	Sh	右脚欠損。
1404	Ⅵb	M10	5	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.5	Ob1	右脚欠損。
1405	Ⅵ	I5	157	石鏃	2.1	1.1	0.5	0.7	Ob1	左脚欠損。
1406	Ⅵ	L4	Nベ	石鏃	2.1	1.3	0.5	1.1	Ob	両脚欠損。
1407	Ⅵ	I7	204	石鏃	2.3	1.7	0.4	1.0	Ch	左脚欠損。
1408	Ⅵ	K5		石鏃	2.7	1.6	0.3	1.2	Ch	右脚欠損。
1409	Ⅵ	I8	32	石鏃	2.2	1.5	0.4	0.9	Ch	先端・左脚欠損。
1410	Ⅵb	L5	1103	石鏃	2.5	1.5	0.8	1.4	Ob	右脚欠損。
1411	Ⅵa	J4	10	石鏃	2.6	1.5	0.3	0.9	Ch	左脚のみ残存。
1412	Ⅵb	K4	14	石鏃	2.5	1.8	0.4	1.3	Ch	先端・左脚欠損。
1413	Ⅵ	K4	327	石鏃	2.2	1.4	0.7	1.2	Ob	両脚欠損。
1414	Ⅵ	K3	50	石鏃	2.0	1.7	0.4	0.9	Ch	先端・左脚欠損。
1415	Ⅵ	K4	83	石鏃	2.5	1.8	0.3	0.9	Ch	左脚欠損。
1416	Ⅵ	J5	591	石鏃	2.4	1.6	0.4	1.3	S	先端・両脚欠損。
1417	Ⅵ	J8	Nベ	石鏃	2.6	1.3	0.3	0.8	Sh	右脚欠損。
1418	Ⅵ	I5	93	石鏃	2.2	1.3	0.5	0.7	Ob1	先端部のみ残存。
1419	Ⅵ	I3	45	石鏃	2.2	1.8	0.5	1.2	Ob	左脚欠損。
1420	Ⅵa	J3	31	石鏃	2.4	1.2	0.5	1.0	Ob1	先端のみ残存。
1421	Ⅵb	N4	115	石鏃	2.9	1.4	0.5	1.4	Ob1	右脚欠損。
1422	Ⅵb	M4	116	石鏃	2.3	1.6	0.6	1.5	Sh	先端・右脚欠損。
1423	Ⅴ下	K4	92	石鏃	2.8	1.8	0.5	1.8	An	右脚欠損。
1424	Ⅵ	D25	21	石鏃	1.2	1.7	0.2	0.5	Ob	先端・左脚欠損。
1425	Ⅵ	H7	153	石鏃	1.9	1.5	0.4	0.8	Ob	石鏃の一部であろう。
1426	Ⅵb	M4	115	石鏃	1.4	1.4	0.5	1.0	Ob	先端から欠損。背面の剥離。
1427	Ⅵb	J6	10	石鏃	1.2	0.3	0.4	0.8	Ob	基部のみ残存。
1428	Ⅵa	H6	35	石鏃	3.1	2.1	0.4	1.8	Ch	右脚欠損。
1429	Ⅵ/Ⅶ	E15	384	石鏃	3.2	1.7	0.3	1.1	Ch	右脚欠損。
1430	Ⅵb	L5	1145	石鏃	3.3	1.9	0.5	1.9	Ch	右脚欠損。
1431	Ⅵ	H6	180	石鏃	0.9	1.3	0.4	0.3	Ob	基部のみ残存。
1432	Ⅵ	K4	301	石鏃	1.3	1.6	0.4	0.6	Ob1	先端欠損。
1433	Ⅵb	N4	140	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.8	Sh	素材剥片面を大きく残す。
1434	Ⅵ	I7	139	石鏃	1.5	1.3	0.5	0.7	Ob	背面に礫面残す。
1435	Ⅵ	G6	44	石鏃未製品	1.2	1.2	0.5	0.6	Ob	左側面は折面か。
1436	Ⅵ	J4	221	石鏃未製品	1.5	1.9	0.7	0.7	Ob1	基部の抉りのみ作出。

表4　石器観察表(8)

図No	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1437	Ⅵ	I5		石鏃未製品	2.2	2.0	0.8	2.2	Obl	右側縁から作出。
1438	Ⅵ	K4	363	石鏃未製品	2.1	2.3	0.6	2.8	Ob	右側縁先端付近に礫面残す。先端は尖らない。
1439	Ⅴ	J4		石鏃未製品	2.3	1.2	0.6	1.3	Obl	断面三角形。
1440	Ⅵ	I7	341	石鏃未製品	2.2	1.8	0.7	2.5	Ch	石錐の可能性あり。
1441	Ⅵb	L5	1044	石鏃未製品	2.3	1.8	0.8	2.8	Ch	周縁からの粗い整形のみ。
1442	Ⅵ	J5	112	石鏃未製品	2.5	2.8	0.7	4.1	Sh	石鏃以外の器種の可能性あり。
1443	Ⅵ	I5	6	石鏃未製品	2.3	1.1	0.6	1.1	Obl	製品の可能性もある。
1444	Ⅵb	L4	18	石鏃未製品	2.4	1.7	0.8	2.7	Ch	右側縁の折面から整形。
1445	Ⅵa	J4	26	石鏃未製品	2.3	2.7	1.0	3.0	Ch	裏面の剥離は素材剥片面。背面側より整形開始。
1446	Ⅵ	F18	12	石鏃未製品	3.4	2.3	0.9	6.3	Sh	周縁からの粗い整形のみ。
1447	Ⅵ	H5	29	石鏃未製品	2.3	1.3	0.8	1.7	Ob	右側縁は背面側から急角度で調整。
1448	Ⅵ	J5	484	石鏃未製品	2.0	1.5	0.7	1.4	Obl	周縁からの粗い整形のみ。
1449	Ⅵ	F28	3	石鏃未製品	2.7	1.6	0.7	2.5	Ob	左側縁は欠損。
1450	Ⅵ	K3		石鏃未製品	2.3	2.0	0.6	2.6	Sh	素材剥片面と調整面との風化が著しく異なる。旧石器の剥片を再利用した可能性あり。
1451	Ⅵ	J10	1	石鏃未製品	1.7	1.6	0.6	1.3	Ch	基部側は分厚い。
1452	Ⅵa	H6	14	石鏃未製品	2.5	2.1	1.0	5.1	Ch	整形は背面側が中心。
1453	Ⅵ	J5	389	石鏃未製品	2.6	2.5	6.0	3.1	Ch	裏面は素材剥片面のまま。
1454	Ⅵ	K5		石鏃未製品	3.4	2.4	0.7	7.2	S	右側面・下面は折面。
1455	Ⅵ	F29	3	石鏃未製品	2.8	2.4	0.8	4.3	An	尖頭状石器か。
1456	Ⅵb	K8	149	石鏃未製品	2.8	1.7	1.0	3.1	Ch	裏面は素材剥片末端のまくれをそのまま利用。
1457	Ⅵb	L4	382	石鏃未製品	2.8	2.2	0.9	5.3	Sh	周縁からの粗い整形のみ。
1458	Ⅵb	N4	184	石鏃未製品	2.8	2.4	0.8	4.6	K	素材剥片は歪みがきつい。周縁より整形。
1459	Ⅵ	I5	55	石鏃未製品	3.5	2.8	1.2	8.1	Ch	尖頭状石器か。
1460	Ⅵb	O4	32	石鏃未製品	3.4	2.8	1.2	7.0	Ch	裏面中央の礫面除去に失敗か。
1461	Ⅵb	L4		石鏃未製品	3.6	3.1	1.1	8.5	S	右側縁にのみ整形。
1462	Ⅵb	C6	357	石鏃未製品	3.1	2.5	1.0	6.3	K	左側縁にのみ粗い整形。
1463	Ⅵ	K4	304	石鏃未製品	3.5	2.8	0.9	7.6	KSh	基部周辺の整形が粗い。
1464	Ⅵ	K4	248	石鏃未製品	4.9	3.5	1.6	22.8	KSh	粗い整形で尖頭部を作出。
1465	Ⅵb	K10	4	石鏃未製品	2.8	1.8	0.9	3.5	Obl	右側面は折断面。
1466	Ⅵb	L6	302	石鏃未製品	3.1	2.1	1.2	5.9	K	周縁からの粗い整形のみ。
1467	Ⅵ	H9	84	石鏃未製品	2.7	2.0	1.4	5.5	Ch	厚さの除去に失敗か。
1468	Ⅵ	I4	11	石鏃未製品	2.9	2.0	1.0	5.3	Ch	石核か。粗い整形のみ。
1469	Ⅵ	I7	328	楔形石器	1.8	1.4	0.7	1.9	Ch	上下端からの加撃により整形。石鏃未製品か。
1470	Ⅵ	I5	33	削器	1.9	1.5	0.8	1.7	Ob	素材剥片打点周辺の厚み除去する格好で刃部作出。
1471	Ⅵb	N5	86	削器	2.1	1.7	0.6	1.5	Ch	素材剥片の一部を尖頭状に作出。石錐の未製品の可能性あり。
1472	Ⅵb	N5	167	削器	2.7	1.7	1.0	2.9	Ob	
1473	Ⅵb	L6	170	石鏃未製品	2.9	2.2	0.9	5.6	Ch	左側面を打面とし、厚さ除去の調整を入れる。
1474	Ⅵ	H7	57	石鏃未製品	3.3	1.7	0.9	3.7	Ch	尖頭状石器が半割したものか。
1475	Ⅴ下	K4	52	削器	2.5	1.5	0.9	2.6	Obl	器長に対し分厚い剥片素材。石器右側縁を中心に加工あり。
1476	Ⅵ	H9	8	削器	2.8	2.3	0.9	4.0	Ch	素材剥片側縁に細かい剥離。
1477	Ⅵb	K4	20	削器	5.7	1.6	0.8	3.3	Ch	裏面の両側縁を中心に細かい剥離。
1478	Ⅵ	I5	51	削器	3.7	2.0	1.4	9.6	Ch	左側縁は掻器刃部のような加工。
1479	Ⅵ	K3		削器	3.8	2.8	0.9	7.1	Ch	下側に尖頭部を意識か。
1480	Ⅵ	J3	59	削器	3.3	3.6	0.8	5.2	Ch	尖頭器状。
1481	Ⅵ	H8	36	削器	3.9	1.9	0.8	4.6	Ch	
1482	Ⅶ	F14	583	削器	4.3	3.0	1.3	10.5	An	石鏃未製品か。
1483	Ⅵ	H7	176	削器	3.8	2.6	0.9	7.3	Ch	長軸方向に湾曲する。
1484	Ⅵ	H7	304	削器	3.6	2.4	0.9	6.7	Ch	素材剥片周縁に細かい剥離。
1485	Ⅵb	L5	1156	削器	4.9	3.6	1.5	18.3	An	尖頭器状。
1486	Ⅵ	H7	296	削器	4.8	2.2	0.7	6.6	Ch	裏面左側の剥離は刃部でない。石器左側縁が刃部か。細かい剥離が連続する。
1487	Ⅵb	L4	334	削器	4.6	2.4	1.1	15.0	Sh	左側面は折面。粗い整形。
1488	Ⅵb	N4	45	削器	4.6	3.8	1.0	2.3	Sh	右側縁にのみ刃部。加工は裏面側からのみ。
1489	Ⅵb	N4	1	玉製品	1.2	1.3	0.5	1.7	滑石	口下をくびった皮袋状の玉製品。
1490	Ⅵ	I5	65	石錐	2.4	1.6	0.5	1.1	Obl	錐部断面はゆるい菱形。
1491	Ⅵ	K4	220	石錐	4.6	1.7	1.1	4.2	Ob	不定形剥片の一端に錐部を作出。錐部断面は菱形。
1492	Ⅵ	K4	51	石錐	1.4	1.4	0.6	0.7	Ob	錐部を欠損する。錐部断面は、その折面形状から円形と推定される。
1493	Ⅵ			異形石器	1.9	1.1	0.3	0.6	Ob2	背面はゆるく研磨か。
1494	Ⅵb	M6		異形石器	2.4	1.1	0.7	1.3	Ch	素材剥片の歪みは修整せず。
1495	Ⅵ	J8	121	異形石器	1.3	2.5	0.6	1.3	Ob	表裏面に素材剥片面を残す。
1496	Ⅵb	M4	225	楔形石器	2.3	1.5	0.7	1.5	Ob	上面は顕著に潰れる。石器背面には礫面残す。
1497	Ⅵb	N4		石錐	3.1	2.5	7.1	4.6	KSh	錐部断面は菱形。
1498	Ⅵb	L4	516	異形局部磨製石鏃	2.1	2.4	0.6	3.1	Ch	先端は欠損する。裏面の研磨は顕著。
1499	Ⅵb	M5	73	異形局部磨製石鏃	3.1	1.4	0.7	2.7	Ch	先端部も入念に研磨される。
1500	Ⅵb	L8	52	石匙	2.8	1.8	0.4	1.2	Ob	不定形剥片素材で、素材剥片形状をそのまま活かして石器とする。
1501	Ⅵb	J6	55	石匙	2.2	1.5	0.8	2.1	Ob	石匙のつまみ部の可能性あり。
1502	Ⅵb	L4	1	石匙	1.9	1.4	0.2	0.6	Ch	素材剥片形状をそのまま活かす。

表4　石器観察表(9)

図No.	層	グリッド	番号	器　種	長	幅	厚	重量	石材	備　　考
1503	Ⅵb	O5	2	掻器	2.0	2.0	0.9	2.8	Ch	表面基部側は厚みを落としている。刃部は甲高い。
1504	Ⅵb	M6	83	石匙	5.7	2.8	0.7	11.0	Sl	つまみ部は小さい。欠損品を再利用か。
1505	Ⅵb	L4	20	石匙	6.3	3.9	1.1	22.2	Sh	縦長剥片素材。下端を欠損する。
1506	Ⅵb	L4	121	掻器	6.1	3.4	1.9	25.8	Sh	紛失
1507	Ⅵb	L5	172	掻器	9.0	3.8	1.4	65.0	Hl	風化著しい。裏面は礫面か？
1508	Ⅵb	M6	72	石核	1.6	2.7	0.8	3.4	Ob	小形礫素材。単一打面で不定形剥片を剥離。
1509	Ⅵ	H6	167	石核	1.5	1.7	2.7	5.7	Ob	小形礫素材。単一打面で不定形剥片を剥離。
1510	Ⅵ	K3		石核	1.3	2.5	2.1	6.1	Ob	不純物の混入が著しい。打面は先行剥離面か。不定形剥片を剥離。
1511	Ⅵ	K3	31	石核	2.2	1.1	1.2	2.6	Ob1	細石刃様の小形の縦長剥片を剥離。打面調整はない。
1512	Ⅵ	K3		石核	1.6	1.8	1.8	3.1	Ob1	紛失
1513	Ⅵ	J5	195	石核	2.4	2.7	2.0	11.2	Ob1	打面は複数あり、不定形剥片を剥離。裏面は礫面。
1514	Ⅵb	L5	115	石核	2.5	1.5	1.6	4.2	Ob	縦長・不定形剥片を剥離。打面調整はない。
1515	Ⅵ	I7	252	石核	2.5	1.8	1.4	5.5	K岩	縦長に近い不定形剥片を剥離。打面調整はない。
1516	Ⅵ	J3	110	石核	2.3	1.7	1.2	3.2	Ob1	不定形剥片を剥離。打面は固定されていない。
1517	Ⅵb	L6	164	石核	2.7	1.9	1.1	4.5	Ob	左右から小形の剥片を剥離。右面は礫面。
1518	Ⅵ	H7	310	石核	4.4	1.5	1.1	6.1	Ob	角礫素材。礫面から不定形剥片を剥離。
1519	Ⅴ			石核	2.2	3.2	1.2	7.3	Ob1	打面は先行剥離面。不定形剥片を剥離。
1520	Ⅵ	H7	259	石核	3.6	1.8	1.8	9.4	Ch	単一打面から不定形剥片を剥離。打面調整はない。
1521	Ⅵa	J4	233	石核	2.8	2.2	1.3	5.5	Ob	風化著しい。鹿児島県上牛鼻産か。小形の不定形剥片を剥離。
1522	Ⅵ	J5	21	石核	1.7	2.8	1.6	3.7	Ob1	不定形剥片を剥離。打面は固定されていない。
1523	Ⅵ	K5	14	石核	3.0	2.9	2.2	13.7	Ob1	単一打面から不定形剥片を剥離。礫打面。
1524	Ⅵ	K3	2	石核	4.1	3.3	1.2	17.7	KSh	剥片素材の石核。正面の剥離の打面は礫面。
1525	Ⅵb	L5	188	石核	2.8	3.4	1.2	8.6	Ob	剥片素材の石核。縦長に近い不定形剥片を剥離。
1526	Ⅵa	K5	4	石核	3.2	2.3	2.2	11.2	Ob1	裏面は先行剥離面。正面･右面は礫打面より不定形剥片を剥離。
1527	Ⅵ	K3		石核	3.3	4.8	2.4	37.0	Ch	大形剥片素材。不定形剥片を剥離。
1528	Ⅵb	L4	427	石核	3.5	4.1	2.9	28.8	Ob1	正面の剥離に伴う打面調整あり。不定形剥片を剥離。
1529	Ⅵb	N5	37	石核	5.8	5.1	2.1	53.6	Sh	裏面は礫面。周縁より中心に向かって不定形剥片を剥離。
1530	Ⅵ	I7	92	微細剥離剥片	1.8	1.3	0.6	0.9	Ob	石器上縁に微細剥離あり。
1531	Ⅵb	M6	11	二次加工剥片	2.4	2.9	1.3	6.0	Ch	裏面左下に抉り状の加工。
1532	Ⅵb	K4	9	二次加工剥片	3.5	1.3	1.0	4.2	Sh	稜が磨耗する。意図的な研磨？
1533	Ⅵb	K5	11	二次加工剥片	1.3	3.3	0.9	4.3	Ob	舟底状石器のような形態。
1534	AH下	J14		二次加工剥片	8.4	4.4	2.4	75.3	S	礫打面から剥離された縦長剥片の側縁に加工を入れる。
1535	Ⅵb	L5	1251	二次加工剥片	2.3	2.2	0.7	2.7	Ob	石器下端にわずかな加工。
1536	Ⅵb	K4	14	二次加工剥片	3.6	2.8	1.6	9.6	Sh	裏面左下に細かな加工あり。
1537	Ⅵb	L7	223	二次加工剥片	7.9	3.0	1.4	25.7	Sh	尖頭器などの未製品か。ただし剥離面のバルブは強い。
1538	Ⅵb	N4	198	二次加工剥片	6.1	3.3	1.3	21.9	S	左側縁に加工あり。
1539	Ⅵa	J5	49	二次加工剥片	4.1	1.8	1.2	7.5	Sh	削器か。
1540	Ⅵ	J5	664	二次加工剥片	5.1	3.9	1.1	19.8	Sh	掻器的な石器か。
1541	Ⅵa	J4		打製石斧	11.0	6.0	1.7	92.1	S	大形であること、下縁の稜がやや潰れることから石斧とした。
1542	Ⅵ	J3	66	二次加工剥片	4.3	3.9	8.1	26.8	Ch	不定形剥片素材。裏面右側縁に加工あり。
1543	Ⅵ	H7	284	二次加工剥片	4.6	3.0	2.2	17.2	Sh	分割した円礫に加工を入れる。石核か。
1544	Ⅵb	L4	543	磨製石斧	7.2	7.8	1.6	112.8	Sh	刃部のみ残存。刃縁のみ丁寧に研磨。胴部の研磨はゆるい。
1545	Ⅵ	I5	39	凹石	9.6	8.1	5.6	571.8	S	風化著しい。表裏面中央に凹み。
1546	Ⅵa	J6	37	敲石	3.9	3.1	2.8	44.5	S	敲打痕明確でない。
1547	Ⅵ	J3	136	敲石	3.6	3.5	3.0	50.0	S	下端に敲打痕？
1548	Ⅵ	J4		敲石	6.0	5.5	4.3	196.1	Os	下端が顕著に潰れる。
1549	Ⅵ	K4	265	敲石	5.4	3.9	2.1	50.4	S	よく転磨され光沢のある円礫素材。硬質。 下端から敲打により剥落。
1550	Ⅵb	L4	233	敲石	4.5	4.1	2.2	59.4	Sh	破砕著しい。周縁に顕著な敲打痕。
1551	Ⅵ	I6	14	敲石	6.0	5.6	3.8	176.7	S	上下端に敲打痕。
1552	Ⅵb	L5	1010	敲石	9.3	8.1	4.3	492.6	Os	上下端に敲打痕。よく転磨された光沢のある円礫素材。
1553	Ⅵ	J4	328	磨石	9.5	8.7	7.2	820.0	S	表面に磨痕。
1554	Ⅵ	H6	44	磨石	11.2	9.7	4.7	800.0	Os	表裏面に磨痕。
1555	Ⅳ	B24	10	磨石	11.1	10.1	3.7	637.1	S	自然礫の可能性あり。
1556	Ⅵ	J3	119	磨石	7.2	4.7	3.0	142.1	S	自然礫の可能性あり。
1557	Ⅵ	K4	481	磨石	7.9	7.9	3.8	324.5	S	表面に光沢あり。
1558	Ⅵ	J7	ベ	磨石	9.5	8.4	4.5	469.5	S	表裏面に顕著な磨痕。
1559	Ⅵa	J4	283	礫器	9.3	9.1	1.8	171.9	S	節理で分割された扁平楕円礫素材。
1560	Ⅵ	I7	349	原石	8.3	6.6	5.9	365.0	Ob	球顆が顕著に入る。南九州産か。
1561	Ⅶ	O4	2	原石	3.6	1.8	1.6	7.1	Ob	小形。黒色で不純物をほとんど含まない。
1562	Ⅶ	D23	8	原石	2.2	1.6	1.3	5.1	Ob	1561と同石材。
1563	Ⅵ	G6	57	石皿	36.3	22.5	11.4	15000.0	S	表面にゆるい凹面。
1564	Ⅵ	G6	315	石皿	9.0	13.7	3.5	482.3	S	欠損著しい。表面にゆるい凹面。
1565	Ⅵ	D21	8	石皿	15.3	16.3	10.8	4300.0	S	欠損著しい。表裏面ともに磨痕。
1566	Ⅵ	D21	1	台石	37.4	33.2	8.4	14000.0	S	表面中央にアバタ状の潰れの可能性あり。

第4節　小　結

1　遺構について

集石遺構については新しい視点でデータの収集を行った。

南九州における集石遺構は，掘り込みの有無，赤化礫の分布，礫の接合関係，総数，重量などに着目されてきた。八木澤一郎は礫の平面分布（分散・密集），掘り込みの有無，底石の有無によって①集石１類（分散型，掘り込み無し），②集石２類（密集型，掘り込み無し，底石無し），③集石３類（密集型，掘り込み有り，底石無し），④集石４類（密集型，掘り込み有り，底石有り）の４形態に分類している。さらに，住居址の有無を加えて①タイプ１（住居址に伴って集石遺構検出），②タイプ２（住居址無し，集石３類と４類の集石遺構群が微高地を取り囲む），③タイプ３（住居址無し，集石３類と４類を検出），④タイプ４（住居址無し，集石１類と２類を検出）の４タイプに分けた[1]。

本遺跡の集石遺構96基を上述の区分に従って分類するならば，以下のようになる。

	Ⅵ層	Ⅶ層	Ⅷ層	層不明	計
① 集石１類	9	8	0	4	21
② 集石２類	16	15	2	0	33
③ 集石３類	8	24	4	2	38
④ 集石４類	2	1	0	1	4
計	35	48	6	7	96

本遺跡では，集石遺構と同時期の住居跡は全く検出されなかった。調査地は微高地の東側に位置し，この範囲で集石遺構の分布状態を見るならば，タイプ１と２に属する集石遺構は存在せず，タイプ３と４に属する集石遺構に該当するといえる。八木澤は，タイプ３は住居地区から独立した場所にある恒常的調理地区，タイプ４は季節的利用のキャンプ地であるという考えを提示した。これに対し，徳永貞紹は集石炉と石組炉・配石炉の違いの明確化し，各遺跡から報告されている集石遺構の基本的個別データの不足を指摘した[2]。宮崎県における集石遺構の研究は，鹿児島県と同様な状況にあり，今後の課題として，単純遺跡や分離可能な検出層の中で集石遺構の所属時期を明確にした上で基本的データを測定し考察する必要がある。

そこで今回は，上記のような研究の総括をふまえて，96基のうち94基の集石遺構について個々の礫を数値化して測定し，統計処理を行った。測定項目は①検出層，②掘り込みの有無，③礫の分布（長径，短径），④礫総数，⑤岩質，⑥大きさ，⑦炭化物の有無，⑧土器・石器の有無，⑨石器石材の有無，⑩敷石の有無，⑪赤変礫の有無である。結果は次節で詳しく触れる。

磨石を並べた遺構の例としては，鹿児島県鹿屋市の飯盛ケ丘遺跡から掘り込み不明の石器集石遺構として，４個の磨石を並べた遺構が報告されている[3]。

2　土器の特徴

草創期の土器は，数段の爪形文を施すものと，貝殻腹縁，殻頂による圧痕文，沈線文を施すものが少量認められた。爪形文は成形時の爪跡ではなく，ヘラ状工具(？)の刺突による文様である。

それらの出土層は早期土器と同一で，テフラ等を基にした垂直位置については積極的に言及できないが，貝殻文を施す個体（5）に関しては，口唇部形態や口縁上部に文様帯が集約されている点など，当地域の早期初頭土器群に近い様相が看取される。このため，この資料については早期初頭まで編年的位置が下る可能性も否定できない。宮崎学園都市遺跡群の堂地西遺跡Ｂ区の出土土器群の中に同様の資料が認められる[4]。

早期土器は，大きくは貝殻文円筒形土器系のＡ類，押型文系のＢ類，撚糸文・縄文系のＣ類，平栫・塞ノ神式系のＤ類に４類別できることは前述のとおりである。

Ａ類は，貝殻による施文と円筒形を呈する器形が特徴で，南九州系の早期貝殻文円筒形土器群が主体をなすが，Ａ４類のみは，異なる係累のものである（32～36）。

Ａ１類は７のみが該当する。全容は不明であるが，おそらくは前平式[5]の胴部片と見られる。

Ａ２類は貝殻腹縁による圧痕文を施すもので，知覧式[6]，栫ノ原タイプ[7]と称される（８～10）。楔形突帯，角筒形土器など，特徴的な文様要素，器形が認められる。

Ａ３類は下剥峯式あるいは桑ノ丸式[8]に属する，あるいはそれに類するものと見られる。22は下剥峯式・桑ノ丸式の概念からは外れるが，内湾する口縁部やその断面形などから近接した編年的位置を推測することが可能である。

Ａ４類は北部～中九州に広く分布する，条痕文施文の一群に含まれるものであろう。口唇部はやや肥厚させるか（32），かまぼこ状となり（34など），内面は丁寧なナデ調整が施される。

押型文系のＢ類については，前述の通り器形の特徴を重視して細分を行った（挿図参照）。

Ｂ１類は器形や文様の特徴から，東九州編年[9]における下菅尾Ｂ式に類似するものと考えられる。桒畑光博らの追究によれば，貝殻文円筒形土器系の桑ノ丸式と近い編年的位置にあるという[10]。

Ｂ２類は直に立ち上がる口縁部を有し，完形資料はないもののバケツ形を呈すると見られる。従来，このような器形の資料は，当地域においては貝殻文円筒形土器群との接触により成立したものと解釈されてきたが，近年，東九州の稲荷山式に並行する，北部・中九州における最古段階の押型文土器であるとの見解が示されており，「弘法原式」と呼称されている[11]。確かに，本遺跡の64や68などは横方向の目の細かな押型文であり，古く遡る可能性は否定できない。69のようなベルト状施文の個体が存在することも傍証の一つとなろう。

Ｂ３類と４類は，内面ケズリの調整手法が共通することや，中間的な様相を示す個体が多く認められることから近い関係にある一群と見られる。そのような資料は，清武町杉木原遺跡[12]で一定量出土しているほか，田野町芳ケ迫第３遺跡[13]などでも確認されている。宮崎平野南部を中心に分布する型式と位置づけておきたい。

89，238の口縁部形態や横方向施文は早水台式に似るが，内面はケズリ調整が施されるなど，在地的色合いが強い。口縁部片の324は，外面に鋸歯状ないしは波状の沈線文を，内面の上部に「枝回転文」を施す。本類と後述するＢ５類（手向山式）との近縁性を示す資料と位置づけられよう。

Ｂ５類は当地域における押型文系の最終末の型式である手向山式[14]に該当する。それらと同じ器形で沈線文を主文様とし，押型文を施文しない一群（620～641）や，微細な突帯を施す一群（654～659）も，従来手向山式に含められていたものである。円盤状を呈する667・668や上げ底となる669は，確証はないが，Ｂ５類の底部の候補となろう。

Ｃ類は，器形の類似からＢ類との密接な関連がうかがえる。同様の器形変化を遂げた可能性も指摘できる。外面に網目状の撚糸文が施される619や，結節縄文が施される665，666は，文様はＣ類と，器形の面ではＢ５類（あるいはＢ５類と同様の器形で押型文を施文しない一群）と関連するものであろう。なお結節縄文は，当地域においては平栫式に認められる特徴的な文様要素と考えられており[15]，上記の位置付けが正しければ，その初現がさかのぼることになる。

Ｄ類もいくつかの型式を包括する類型である。

Ｄ１類は，天道ケ尾遺跡のＶ類[16]，妙見遺跡の「平栫式前段階[17]」に該当する資料で，先に触れたＢ５類と同様の器形で押型文を施さない一群がこれらと密接な関係があると考えられる。

Ｄ２類は平栫式に包括されると見られるが，肥厚口縁が平栫式の口縁形態の特徴と位置づけるならば694，699～701などは口縁端部に付された突帯→口縁部肥厚帯の変化の過程を示していると考えられ，いわば平栫式成立の瞬間を体現している個体と表現できるのではなかろうか。690などは口縁部内面に文様があり，古い様相を示している。一方699，700の口縁端部に見られる横「ハ」字状の短沈線文は後の段階につながる特徴である。

Ｄ３類は口縁部がわずかに肥厚する一群，Ｄ４類は口縁部が内湾する一群で，口縁部破片が多く出土しているものの完形資料がないため全体の文様構成は不明となっている。おそらくはＤ１類・２類でａ・ｂとした２つの流れ（頸部以下に縄文が施されるもの＝ａ，沈線文が主となるもの＝ｂ）が踏襲されているのであろう。胴部片820，821などは１～４類のいずれかに属するｂ該当資料であろう。

Ｄ５類・６類は，胴部との境に明瞭な稜線が形成される。撚糸文系の塞ノ神式に相当する一群であり，口縁部に沈線文と列点文，胴部に縦方向の網目撚糸文を施すものと，沈線区画内に撚糸文を施すものに大別できる。前者は河口貞徳のＡａ式に，後者はＡｂ式にあたる[18]。

Ｄ７類は貝殻文系の塞ノ神式（河口による塞ノ神式Ｂ式）に相当する。932や937など，貝殻文に似た列点文や短沈線文を施すものも近い関係にある資料と考えられる。

Ｄ８類は，苦浜式と称されるものに文様の特徴が似る。苦浜式は貝殻文系塞ノ神式と条痕文系土器をつなぐ型式として再認識されている[19]。ただし，このＤ８類は，器形（特に口唇部形態）がそれと大きく異なる。このため，Ａ類の貝殻文円筒形系土器群に属する可能性も皆無ではない。

なお，今回の報告では，この苦浜式（と仮定したもの）までを早期とし，外・内面に条痕文を施す平底の土器群[20]から前期に属するものと位置付けている。従来，南九州においてはアカホヤ火山灰の堆積をもって早期と前期の境界と見なしているが，その問題点は既に指摘されている通りであろう[21]。ただし，ここでの線引きはあくまで便宜的なであり，今後，土器編年上の他地域との併行関係について詰めていき，その当否を検討していかねばならない。

それでは，上記の内容をまとめ，該期の土器型式の変遷案について簡単に触れておきたい。

Ｂ類とした押型文系土器については，器形をもとにした分類を行ったが，それが時間的変化にほぼ対応するとの仮定のもと，以下の通りの変化を遂げたものと推定しておきたい。

押型文系土器は，同時期の無文土器を含めて一部古くさかのぼる可能性のある資料も存在するが，貝殻文円筒土器系の終末期（ここでのＡ３類期）に並行する形でＢ１類が展開したと見られる。これは，九州東南部においても下菅尾Ｂ式が一定量出土するという事実から裏付けられる。

そしてＢ３類・４類の時期に至り，押型文系土器が当地域の土器の主体を占めるようになる。他地域との並行関係を直接的に示す資料は現在のところないが，Ｂ５類（手向山式）期以前の，東九州編年における田村式，あるいはヤトコロ式に並行する段階でのことであろう。

さらに手向山式期のある段階で，それまで少量ながら流入していた縄文，撚糸文系（Ｃ類土器）との接触・混合により押型文を施さない（押型文以外の文様要素をも取り入れた）土器群が成立し，さらにＤ１類へと展開していったと見られる。ただし，押型文系終焉に関する一連の流れについては，少なくとも西日本一帯に目を配る必要があるとの指摘もある。必ずしも一元的な変化にとらわれる必要はないのであろうが，今後注意すべき点の一つと言えよう。

Ｄ類についても器形をもとに分類したが，それらの位置付けに関しては，手向山式から平栫式，撚糸文系塞ノ神式を経て貝殻文系塞ノ神式に変化したという編年観に準拠したい[22]。

まず，前述の通り押型文系のＢ５類からＤ１類が生じ，そこから平栫式に包括されるＤ２類→４類の流れで口縁部形態が変化したと推測される。胴部以下については，縦方向突帯がある段階で消滅するであろうということ以外，大きな変化は見られないと考えられる。おそらくａ，ｂとした２つの流れが踏襲されているのであろう。

撚糸文系塞ノ神式に相当するＣ５類・６類ついては十分整理ができていないが，仮説として，平栫式段階に見られるような２つの文様の「流れ」（河口による塞ノ神式Ａａ，Ａｂ式の両者）があったと考えておきたい。

Ｄ７類の貝殻文系塞ノ神式は，苦浜式を介して条痕文系土器につながると考えられており，近年の調査事例から条痕文系土器の存続期にアカホヤ火山灰の堆積をもたらした鬼界カルデラの爆発がおこったと見られている[23]。

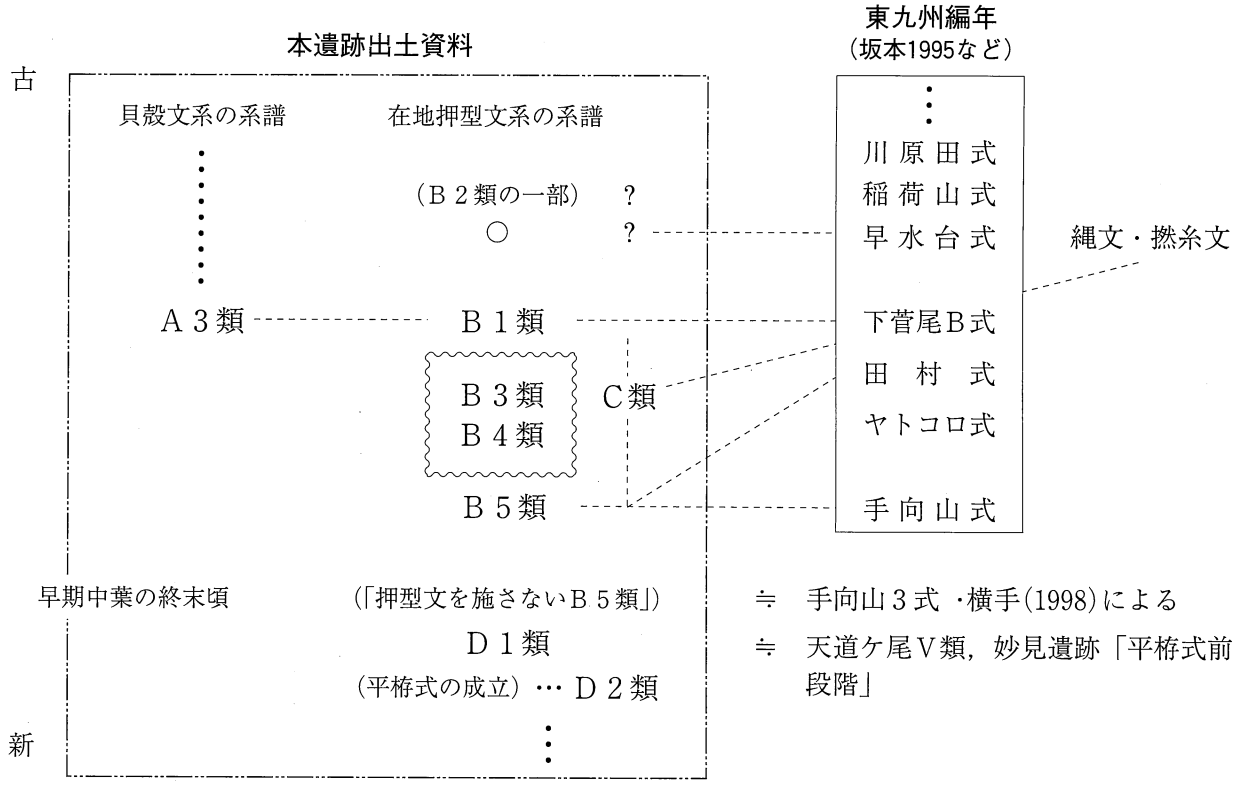
以上，本遺跡出土の早期土器についての流れをまとめてみた。全体として粗い考察となり，特にＤ類とした一群について，不明な点が多く残ったが，今回の報告資料をもとに，周辺台地における編年が固まることが期待される。なお，次頁には，主としてＢ類に関わる編年的位置付けを模式図化して整理している。タテ軸が時間，ヨコ軸が空間距離を表している。

３　遺物の出土位置

前項で編年的位置を推定した土器は，実際には，どのような平面・垂直位置から出土しているのか検討してみたい。

草創期の土器は，調査区北端近くで出土している。Ⅵ層より２点，Ⅶ層より１点，ｂ層より２点となっているが，原位置をとどめているかどうか疑わしい。

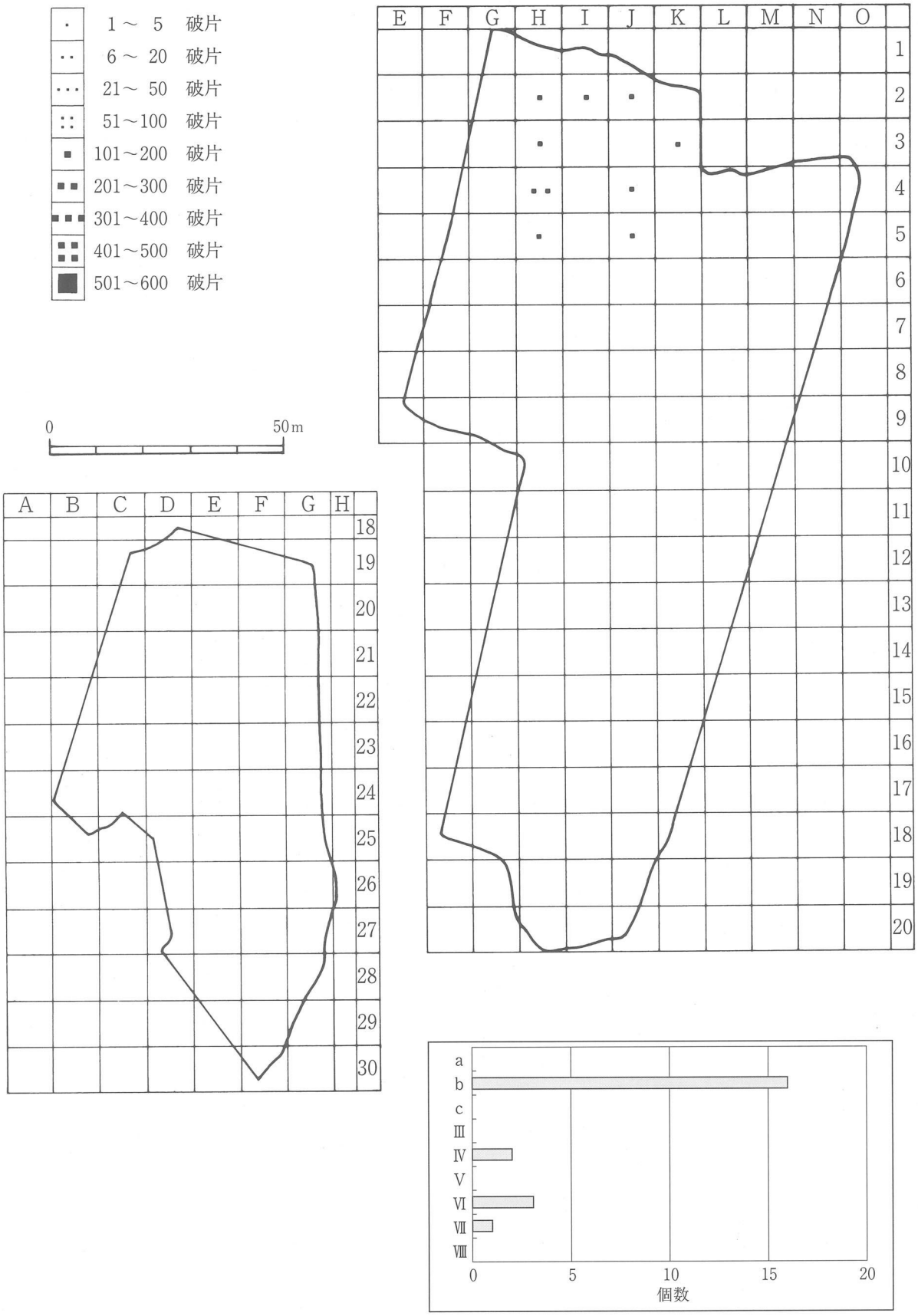
Ａ類は，多くは調査区北半より出土しているが，15や24など南端近くで出土しているものもある。Ⅶ層出土の個体が多い。



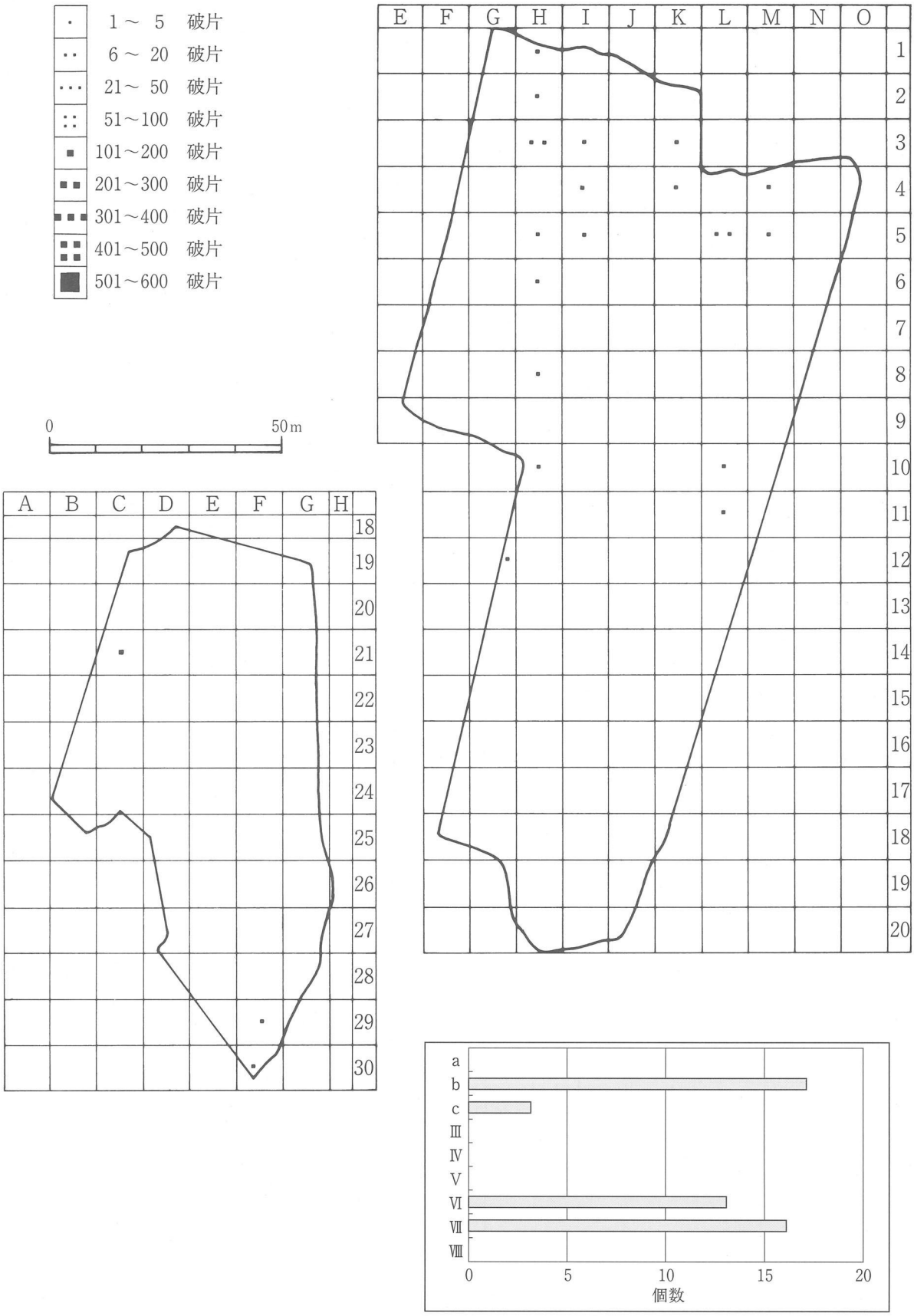
Ｂ類については，ほぼ全ての出土資料を分析対象としたが，小破片についてはどの類型に属するのか把握することが困難であり，まず大きく山形押型文を施すものと楕円押型文を施すものに分け，傾向を調べた。その結果，いずれも調査区北東部の小さな谷の頂部付近に集中箇所があることが判明した。さらに細かくＢ３・４類に限ってみた場合でも，その傾向は変わらない。出土層はⅥ層，Ⅶ層の比率が高く，中でもⅦ層出土資料が多数を占めることがうかがえる。

Ｃ類は，多くは前述の谷の北側付近より出土している。わずかにＢ類よりも分布の重心が北東に寄るようである。出土層の傾向はＢ類と変わらない。このことから，Ｂ類と同時期に属し，分布のやや異なる集団の存在が推定できる。

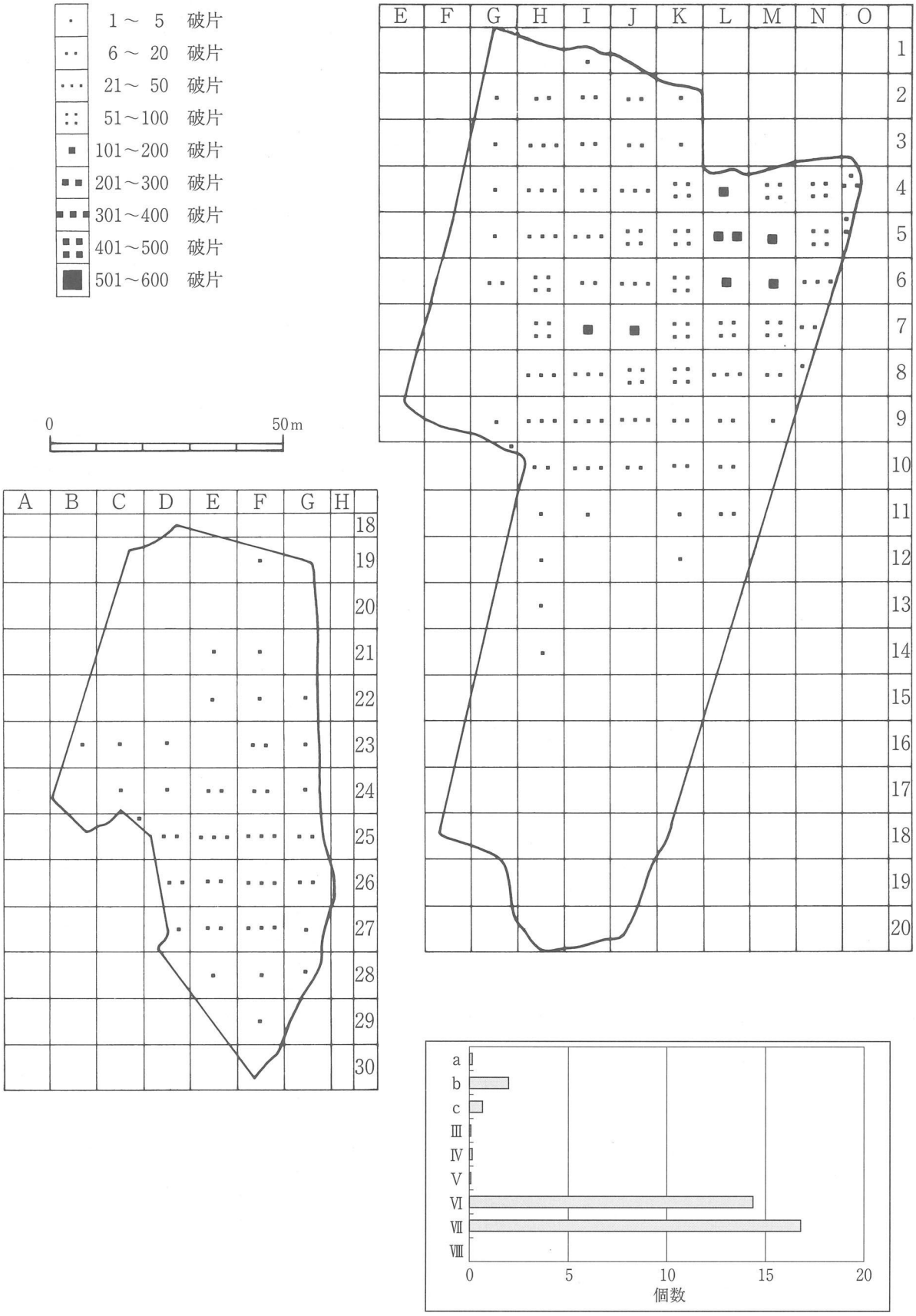
Ｄ類は，調査区北半の中央付近に多く分布しており，これもわずかではあるがＢ類よりも分布の重心がやや西に寄っていることが判る。Ⅶ層より出土している個体もあるが，傾向としてはⅥ層出土のものが多い。この点から，Ｂ類との時間差が導き出される。これは従来から指摘されている編年的研究の成果と合致する。



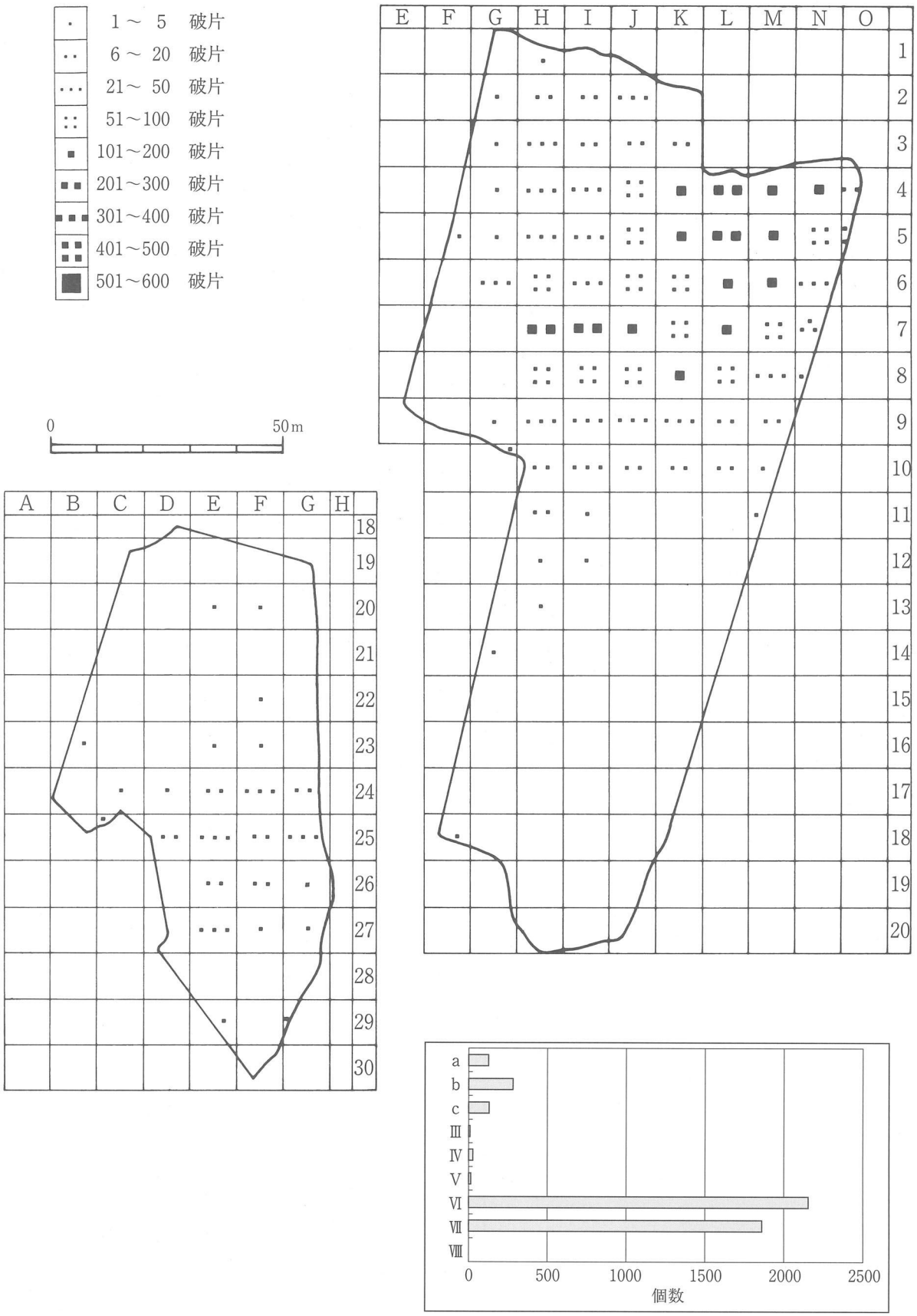
第140図　草創期土器の分布



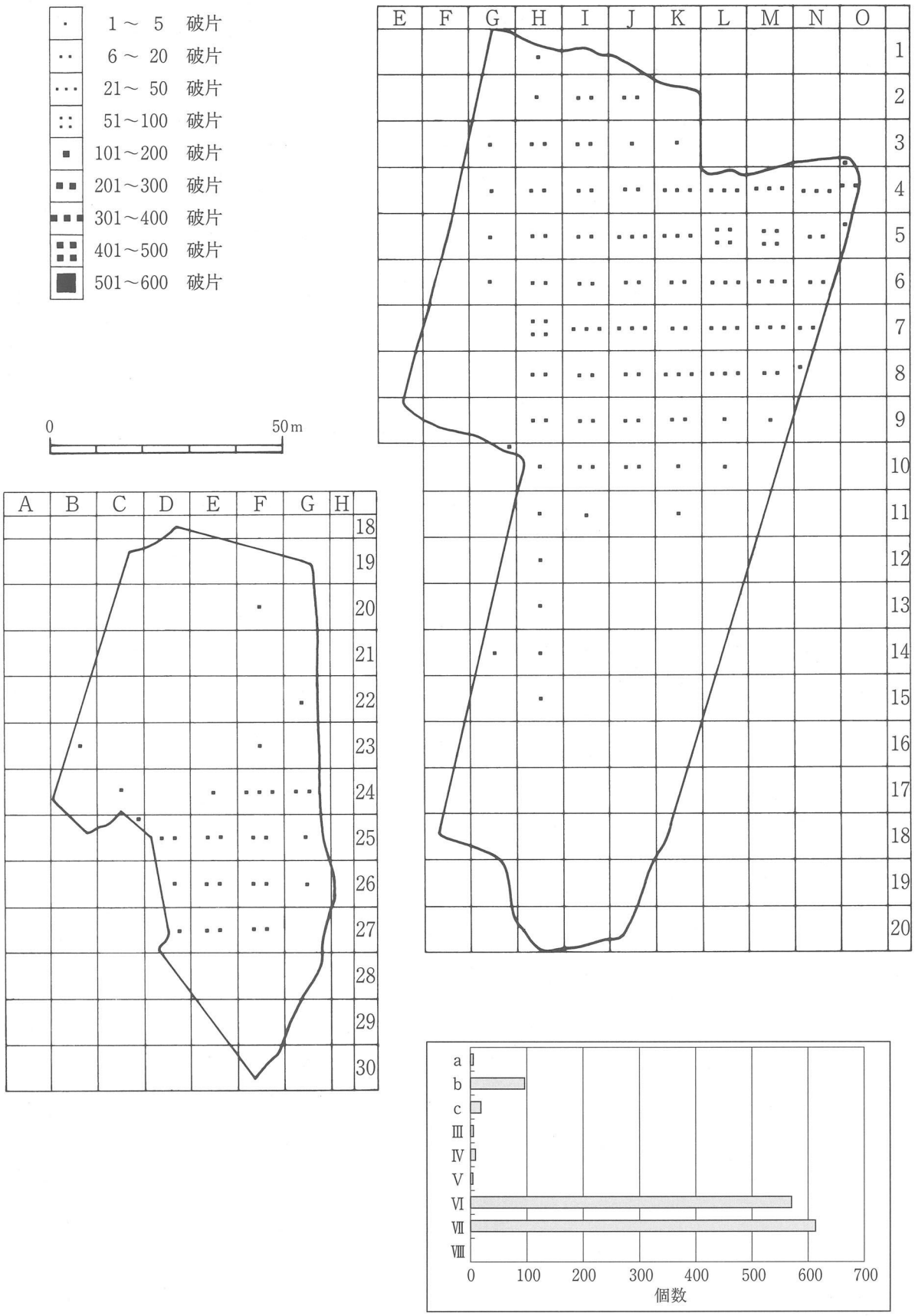
第141図　A類土器の分布



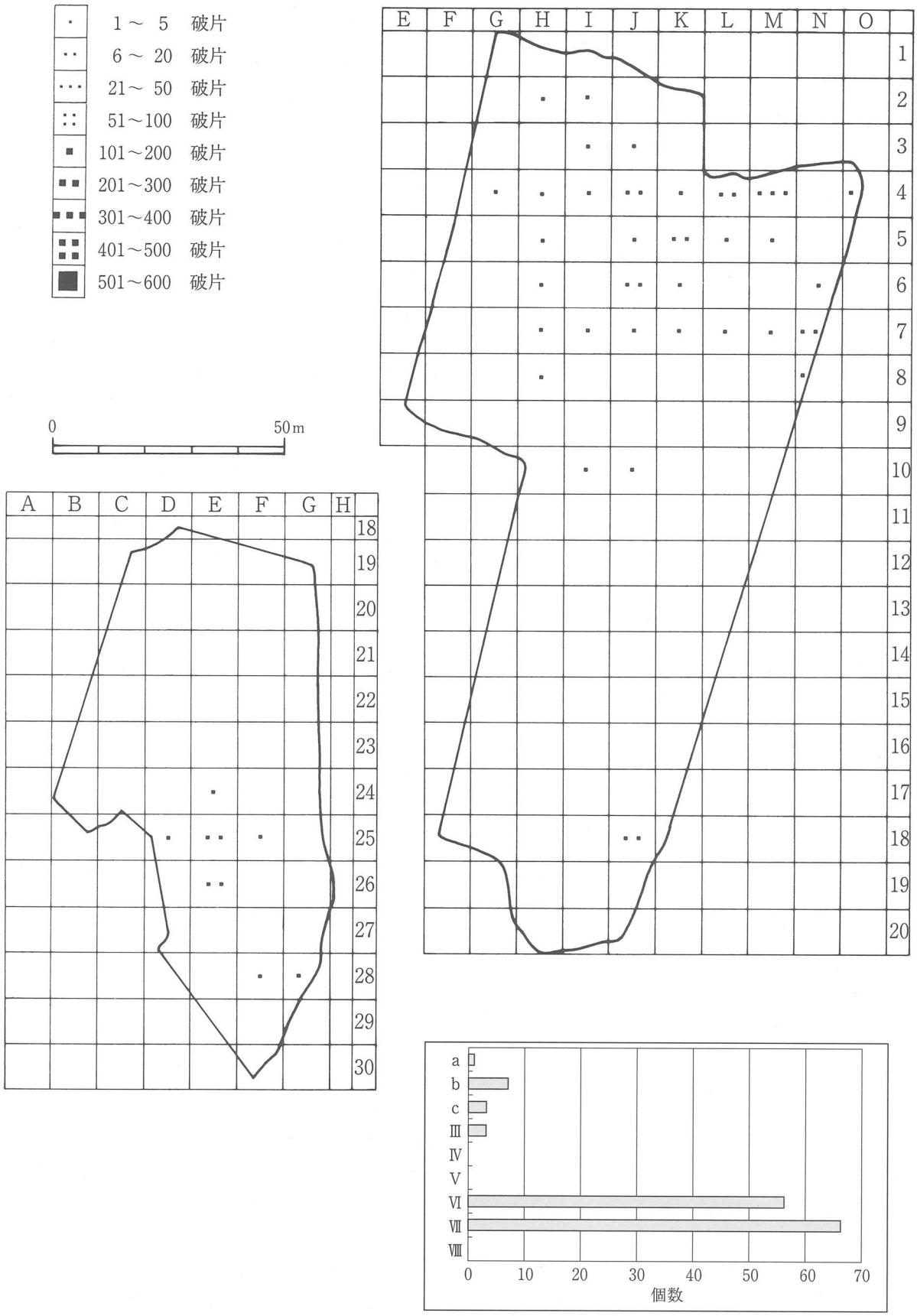
第142図　B類土器（山形押型文）の分布



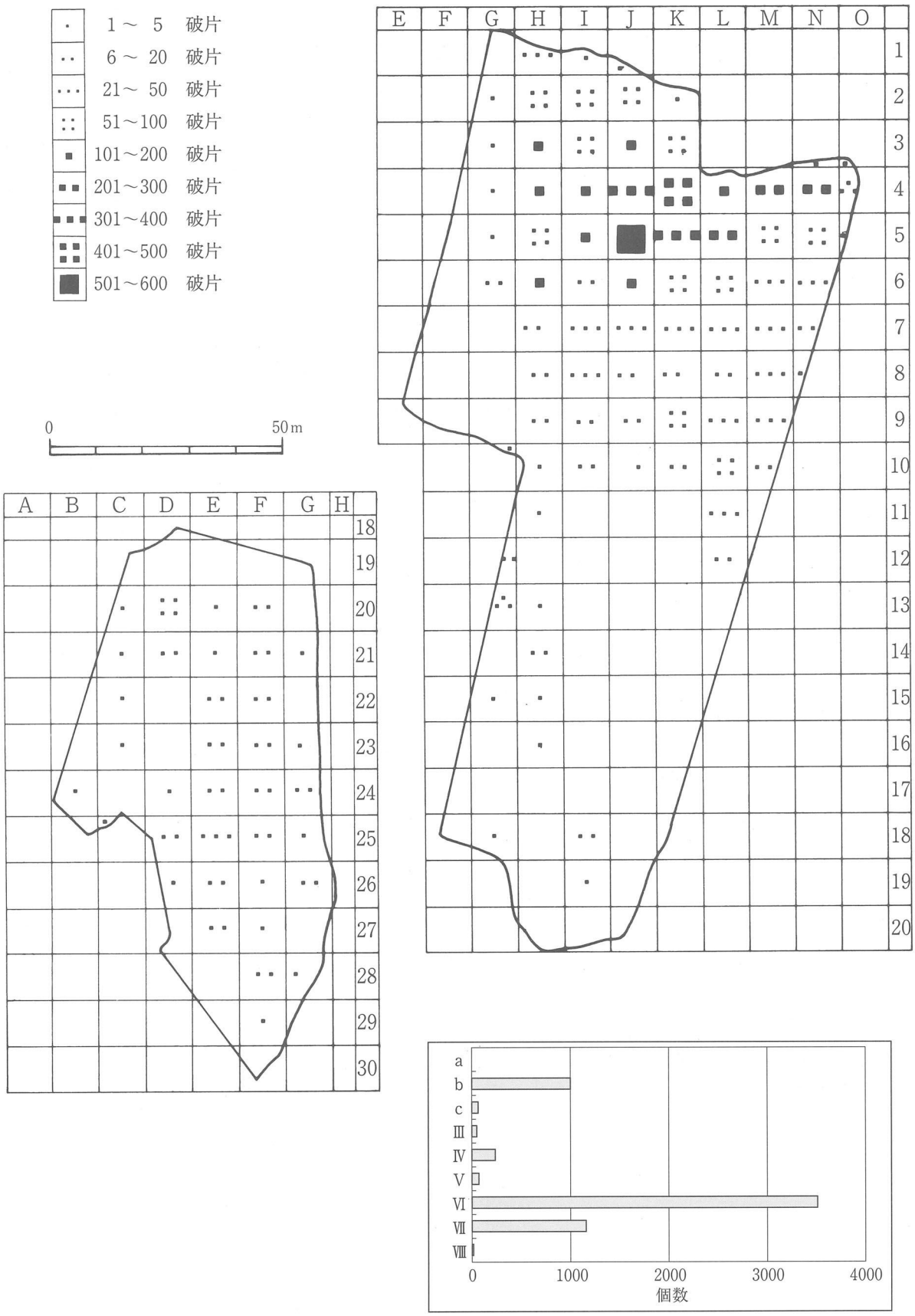
第143図　B類土器（楕円押型文）の分布



第144図　Ｂ３・４類土器の分布



第145図　C類土器の分布



第146図　D類土器の分布

（文献）

1　八木澤一郎　「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』8　1994 南九州縄文研究会
2　徳永貞紹　「八木澤一郎「南九州の集石遺構」の論評」『南九州縄文通信』.9　1995
3　鹿児島県埋蔵文化財センター『飯森ケ丘遺跡　鹿児島県埋蔵文化財センター調査報告書３』1993
4　宮崎県教育委員会　『堂地西遺跡ほか　宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書２』1985
5　新東晃一　「早期九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』1　小学館　1989
6　５に同じ
7　本田道輝　「鹿児島県考古学の諸問題－縄文時代－」『鹿児島考古』20　1986
8　５に同じ
9　賀川光夫　「縄文文化の発展と地域性　九州東南部」『日本の考古学Ⅱ』縄文時代　1965
　坂本義弘　「西日本の押型文土器の展開－九州からの視点－」『古文化談叢』35　1995　九州古文　化研究会
10　桒畑光博・上田　耕・雨宮瑞生　「貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係－宮崎・鹿児島県における出土状況の検討－」『南九州縄文通信』7　1993　南九州縄文研究会
11　水之江和同　「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器－論巧編』1998　九州縄文研究会
12　宮崎県教育委員会　『杉木原遺跡ほか　宮崎埋蔵文化財センター発掘調査報告書２』1985
13　田野町教育委員会　『芳ケ迫第１遺跡・第３ほか　田野町埋蔵文化財調査報告書３』1986
14　横手浩二郎　『手向山式土器の細分と編年試案」『九州の押型文土器－論巧編』1998
15　高橋信武　「平栫式土器の系譜」『國分直一博士米寿記念論文集　モノ・ヒト・コトバの考古学』1996　慶友会
16　熊本県教育委員会　『天道ケ尾遺跡（Ⅱ）熊本県文化財調査報告111』1990
17　宮崎県教育委員会　『妙見遺跡ほか』1994
18　河口貞徳　「塞ノ神式土器」『鹿児島考古』6　1972　鹿児島県考古学会
19　堂込秀人　「熊毛諸島の縄文早期土器の一型式－苦浜式土器の認定－」『考古学ジャーナル』378　1994　ニューサイエンス社
20　大分県荻町の右京西遺跡や，宮崎市内々野遺跡，鹿児島県吉田町の小山遺跡などで出土している，外・内面に条痕による文様を施す平底の土器群。轟Ⅰ式，鎌石橋式などと称される。
　河口貞徳　「塞ノ神式土器と轟式土器」『鹿児島考古』19　1985　鹿児島県考古学会
　荻町教育委員会　『右京西遺跡　荻台地の遺跡Ⅴ』1986
21　水之江和同　「アカホヤ火山灰に関する研究の成果と課題」『南九州縄文通信』8　1994
22　大きな流れとしては高橋信武氏の変遷案を支持したい。
　高橋信武　「平栫式土器と塞ノ神式土器の編年」『先史学・考古学論究Ⅱ　熊本大学文学部考古学研究室創設25周年記念論文集』1997　龍田考古会
23　桒畑光博　「鬼界アカホヤ火山灰と九州縄文時代早期の土器編年」『日本第四紀学会講演要旨集』2001　日本第四紀学会

第５節　集石遺構について

本文中の第１節第２表をもとに礫の分布，礫の密集度，岩質，礫の大きさについて統計処理を行い，円度と角度，礫の使用度，円礫換算，加熱実験の考察を行なった。その結果は第１表に示した。

集石遺構の礫はひとかたまりとなってみかけ上ほぼ円形に分布しているが，詳しく観察すると堀り込みのある場合とない場合では円または楕円の違いがあるように見える。違いを数値として表すため「離心率」を用いた。礫の密集状態は掘り込みのある場合は密に，ない場合は疎である傾向が観察される。これを数値として表すために「礫密集度」を求めた。礫密集度は１m^2あたりの礫の個数を表している。岩質は測定した礫のすべてを岩質別に統計処理した。礫の大きさは，多くの報告書の中で拳大や人頭大などの表現が見られるが，地質学的に用いられている区分法に従い巨礫，大礫，中礫，細礫に分けた。細礫は直径４～２㎜の大きさであるため巨礫，大礫，中礫に限定した。なお，中礫は拳大より小さく，大礫は拳大，巨礫は人頭大に相当する。

礫は円礫から角礫まで円磨度によって細かく区分される。本稿では大きく円礫，亜円礫，亜角礫，角礫の４つのタイプに区分して計測を行い，円礫と亜円礫を合わせて「円度」，角礫と亜角礫を合わせて「角度」と表示した。集石遺構全体としては角度の割合が高い。円礫として持ち込まれた礫は集石用に使用されるたびに割れて小さくなり角礫化したという仮説のもとに，礫の大きさと角度の割合から礫の「使用度」を推定した。

角礫を元の円礫に換算して，円礫としてはじめに持ち込まれた数を試算した。さらに，試算の結果に基づいた数の円礫を敷き詰めて集石料理の野外実験を行い，割れる礫の数と赤化の様子を観察した。以下各項目について結果と考察を行う。

１）礫分布

礫の分布は検出した層ごとに，掘り込み有りと掘り込み無しに分け，離心率で表した。離心率ｅは礫分布の長半径ａと短半径ｂから$e=(a^2-b^2)^{1/2}/a$の式を用いて算出した。その結果，各層の平均値は，

	掘り込み有り（測定数）	掘り込み無し（測定数）
Ⅵ層	ｅ＝0.53（11）	ｅ＝0.63（23）
Ⅶ層	ｅ＝0.46（25）	ｅ＝0.59（23）
Ⅷ層	ｅ＝0.54（ 4）	ｅ＝0.26（ 2）

ここで短半径ｂ＝0.50ｍとすると，長半径ａは，

	掘り込み有り	掘り込み無し
Ⅵ層	ａ＝0.59ｍ	ａ＝0.64ｍ
Ⅶ層	ａ＝0.56ｍ	ａ＝0.62ｍ
Ⅷ層	ａ＝0.59ｍ	ａ＝0.52ｍ

となり，全体として円形に近い礫分布を成すことを示している。

２）礫密集度

礫の密度分布は礫密集度で表した。礫密集度は礫分布が円を成すと仮定して，礫総数を円の面

第１表　集石遺構の礫分析表

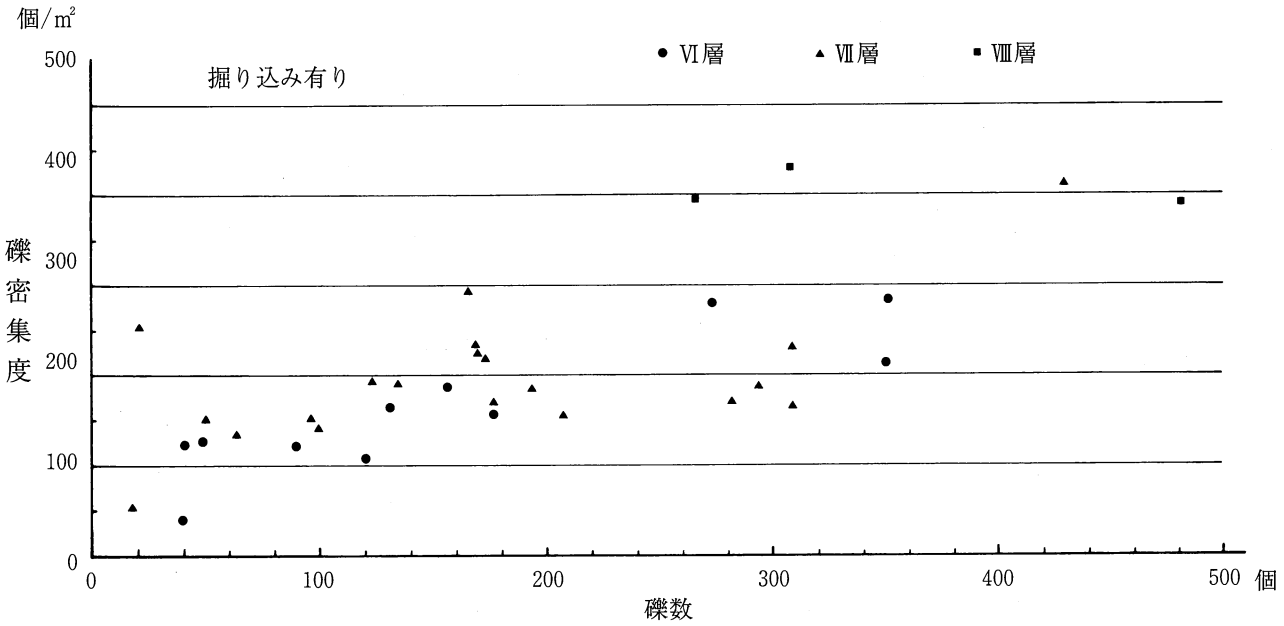
Ⅵ層	ＳＩ	離心率	面　積 m²	礫　数 個	礫密集度 個／m²	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中　礫 %	円　度 %	角　度 %	使用度	円×１	亜　円 ×1／2	亜　角 ×1／4	角 ×1／16	計個
①掘り込み有り	1	0.52	0.33	41	124	98	98	2	44	56	A	8	5	4	1	18
	2	0.55	0.95	273	287	97	91	9	25	75	D	7	31	30	5	73
	4	0.69	0.71	116	164	100	47	53	20	80	F	4	10	17	2	33
	6	0.40	1.04	110	106	100	39	61	8	92	F	2	4	5	5	16
	9	0.42	0.87	157	181	92	66	34	11	89	E	3	7	18	4	32
	10	0.66	0.38	49	127	92	82	18	24	76	D	1	6	5	1	13
	12	0.31	0.75	90	121	97	74	26	10	90	D	0	5	10	3	18
	23	0.62	1.23	353	288	99	57	43	13	87	E	3	22	28	12	65
	25	0.53	1.13	177	157	99	44	56	8	92	F	2	6	34	2	44
	28	0.72	0.95	40	42	95	28	73	18	83	G	3	2	2	2	9
	29	0.36	1.65	350	212	98	38	62	8	92	F	5	11	34	12	62
②掘り込み無し	3	0.70	0.28	41	145	93	12	88	0	100	G	0	0	0	3	3
	5	0.47	2.01	44	22	98	5	95	18	82	G	0	4	7	1	12
	7	0.48	0.44	29	66	100	62	38	14	86	E	0	2	0	2	4
	8	0.60	0.16	51	321	98	69	31	8	92	E	3	1	5	2	11
	11	0.90	0.64	24	38	96	71	29	8	92	D	0	1	4	1	6
	13	0.55	0.95	46	48	93	54	46	11	89	E	1	2	4	2	9
	14	0.37	1.43	52	36	94	69	31	17	83	E	2	4	4	2	12
	15	0.75	0.31	22	72	91	77	23	41	59	A	2	4	2	0	8
	16	0.84	0.79	43	55	100	49	51	21	79	E	1	4	3	1	9
	17	0.87	0.64	108	170	98	72	27	15	85	D	4	6	8	4	22
	18	0.46	0.57	138	243	99	65	35	19	81	E	5	11	15	3	34
	19	0.42	0.87	46	53	100	46	54	24	76	F	6	3	1	2	12
	20	0.76	2.14	232	109	98	26	74	17	83	G	12	14	37	3	66
	21	0.52	0.33	56	169	100	30	70	32	68	C	8	5	6	1	20
	22	0.75	0.44	65	147	100	63	37	11	89	E	4	2	4	3	13
	24	0.60	0.64	69	109	96	32	68	16	84	F	3	4	2	3	12
	26	0.55	0.53	86	161	99	29	71	5	95	G	1	2	7	4	14
	27	0.52	0.33	56	169	95	64	36	9	91	E	3	1	5	2	11
	30	0.91	0.57	185	326	97	22	78	12	88	G	3	10	10	8	31
	31	0.32	2.69	345	128	99	14	86	6	94	G	1	10	24	14	49
	101	0.75	3.14	97	31	98	27	73	4	96	G	1	2	6	4	13
	102	0.60	0.16	19	120	89	63	37	11	89	E	0	1	2	1	4
	103	−−	−	32	−−	97	56	44	16	84	E	1	2	3	1	7
	106	0.88	0.95	47	49	96	55	45	6	94	E	0	2	5	2	9

Ⅶ層	SI	離心率	面積 m²	礫数 個	礫密集度 個／m²	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中礫 %	円度 %	角度 %	使用度	円×1	亜円 ×1／2	亜角 ×1／4	角 ×1／16	計個
③掘り込み有り	33	0.38	0.31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	37	0.78	1.33	308	232	99	37	63	8	92	F	9	8	41	7	65
	38	0.52	1.33	208	157	96	60	40	12	88	E	1	12	16	7	36
	39	0.00	0.79	173	220	94	73	27	7	93	D	0	6	17	6	29
	40	0.66	1.54	293	190	97	48	52	7	93	F	0	8	31	9	48
	42	0.69	0.71	168	237	98	46	54	7	93	F	1	6	11	7	25
	47	0.42	0.87	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	48	0.52	0.08	21	253	95	86	14	0	100	D	0	0	2	1	3
	49	0.00	0.33	18	54	89	44	56	11	89	F	0	1	2	1	4
	50	0.44	0.71	135	191	97	47	53	12	88	F	4	6	8	5	23
	52	0.58	1.65	281	170	99	54	46	11	89	E	6	12	47	4	69
	57	0.35	0.47	64	136	95	27	73	5	95	G	0	2	5	3	10
	58	0.69	1.89	309	164	99	48	52	29	71	F	12	39	23	8	82
	59	0.46	0.57	166	293	95	62	38	11	89	E	4	7	18	5	34
	60	0.44	0.71	100	141	96	49	51	12	88	F	2	5	11	3	21
	61	0.52	0.33	50	151	96	68	32	10	90	E	1	2	5	2	10
	62	0.60	0.64	123	193	99	49	51	3	97	F	0	2	11	5	18
	64	0.40	1.04	194	187	96	28	72	3	97	G	1	3	13	9	26
	65	0.77	0.64	96	151	100	32	68	15	85	F	2	6	4	4	16
	67	0.44	0.71	470	663	100	31	69	7	93	F	6	14	23	22	65
	68	0.31	0.75	170	228	98	74	26	34	66	A	15	22	20	2	59
	69	0.00	1.77	932	528	96	64	36	4	96	E	15	19	90	33	157
	71	0.40	1.04	177	170	95	44	56	11	89	F	2	9	12	7	30
	74	0.40	1.04	429	413	98	68	32	12	88	E	6	17	35	15	73
	78	0.69	0.47	453	961	99	32	67	9	91	F	10	15	24	20	69
④掘り込み無し	32	0.66	0.10	14	146	86	43	57	14	86	F	0	1	1	1	3
	34	0.55	0.24	47	198	91	38	62	11	89	F	1	2	5	1	9
	35	0.55	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	36	0.81	0.18	24	136	79	79	21	13	87	D	1	1	2	1	5
	41	0.00	0.64	105	165	92	35	65	5	95	F	1	2	7	5	15
	43	0.82	0.24	29	122	100	14	86	24	76	G	3	2	2	1	8
	44	0.66	0.38	49	127	82	88	12	6	94	D	0	2	5	2	9
	45	0.00	0.20	22	112	95	91	9	9	91	D	0	1	3	0	4
	46	0.81	0.71	37	52	92	76	24	57	43	A	1	10	2	1	14
	51	0.61	3.63	180	50	99	41	59	14	86	F	1	12	21	5	39
	53	0.00	0.50	187	372	98	24	76	7	93	G	1	7	10	8	26

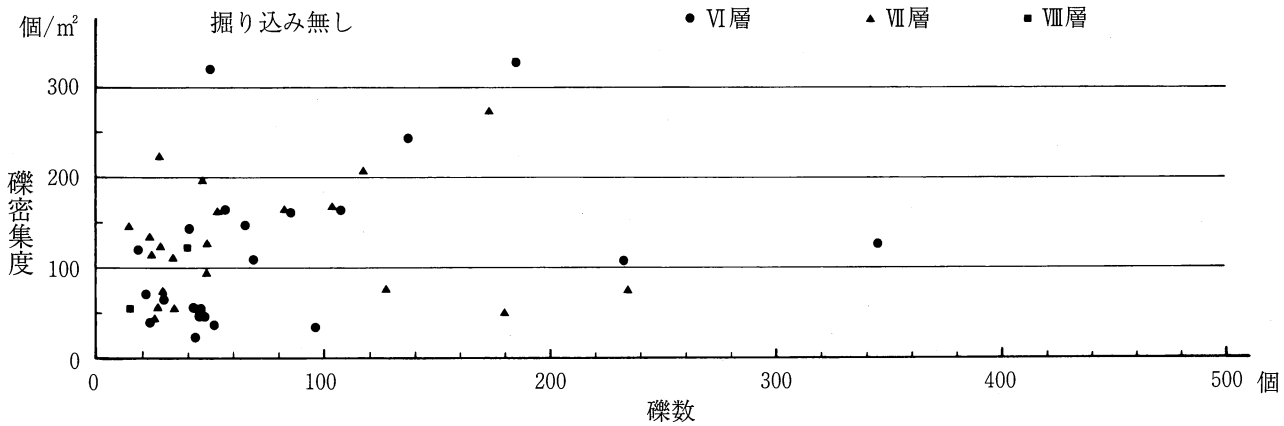
Ⅶ層	ＳＩ	離心率	面　積 m²	礫　数 個	礫密集度 個／m²	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中　礫 %	円　度 %	角　度 %	使用度	円×１	亜　円 ×1／2	亜　角 ×1／4	角 ×1／16	計個
	54	0.52	0.33	37	112	95	57	43	19	81	E	1	3	3	1	8
	55	0.63	0.50	49	98	98	45	55	8	92	F	1	2	10	0	13
	56	0.71	0.57	26	46	92	31	69	8	92	F	0	1	1	1	3
	63	0.90	0.33	54	163	89	76	24	6	94	D	0	2	5	2	9
	66	0.71	0.57	118	208	100	53	47	18	82	E	2	10	6	5	23
	70	0.00	3.14	235	75	99	53	47	11	89	E	6	10	20	8	44
	72	0.80	0.13	28	223	89	68	32	4	96	E	0	1	4	1	6
	73	0.60	0.64	174	274	99	39	61	18	82	F	9	11	19	4	43
	75	0.63	0.50	83	165	93	31	69	7	93	F	2	2	6	3	13
	76	0.79	1.65	128	78	98	41	59	8	92	F	1	5	6	6	18
	77	0.96	0.38	29	75	93	38	62	0	100	F	0	0	2	1	3
	104	0.78	0.47	27	57	89	30	70	19	81	G	0	3	2	1	6
	礫群1	0.77	15.90	1553	98	99	17	83	6	94	G	15	40	61	76	192
	礫群2	0.89	17.71	181	10	97	52	48	7	93	E	3	5	18	6	32

Ⅷ層	ＳＩ	離心率	面　積 m²	礫　数 個	礫密集度 個／m²	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中　礫 %	円　度 %	角　度 %	使用度	円×１	亜　円 ×1／2	亜　角 ×1／4	角 ×1／16	計個
⑤掘り込み有り	79	0.44	0.71	308	435	97	37	63	17	83	F	1	25	33	8	67
	81	0.53	0.67	267	398	98	18	82	4	96	G	7	3	11	13	34
	82	0.82	0.95	943	993	100	49	51	8	92	F	8	35	45	43	131
	83	0.38	1.23	481	392	99	74	26	14	86	D	6	31	48	14	99
⑥掘り込み無し	80	0.00	0.28	15	53	100	67	33	0	100	E	0	0	1	1	2
	84	0.52	0.33	40	121	90	55	45	15	85	E	2	2	2	2	8

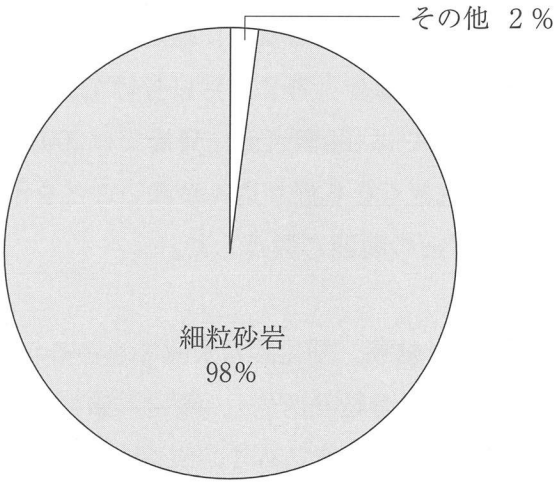
層不明	ＳＩ	離心率	面　積 m²	礫　数 個	礫密集度 個／m²	細粒砂岩 %	大・巨礫 %	中　礫 %	円　度 %	角　度 %	使用度	円×１	亜　円 ×1／2	亜　角 ×1／4	角 ×1／16	計個
⑦掘り込み有り	87	0.86	0.82	70	85	94	44	56	16	84	F	1	5	8	2	16
⑧掘り込み無し	85	0.42	0.87	42	49	100	24	76	0	100	G	0	0	3	2	5
	86	0.66	0.38	19	49	100	42	58	0	100	F	0	0	2	1	3
	88	0.60	1.43	35	24	91	57	43	54	46	B	10	5	2	1	18
	105	0.53	1.13	44	39	93	66	34	23	77	E	5	3	4	1	13
	礫群3	0.75	4.91	115	23	98	38	62	7	93	F	2	3	9	5	19
	礫群4	0.83	3.46	185	53	96	47	53	4	96	F	1	4	10	9	24



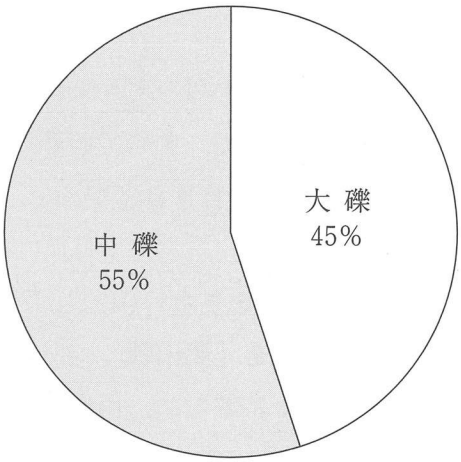
第１図　掘り込みの有る集石遺構の礫密集度



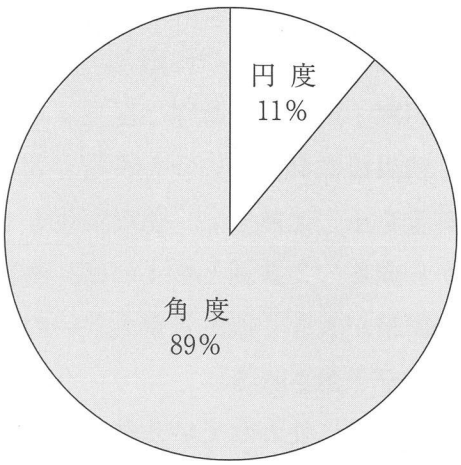
第２図　掘り込みの無い集石遺構の礫密集度



第３図　礫の岩質



第４図　礫の大きさ



第５図　円度と角度

積で割って求めた（単位は個／m^2）。当然，掘り込みの深い集石遺構では礫密集度は高い数値を示し，掘り込みの深さと相関をもつ。相関は横軸に礫数，縦軸に礫密集度をとり，掘り込みの有る場合（第１図）と掘り込みの無い場合（第２図）に分けて図示した。

その結果，掘り込みの有るⅥ層では150個／m^2，Ⅶ層では200個／m^2，Ⅷ層では400個／m^2に集中し，古い年代ほど礫密集度は大きくなり掘り込みが深いことを示した。掘り込みの無い場合は，検出層とは無関係に50～150個／m^2の範囲に散点した。

３）礫の岩質

約15000個の礫の岩質を分類した結果，細粒砂岩が98％を占めた（第３図）。残りの２％は軽石，粗粒砂岩，シルト岩，尾鈴酸性岩（溶結凝灰岩），礫岩の順に多かった。細粒砂岩は台地の基盤を成す第三系宮崎層群から供給されたものであり，四万十累層群の緻密で硬い細粒砂岩とは容易に区別できる。白ケ野遺跡の南に流れる清武川沿いには河岸段丘が発達しており，河岸段丘の底部には宮崎層群の細粒砂岩円礫が多量に堆積しているので，段丘礫から円礫を採集すれば容易に遺跡へ持ち込むことができる環境にある。

４）礫の大きさ

礫は粒径によって次のように区分される。巨礫（粒径25.6cm以上），大礫（25.6～6.4cm），中礫（6.4～0.4cm），細礫（0.4～0.2cm）。細礫は除外して，すべての礫の長径を測定した結果，大礫が45％，中礫が55％を占めた（第４図）。巨礫は３個含まれていた。

５）円度と角度

礫は円礫と角礫から構成される。これらの礫をさらに細分して形が円～楕円形のままで割れていない礫を「円礫」，円礫が割れて二分した礫を「亜円礫」，亜円礫がさらに二分した礫を「亜角礫」，全体が角ばった礫を「角礫」と規定した。さらに，円礫と亜円礫を合わせて「円度」（単位％），亜角礫と角礫を合わせて「角度」（単位％）とした。遺跡全体の礫は，円度11％，角度89％を示し，割れた状態の礫が多いことを示している（第５図）。

６）礫の使用度

集石遺構の礫は赤化礫を含み，埋土に炭化物粒を多く含むことから加熱した跡であると考えられている。個々の集石遺構の礫は，様々な大きさの円礫と角礫から構成されている。これを数値化して大礫・中礫の含有率および円度・角度の占有率で区分することによって，各集石遺構の礫が「使用始め」～「使用中」～「使用後廃棄」という各段階を表せるのではないかと考えた。礫に加熱したとき，礫の熱量Ｑは質量をｍ，比熱をｃ，温度変化をｔとすると，Ｑ＝ｍｃｔで表される。比熱ｃは同質の細粒砂岩から成るので共通と考えれば，熱容量ｍｃの大きいのは大礫の円礫である。角礫は円礫に比べて表面積が大きく放熱量が大きいので，破砕した中礫になるほど保熱量は小さく，時間は短くなることが予想される。

白ケ野第２・第３遺跡では，集石遺構に使われている礫の98％が宮崎層群の細粒砂岩から成るので，円礫として遺跡に持ち込まれた砂岩の礫は加熱後割れ，使用回数が増すにつれてしだいに小さな角礫状となり廃棄されたという仮説に基づいて以下の推論を行う。

統計処理の結果，それぞれの集石遺構中に含まれる円度の割合が30％を越すのは６基だけで，

角度の割合が圧倒的に多いこと，円度30％以上で中礫70％以上の集石遺構は０であること，大礫と中礫の割合はおおよそ半々であることなどを考慮して「円度または角度」と「大礫または中礫含有率」の組み合わせによって以下のようにＡ～Ｇまで区分した。

Ａ～大礫70％以上＋円度30％以上

Ｂ～大礫50～70％＋円度30％以上

Ｃ～中礫50～70％＋円度30％以上

Ｄ～大礫70％以上＋角度70％以上

Ｅ～大礫50～70％＋角度70％以上

Ｆ～中礫50～70％＋角度70％以上

Ｇ～中礫70％以上＋角度70％以上

集石遺構は，掘り込みの有るものから掘り込みのないものへ発達したという見解や準備から廃棄までの段階を表すという考え方がある。本報告では阿部祥人・小薬一夫・小島正裕（1984）の見解に従って準備，使用中，使用後の段階を表すという考えをとった。この考え方を数値を使って表す方法としてＡ～Ｇを３タイプに分けた。

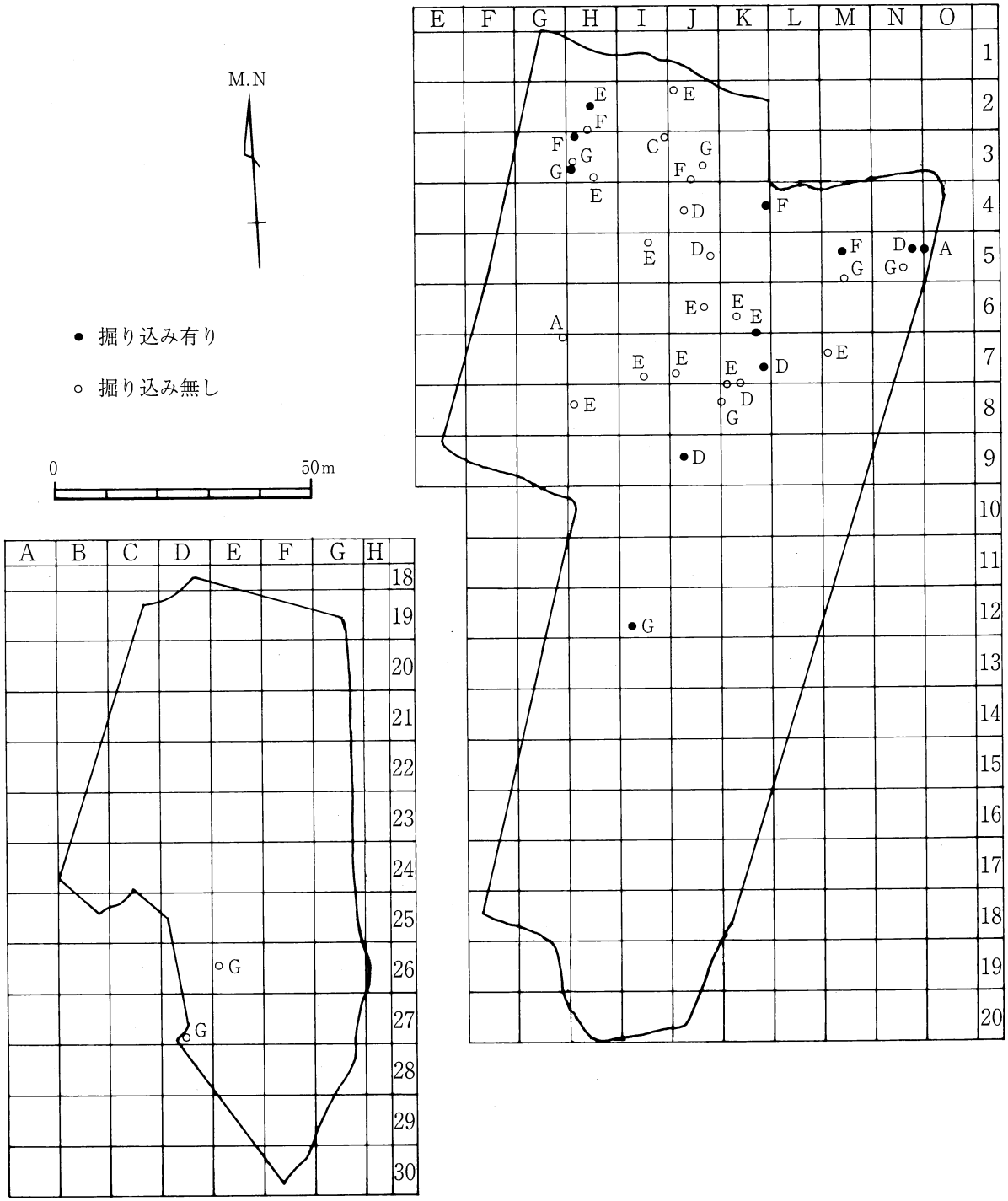
タイプ１－区分Ａ，Ｂ，Ｃ。円度の割合が高く大礫と中礫の割合が多いことから，掘り込みのある集石遺構では「使い始めに近い時期」，掘り込みのない集石遺構では「準備礫」と考えた。

タイプ２－区分Ｄ，Ｅ。角度の割合が高い大礫から構成されることから「使用中」の集石遺構と考えた。

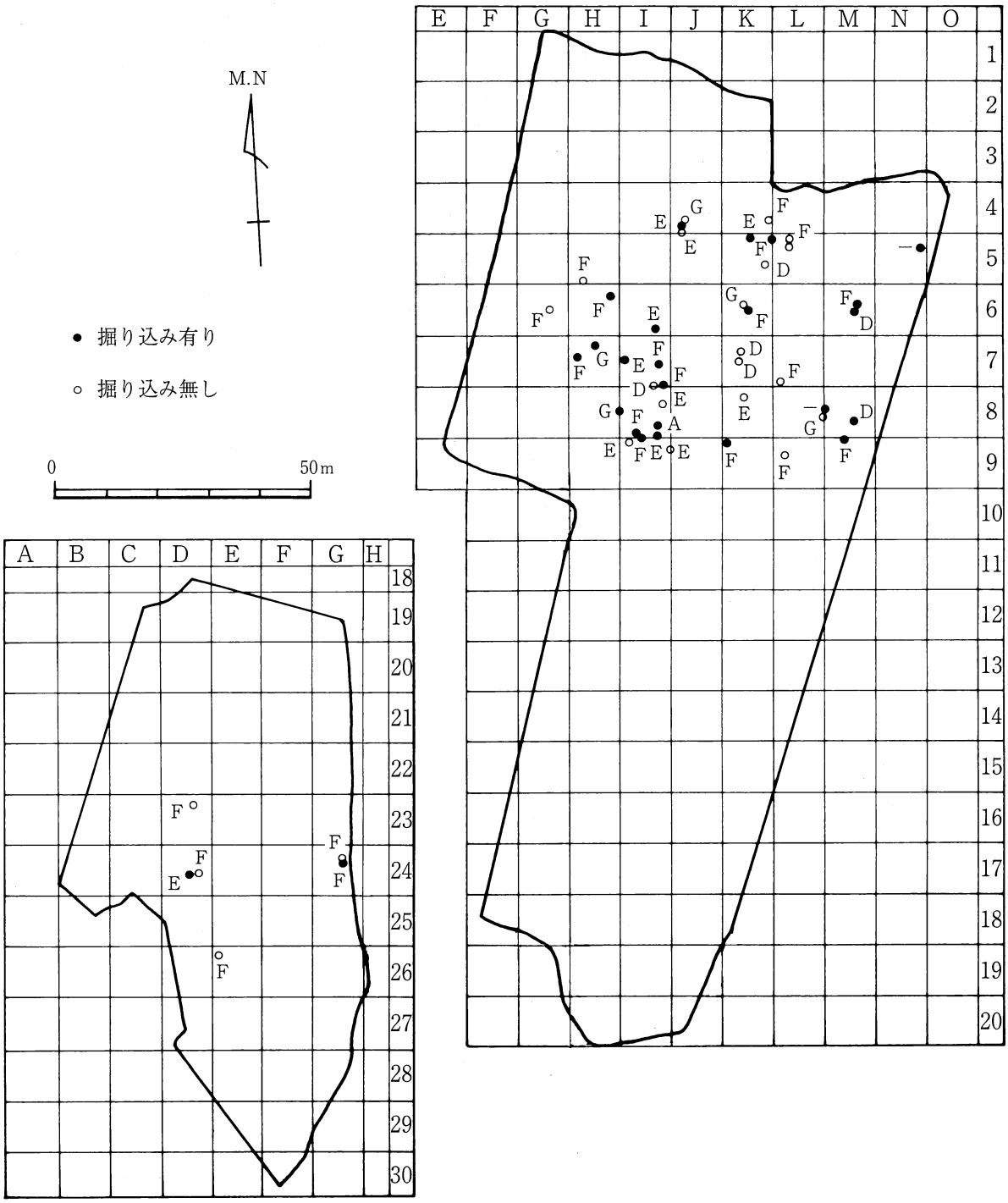
タイプ３－区分Ｆ，Ｇ。角度の割合が高く，中礫から成ることから「使用後廃棄」されたと考えた。

Ⅵ，Ⅶ，Ⅷ層の礫使用度水平分布はそれぞれ第６・７・８図に示した。Ａ～Ｇを各層の集石遺構に当てはめてまとめたのが第２表である。

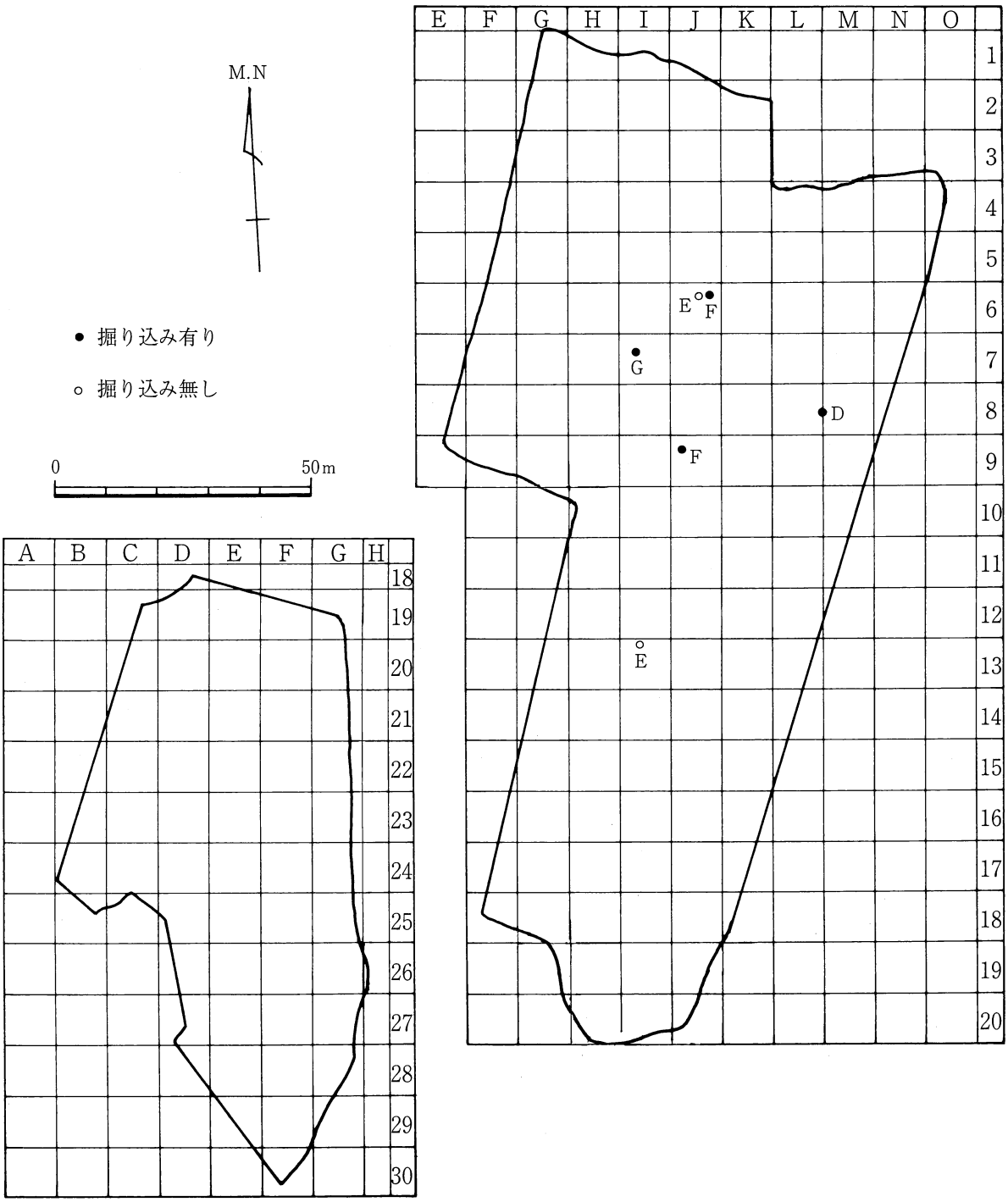
掘り込みが有る場合，タイプ１に属する集石遺構はⅥ層から１基（ＳＩ１）とⅦ層から１基（ＳＩ68）だけであった。ＳＩ１は敷石を有する小型の集石遺構である。総礫数は少ないにもかかわらず大礫の占める割合が大きい。礫の中に砂岩の敲石を２個含み，南側40cmのところに尾鈴山産の溶結凝灰岩からなる磨石を１個出土することからＳＩ１と関連が考えられる。ＳＩ68はＣ区の礫群１の近くで検出された円形の集石遺構である。総礫数170個のうち円礫を15個，亜円礫を43個有していた。ＳＩ１とＳＩ68は使用途中の状態を示すと思われる。タイプ２はⅥ層から５基，Ⅶ層から８基，Ⅷ層から１基検出した。遺構に含まれる総礫数は200個以下，200～400個，400個以上の３つに分けられる。中でもＳＩ69とＳＩ74は礫密集度が400個／m^2を越えている。タイプ３はⅥ層から４基，Ⅶ層から14基，Ⅷ層から３基を検出した。Ⅶ層とⅧ層に含有する礫は小さな角礫が多いので遺構埋土に分散して含まれていることから廃棄礫の可能性が高い。



第６図　Ⅵ層集石遺構の礫使用度分布図



第７図　Ⅶ層集石遺構の礫使用度分布図



第８図　Ⅷ層集石遺構の礫使用度分布図

第２表　集石遺構の礫使用度一覧表

掘 込	検出層	A	B	C	D	E	F	G	計
有り	Ⅵ	1	0	0	3	2	4	0	10
	Ⅶ	1	0	0	2	6	12	2	23
	Ⅷ	0	0	0	1	0	2	1	4
	不 明	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	2	0	0	6	8	19	3	38
無し	Ⅵ	1	0	1	2	11	2	8	25
	Ⅶ	1	0	0	4	5	10	4	24
	Ⅷ	0	0	0	0	2	0	0	2
	不 明	0	1	0	0	1	3	1	6
	計	2	1	1	6	19	15	13	57

掘り込みが無い場合，タイプ１のＡはⅥ層から１基（ＳＩ15）とⅦ層から１基(ＳＩ46)であった。２基とも礫総数は少なく，大礫の亜円礫からなるので，準備礫の可能性が高い。ＳＩ21はタイプ１のＣに属し，中礫で角度の割合が高い。タイプ２はⅥ層から13基，Ⅶ層から９基，Ⅷ層から２基を検出した。タイプ３はⅥ層から10基，Ⅶ層から14基を検出した。掘り込みがない場合，総じて礫数が少ない。総礫数100個以下の割合はⅥ層で80％，Ⅶ層で70％を占める。しかも中礫の角礫主体の構成をしていることから廃棄礫の可能性が高い。

７）礫の円礫換算

初めに，礫を円礫の状態で運び込んだものと仮定して，割れた礫を円礫に換算する方法を試算してみた。即ち，円礫は×１，亜円礫は×１／２，亜角礫は×１／４，角礫は×１／16の換算式をすべての集石遺構測定値にあてはめてみると，平均値は次のような値を示した。

	掘り込み有り	掘り込み無し
Ⅵ層	37個	16個
Ⅶ層	42個	17個
Ⅷ層	83個	５個

古い時期（Ⅷ層）の集石遺構では深い掘り込みの穴に70個前後の円礫を置き，後の時期（Ⅶ，Ⅵ層）になると40個前後の円礫を使った可能性を示している。掘り込みの無い場合は，当然のことながら数は少ない。

実際に大礫サイズの円礫を40個敷き詰めてみると，直径約50cmの掘り込みの浅い穴に適合する。直径約１ｍの掘り込みの浅い穴では，80個の円礫が適合する。敷き詰める礫の数は掘り込みの深さに関係するので，計算値が適正な数であるかどうかは疑問である。発掘した礫は長い年月の間に風化し，移動している可能性があるので，真の測定値はもっと多いことが予想される。また，換算式を変えれば円礫数は変化するので，上記の換算式は，一応の基準としてとらえておく。

８）加熱実験

保坂康夫（1993）は，関東・東海地域の礫群について破断していない完全礫の占有率は１～２割程度が最も多いことを指摘している。また，加熱後自然冷却の実験を行い，加熱によって破断

した礫はおおむね１割程度であったことを報告している。

白ケ野遺跡でも発掘調査終了後の集石遺構を使って加熱と礫の破断実験を行った。石材は宮崎層群産の細粒砂岩の円礫を用いた。大きさは直径10cmの大礫を主にして直径５cmの中礫を少量加えた。実験の手順は，調査を終了した掘り込みのある集石遺構の中に円礫79個を敷き詰め，周囲には土を高さ約10cm盛り上げた。次に小枝を約30分間燃やして礫を加熱した。その間にばしょうの葉に鳥肉とりんごを包み，加熱の対照実験として同じ食材をアルミはくで包んだ。これらの食材を加熱礫で包み込むように置き，その上に盛り上げておいた土をかぶせ，そのまま約40分間放置した。

掘り出してみると，ばしょうの葉は外側が焼けて黒くなっているものの内側は変化がなく，りんごと鶏肉は内部までよく加熱されていた。それに対し，アルミはくで包んだ鳥肉は内部まで加熱されていたが，りんごは内部まで熱が十分伝わらず芯は固いままであった。また，後日ばしょうの葉でサツマイモ，魚，クリを包んで実験したが，すべて内部まで十分加熱されることがわかった。以上の実験では，ばしょうの葉の水分が蒸し焼きに大きな役割を果たしていることを示唆している。

礫の破断実験は２回行った。１回目では79個のうち９個の礫が破断した。２回目は70個中６個の礫が破断し，加熱後破断する円礫の数は約１割であることを示唆した。加熱実験後掘り出した礫は約一週間地表に放置した結果，79個中33個が赤化を示した。

発掘した礫の90％は角礫から成り，ほぼすべての集石遺構で赤化礫が存在する。本稿では円礫から破断して角礫化するメカニズムと赤化のメカニズムについては解明していない。今後，野外での加熱実験によって多数の測定データを得る必要がある。

９）まとめ

白ケ野第２・第３遺跡で検出された集石遺構について，①検出層，②掘り込みの有無，③礫の分布，④礫数，⑤岩質，⑥礫の大きさ，⑦炭化物の有無，⑧土器・石器の有無，⑨石器石材の有無，⑩底石の有無，⑪赤化礫の有無の測定を行い，数値化した資料から統計処理によって相関を見い出す試みを行った。

その結果，以下のことがわかった。

１）礫の分布形態は離心率で表すと，掘り込みの有無に関係なくほぼ円形に近い楕円形を示す。

２）礫の密集度は１m^2あたりの礫数で表した。掘り込みの有る場合は古い時代ほど大きな数値を示し，掘り込みが深くなることを表した。掘り込みのない場合，数値は分散した。

３）礫の岩質は98％が宮崎層群産の細粒砂岩から成る。

４）礫の大きさは大礫と中礫が半々である。

５）礫を円礫，亜円礫，亜角礫，角礫に区分し，円礫と亜円礫を円度（％），亜角礫と角礫を角度（％）で表すと，円度：角度＝１：９の割合である。

６）礫の使用度をＡ～Ｇに区分し，さらにタイプ１（使用始め），タイプ２（使用中），タイプ３（使用後廃棄または準備）に分けた。全体として使用後廃棄または準備のタイプが半

数を占め，古い時代の集石遺構ほど使用後廃棄または準備の割合が大きい。

7）礫は最初は円礫として搬入されたものと仮定して，亜円礫は２個，亜角礫は４個，角礫は16個で１個の円礫に換算した。その結果，掘り込みのある場合Ⅵ層とⅦ層では約40個，Ⅷ層では約80個に換算された。この個数はそれぞれ直径50cmと１mの集石遺構に適合する。掘り込みのない場合は，検出層とは無関係に少量を示した。

8）集石礫を加熱調理施設とみなして２回にわたって野外加熱実験した結果，円礫が破断する数は１割であった。また，加熱後一週間で約42％の礫が赤化した。

10）問題点

本報告で考察した集石遺構の礫の分析は，宮崎平野の段丘礫が発達する台地上での遺構であるという特別な条件下で成り立つものである。それは，細粒砂岩の円礫が段丘礫から簡単に入手できるという地理的背景による。従って，県北の様々な岩質の混合した集石遺構や鹿児島県の上の原遺跡の集石遺構のように安山岩の角礫を使用している場合では，本稿の推論は適用できない。今後，宮崎平野の台地上で発掘される同様な集石遺構について，条件を規定して適用すれば本論の検証は可能である。

集石遺構の数値化は，これまで肉眼観察によって論じられたことの検証と統計処理による傾向分析を目的とした一つの試みであり，すべてを数値で分析・説明できるものではない。

今回は礫の加熱後，どのように破断し，赤化するのか明らかにすることはできなかった。今後，他地域の似たような条件下でのデータ分析に期待したい。

（参考文献）

阿部祥人・小薬一夫・小島正裕（1984）縄文遺跡における「礫」の考古学的位置づけ－多摩丘陵出土の資料を中心として－古代文化，vol.36，521-526.

平原遺跡Ⅱ（1993）佐賀県文化財調査報告書　第120集，佐賀県教育委員会

保坂康夫（1993）礫群構成礫の割れ(破断)に関する実験的研究　考古論集，潮見浩先生退官記念事業会，93-110.

鹿児島県教育委員会（1980）石峯遺跡，九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書－Ⅳ－

飯盛ケ岡遺跡（1993）鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(3)

桑畑光博（1989）宮崎県の縄文時代研究史－研究の現状と課題－　宮崎考古，石川恒太郎先生米寿記念特集号上巻，25-44.

宮崎県高岡町教育委員会（1997）久木野遺跡（１区～４区）　高岡町埋蔵文化財調査報告書第12集

成尾英仁（1999）根占町大中原遺跡におけるテフラ層，鹿児島県立博物館研究報告，18号，79-88.

徳永貞紹（1995）八木澤一郎「南九州の集石遺構」の論評　南九州縄文通信，№９，30-33.

八木澤一郎（1994）南九州の集石遺構　南九州縄文通信，№８，21-41.

吉本正典（1995）集石遺構（宮崎県）　旧石器から縄文へ，平成７年度鹿児島県考古学会秋季大会，96-100.

第Ⅳ章　自然科学的分析

株式会社古環境研究所

Ⅰ．白ヶ野遺跡第２・第３遺跡の土層とテフラ(1)

１．はじめに

宮崎県域には，霧島火山や姶良カルデラ，鬼界カルデラなど南九州地方の火山をはじめとして阿蘇火山など多くの火山から噴出したテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く分布している。これらのテフラの中には，すでに噴出年代が明らかにされているものがあり，それら示標テフラとの層位関係を求めることによって，遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集できるようになっている。そこで白ヶ野遺跡においても地質調査，テフラ検出分析さらに屈折率測定を合わせて行い，示標テフラの層位を明らかにして，遺跡の土層の形成年代に関する資料を求めることになった。調査の対象となった地点は，Ｇ－12グリッド，Ｅ区試掘トレンチ，Ｇ－９グリッドおよびＢ－４グリッドの４地点である。

２．土層の層序

(1)　Ｇ－12グリッド

この地点では，下位より褐色土（層厚25cm），暗褐色土（層厚30cm），黄色軽石に富む灰色がかった暗褐色土（層厚17cm，軽石の最大径12cm，石質岩片の最大径２cm），暗褐色土（層厚27cm）が認められた（図１）。

(2)　Ｅ区試掘トレンチ

本地点では，下位より黄色軽石に富む灰色がかった暗褐色土（Ｇ－12グリッドの下位より３層目）の上位に，下位より暗褐色土（層厚30cm），黄色粗粒火山灰混じり暗褐色土（層厚14cm），灰色粗粒火山灰混じり黒色土（層厚14cm），成層したテフラ層，作土（層厚27cm）が認められた（図２）。これらのうち，成層したテフラ層は，下部の褐色火山豆石混じり黄色細粒軽石層（層厚３cm，軽石の最大径５mm，火山豆石の最大径３mm）と，上部の黄色細粒火山灰層（層厚28cm）から構成されている。このテフラ層は，層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，町田・新井，1978）に同定される。白ヶ野第２・第３遺跡の発掘調査では，最下位の土層の上面から細石核が検出されている。

(3)　Ｇ－９グリッド

この地点では，下位より暗褐色土（層厚17cm），黒褐色土（層厚４cm），黄色粗粒火山灰に富む黒褐色土（層厚４cm），黒色土（層厚10cm），成層したテフラ層が認められた（図３）。これらのうち，成層したテフラ層は層相からK-Ahに同定されるものである。これらの土層のうち，発掘調査では下位より２層目および３層目の土層から縄文時代早期の土器が検出されている。

(4) B－4グリッド

ここでは，K-Ahに同定される成層したテフラ層の上位に，下位より黄褐色土（層厚7㎝），黒色土（層厚21㎝），暗褐色土（層厚9㎝），褐色粗粒火山灰に富む暗褐色土（層厚8㎝），作土が認められた（図4）。褐色粗粒火山灰については，岩相などから788（延暦7）年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられている霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE，井ノ上，1988，町田・新井，1992）に由来すると思われる。

3．屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために，G－12グリッド，E区試掘トレンチ，G－9グリッドの3地点で採取された試料について，位相差法による屈折率測定（新井，1972）を行った。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表1に示す。G－12グリッド試料番号1には，重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は1.704-1.707である。これらの特徴は，約1.6万年前以降（約1.05万年前以前）に霧島火山から噴出したと考えられている霧島小林軽石（Kr-Kb，伊田ほか，1956，町田・新井,1992）と一致する。

E区試掘トレンチ試料番号1には，斜方輝石のほか単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は，1.706-1.711である。この斜方輝石は，その屈折率や層位などから縄文時代早期に桜島火山から噴出したテフラに由来する可能性が大きいと考えられる。

G－9グリッド試料番号1にも，斜方輝石のほか単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は，1.706-1.711である。この斜方輝石は，その屈折率や層位などからE区試掘トレンチ試料番号1に含まれるテフラと起源を同じくするものと考えられる。白ヶ野遺跡の調査で検出された細石核の層位はKr-Kbの上位で，この桜島火山起源の縄文時代早期のテフラより下位にある。また縄文時代早期の遺物は，このテフラ層の下位から上位にかけての層位にあると考えられる。

縄文時代早期に桜島火山から噴出したテフラとしては，桜島薩摩テフラ（約1.05万年前，町田・新井，1992）をはじめとして数層の存在が知られているが，それらの層序および噴出年代に関しては統一見解が得られていないのが現状である。より詳細な編年研究を展開するためにさらに分析を行い，桜島火山起源のテフラの層序と噴出年代に関する資料を収集していく必要がある。

4．小結

白ヶ野第2・第3遺跡において，土層の形成年代に関する資料を収集するために，地質調査と屈折率測定を合わせて行った。その結果，下位より霧島小林軽石（Kr-Kb，約1.6-1.05万年前），桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ，鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約6,300年前）さらに霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE，788年）の降灰層準を検出することができた。

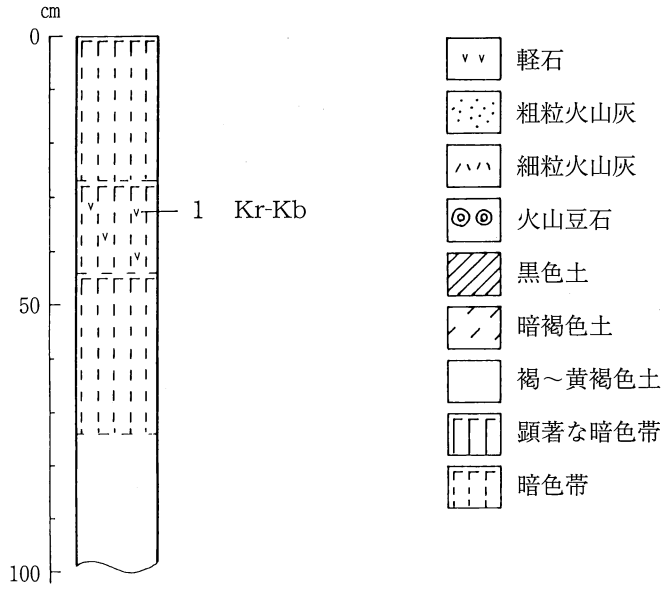


図１　白ヶ野遺跡Ｇ－12グリッドの
土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

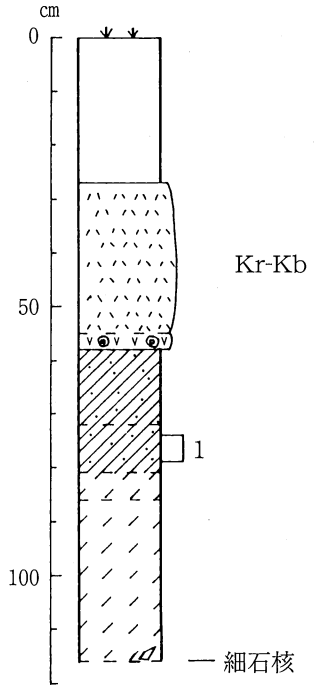


図２　白ヶ野遺跡Ｅ区試掘トレンチの
土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

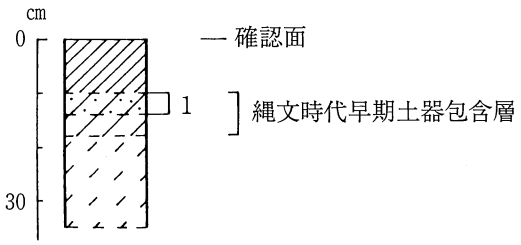


図３　白ヶ野遺跡Ｇ－９グリッドの
土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

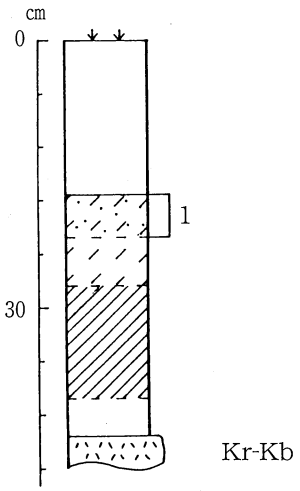


図４　白ヶ野遺跡Ｂ－４グリッドの
土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

（文献）
新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.
伊田一善・本島公司・安国　昇（1956）宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告．地調報告，168，p.1-44.
井ノ上幸造（1988）霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史，岩鉱，83，p.26-41.
町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－鬼界アカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p.243-263.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

表１　屈折率測定結果

地　点	試料	重鉱物	斜方輝石（γ）
Ｇ－12グリッド	1	opx, cpx	1.704-1.707
Ｅ区試掘トレンチ	1	opx＞cpx	1.706-1.711
Ｇ－９グリッド	1	opx＞cpx	1.706-1.711

屈折率の測定は、位相差法（新井、1972）による．
opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石．

II．白ケ野第２・第３遺跡の土層とテフラ(2)

１．土層の層序

(1)　Ｂ５グリッド（基本土層断面）

Ｂ５グリッドでは，火山灰土の堆積状況をよく観察することができた。この地点では，下位より黄色軽石を多く含む灰褐色砂質土（層厚10cm，軽石の最大径５㎜），明褐色土のブロックに富む褐色土（層厚27cm），褐色土（層厚12cm），暗褐色土（層厚４cm），黄色細粒軽石に富む暗褐色土（層厚５cm，軽石の最大径２㎜），黒色土（層厚７cm），黒褐色土（層厚４cm），砂分を比較的多く含む黒灰色土（層厚２cm），成層したテフラ層（層厚34cm），暗褐色土（層厚３cm），黒褐色土（層厚５cm），黒色土（層厚９cm），黒褐色土（層厚11cm），褐色スコリア混じり黒色土（層厚７cm，スコリアの最大径２㎜），暗灰色土砂質表土（層厚25cm）が認められた（図１）。

これらの土層のうち，最下位の灰褐色土中に多く含まれる黄色軽石は，その岩相から約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石（Kr-Kb，伊田ほか，1956，町田・新井，1992，早田，1996印刷中）に由来すると考えられる。また成層したテフラ層は，火山豆石を含む下部の黄橙色軽石層（層厚２cm，軽石の最大径７㎜，火山豆石の最大径５㎜）と上部の厚い黄橙色細粒火山灰層（層厚32cm）から構成される。このテフラ層は，層相から約6,300年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，町田・新井，1978）に同定される。なお，K-Ahの直上にある暗褐色土の上面には，凹凸が認められる。したがって，時期は不明であるが，この土層の形成後に土壌侵食が発生した可能性が考えられる。

表土のすぐ下位の黒色土中に含まれるスコリアについては，層位や岩相などから従来788（延

暦７）年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられ，霧島延暦御鉢テフラ（Kr-OhE，井ノ上，1988，町田・新井，1992）と命名されてきた霧島高原スコリア（Kr-Th，早田，1996印刷中）に由来すると考えられる。このテフラについては，最近加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果などから，10～13世紀の可能性が指摘されている（奥野，1996）。

(2) 第１地点

下位より黒褐色土（層厚42cm），暗褐色土（層厚21cm），黄色軽石に富む灰色土（層厚21cm，軽石の最大径14mm），褐色土（層厚20cm）が認められた（図２）。これらのうち，灰色土中に含まれる黄色軽石は，その岩相から約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石に由来すると考えられる。

２．屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

K-Ahの下位の比較的腐植に富む土層中に認められた２層準のテフラ試料（試料番号２および試料番号１）について，位相差法（新井，1972）により屈折率測定を行い，従来知られているテフラとの同定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を，表１に示す。試料番号２には，重鉱物として斜方輝石のほか，単斜輝石さらにごく少量のカンラン石が認められた。斜方輝石の屈折率（γ）は1.706-1.713，中央値は１.710-1.713である。したがってこのテフラ粒子は，縄文時代早期の約7,400～8,300年前に桜島火山から噴出した桜島嫁坂軽石（Sz-Ym，早田，1996印刷中）に由来すると考えられる。

一方，試料番号１には，重鉱物として斜方輝石のほか，少量の単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は，1.705-1.710である。このテフラ粒子については，その層位から，約6,500-6,300年前に霧島火山から噴出していた霧島牛ノスネ火山灰下部（Kr-USL，井ノ上，1988，早田，1996印刷中）に由来している可能性が大きいと思われる。ただし従来Kr-USLについては屈折率が測定されておらず，資料に欠如している。今後Kr-USLについて，屈折率の測定を行う必要がある。

３．小結

地質調査と屈折率測定の結果，下位より霧島小林軽石（Kr-Kb，約1.4-1.6万年前），桜島嫁坂軽石（Sz-Ym，約7,400～8,300年前），鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約6,300年前），霧島高原スコリア（10～13世紀？）の層位を検出することができた。さらに霧島牛のスネ火山灰下部（Kr-USL，約6,500-6,300年前）の降灰層準を検出できる可能性も指摘できた。従来南九州地方における後期更新世以降のテフラの調査や発掘調査の際に，テフラの岩石記載的な特徴把握が行われた例はさほど多くない。今後さらに調査分析を行い，資料を蓄積していく必要がある。

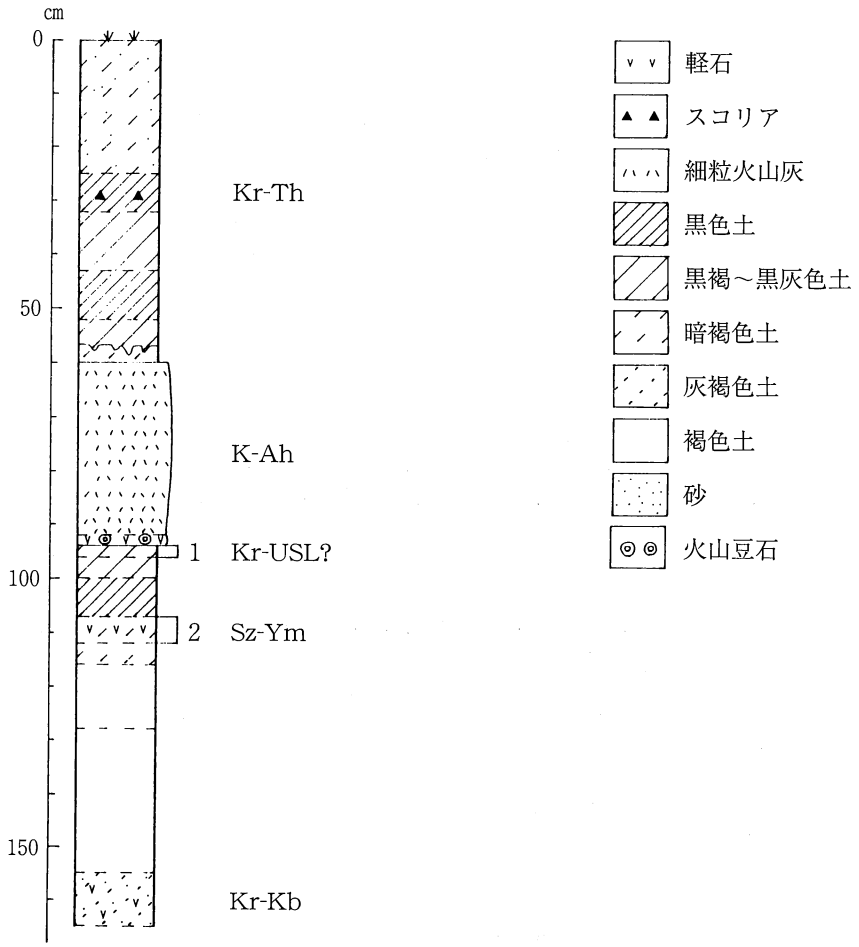


図1　Ｂ５グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

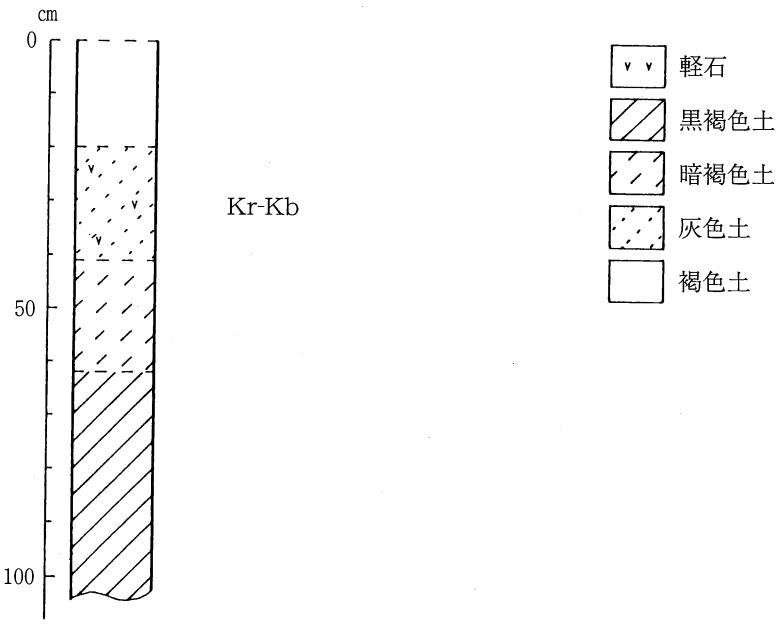


図2　第一地点の土層柱状図

（文献）
新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石によるテフラの同定ーテフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.
伊田一善・本島公司・安国　昇（1956）宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告．地調報告，168，p.1-44.
井ノ上幸造（1988）霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史．岩鉱，83，p.26-41.
町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラー鬼界アカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p.243-263.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.
奥野　充（1996）南九州の第四紀末テフラの加速器14C年代（予報）．名古屋大学　加速器質量分計　業績報告書，Ⅶ，p.89-116.
早田　勉（1996印刷中）宮崎県のテフラ．宮崎県史.

表１　屈折率測定結果

試料	重鉱物	斜方輝石の屈折率（γ）
1	opx＞cpx	1.705-1.710
1	opx＞cpx（ol）	1.706-1.713（1.710-1.713）

屈折率の測定は、位相差法（新井、1972）による．
opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石．

Ⅲ．白ヶ野第２・第３遺跡の植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は，植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり，植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は，この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり，イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。

２．試料

試料は，Ｇ－12グリッド，Ｅ区試掘トレンチ，Ｂ－４グリッドの３地点から採取された21点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は，プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに，次の手順で行った。

１）試料の絶乾（105℃・24時間）　２）試料約1gを秤量，ガラスビーズ添加（直径約40μｍ・約0.02ｇ）※電子分析天秤により１万分の１ｇの精度で秤量　３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理　４）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）　５）沈底法による微粒子（20μｍ以下）除去，乾燥　６）封入剤（オイキット）中に分散，プレパラート作成　７）検鏡・計数

同定は，イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし，400倍の偏光顕微鏡

下で行った。計数は，ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に，計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて，試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。

また，おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10^{-5}ｇ）をかけて，単位面積で層厚１㎝あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94，ヨシ属（ヨシ）は6.31，ススキ属型（ススキ）は1.24，ネザサ節は0.48，クマザサ属は0.75である。

４．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行った。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ，キビ族型，ヨシ属，ススキ属型（ススキ属，チガヤ属），ウシクサ族型，ウシクサ族型Ａ（大型），シバ属，Ｂタイプ，Ｃタイプ，ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節），クマザサ属型（おもにクマザサ属），ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節），メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節，ヤダケ属），マダケ属型（マダケ属，ホウライチク属），タケ亜科（未分類等）

穎の表皮細胞由来：オオムギ族

その他：表皮毛起源，棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来），茎部起源，未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属），クスノキ科（バリバリノキ？），マンサク科（イスノキ属），その他

(1)　Ｇ－12グリッド（図１）

Kr-Kb混層およびその上下層について分析を行った。その結果，Kr-Kbより下位層（試料５～８）では，クマザサ属型が比較的多く検出された。ウシクサ族型や棒状珪酸体なども検出されたが，いずれも少量である。Kr-Kb混層（試料３，４）およびその上層（試料１，２）でもおおむね同様の結果であるが，試料４ではクマザサ属型が一時的に増加しており，試料２ではネザサ節型が出現している。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると，全体的にクマザサ属型が優勢であることが分かる。

(2)　Ｅ区試掘トレンチ（図２）

細石核が検出された層（試料８）からK-Ahの上層（試料１）までの層準について分析を行った。その結果，細石核が検出された層（試料８）ではクマザサ属型やススキ属型，ウシクサ族型などが検出されたが，いずれも少量である。試料７ではクマザサ属型が比較的多く検出されたが，試料６では減少傾向を示し，かわってネザサ節型やウシクサ族型が増加傾向を示している。桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ混層（試料５）では，ネザサ節型が急激に増加しており，密度は６万個／ｇ以上にも達している。K-Ah直下層（試料３，４）でもおおむね同様の結果である。K-Ah直上層（試料１）ではネザサ節型やウシクサ族型，棒状珪酸体が多量に検出され，ススキ属型やブナ科（シイ属）も検出された。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると，試料

５より上位ではネザサ節型が優勢となっていることが分かる。

(3) Ｂ－４グリッド（図３）

K-Ah直上層（試料６）から現表土（試料１）までの層準について分析を行った。その結果，K-Ah直上層（試料６）ではネザサ節型やススキ属型などが検出されたが，いずれも比較的少量である。その上位の黒色土（試料４，５）では，ネザサ節型が多量に検出され，ススキ属型やウシクサ族型，メダケ節型，ブナ科（シイ属），クスノキ科（バリバリノキ？），マンサク科（イスノキ属）なども検出された。ネザサ節型の密度は最大８万個／ｇ以上にも達している。霧島御鉢延暦テフラ混層（試料２）にかけてもおおむね同様の結果であるが，ススキ属型やウシクサ族型がしだいに増加している。現表土（試料１）ではイネやオオムギ族（穎の表皮細胞），マダケ属型が検出された。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると，全体的にネザサ節型が卓越していることが分かる。

５．植物珪酸体分析から推定される植生・環境

以上の結果から，白ヶ野第２・第３遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

霧島小林軽石（Kr-Kb，約1.6-1.05万年前）混層およびその上下層の堆積当時は，クマザサ属を主体とするイネ科植生であり，何らかの原因でそれ以外のイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったものと推定される。クマザサ属は比較的寒冷なところに生育していることから，当時は寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。クマザサ属は常緑性であることから，大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカの重要な食物となっている（高槻，1992）。

桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ混層では，ネザサ節が急激に増加し，ススキ属やチガヤ属なども見られるようになったと考えられる。ネザサ節は比較的温暖なところに生育していることから，この時期に寒冷から温暖への環境変化があったと考えられる。これらの植物は日当りの悪い林床では生育が困難であることから，当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約6,300年前）直下層でも同様の状況であったと考えられる。

鬼界アカホヤ火山灰の上位の黒色土の堆積当時は，ネザサ節を主体としてススキ属やチガヤ属，メダケ節なども見られるイネ科植生が継続されたと考えられる。また，この時期には周辺でシイ属やイスノキ属，クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。花粉分析の結果によると，南九州では約8,500年前には照葉樹林が成立していたと推定されている（松下，1992）が，内陸部や台地部では沿岸部よりもかなり遅れて照葉樹林が拡大したことが指摘されている（杉山・早田，1994）。今後，周辺地域で同様の検討を行うことにより，照葉樹林の存在や分布拡大の様相が解明されるものと期待される。

現表土では，イネやムギ類の栽培が行われていたと考えられるが，これらの栽培が開始されたのは霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE，788年）の堆積以降と考えられる。タケ亜科植物のうち，マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く，建築材や生活用具，食用などとしての利用価値が高いが，これらの植物が現れるのは比較的最近のことと考えられる。

（参考文献）
杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第２号，p.27-37.
杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.
杉山真二・早田勉（1994）植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定（第２報）－九州南部の台地上における照葉樹林の分布拡大の様相－．日本文化財科学会　第11回大会研究発表要旨集，p.53-54.
高槻成紀（1992）北に生きるシカたち－シカ，ササそして雪をめぐる生態学－．どうぶつ社.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培　植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.
松下まり子（1992）日本列島太平洋岸における完新世の照葉樹林発達史．第四紀研究，31(5)，p.375-387.

II．白ヶ野第２・第３遺跡における放射性炭素年代測定結果

1．試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	Ｂ５グリッド、No.① Kr-USL?直下	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法
No.2	Ｂ５グリッド、No.② Sz-Ym直上	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法
No.3	Ｂ５グリッド、No.③ Sz-Ym層準	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法
No.4	Ｂ５グリッド、No.④ Sz-Ym直下	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法
No.5	Ｓ117集石、No.⑦	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄 ベンゼン合成	β線法
No.6	Ｓ69集石、No.⑧	炭化材 （カヤ）	酸－アルカリ－酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 （長時間測定）
No.7	Ｓ92集石、No.⑩	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄 ベンゼン合成	β線法 （長時間測定）
No.8	Ｓ82集石、No.⑪	炭化物	酸－アルカリ－酸洗浄 ベンゼン合成	β線法
No.9	第１地点、No.1 Kr-Kb層準	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法
No.10	第１地点、No.2 Kr-Kb直下	土壌	酸洗浄 ベンゼン合成 低濃度処理	β線法

2．測定結果

1）^{14}Ｃ年代測定値

試料の^{14}Ｃ／^{12}Ｃ比から，単純に現在（1950年ＡＤ）から何年前（ＢＰ）かを計算した値。

^{14}Ｃの半減期は5,568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C／^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C／^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り，^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年ＢＰより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは，補正^{14}C年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。１σは補正[14] C年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって，複数の交点が表記される場合や，複数の１σ値が表記される場合もある。

試料名	^{14}C年代（年ＢＰ）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年ＢＰ）	暦年代交点（１σ）	測定No.（Beta-）
No.1	6030±70	−28.7	5970±70	BC4840（BC4930～4785）	97145
No.2	4960±70	−25.6	4950±70	BC3715（BC3790～3660）	97146
No.3	6460±70	−24.1	6470±70	BC5420（BC5445～5315）	97147
No.4	6670±80	−24.5	6680±80	BC5580（BC5605～5480）	97148
No.5	8210±70	−24.7	8220±70	BC7255（BC7310～7055）	97149
No.6	7400±110	−25.3	7390±110	BC6190（BC6365～6115）	97150
No.7	8140±220	−25.7	8130±220	BC7045（BC7430～6690）	97151
No.8	8260±80	−27.9	8210±80	BC7245（BC7310～7045）	97152
No.9	14010±110	−22.7	14050±110	−	90970
No.10	15570±100	−23.2	15600±100	−	90971

Ⅲ．白ケ野第２・第３遺跡出土炭化材の樹種同定

１．試料

試料は，S69集石中から出土した炭化材（No⑫）である。試料は，年代測定を行ったNo⑧と同一物である。

２．方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面，放射断面，接線断面）を作製し，落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

３．結果

結果を表１に示し，同定根拠となった特徴を記す。また，各断面の顕微鏡写真を示す。

表１　出土炭化材の樹種同定結果

試料	樹種（和名／学名）
No⑫	カヤ　*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.

カヤ　*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は緩やかで，晩材部の幅は狭く年輪界は比較的不明瞭である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～４個存在する。仮道管の内壁には，らせん肥厚が存在し２本対になる傾向を示す。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で，仮道管の内壁には２本対になる傾向を示すらせん肥厚が存在する。

以上の形質より，カヤに同定される。カヤは宮城県以南の本州，四国，九州と韓国の済州島に分布する。常緑の高木で通常高さ25m，径90cmに達する。材は均質緻密で堅硬，弾性強く水湿にも耐え，保存性が高い。弓などに用いられる。

（参考文献）
佐伯　浩・原田　浩(1985)針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，P.20-48.

第Ⅶ章　　総　括

第１節　遺物からうかがえる遺跡の性格

本遺跡の縄文時代草創期（一部後期旧石器最終末期に遡る可能性あり），早期の年代，環境については，第２節で総括がなされるため，ここでは土器，石器からうかがい知ることのできる事象についてのみ，簡単にまとめておきたい。

出土土器からは，早期前半に一部空白期はあるものの，早期の中葉から末葉にかけて，当地で連綿と人々の生活が展開されてきたことが判った。特に，押型文系土器のＢ３・４類示準期から平栫式・撚糸文塞ノ神式期にかけて，本遺跡の形成活動がピークを迎えたと見られ，出土層の分析からⅦ層が押型文系土器の存続期に，Ⅵ層が平栫式・塞ノ神式の存続期に形成されたと考えられる。縄文時代草創期の土器はⅧ・Ⅸ層中には見られなかったが，細石器，神子柴型石斧などを出土するⅨ層が，後期旧石器最終末～縄文時代草創期に形成された層である可能性が高いと見られる。今後，土器編年を確立させるとともに，本報告では詳しく触れることのできなかった文様の細かな検討や，多く見られる円形の穿孔の意味するところの解明などといった課題に取り組んでいきたい。

石器については，出土層ごとにまとめてみたが，現時点では土器との関連が必ずしも明らかでない。この点についても今後，他遺跡の状況を参考にしながら検討を進めていきたい。

また，本報告では遺憾ながら各々の遺物の細かな出土位置や出土状況については触れることができず，土器についてグリッド毎の出土位置（平面・垂直）の傾向を示すにとどまった。その結果については前章末に示した通りであるが，土器片の遺存の度合いについて補足するならば，平栫・撚糸文塞ノ神式の個体が比較的まとまっており原形をとどめる個体が多いこと，貝殻文円筒形土器の系統や押型文系土器は多くが小破片化していることなどが指摘できる。このことから，塞ノ神式期の攪乱作用によって既に堆積していたⅦ層中に包含されている押型文系土器の破砕，細片化，移動などの現象が生じたと推測される。

第２節　自然科学分析の結果

本遺跡では，２か年度にわたり自然科学分析を古環境研究所に依頼した。

1995年の分析では，土層の形成年代を明らかにするための指標テフラ検出と古環境を推定する資料としての植物珪酸体分析を試みた。その結果，斜方輝石の屈折率測定と土層の層位観察によって４つのテフラを検出した。下位から霧島小林軽石（Kr-Kb，約1.6-1.05万年前），桜島火山起源の縄文時代早期のテフラ，鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約6300年前），霧島御鉢延暦テフラ（Kr-OhE，ＡＤ788年）である。なお，Kr-OhEテフラのＡＤ788年は後に10-13Ｃに訂正された。

1996年の分析では，前回詳細不明であったテフラの同定および集石遺構中の炭化物と土壌の放射性炭素年代測定，炭化材の樹種同定を行った。1995年のテフラ分析で桜島起源とされたテフラは斜方輝石の屈折率測定の結果，縄文時代早期の約7400～8300年前に桜島から噴出した桜島嫁坂

軽石（桜島末吉，p.11ともいう）に由来することがわかった。また，アカホヤ火山灰直下のテフラは，斜方輝石の屈折率測定によって霧島牛ノ脛火山灰（下部）に由来する可能性が指摘された。その他，前回と同じく下位から霧島小林軽石，アカホヤ火山灰，霧島高原スコリアが検出された。

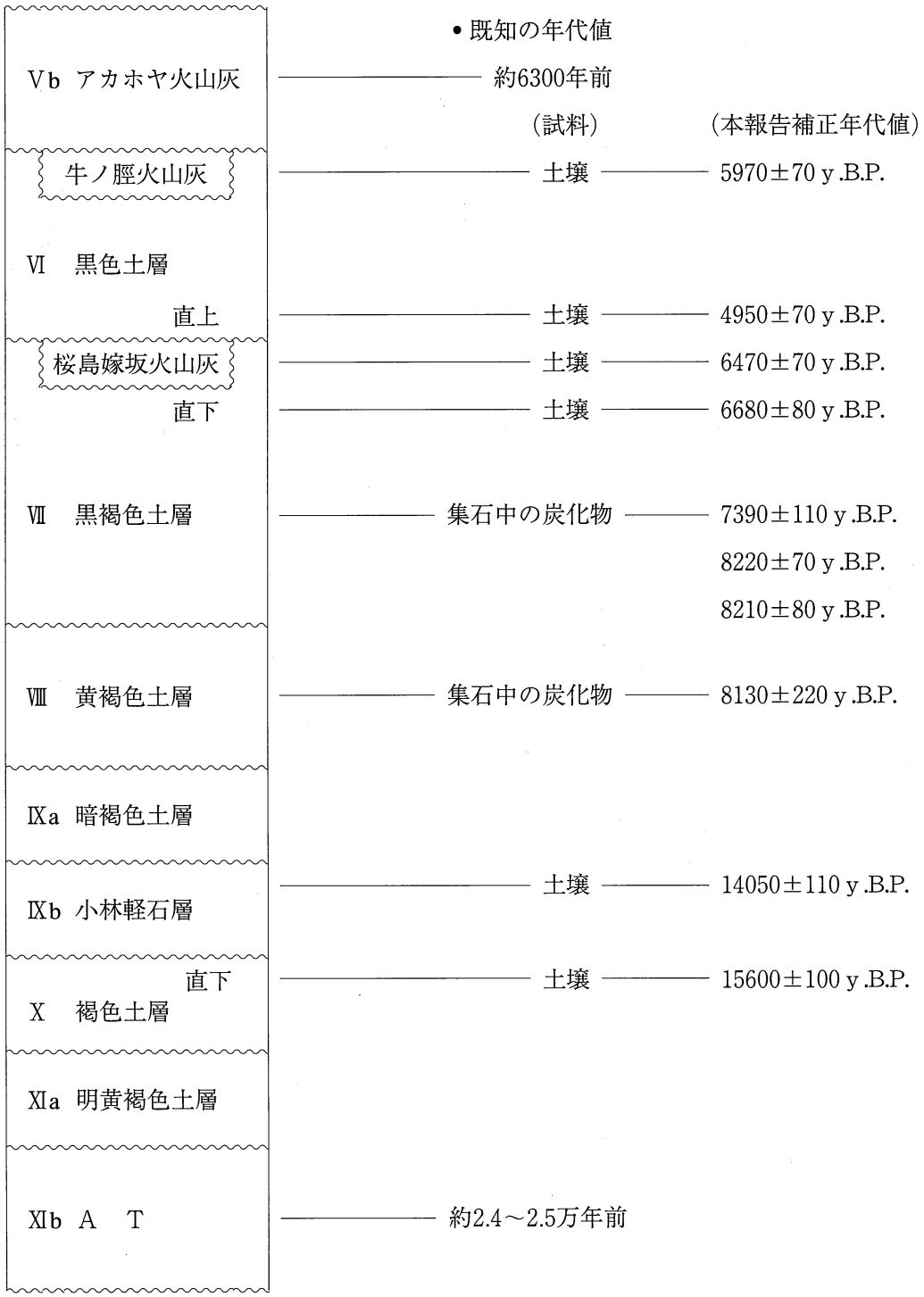
植物珪酸体分析の結果，白ケ野遺跡の過去の植生と環境が明らかになった。霧島小林軽石混層およびその上下層の堆積当時（旧石器時代後期）はクマザサ属を主とした植生環境下にあったと推定される。この時代は約1.8万年前の最寒氷期を過ぎた寒冷～冷涼期にあたる。クマザサ属は寒冷な気候条件のもとで常緑性であり，秋から冬にかけてシカの食料になっている。桜島火山起源テフラ混層（縄文時代早期）では，ネザサ節が急激に増加し，ススキ属やチガヤ属も見られるようになったと考えられる。ネザザ節は温暖で日当たりの良いところに生育していることから当時の白ケ野付近は森林の少ない草原状態であったと推定されている。このような環境はアカホヤ火山灰降灰直前まで続いていたと考えられる。

広範囲にわたるアカホヤ火山灰の堆積は南九州の植生環境を一変させた。当台地上でも長い時間を経て上位の黒色土になると，ネザサ節を主体にしたススキ属，チガヤ属，メダケ節などが見られ，周辺ではシイ属，イスノキ属，クスノキ属などの照葉樹林が成立していたと推定されている。

放射性炭素年代測定は土壌6サンプルを使った。測定はβ線法を使用し，$^{14}C/^{12}C$比から求めた値を補正してある。^{14}Cの半減期は5568年を用い，何年前（B.P.）かは1950年ＡＤを基準にしている。その結果，霧島牛ノ脛火山灰層直下で5970±70y.B.P.，桜島嫁坂層直上で4950±70y.B.P.，桜島嫁坂層で6470±70y.B.P.，桜島嫁坂層直下で6680±80y.B.P.，霧島小林層で14050±110y.B.P.，霧島小林層直下で15600±100y.B.P.の値が得られた。この中で小林軽石層より上位の土壌サンプル4点の測定値は既知年代よりも若い値を示している。これは土壌中の植物や生物の影響を受けた可能性がある。

集石遺構中の炭化物は4点の年代測定を行った。その結果，8220±70y.B.P.，7390±110y.B.P.，8130±220y.B.P.，8210±80y.B.P.の値を得た。7390±110y.B.P.の炭化材は樹種同定によって「カヤ」であることが判明した。カヤは常緑の高木で通常高さ25m，径90cmに達し，材質は緻密・堅硬で弾性が強く保存性が高いという。

以上述べた測定結果を次頁図に示しておく。

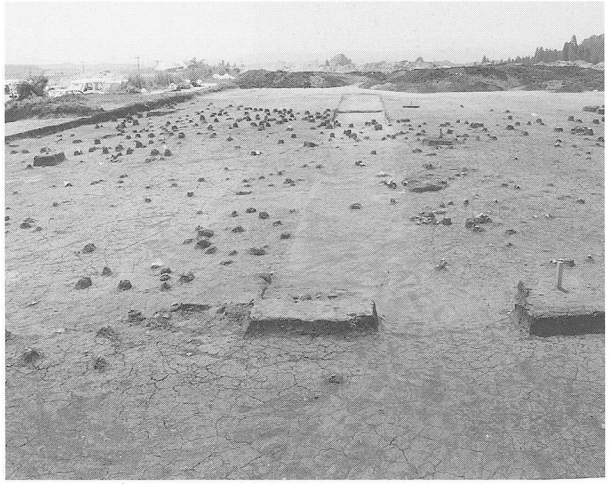


第１図　白ケ野第２・第３遺跡の土壌および炭化物の年代測定結果

A～C区
（上空より）

F～G区
（上空より）

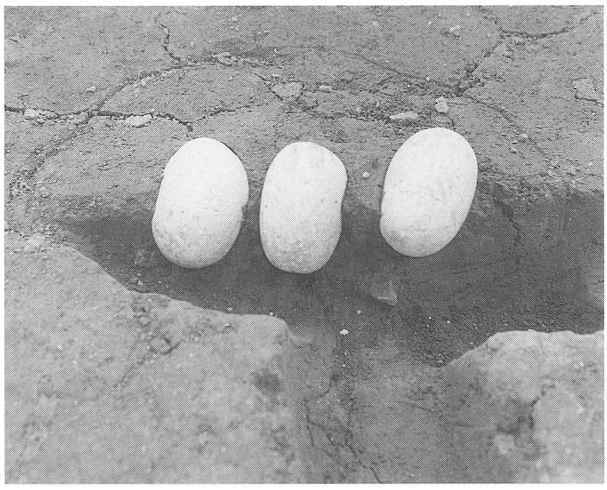
図版２



C区Ⅶ層の状況（東より）

E区Ⅶ層の状況

F区土層



「石器埋納遺構」

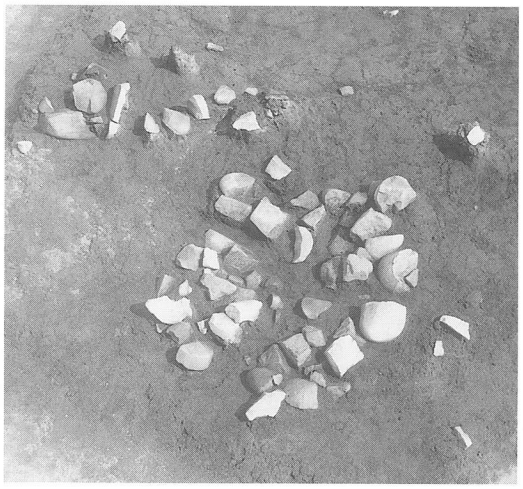
S I 14

S I 15

S I 26

S I 69

S I 78

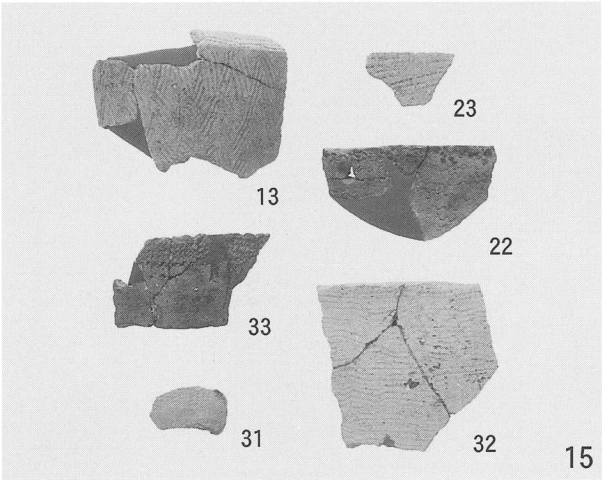


S I 66

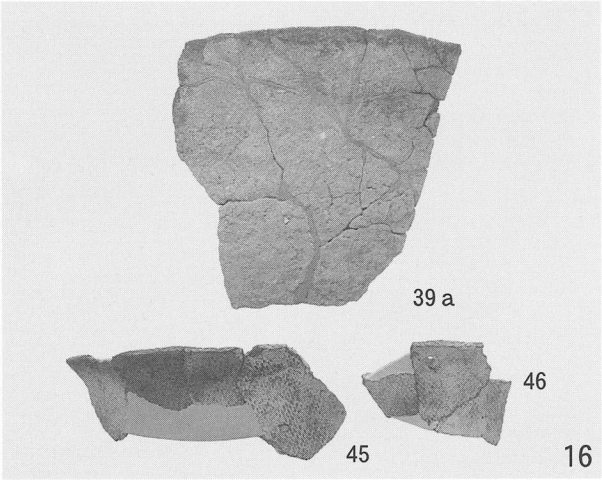
S I 75

S I 79

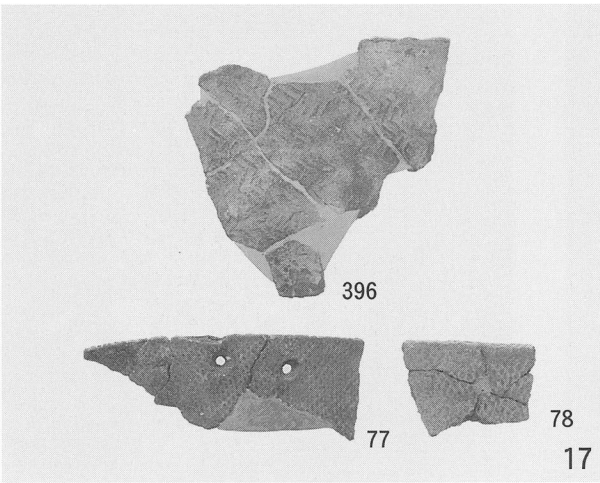
図版 4



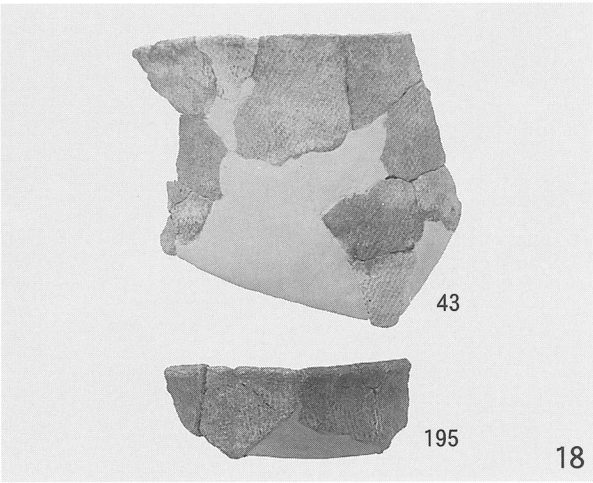
A類土器



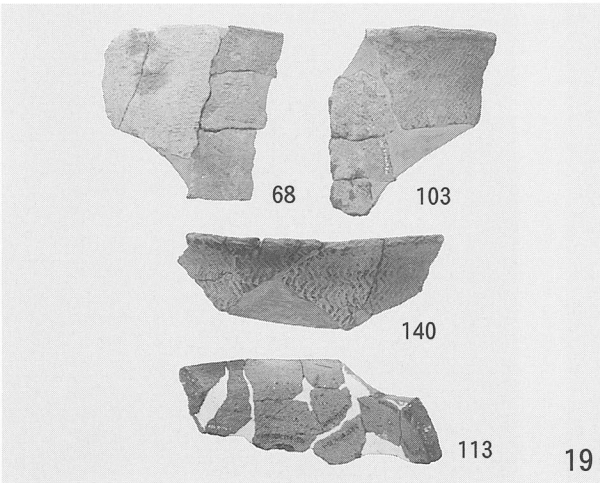
B類土器



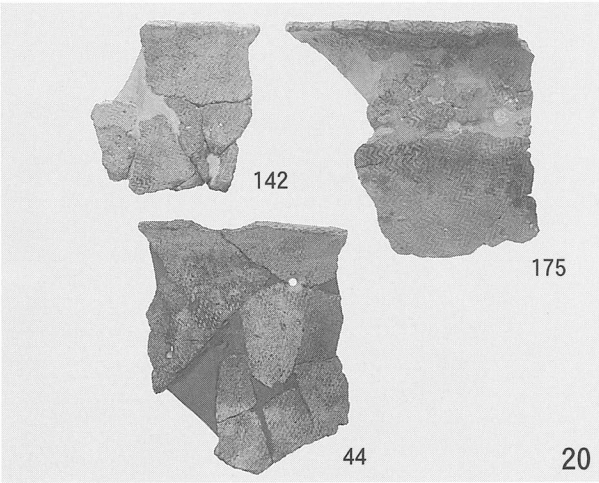
B類土器



B類土器



B類土器



B類土器